

上越新幹線関係  
埋藏文化財発掘調査報告  
第16集

下小島遺跡

1991

群馬県教育委員会  
群馬県埋藏文化財調査事業団  
東日本旅客鉄道株式会社



(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第119集

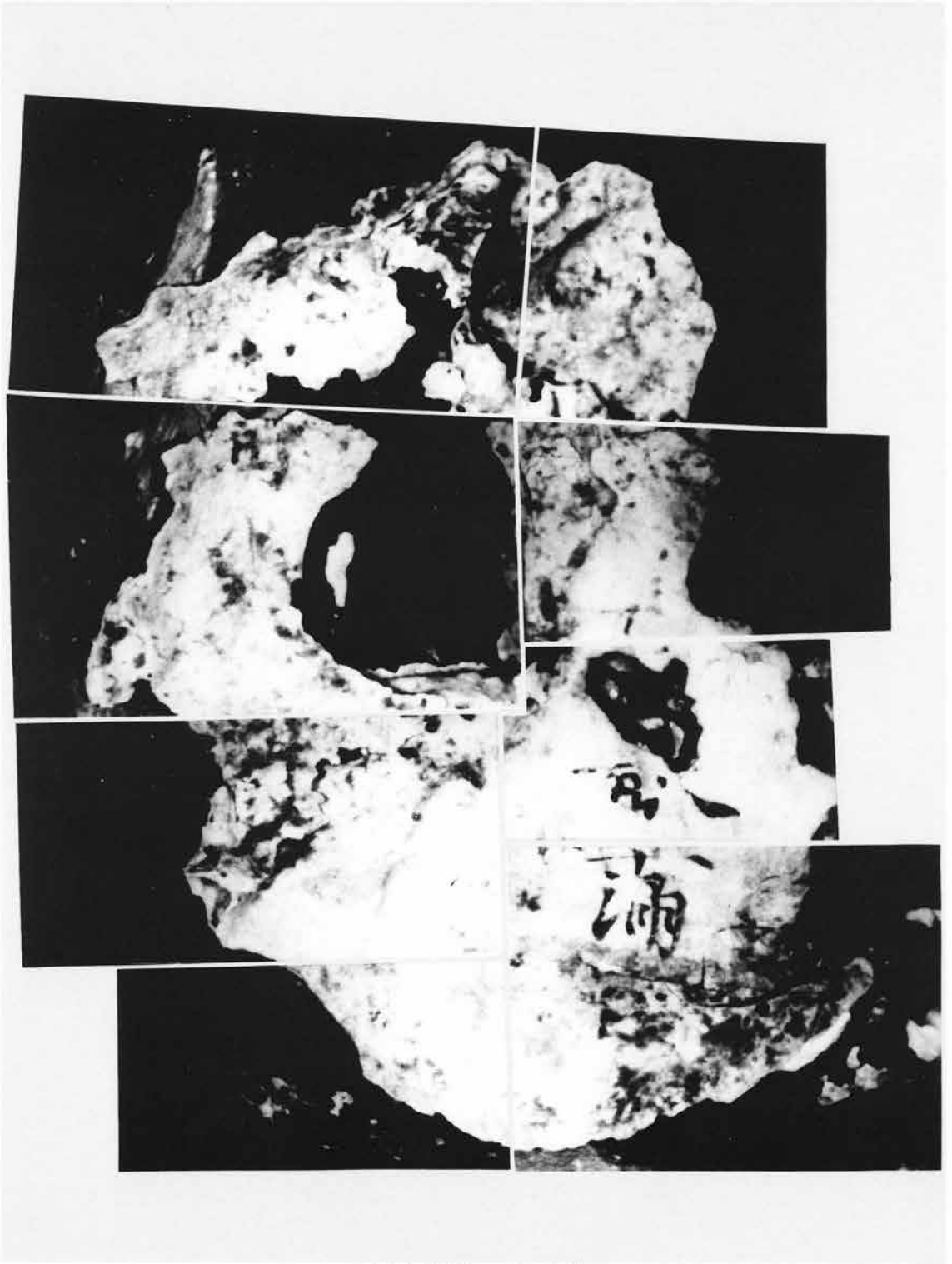
上越新幹線関係  
埋蔵文化財発掘調査報告  
第16集

# 下小鳥遺跡

1991

群馬県教育委員会  
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団  
東日本旅客鉄道株式会社





漆紙文書赤外線モニター写真





1区16号溝跡  
出土埴(300)と内容物



1区16号溝跡  
出土埴(438)と内容物



1区5号井戸跡  
出土杯(216)と内容物





# 序

太平洋側と日本海側の地域を結ぶ上越新幹線は、昭和60年3月に上野・新潟間を結ぶ全線が開通し、現在東京駅への乗入れを目指して工事が進められています。

この新幹線建設工事に伴い、群馬県内では23遺跡の埋蔵文化財発掘調査が行われましたが、平成3年3月をもって18年間の歳月を要した調査がすべて終了します。

ここに報告する下小鳥遺跡は、高崎市に所在する遺跡で、昭和48年度に本線部分、昭和58年度に側道部分の調査が行われました。昭和48年度の調査では、平安時代に降下した浅間山B軽石により埋没した水田跡が発見・調査され、以後県内の水田跡調査を進める上で多大な成果をあげました。調査された遺構・遺物は、平成元年7月より報告書刊行のための整理作業を行いました。その過程で県内初の漆紙文書を確認することができました。

酷寒・酷暑の日もいとわず、連日進められた調査の結果、得られた遺構・遺物の資料を収め、後世の人々に残す記録として、本報告書を上梓することができましたのも、日本鉄道建設公団、東日本旅客鉄道株式会社を始めとする多くの調査関係者のご指導とご協力の賜物であります。ここに深甚なる感謝の意を表し、併せて本報告書が一般県民・研究者に広く活用されることを願い序とします。

平成3年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理 事 長 清 水 一 郎



# 例 言

1 本書は上越新幹線建設工事に伴う事前調査として、昭和48年から昭和59年にかけて実施した高崎市問屋町西2丁目1番地他に所在する下小鳥遺跡の発掘調査報告書である。

2 下小鳥遺跡は事前調査でNo22地区と命名された地点である。

3 発掘調査は日本鉄道建設公団の委託を受けて、群馬県教育委員会および財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。調査年度・調査期間・担当者は次の通りである。

第一次調査 群馬県教育委員会 昭和48年10月22日～昭和49年4月15日

担当者 石川正之助 長谷部達雄 能登 健 調査員 桑野 格

第二次調査 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 昭和58年9月1日～昭和59年1月31日

担当者 関 晴彦 井川達雄 調査員 宮下万喜子

4 整理事業は、群馬県教育委員会を通じ、東日本旅客鉄道株式会社の委託を受けて、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が平成元年7月1日～平成3年3月31日にかけて実施した。担当者は次の通りである。

## 事務担当職員

常務理事 邊見長雄 事務局長 松本浩一 管理部長 田口紀雄 調査研究部長 神保  
侑史 庶務課長 住谷 進 岩丸大作（平成2年4.1～） 調査研究部第二課長 桜  
場一寿 能登 健（平成2年4.1～） 庶務課主任 国定 均 笠原秀樹 小林昌嗣  
須田朋子 吉田有光 主事 柳岡良宏

## 整理担当職員

専門員 中東耕志 主任調査研究員 井川達雄 大西雅広 嘱託員 新井悦子 補助員  
山田キミ子 原島弘子 安達好子 阿部幸恵 戸神晴美 岡田美知江 茂木順子 木暮芳枝  
長岡美和子 大野容子 白井和子 富沢スミ江 吉田文子 六反田達子 岩淵節子 小野寺  
仁子 筑井弘子 宇佐美征子 五明志津江 石井きよ子 立川千栄子 平林照美 柴田敏子  
岸トキ子 田所順子 佐子昭子

5 遺構写真撮影については各担当者が、遺物撮影については佐藤元彦が担当した。

6 本書の編集は、中東耕志・井川達雄・大西雅広がおこない、第I章から第IV章の執筆は森田秀策・井川達雄がおこなった。執筆分担は下記の通りである。第V章については各節ごとに執筆者を記載してある。また、板碑の観察は新倉明彦が行った。

第I章 森田秀策 第II章 井川達雄 第III章 井川達雄 第IV章 井川達雄

7 本書の作成にあたっては、下記の方々からご協力・ご教示をいただいた。記して感謝の意を表する次第です。

国立歴史民俗博物館教授 平川 南


国立歴史民俗博物館助教授 永嶋正春


8 石器・石製品の石材鑑定については、飯島静雄氏（群馬地質学研究会）をお願いした。


- 9 木製品の鑑定は、執筆は木工舎「ゆい」の高橋利彦氏に委託した。
- 10 本書の作成にあたっては、関係者の方々から多大な協力を得た。また、発掘調査に際しては現場で働いていただいた方々をはじめ、遺跡周辺の方々から多大なるご支援をいただいた。記して感謝の意を表する次第である。
- 11 当遺跡出土の遺物・実測図・写真等の調査資料は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

## 凡 例

- 1 地区番号・遺構番号は、調査時点での番号を継承することを原則としたが、番号の重複・遺構種の判断の変更により、番号を変えたもの・欠番にしたものがある。また、土坑については全数を掲載することはできなかったため、掲載できなかった土坑は報告書では欠番になっている。
- 2 遺物番号は、復元の段階で報告書掲載予定のものにたいして、台帳登録順に連続番号を与えた。従って、同一遺構内出土の遺物でも番号が離れている場合もある。また、後の検討により、移動・削除した遺物があり、それらの遺物は、報告書では欠番になっている。
- 3 遺物番号は、遺物実測図・遺物観察表・遺物写真・遺構図の出土地点・考察を通して一致する。
- 4 遺構図の縮尺は、住居跡・井戸・土坑が1/60、住居跡の竈などの微細図1/30、溝1/100～1/300、水田1/300としたが、これ以外の縮尺もある。各遺構にはスケール・縮尺がいられている。
- 5 遺物図の縮尺は、1/3を基準としたが、基石・銭などの小さい遺物は1/1・1/2を用い、大型の土器・板碑などには1/4～1/6を用いた。各遺物の縮尺率ごとにスケール・縮尺が入れている。
- 6 遺物観察表の記載の〔 〕は遺存値、( )は推定値を表す。
- 7 当遺跡の方位は、磁北を表し、主軸などの方位は磁北を基準にしてある。
- 8 竈を有する住居跡の主軸方位は、竈を施設する壁に平行する方向と磁北との角度を表し、竈のない住居跡の主軸方位は長軸線と磁北との角度を表す。
- 9 遺構図に使用したスクリントーンは下記の通りである。


 焼土分布範囲


 炭化物・灰分布範囲

 断面図内の石

 粘土の範囲

- 10 遺物図に使用したスクリントーンは下記の通りである。

 灰釉陶器の施釉範囲

 黒色処理範囲

 煤付着範囲

- 11 遺構実測図は、完掘後に作成してあるために、平面図に新旧関係は表現されない。新旧関係が明らかな遺構は別途に測量してある。
- 12 遺物観察表中の色調は、農林水産省水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修『標準土色別帖』を使用した。



# 目 次

卷頭図版

序

例言

凡例

第Ⅰ章	調査に至る経過	1
第Ⅱ章	調査の方法	4
第Ⅲ章	遺跡の概要	6
第1節	遺跡の立地と環境	6
第2節	周辺の遺跡	6
第3節	遺跡の概要	9
第Ⅳ章	発見された遺構と遺物	11
第Ⅴ章	調査の成果と問題点	171
第1節	下小鳥遺跡出土漆紙文書について	173
第2節	下小鳥遺跡出土墨書・刻書土器について	175
第3節	下小鳥遺跡出土木材の樹種	176
第4節	下小鳥遺跡の特徴と問題点	183





# 挿 図 目 次

第 1 図	遺跡周辺の地形と土地利用の変遷	3
第 2 図	調査区位置図	5
第 3 図	遺跡の位置と周辺の遺跡	7
第 4 図	1 区 1 号住居跡	13
第 5 図	1 区 1 号住居跡出土遺物①	13
第 6 図	1 区 1 号住居跡出土遺物②	14
第 7 図	1 区 1 号住居跡出土遺物③	15
第 8 図	1 区 2 号住居跡	17
第 9 図	1 区 2 号住居跡出土遺物	17
第 10 図	1 区 3 号住居跡	19
第 11 図	1 区 3 号住居跡出土遺物	19
第 12 図	1 区 4 号住居跡	20
第 13 図	1 区 5 号住居跡断面	20
第 14 図	1 区 5 号住居跡	21
第 15 図	1 区 5 号住居跡出土遺物	21
第 16 図	1 区 6 号住居跡	22
第 17 図	1 区 7 号住居跡	23
第 18 図	1 区 7 号住居跡出土遺物①	23
第 19 図	1 区 7 号住居跡出土遺物②	24
第 20 図	1 区 8 号住居跡・同掘形	25
第 21 図	1 区 8 号住居跡出土遺物①	25
第 22 図	1 区 8 号住居跡出土遺物②	26
第 23 図	1 区 9 号住居跡	27
第 24 図	1 区 9 号住居跡出土遺物	27
第 25 図	1 区 10 号住居跡竈エレベーション	28
第 26 図	1 区 10 号住居跡・同掘形	29
第 27 図	1 区 10 号住居跡出土遺物①	29
第 28 図	1 区 10 号住居跡出土遺物②	30
第 29 図	1 区 11 号住居跡・同掘形	32
第 30 図	1 区 11 号住居跡出土遺物	32
第 31 図	1 区 12 号住居跡	33
第 32 図	1 区 12 号住居跡断面・エレベーション	34
第 33 図	1 区 13 号住居跡	34
第 34 図	2 区 1 号住居跡・同掘形	35
第 35 図	2 区 1 号住居跡出土遺物	36
第 36 図	2 区 2 号住居跡・同掘形	37
第 37 図	2 区 3 号住居跡竈断面	37
第 38 図	2 区 3 号住居跡	38
第 39 図	2 区 3 号住居跡出土遺物	38
第 40 図	2 区 4 号住居跡・同掘形	39
第 41 図	2 区 4 号住居跡出土遺物	39
第 42 図	2 区 5・9 号住居跡断面	40
第 43 図	2 区 5・9 号住居跡	41
第 44 図	2 区 5 号住居跡出土遺物①	41
第 45 図	2 区 5 号住居跡出土遺物②	42
第 46 図	2 区 5 号住居跡出土遺物③	43
第 47 図	2 区 9 号住居跡出土遺物①	43
第 48 図	2 区 9 号住居跡出土遺物②	44
第 49 図	2 区 6 号住居跡・同掘形	47
第 50 図	2 区 6 号住居跡出土遺物①	47
第 51 図	2 区 6 号住居跡出土遺物②	48
第 52 図	2 区 7 号住居跡	49
第 53 図	2 区 7 号住居跡出土遺物	49
第 54 図	2 区 8 号住居跡	50
第 55 図	2 区 10 号住居跡	51

第56図	2区10号住居跡掘形	52
第57図	2区10号住居跡出土遺物①	52
第58図	2区10号住居跡出土遺物②	53
第59図	2区11号住居跡	54
第60図	3区1号住居跡断面	54
第61図	3区1号住居跡・同掘形	55
第62図	3区1号住居跡出土遺物①	55
第63図	3区1号住居跡出土遺物②	56
第64図	3区1号住居跡出土遺物③	57
第65図	1区1号掘立柱跡エレベーション	59
第66図	1区1・2号掘立柱跡	60
第67図	2区1号掘立柱跡	61
第68図	2区2号掘立柱跡	62
第69図	1区1・3・4号溝跡	71
第70図	1区2・6・27号溝跡	72
第71図	1区7・8・9・10号溝跡	73
第72図	1区11・12・13号溝跡	74
第73図	1区14・15号溝跡、16号溝跡断面	75
第74図	1区16号溝跡	76
第75図	1区17・18・32・33・35号溝跡	77
第76図	1区19・20・21号溝跡	78
第77図	1区22号溝跡断面、23号溝跡	79
第78図	1区22・29号溝跡	80
第79図	1区24・30号溝跡	81
第80図	1区31・34・36号溝跡、37・38号溝跡断面	82
第81図	1区37・38号溝跡	83
第82図	1区39・40号溝跡	84
第83図	2区10・12号溝跡	85
第84図	2区13号溝跡	86
第85図	2区14・15・16号溝跡	87
第86図	2区17・18・19・21号溝跡	88
第87図	2区22・23・24・28号溝跡	89
第88図	2区29・30号溝跡	90
第89図	2区31・32・33号溝跡	91
第90図	2区34・35・36号溝跡	92
第91図	3区1・3号溝跡	93
第92図	3区2号溝跡	94
第93図	3区5号溝跡	95
第94図	4区1・2号、5区1・2・3号、6区1号溝跡	96
第95図	6区2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13号溝跡	97
第96図	1区5・6号溝跡出土遺物、16号溝跡出土遺物①	98
第97図	1区16号溝跡出土遺物②	99
第98図	1区16号溝跡出土遺物③	100
第99図	1区16号溝跡出土遺物④	101
第100図	1区16号溝跡出土遺物⑤	102
第101図	1区16号溝跡出土遺物⑥	103
第102図	1区16号溝跡出土遺物⑦	104
第103図	1区16号溝跡出土遺物⑧	105
第104図	1区16号溝跡出土遺物⑨、18号溝跡出土遺物①	106
第105図	1区18号溝跡出土遺物②、19・20号溝跡出土遺物	107
第106図	1区21・22・28号溝跡出土遺物	108
第107図	1区29号溝跡出土遺物①	109
第108図	1区29号溝跡出土遺物②、31号溝跡出土遺物	110
第109図	1区33・35・37・38号溝跡出土遺物	111
第110図	2区2・15・20・22・23・27・31・35号、3区2号溝跡出土遺物	112
第111図	1区1号井戸跡	130
第112図	1区1号井戸跡出土遺物①	130
第113図	1区1号井戸跡出土遺物②	131
第114図	1区2号井戸跡	132
第115図	1区2号井戸跡出土遺物	132

第116図	1区3号井戸跡	133
第117図	1区3号井戸跡出土遺物	133
第118図	1区4号井戸跡	134
第119図	1区4号井戸跡出土遺物	134
第120図	1区5号井戸跡	135
第121図	1区5号井戸跡掘形	136
第122図	1区5号井戸跡出土遺物①	136
第123図	1区5号井戸跡出土遺物②	137
第124図	2区1号井戸跡	139
第125図	2区1号井戸跡出土遺物	139
第126図	2区2号井戸跡	140
第127図	2区3号井戸跡	140
第128図	2区3号井戸跡出土遺物	141
第129図	2区4号井戸跡	142
第130図	2区5号井戸跡	142
第131図	2区6・7号井戸跡	143
第132図	2区7号井戸跡出土遺物①	143
第133図	2区7号井戸跡出土遺物②	144
第134図	2区7号井戸跡出土遺物③	145
第135図	2区8号井戸跡	146
第136図	2区9号井戸跡	146
第137図	2区9号井戸跡出土遺物	147
第138図	2区10号井戸跡	147
第139図	1区1・2・3・4・5号土坑	150
第140図	1区6・7・8・9・11・12・13・14・15・16・22号土坑	151
第141図	1区17・18・19・20・21・23・24・25号土坑	152
第142図	1区26・27・28・29・31・32・33・34・35号土坑	153
第143図	2区1・2・3・4・5・6・7・8・9・10号土坑	154
第144図	2区11・12・13・14・15・16・17・18号、3区1号土坑	155
第145図	3区2・3・4・5・6号土坑	156
第146図	1区2・14・15・18・21・24号土坑出土遺物	157
第147図	1区25号土坑出土遺物、32号土坑出土遺物①	158
第148図	1区32号土坑出土遺物②、35号、2区3号土坑出土遺物	159
第149図	表土出土遺物①	164
第150図	表土出土遺物②	165
第151図	縄文時代遺物①	168
第152図	縄文時代遺物②	169
第153図	縄文時代遺物③	170
第154図	漆紙文書の折れの状態	173

付図1 下小島遺跡全体図

付図2 下小島遺跡水田跡全体図

付図3 下小島遺跡2区1・2・3・4・5・6・7・8号溝跡

# 図 版 目 次

- 巻頭図版1 漆紙文書赤外線モニター写真  
巻頭図版2 1区16号溝跡出土埴(300)と内容物  
1区16号溝跡出土埴(438)と内容物  
1区5号井戸跡出土杯(216)と内容物
- 図版1 調査風景(背景の山は榛名山)  
調査風景
- 図版2 2区本線グリッド全景  
3～7区本線トレンチ全景
- 図版3 1区東側道全景(南より・背景の山は榛名山)  
1区西側道全景(北より)
- 図版4 2区東側道全景(北より)  
2区西側道全景(北より)
- 図版5 1区1・2・5・7号住居跡、1号井戸跡、6・14号溝跡全景  
1区1号住居跡遺物出土状態全景
- 図版6 1区2号住居跡全景  
1区2・7号住居跡掘形全景
- 図版7 1区3号住居跡遺物出土状態全景  
1区5号住居跡掘形全景
- 図版8 1区6号住居跡全景  
1区7号住居跡遺物出土状態全景
- 図版9 1区8号住居跡遺物出土状態全景  
1区9号住居跡全景
- 図版10 1区10号住居跡遺物出土状態全景  
1区10・11号住居跡掘形遺物出土状態全景
- 図版11 1区13号住居跡遺物出土状態全景  
2区3号住居跡遺物出土状態全景
- 図版12 2区4号住居跡全景  
2区5・9号住居跡遺物出土状態全景
- 図版13 2区5・9号住居跡全景  
2区5号住居跡竈遺物出土状態
- 図版14 2区6号住居跡全景  
2区7号住居跡全景
- 図版15 2区10号住居跡遺物出土状態全景  
3区1号住居跡遺物出土状態全景
- 図版16 1区1・2号掘立柱跡全景  
2区1号掘立柱跡全景
- 図版17 1区1号溝跡全景(本線部分・北より)  
1区1号溝跡内ビット群(本線部分)
- 図版18 1区16号溝跡全景(西側道部分・南東より)  
1区16号溝跡全景(東側道部分・北西より)  
1区17・18号溝跡全景(西側道部分・北より)
- 図版19 1区14号溝跡全景(西側道部分)  
1区22号溝跡全景(東側道部分)  
1区20・21号溝跡全景(東側道部分)
- 図版20 2区1・2・3・4・5・6・7・8号溝跡全景(本線部分)  
2区13・14・15・16・17・18号溝跡全景(西側道部分)
- 図版21 3区1号溝跡全景(西側道部分)  
3区2号溝跡全景(東側道部分)  
4区1号溝跡全景(本線部分)
- 図版22 1区1号井戸跡全景  
1区2号井戸跡遺物出土状態全景  
1区3号井戸跡全景
- 図版23 1区4号井戸跡全景  
1区5号井戸跡木枠出土状態全景  
1区5号井戸跡全景

図版24	2区1号井戸跡全景 2区2号井戸跡全景 2区3号井戸跡全景
図版25	2区4号井戸跡全景 2区5号井戸跡全景 2区6号井戸跡全景
図版26	2区7号井戸跡全景 2区8号井戸跡全景 2区9号井戸跡曲物出土状態
図版27	2区9号井戸跡全景 2区10号井戸跡全景 1区14号土坑全景 1区25号土坑遺物出土状態全景
図版28	1区18号土坑遺物出土状態全景 2区4号土坑全景 2区9号土坑全景
図版29	3区東側道水田面全景（南より） 3区東側道水田面全景（北より）
図版30	3区西側道水田面全景（南より） 5区水田面と畦畔（南より）
図版31	5区A・B—21・22グリッド水田畦畔と足跡（北より） 5区A・B—6・7グリッド水田畦畔と足跡（東より）
図版32	1区1号住居跡出土遺物
図版33	1区1・2号住居跡出土遺物
図版34	1区2・3・5・7号住居跡出土遺物
図版35	1区8・9・10号住居跡出土遺物
図版36	1区10・11号、2区1・3号住居跡出土遺物
図版37	2区3・5号住居跡出土遺物
図版38	2区5号住居跡出土遺物
図版39	2区5・6号住居跡出土遺物
図版40	2区6・7・9・10号住居跡出土遺物
図版41	2区10号、3区1号住居跡出土遺物
図版42	3区1号住居跡出土遺物
図版43	3区1号住居跡出土遺物、1区16号溝跡出土遺物①
図版44	1区16号溝跡出土遺物②
図版45	1区16号溝跡出土遺物③
図版46	1区16号溝跡出土遺物④
図版47	1区16号溝跡出土遺物⑤
図版48	1区16号溝跡出土遺物⑥
図版49	1区16号溝跡出土遺物⑦
図版50	1区16号溝跡出土遺物⑧
図版51	1区16号溝跡出土遺物⑨
図版52	1区16号溝跡出土遺物⑩
図版53	1区16号溝跡出土遺物⑪、1区18号溝跡出土遺物①
図版54	1区16号溝跡出土遺物⑫、1区18号溝跡出土遺物②
図版55	1区18号溝跡出土遺物③、1区19・21・22号溝跡出土遺物
図版56	1区22・28・29号溝跡出土遺物
図版57	1区29号溝跡出土遺物
図版58	1区31・33・35・37・38号溝跡出土遺物
図版59	1区38号、2区2・15・20・22・23・31号溝跡出土遺物
図版60	3区2号溝跡、1区1・2号井戸跡出土遺物
図版61	> 1区1・3・4・5号井戸跡出土遺物
図版62	1区4・5号井戸跡出土遺物
図版63	1区5号、2区3号井戸跡出土遺物
図版64	1区5号、2区1・3号井戸跡出土遺物
図版65	2区3・7号井戸跡出土遺物
図版66	2区7・9号井戸跡、1区18・21・25号土坑出土遺物
図版67	2区7号井戸跡、1区2・15・18号土坑出土遺物
図版68	1区14・32号土坑出土遺物
図版69	1区32・35号土坑出土遺物

図版70	1区32号、2区3号土坑出土遺物、表土出土遺物
図版71	表土出土遺物
図版72	縄文時代遺物①
図版73	縄文時代遺物②
図版74	縄文時代遺物③
図版75	漆紙文書赤外線モニター写真
図版76	木製品顕微鏡写真①
図版77	木製品顕微鏡写真②
図版78	木製品顕微鏡写真③
図版79	木製品顕微鏡写真④

# 第Ⅰ章 発掘調査に至る過程

森 田 秀 策

## 1 三幹線時代の到来

わが国の経済の高度成長と比例するように交通分野の変化は、まず高速自動車道の整備として現れた。本県関係では、まず昭和40年10月、埼玉県岩槻市と岩手県盛岡市間の東北自動車道建設の基本計画が発表され、45年に着工した。本県では邑楽郡明和村から板倉町までの8.6kmが対象となり、館林インターチェンジを含めて47年11月には岩槻・宇都宮間が開通した。

つづいて関越自動車道新潟線（東京・新潟間310km）については昭和42年10月に基本計画が発表された。本県関係では、44年1月に、東松山・渋川間64kmの基本計画、46年6月には渋川・月夜野間の基本計画がそれぞれ発表された。インターチェンジは、県内に7カ所が設けられることとなった。50年10月には月夜野・湯沢間34kmの基本計画も発表され、日本最長の11kmに及ぶ関越トンネルもつくられることになった。

国道17号の大型バイパスとして構想された上武国道については、既に昭和38年に建設促進同盟会ができて県知事を筆頭に国への陳情がなされ、昭和45年から調査費が計上されていた。45年8月、建設省の路線発表が行われ、県も上武国道建設促進対策本部を設けると共に、群馬県開発公社に上武国道用地事務所を設けて用地取得の準備を進めていた。

一方、新幹線については、過密・過疎の解消、国土の均衡ある発展、大量と高速の輸送体系の整備などを目的に昭和45年5月、全国新幹線鉄道整備法が制定された。上越新幹線は、昭和46年1月に基本計画、同年4月には整備計画が発表され、日本鉄道建設公団（以下鉄建公団と略記）に建設指示がなされ、同年10月には工事实施計画が認可された。本県は、既に昭和44年11月に、東京都・埼玉・新潟両県と共に上越新幹線建設促進同盟会（47年には上越新幹線建設促進同盟会と名称を変更）を結成して早期実施を働きかけていた。地元市町村でも46年1月以降、駅建設運動が活発化し、水上・新沼田・渋川・高崎・藤岡駅の設置運動があった。県としては4駅の設置を要望したが、46年10月に高崎・上毛高原2駅の設置を決定した。

このように高速道路や新幹線の建設計画が具体化してくるに伴い、連絡調整事務が必要となり、県企画課内に幹線交通対策室がおかれたのが昭和46年4月であり、翌47年11月には幹線交通課（53年からは交通対策課）が設置された。

## 2 埋蔵文化財の保護対策

わが国における経済の高度成長による各種開発事業が大型化したことに伴い、埋蔵文化財の破壊が各地で見られるようになってきた。多くの地方自治体は社会教育行政の分野の中に文化財係が置かれるが兼任の型でごく小人数の職員によって担当されてきた。群馬県においても社会教育課の文化財保護係は昭和44年で係長以下3名だったのを、45年度4名、46年度6名（うち1名は兼任）と増員されてきていた。上述のような動きが表面化してきたので、47年度には社会教育課内に課内室として文化財保護室が独立し、室長以下10名と充実がはかられ、翌年以降の課準備に当たることになった。

昭和48年度から関越自動車道・上武国道・上越新幹線地域における埋蔵文化財発掘調査が一斉に始まるため調査部門の充実がはかられることになり、文化財保護課が県教委に誕生し、課長以下30名となり、上越新幹線地域については文化財第3係が担当することになった。

### 3 下小鳥遺跡の発掘調査

上越新幹線地域の埋蔵文化財包蔵地は昭和47年の分布調査にもとづき、鉄建公団と協議の結果、直接路線にかかわる要調査箇所は県内で22カ所にのぼることが明らかになっていた。群馬県教委は鉄建公団と埋蔵文化財発掘調査の委託契約を昭和48年4月1日付けで締結し、いよいよ現地に入るようになった。

用地買収が終了するか、又は未買収地であっても立ち入りが可能な個所でなければ発掘調査はできないため、年度当初直ちに現地入りは不可能であった。上越新幹線地域で最初の調査は昭和48年5月7日から7月14日までの十二原遺跡（利根郡月夜野町上津）で行われ、このあと、8月1日から10月6日（一次）と11月2日から12月24日（二次）まで同地区の大原遺跡で実施された。

9月24日に鉄建公団側との協議があり、高崎市下小鳥町・大八木町内延長670mの要調査個所のうち170m（高前バイパス以南の間屋町西二丁目区域内）については買収済みのためすぐにでも入れるが、バイパス以北については10月中旬の収穫後に、小さな班でもよいから準備を進めて欲しいとの要請があった。

10月2日には調査の起案事務を始め、翌3日には鉄建公団の案内を受けて現地を視察したほか4日にかけて準備をするために現地へ出向いた。10月12日、下小鳥遺跡の計画（調査担当者）について決定し、地元に近い飯塚町第一町内会長へ協力方について挨拶したほか10月16日には下小鳥・浜尻町内会長にも作業員調達について要請をしてきたが、賃金の安さが支障となっていることを実感した。

準備が進んで10月22日、下小鳥遺跡の南部地区（JS22地区の1～3区）で発掘調査が開始されたのであるが、作業員は結局地元では集まらず、大平台遺跡の際に応援いただいた乗付町の数人に協力をしてもらっての苦しいスタートとなった。

10月24日に鉄建公団との協議があり、翌49年度は①月夜野町の上毛高原駅周辺と群馬町内を予定している。②高崎地区は情勢が好転してきており、11月には地元地権者会へ鉄建側からの答弁を提出するので事情が新ってくるだろうとの報告があった。

11月26日に下小鳥町内の地権者会が下小鳥町公民館で開かれ、文化財調査についての理解と協力を求めたが補償問題で妥結に至らなかった。

この地区は大八木町にもかかるため、11月29日には大八木町にかかわる中川農協の方で動きがみられ、12月5日に大八木公民館において新幹線の文化財調査説明会が開かれた。ここでも補償を十分にするように強い希望が出された。こうした動きから県教委は12月7日、鉄建公団と事前協議を行ったあと、再度の地元交渉（12月22日中川農協、12月27日下小鳥町公民館、1月11日大八木公民館）を行った結果、用地買収以前なので、借地方式でいくこととして、両地区の地権者会は文化財調査のための一筆測量と同地立ち入りについての承諾を得ることができた。

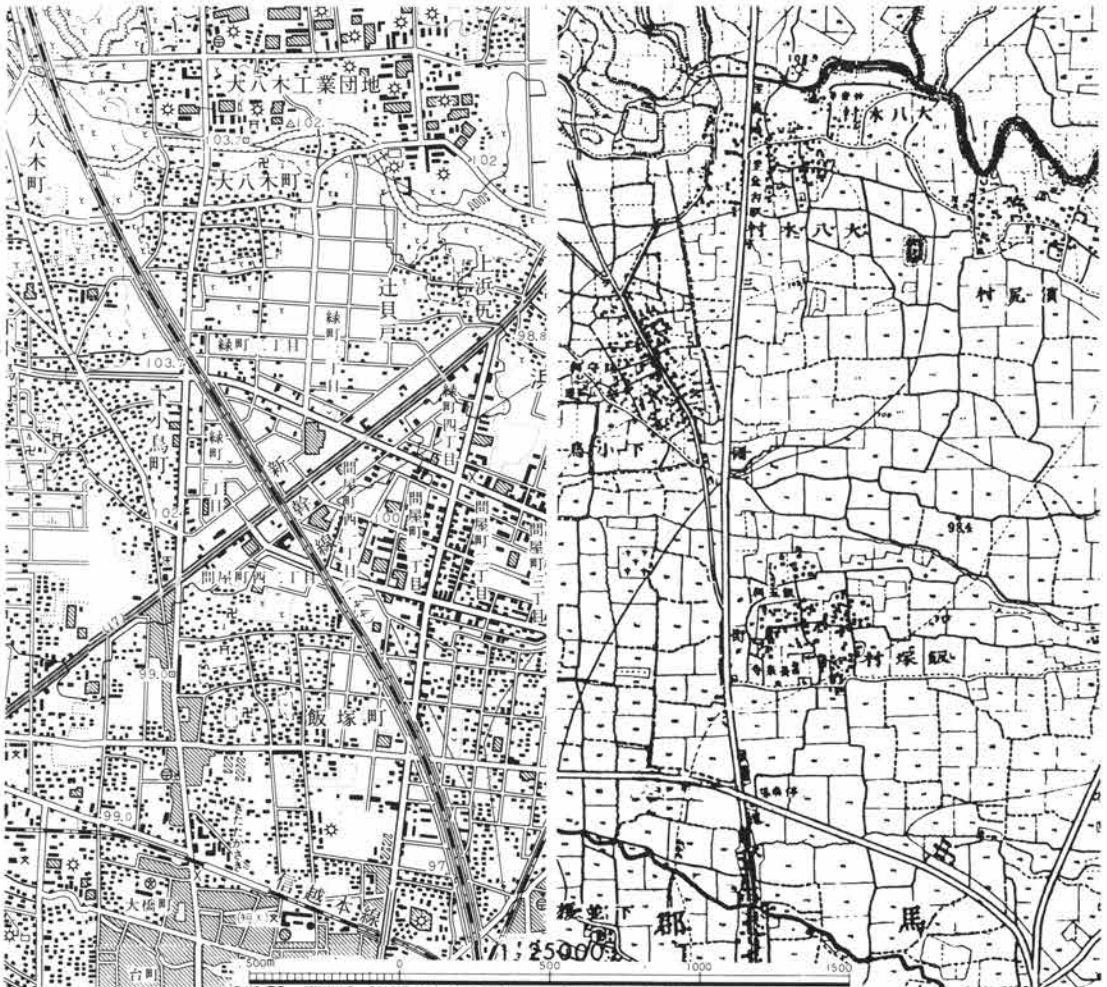
昭和49年に入り2月16日にはバイパス以南地区の調査を終了した。2月14日にはバイパスの北側に



3区の北半分から7区までのグリッドを設置し、北部環状線に近い6区の発掘は2月18日から発掘が開始され南方へ5・4・3区へと進めた。これらの区域では浅間山B軽石層下で水田跡を検出するなどの収穫を得て4月15日に埋てんをしてこの地区における6カ月の調査を終了した。

#### 4 その後と現状

高崎市街地の北方の水田地帯の約33万㎡に問屋町が完成したのは昭和42年10月、その前年の4月に高前バイパス（国道17号線）が開通している。その後、北部環状線も順次開通し、昭和47年には二次団地（問屋町一丁目）の造成があり日本有数の問屋街に成長した。上越新幹線が通過した高前バイパス以北の地域についても北三公園が造成されるに先立って高崎市教育委員会による大八木遺跡（水田跡遺構）の調査も実施されている。新幹線をはさんだ周辺の下小鳥町・大八木町の農地は区画整理され、緑町一・二丁目となり昔のおもかげは全くみられぬ変貌ぶりである。



国土地理院2.5万分の1地形図・参謀本部陸軍部測量局地方迅速測図

第1図 遺跡周辺の地形と土地利用の変遷

## 第Ⅱ章 調査の方法

本線調査時の下小鳥遺跡は、上越新幹線大宮起点79km917mから80km738mの間の821mに及び、遺跡中央付近を高崎市と前橋市を結ぶ動脈である国道17号バイパス（通称高前バイパス）が走り、大きく二分されている。このために、調査区の設定は国道南と北では異なり、3区が重複することになった。また、グリッド・トレンチの設定は新幹線のセンターを中心としたが、調査区域である新幹線の路線はほぼ直線に近いが、国道南では僅かに西に曲線となっており、国道北側と国道南側のグリッド・トレンチは僅かにずれている。

国道17号線バイパス北の区間は、上越新幹線大宮起点80km372mから80km738mの366mである。調査区は、80km600mのセンター杭を基準として、全区間を直線と見なし、1区間を102mとし、3区～7区まで設定した。グリッドは、センター杭を中心に、中央の3グリッドを3m×3m・両端を1.5m×3mとして設定した。グリッド名称は東西方向にA～Eのアルファベット、南北方向に1～34のアラビア数字を用いて命名した。従って、新幹線の中心はD列の中央となる。

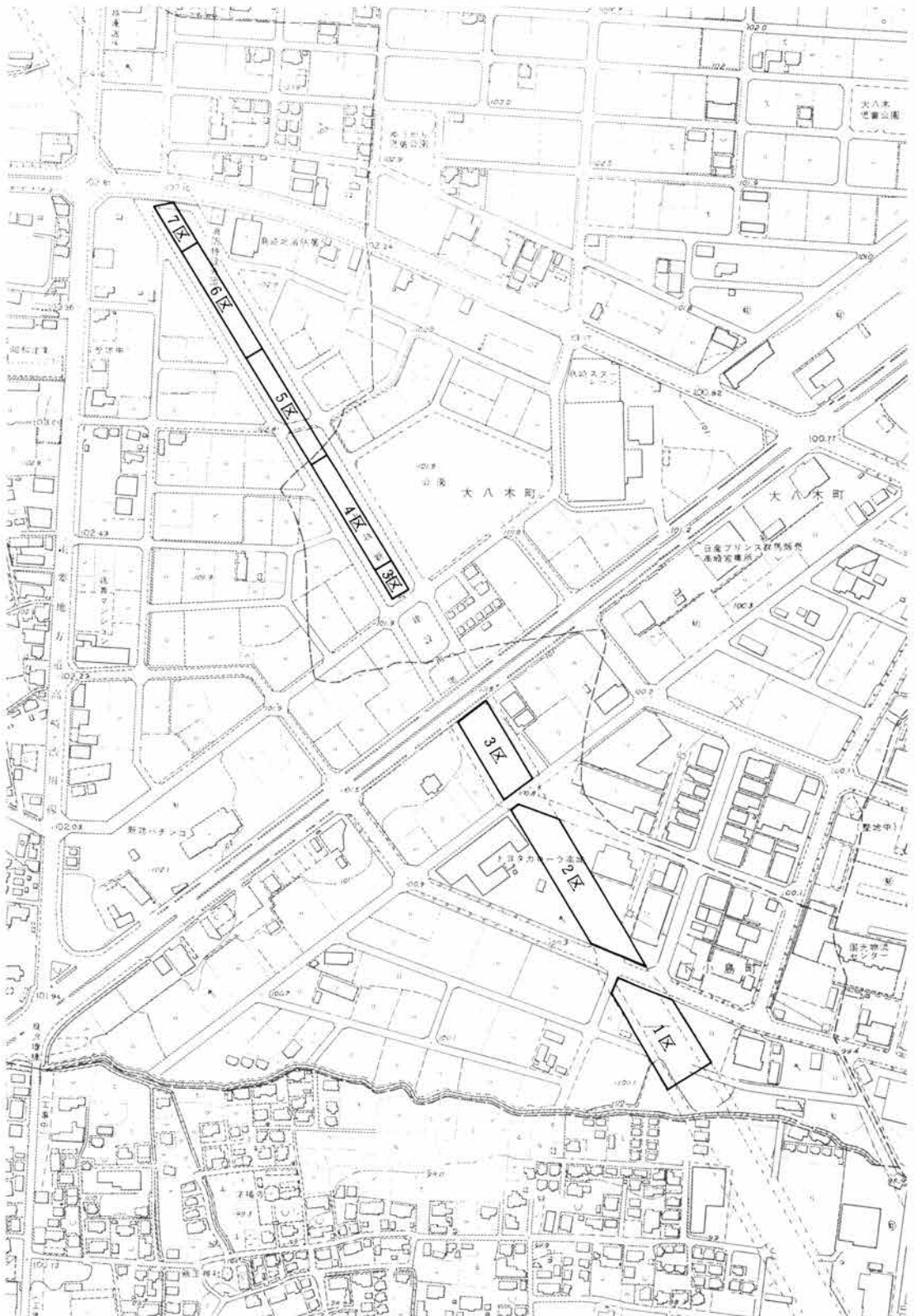
国道南は、79km917mから80km257mの340mの区間である。調査区間は市道によって三つに区切られており、その市道の区切りを調査区の区切りとし、南から1区・2区・3区とした。グリッドは、国道北部分と同じであるが、南北の距離は各調査区により異なる。

側道調査は国道南部分のみ行われた。本線調査との整合性を考えて、調査区は本線調査の設定をそのまま用いた。測量用のグリッドの設定の南北方向は、1区が79km900～80km000mを、2区が80km100～200mを、3区が80km200～300mを基準として、1区間を3m（最後は4m）の区切りとした。東西は、上越新幹線のセンターを中心に東西に3m毎の区切りとした。従って、3×3mのグリッドを設定したことになる。表示は本線との整合を考慮し、グリッド名は付けずに、南北方向は上越新幹線の距離をそのまま用い、東西方向は上越新幹線の中心線を基準とし、3m毎に区切り、杭を打った。従って、南北方向の杭の名称は大宮起点の上越新幹線の距離で、東西方向の杭の名称は上越新幹線のセンターを中心とした距離で表示される。また、東西方向については東側には＋、西側には－を付した。

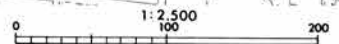
遺構番号については、本線調査との整合性を考慮し、本線調査時の区間表示を用いた。従って、遺構番号は“1区1号住居跡・2区1号溝跡”等と表示される。重複する3区の水田跡については、同時期の水田跡であることから、番号は付けずに、一面の水田跡としてとらえた。

本線の発掘調査の開始にあたっては、両端の1.5×3mのグリッドをトレンチと見なして掘り下げ、遺構があった場合にトレンチを広げた。側道の発掘調査の時点では、上面に新幹線工事の盛土があり、バックホーを使用して盛土・表土を全面的に除去した。また、遺跡周辺は水位が高く、調査の妨げとなるために、盛土・表土掘削直後に東西両端に排水のための溝を設けた。

測量は平板測量を基本とし、竈などの微細図は遣り方測量を行った。遺構の縮尺は1：20、微細図は1：10を基本としたが、遺構の種類により縮尺を変えたものもある。モノクロ写真は35mmと6×9、カラーズライドは35mmを使用した。



高崎市役所発行2500分の1都市計画図使用



第2図 下小鳥遺跡調査区位置図

## 第Ⅲ章 遺跡の概要

### 第1節 遺跡の位置と地形

下小鳥遺跡は、高崎市の玄関である高崎駅より北へ約3.0kmの高崎市問屋町西、緑町に所在する。現在の問屋町・緑町は高崎市の新興商業地域・住宅地域であるが、区画整理の前は同市の大字下小鳥町・大八木町であり、水田地帯が広がっていた。

前橋市・高崎市の市街地は、平坦な台地の上に広がっている。この台地は、前橋台地と総称されており、高崎市の市街地の北端に位置する下小鳥遺跡も、この台地のうえに立地している。前橋台地の東端は烏川であり、西端は広瀬川であるが、この烏川と前橋台地を貫いて流れる井野川の間には下小鳥遺跡は位置する。前橋台地の中でも、下小鳥遺跡周辺は低地の部分に当たり、水位は高く、地表面から0.5～1.0mで出水する。新幹線建設に伴うボーリング調査でも、地表下約30mまでは砂礫層と凝灰質シルト層が互層をなしており、以前は河川であったことが伺える。商業地としての問屋町造成に際しても盛土されている。

全体的には定置に位置する下小鳥遺跡であるが、微地形を観察するとやや周辺より高い部分がある。水田が検出された部分の地形は、低地であるが、国道から約100mより南の部分では周辺より約1.0～1.5m高くなっており、微高地を形成している。この微高地からは、住居跡が検出されている。

### 第2節 周辺の遺跡

#### 旧石器・縄文時代

周辺の遺跡で、旧石器時代の遺物が発見されている遺跡は雨壺遺跡だけであり、両面加工の尖頭器が1点発見されている。

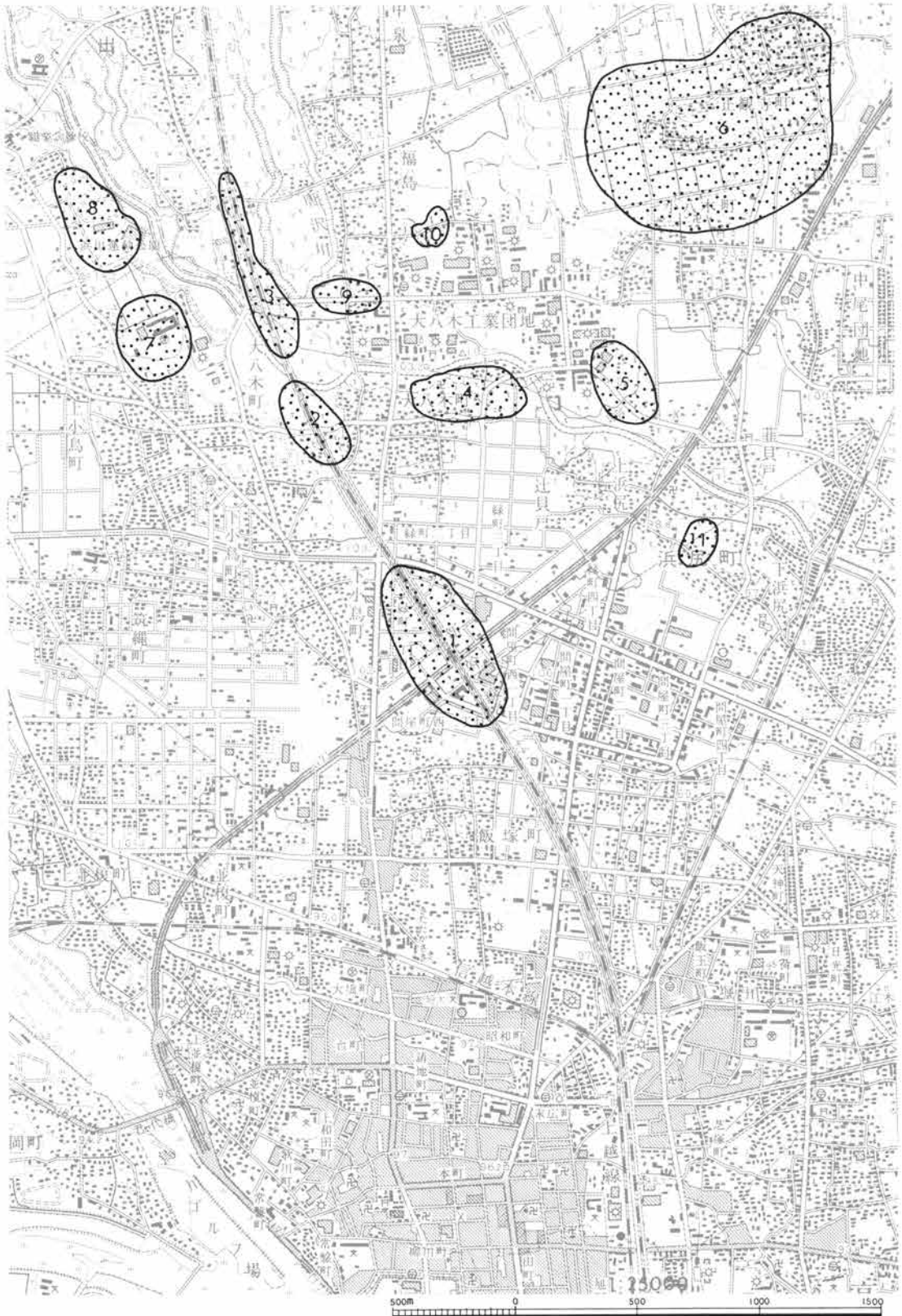
縄文時代の遺構・遺物を検出している遺跡は、大八木水田遺跡・熊野堂遺跡・大八木遺跡・小八木遺跡・正観寺遺跡群・雨壺遺跡・大八木箱田池遺跡である。また、住居跡を検出している遺跡は、大八木遺跡・正観寺遺跡群・雨壺遺跡である。これらの遺跡からは主に縄文時代中期～後期の住居跡が発見されている。しかし、遺構の数が少なく、また、時期的にも縄文時代中期後半～後期前半に集中する傾向がある。縄文時代の住居跡が発見されている遺跡は、下小鳥周辺の低地が榛名山の山麓に向かって高くなり始めた地点、特に井野川と唐沢川の合流点付近に集中している。

#### 弥生時代の遺跡

弥生時代の遺構は、融通寺遺跡・熊野堂遺跡・小八木遺跡・正観寺遺跡群・雨壺遺跡・浜尻遺跡から発見されている。検出されている遺構は、主に弥生時代後期の住居跡であるが、浜尻遺跡からは中期の竜見町式の土器を伴う住居跡が発見されている。小八木遺跡からは、弥生時代後期の水田・溝も発見されている。また、正観寺遺跡群の東に位置する日高遺跡は、弥生時代の水田跡で有名である。弥生時代には、集落と生産跡がこの地域に展開していたことがわかる。

#### 古墳時代の遺跡

古墳時代の住居跡は熊野堂遺跡・大八木遺跡・小八木遺跡・正観寺遺跡群・芦田貝戸遺跡・雨壺遺跡・大八木箱田池遺跡から発見されており、正観寺遺跡・熊野堂遺跡では古墳も調査されている。ま



第3図 遺跡の位置と周辺の遺跡

国土地理院2.5万分の1地形図使用

周辺の遺跡一覧

番号	遺跡名	遺跡の概要	所在地	報告書名
1	下小鳥遺跡 大八木水田遺跡	縄文時代中期の土器。古墳時代前期の住居跡、奈良・平安時代の住居跡。浅間山B軽石下の水田。	高崎市問屋町西・緑町	当報告書。『大八木水田遺跡』 高崎市教育委員会 1979
2	融通寺遺跡	弥生時代末の住居跡。奈良・平安の住居跡。古墳時代の水田。中世の土壌墓。	高崎市大八木町字融通寺・ 下小鳥町	
3	熊野堂遺跡	縄文時代の土器。弥生時代の住居跡。古墳時代の住居跡。奈良・平安時代の住居跡。古墳時代の水田・畑・特殊井戸。中世の陶磁器・石臼。	高崎市大八木町字熊野堂・ 群馬郡群馬町大字井出	『熊野堂遺跡(1)』 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984 『熊野堂遺跡第Ⅲ地区・ 雨壺遺跡』 財団法人群馬県埋 蔵文化財調査事業団 1984
4	大八木遺跡	縄文時代中期の住居跡。古墳時代の住居跡。平安時代の住居跡。	高崎市大八木町字清水・箱 田池	『大八木遺跡範囲確認調査報告 書』 高崎市教育委員会 1981
5	小八木遺跡	縄文時代中期の土器。弥生時代後期の住居跡。古墳時代の住居跡。弥生時代の水田・溝。浅間山B軽石下の水田・溝。中世～近世の陶磁器・石臼。	高崎市小八木町字村前・葺 貝戸・井野川	『小八木遺跡(I)・(II)』 高 崎市教育委員会 1979・1980
6	正観寺遺跡群	縄文時代の住居跡。弥生時代の住居跡。奈良・平安時代の住居跡多数。古墳時代の住居跡。古墳(権現塚古墳)浅間山B軽石下の水田。	高崎市正観寺町字村前・村 東・村北・八本木・前久保 ・天神久保・宮東・万蔵地 、小八木町宮巡り他	『正観寺遺跡群(I)・(II)・(Ⅲ) ・(IV)』 高崎市教育委員会 1979・1980・1981・1982
7	芦田貝戸遺跡	古墳時代の住居跡。平安時代の住居跡。浅間山C軽石・榛名山F A・浅間山B軽石下の水田。榛名山F A下の畑。	高崎市浜川町字芦田貝戸15 94他	『芦田貝戸遺跡Ⅱ』 高崎市教 育委員会 1980
8	御布呂遺跡	浅間山C軽石・榛名山F A・榛名山F P下の水田。平安時代の住居跡。中世の建物跡。	高崎市浜川町字御布呂1440 ～1550	『御布呂遺跡』 高崎市教育委 員会 1980
9	雨壺遺跡	旧石器時代の両面加工尖頭器1点。縄文時代中期の住居跡。弥生時代後期の住居跡。古墳時代前期～中期の住居跡。奈良・平安時代の住居跡。中世の陶器。	高崎市大八木町	『熊野堂遺跡第Ⅲ地区・雨壺遺 跡』 財団法人群馬県埋蔵文化 財調査事業団 1984
10	大八木箱田池遺跡	縄文時代中期～後期の住居跡・土坑。古墳時代の住居跡。平安時代の住居跡。	高崎市大八木町字箱田池	『大八木箱田池遺跡』 高崎市 教育委員会 1984
11	浜尻遺跡	弥生時代中期の住居跡。	高崎市浜尻町	『浜尻遺跡』 高崎市教育委員 会 1981

た、融通寺遺跡・熊野堂遺跡・芦田貝戸遺跡・御布呂遺跡からは古墳時代の水田跡や畑跡が発見されている。

古墳時代になると、井野川流域の各遺跡からの住居跡の発見数が大きく増え、水田跡・畑跡などの生産遺構も多く発見されるようになる。古墳時代には、この地域の開発が進み、多くの集落・生産跡が営まれていたことがうかがわれる。

### 奈良・平安時代の遺跡

融通寺遺跡・熊野堂遺跡からは多くの住居跡が発見されており、大八木遺跡・正観寺遺跡・御布呂遺跡・雨壺遺跡・大八木箱田池遺跡からも多数発見されている。また、平安時代の末にあたる浅間山B軽石下の水田跡も小八木遺跡・正観寺遺跡群・芦田貝戸遺跡から発見されている。井野川流域は、平安時代も生産が続いたことを示している。

### 中世～近世の遺跡

中世～近世の遺物が発見されている遺跡は、融通寺遺跡・熊野堂遺跡・小八木遺跡・御布呂遺跡・雨壺遺跡である。どの遺跡も少量の陶磁器類や石臼の発見であるが、融通寺遺跡では中世の土壇墓群が発見されており、溝内からは板碑が発見されている。また、御布呂遺跡からは中世の建物跡が発見されている。中世～近世の遺構は不明な部分が多いが、平安時代に続き、中世～近世も集落、生産跡が営まれていたと推測できる。

### 第3節 遺跡の概要

下小鳥遺跡の特徴は、浅間山B軽石で覆われた水田跡である。周辺の遺跡では正観寺遺跡群・芦田貝戸遺跡・小八木遺跡・大八木水田遺跡から発見されている。特に、大八木水田遺跡は下小鳥と同じ水田跡の連続であり、総合して考える必要がある。

位置と地形の節で述べたように、当遺跡の南部分の一部は微高地になっている。そこからは、合計25軒の住居跡・4棟の掘立柱建物跡を検出することができた。住居跡の時期は、古墳時代前期の「S」字状口縁を持つ台付甕を伴う住居跡が3軒、奈良・平安時代の住居跡が15軒、不明が7軒である。掘立柱建物跡の時期は不明である。また、旧河川と考えられる1区16号溝の最下層より多量の古墳時代前期の土器を、中層からは奈良・平安時代の土器を多量に検出することができた。

縄文時代は、土器の出土は認められるが、遺構は確認できなかった。縄文時代の土器は、1区16号溝最下層の古墳時代前期の土器と共に出土しており、当時の流れ込みと考えられる。また、弥生時代の土器も1区16号溝の最下層から古墳時代前期の土器とともに出土している。しかし、弥生時代の遺物については、古墳時代前期の土師器との連続性が推定されること、2区3号土坑からも、古墳時代初頭の土器と共に弥生時代末の土器が出土していることから、近くには弥生時代末～古墳時代前期の集落が営まれていたと考えられる。弥生時代の住居跡は検出されていないが、1区11号・2区10号・3区1号住居跡は古墳時代前期の住居跡であり、1区14・24・32号土坑からも同時期の土師器が出土している。

奈良時代～平安時代の住居跡は15軒発見されている。平安時代の水田跡とともに集落も営まれていたと考えることができる。平安時代で特に注目されるのは、1区18号土坑から発見された漆紙文書である。同土坑は、住居跡とも考えることができ、周囲の遺構からも漆?の付着した須恵器が発見されていることから、漆関係の工房があったとも推測できる。





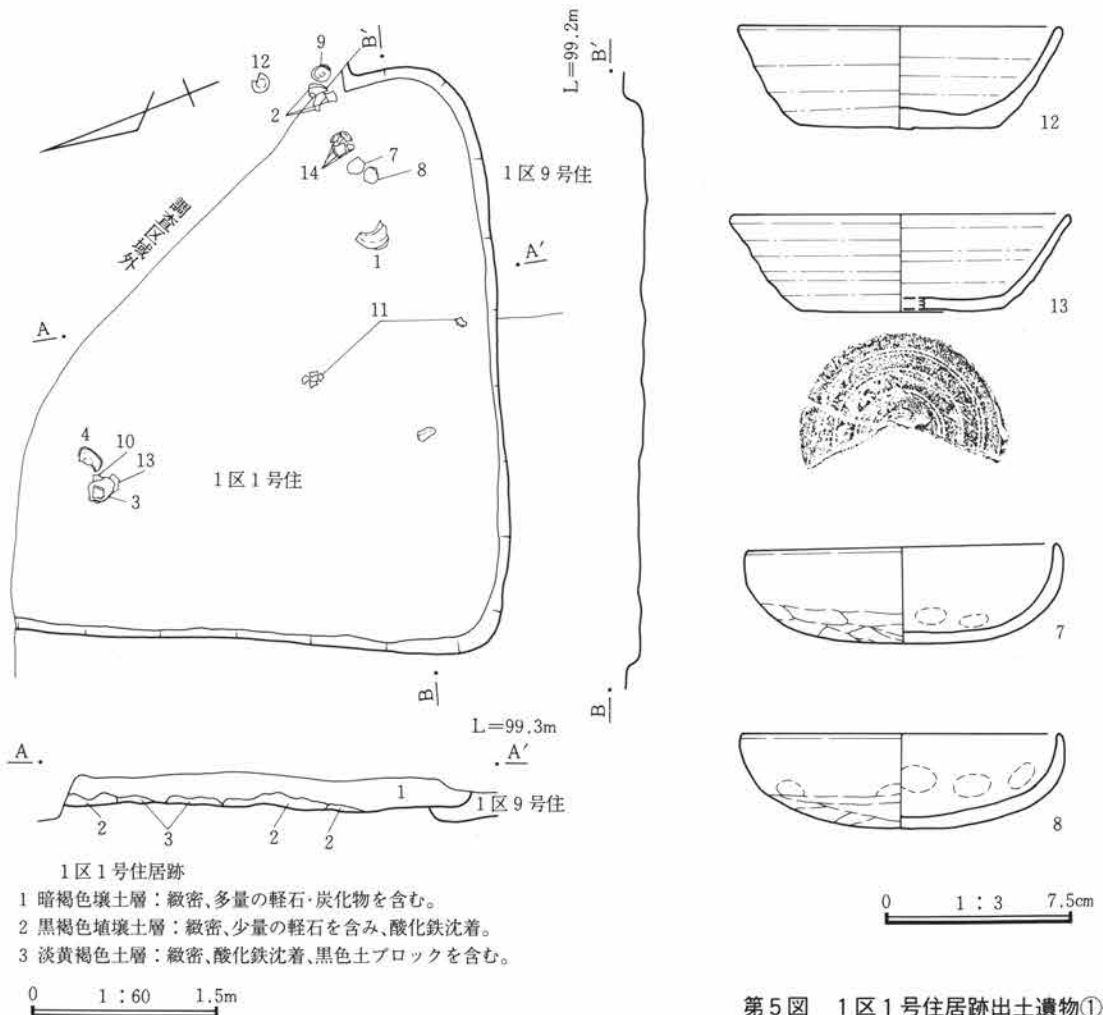
## 第Ⅳ章 発見された遺構と遺物



## 1区1号住居跡

当住居跡は1区9号住居跡・1区6号溝跡と重複する。1区9号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東部の壁・床を破壊して当住居跡の南東部の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。1区6号溝跡との新旧関係は、同溝跡の上面を破壊して当住居跡の南東部の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、北部が検出できず確定できないが、東西は約4.6mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。床面の状態は、張床されており比較的堅く、ほぼ平坦である。残存壁高は約10~30cmである。竈は東壁の南東隅近くに構築されている。排水口により破壊されており、袖・燃烧部は大部分が確認できなかったが、竈前から焼土・炭化物の散布が確認できた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は、竈前・北西部よりかたまって、比較的多量に出土している。種類は、土師器の甕(1・2・3・4・5・6)、土師器の杯(7・8・9・10・11)、須恵器の杯(12・13)、須恵器の蓋(14)などである。



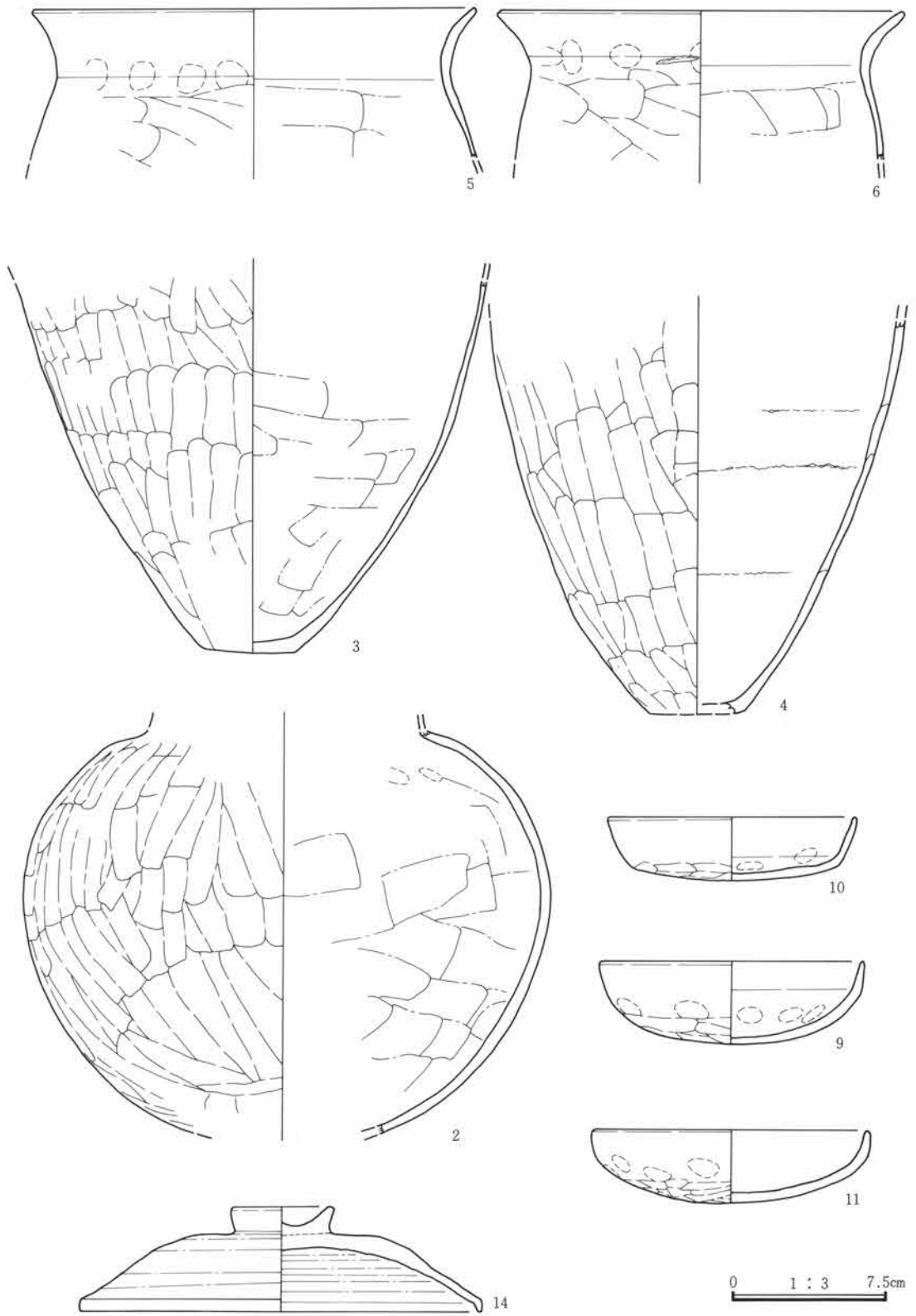
1区1号住居跡

- 1 暗褐色壤土層：緻密、多量の軽石・炭化物を含む。  
 2 黒褐色埴壤土層：緻密、少量の軽石を含み、酸化鉄沈着。  
 3 淡黄褐色土層：緻密、酸化鉄沈着、黒色土ブロックを含む。

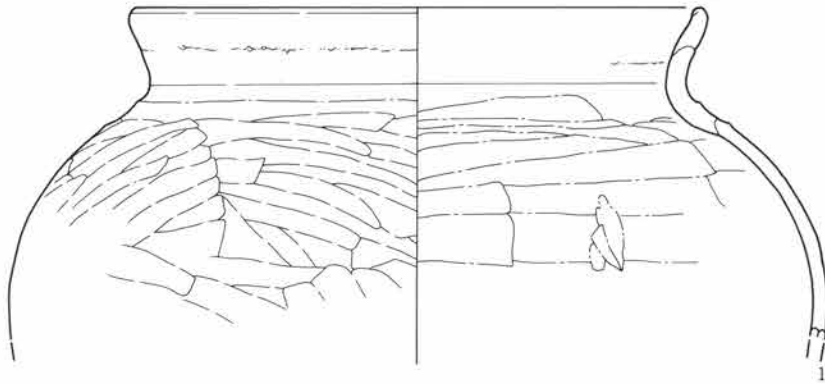
0 1 : 60 1.5m

第4図 1区1号住居跡

第5図 1区1号住居跡出土遺物①



第6図 1区1号住居跡出土遺物②



第7図 1区1号住居跡出土遺物③

0 1 : 3 7.5cm

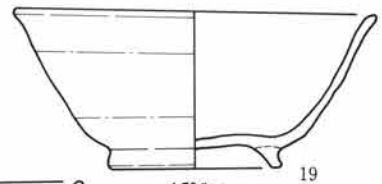
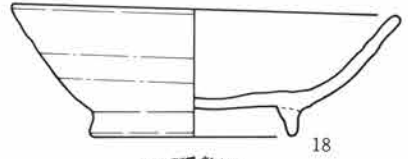
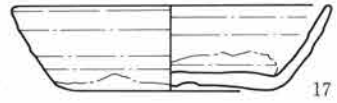
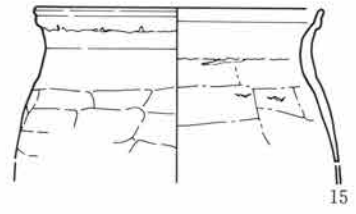
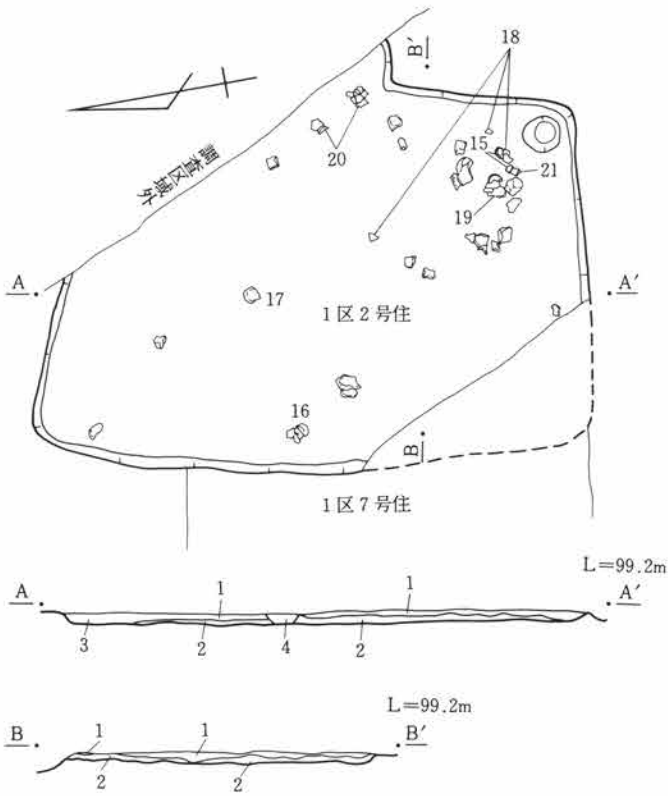
番号	器種 土師器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0001	甕 土師器	器高：(130mm) 口径： [226mm] 底径：－ 最大 径：[324mm] 口縁部～ 胴部上半1/3	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや軟 質。鈍い橙。	口縁部は「く」字状に外反。球形。最大径は 胴部中央。外面：口縁部は横なで、一部輪積 痕が残り、胴部上半は篋削り。内面：口縁部 は横なで、胴部上半は篋なで。	外面胴部に油煙付 着。
0002	甕 土師器	器高：(181mm) 口径：－ 底径：－ 胴部～底部2/3	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや軟 質。鈍い橙。	球形。丸底。外面：胴部～底部は篋削り。 内面：胴部上端に一部指頭痕が残り、胴部 は篋なで。	外面胴部下半～底 部にやや多量の油 煙附着。
0003	甕 土師器	器高：(177mm) 口径：－ 底径：45mm 胴部下半～ 底部3/4	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。軟質。 明赤褐。	外面：胴部下半～底部は篋削り。内面：胴 部下半は篋なで、一部指頭痕が残り、底部は 篋なで。	外面に多量の油煙 附着。二次炎を受 けている。
0004	甕 土師器	器高：(182mm) 口径：－ 底径：46mm 胴部下半～ 底部2/3	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。軟質。 橙。	外面：胴部下半～底部は篋削り。内面：胴 部下半～底部はなで、胴部下半に一部指頭 痕が残る。	外面に多量の油煙 附着。二次炎を受 けている。
0005	甕 土師器	器高：(71mm) 口径： [214mm] 底径：－ 口縁 部～胴部上端1/4	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや軟 質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は 横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋削 り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋な で。	内外面に一部油煙 附着。
0006	甕 土師器	器高：(71mm) 口径： [196mm] 底径：－ 口縁 部～胴部上端1/5	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや軟 質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は 横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋削 り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋な で。	内外面に一部油煙 附着。二次炎を受 けている。
0007	杯 土師器	器高：38mm 口径：128mm 底径：－ 完形	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや軟 質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁 部は横なで、胴部上半は指頭痕が残り、胴部 下半～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部 は横なで、指頭痕が残り、底部はなで。	
0008	杯 土師器	器高：38mm 口径：129mm 底径：－ 完形	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや軟 質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁 部は横なで、胴部上半に一部指頭痕が残り、 胴部下半～底部は篋削り。内面：口縁部～ 底部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部 下半はなで。	外面底部に一部油 煙附着。二次炎を 受けている。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0009	杯 土師器	器高：40mm 口径：129mm 底径：－ ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。鈍い赤褐・鈍い橙。	胴部は内湾し、口縁部はほぼ直立。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、指頭痕が残り、底部はなで。	
0010	杯 土師器	器高：31mm 口径：121mm 底径：－ 口縁部～底部3/4	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。鈍い橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。平底に近い丸底。外面：口縁部～胴部は横なで、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、指頭痕が残り、底部はなで。	内外面に一部油煙付着。二次炎を受けている。
0011	杯 土師器	器高：35mm 口径：〔132mm〕 底径：－ 口縁部～底部3/5	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。鈍い橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで、一部指頭痕が残る。	
0012	杯 須恵器	器高：40mm 口径：132mm 底径：81mm ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転篋切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0013	杯 須恵器	器高：(39mm) 口径：〔136mm〕 底径：〔82mm〕 口縁部～底部1/2	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転篋切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面の一部に油煙付着。燻し。
0014	蓋 須恵器	器高：50mm 口径：193mm つまみ径：50mm ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。返りは先端部に付き、短い。ボタン状つまみ。外面：つまみ部は回転なで、天井部上半は回転篋削り、天井部下半～口縁部は回転なで。内面：天井部～口縁部は回転なで。	

### 1区2号住居跡

当住居跡は1区7号住居跡・1区9号住居跡・1区14号溝跡と重複する。1区7号住居跡との新旧関係は、同住居跡の東部の壁・床・竈が当住居跡の西部の床下に築かれていたことから、当住居跡の方が新しい。1区9号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北西部の壁・床が当住居跡の南東部の壁・床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が新しい。1区14号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の床下に築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

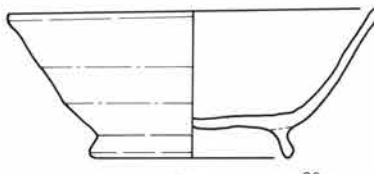
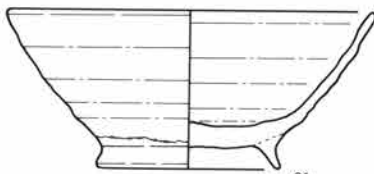
当住居跡の規模は、東西約3.2m・南北約4.3mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-11°-Eである。床面の状態は、張床がされており、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約2～7cmである。竈は、東壁の中央付近に構築されている。燃焼部の一部が検出できたが、袖は大部分が破壊されており、確認できなかった。燃焼部からは、焼土・灰の堆積が確認できた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物は竈前・南東隅を中心に出土している。種類は、土師器の甕(15)、土師器の杯(16)、須恵器の杯(17)、須恵器の椀(18・19・20・21)などである。



- 1区2号住居跡
- 1 灰褐色土層：炭化物・焼土粒子を含む。
  - 2 灰褐色土層：マンガン・角閃石安山岩粒子及び少量の灰を含む。
  - 3 灰褐色土層：角閃石安山岩粒子・炭化物を含む。
  - 4 灰褐色土層：マンガン・炭化物・焼土粒を含む。

0 1 : 60 1.5m

第8図 1区2号住居跡



0 1 : 3 7.5cm

第9図 1区2号住居跡出土遺物

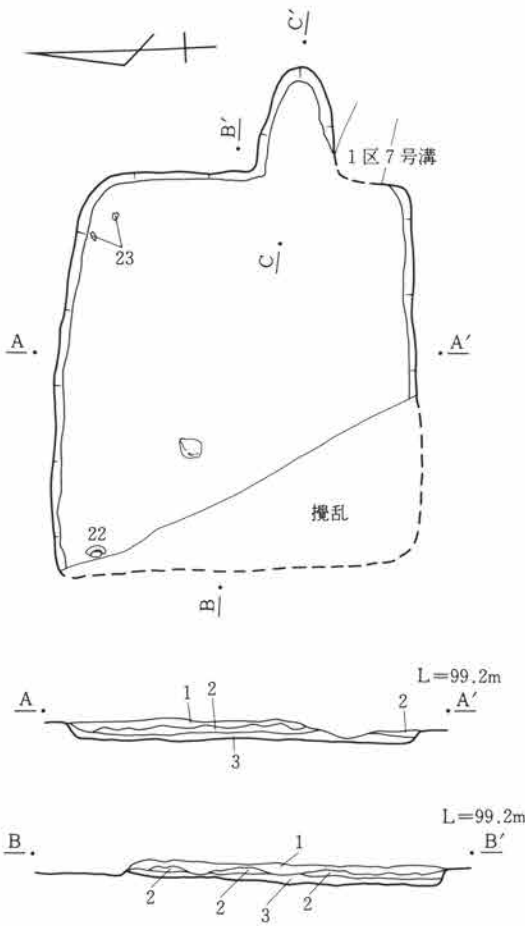
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0015	甕 土師器	器高：(61mm) 口径： [116mm] 底径：— 口縁 部～胴部上半2/5	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。軟質。 橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は 横なで、一部輪積痕が残り、胴部上半は鈍削 り。内面：口縁部は横なで、一部輪積痕、胴 部上端は一部指頭痕が残り、胴部上半鈍な で。	内外面に一部油煙 付着。二次炎を受 けている。
0016	杯 土師器	器高：41mm 口径：131mm 底径：90mm ほぼ完形	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。軟質。鈍い橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外 面：口縁部は横なで、胴部下半～底部は鈍 削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一 部指頭痕が残り、底部下半はなで。	外面底部に油煙付 着。
0017	杯 須恵器	器高：34mm 口径： [128mm] 底径：83mm 口 縁部～底部2/3	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。還元。硬質。 灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はほぼ直線的に広 がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部 は回転鈍切り。内面：口縁部～底部は回転 なで。	内外面の胴部下 端～底部に自然釉。
0018	碗 須恵器	器高：53mm 口径：155mm 底径：81mm ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。還元。硬質。 灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾 しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転 なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内 面：口縁部～底部は回転なで。	
0019	碗 須恵器	器高：64mm 口径：145mm 底径：69mm ほぼ完形	径4～5mmの小石及び砂 粒を含む。還元。やや軟 質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに内 湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外 面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転 糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底 部は回転なで。	
0020	碗 須恵器	器高：58mm 口径：150～ 156mm 底径：82mm 口縁 部～高台部4/5	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。還元。やや硬 質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はほぼ直線 的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転な で、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面 ：口縁部～底部は回転なで。	内外面の口縁部～ 底部に一部油煙付 着。
0021	碗 須恵器	器高：62mm 口径： [147mm] 底径：75mm 口 縁部～底部1/2	径3～4mmの小石及び砂 粒を含む。還元。やや硬 質。青灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに内 湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回 転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。 内面：口縁部～底部は回転なで。	

### 1区3号住居跡

当住居跡は1区7号溝跡と重複する。新旧関係は、同溝跡が当住居跡の壁・床・竈の一部を破壊していることから、当住居跡の方が古い。当住居跡の規模は、西部が攪乱により破壊されており確定できないが、南北約2.8m・東西は3.1m以上であり、平面形は隅丸長方形を呈すると推定される。N-2.5°-Eである。床面の状態は、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約5～15cmである。

竈は、東壁の南よりに構築されている。燃烧部の壁外への張り出しは約80cmである。上面は大部分が破壊されており、袖は検出することができなかった。燃烧部の覆土も少量の炭化物・焼土が確認できたのみである。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物は少なく、須恵器の碗(22・23)以外は、小破片が出土しているだけである。



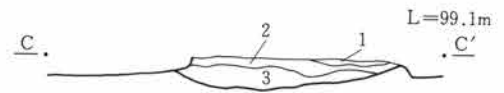


1区3号住居跡

- 1 灰褐色土層：角閃石安山岩粒子・炭化物を含む。
- 2 黒褐色土層：灰褐色土ブロックを含む。
- 3 黒褐色土層：淡褐色土ブロック及び少量のローム粒子を含む。

0 1 : 60 1.5m

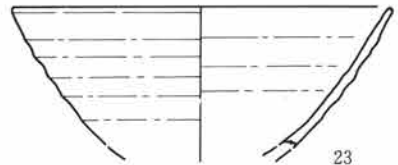
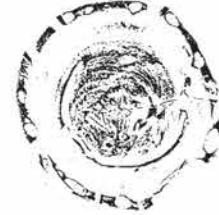
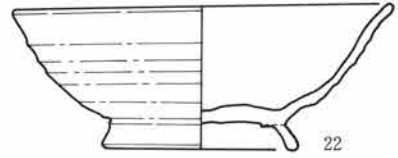
第10図 1区3号住居跡



1区3号住居跡竈

- 1 灰褐色土層：炭化物を含む。
- 2 灰褐色土層：角閃石安山岩粒子・マンガン及び少量の焼土粒子を含む。
- 3 黒褐色土層：角閃石安山岩粒子・マンガンを含む。

0 1 : 30 0.75m



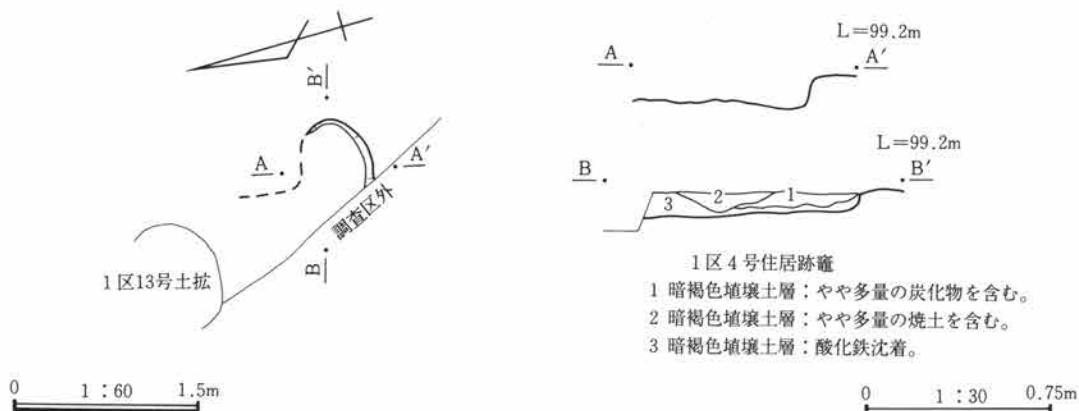
0 1 : 3 7.5cm

第11図 1区3号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0022	碗 須恵器	器高：58mm 口径：151mm 底径：77mm ほぼ完形	径3~4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部~口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部~胴部は回転で、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部~底部は回転で。	外面口縁部の一部に自然釉。
0023	碗 須恵器	器高：(55mm) 口径：[153mm] 底径：- 口縁部~胴部1/4	径2~3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部~口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。内外面共に口縁部~胴部は回転で。	

### 1区4号住居跡

当住居跡は、竈部分のみの検出であり、大部分は調査区域外である。1区6号住居跡と重複すると推定されるが、新旧関係は確認できなかった。規模は不明であり、床面の状態・壁も確認できなかった。竈は東壁に構築されていると推定される。袖は検出できなかったが、燃焼部が検出でき、覆土中の炭化物・焼土を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物も非常に少なく、覆土中から小破片が出土しているだけである。

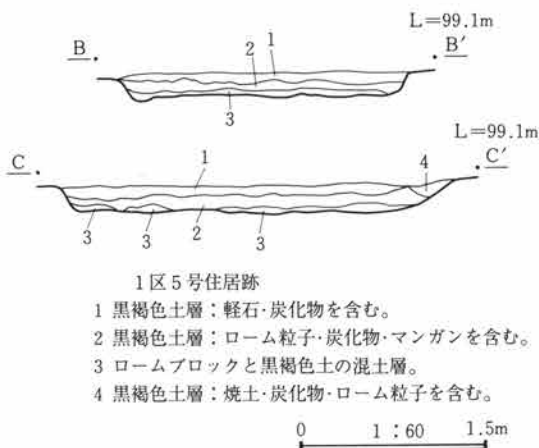


第12図 1区4号住居跡

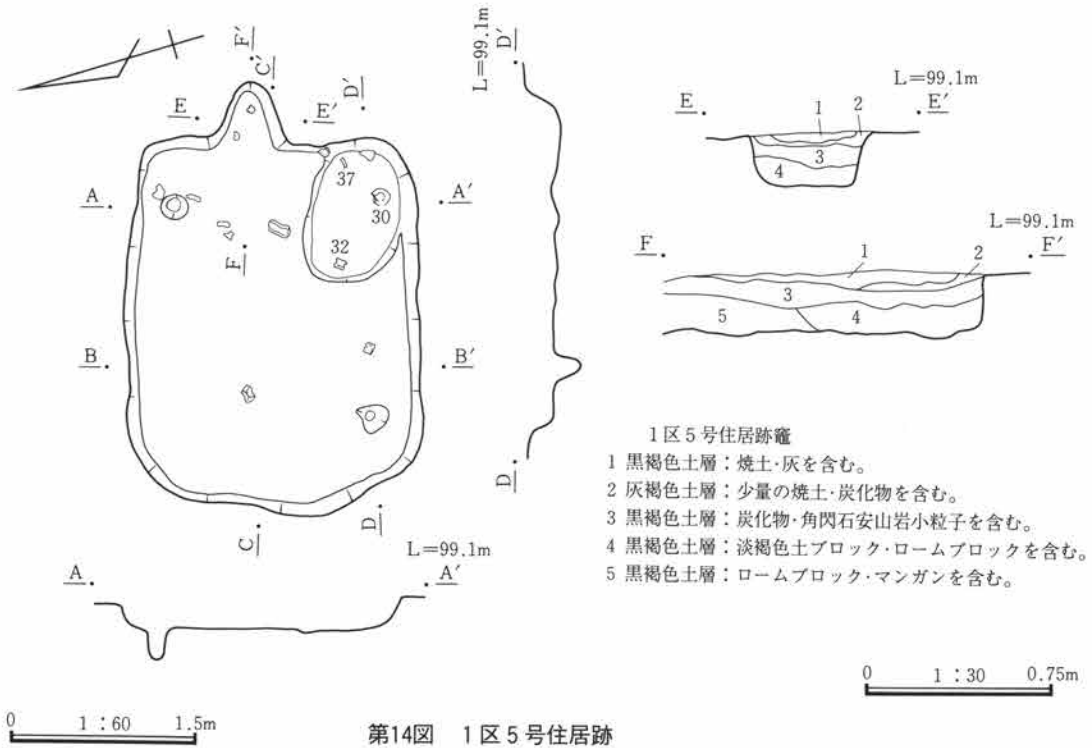
### 1区5号住居跡

当住居跡は1区3号土坑と重複する。新旧関係は不明である。規模は、東西約2.9m・南北約2.3mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。床面が確認できたのは南東部だけであり、他は掘形での確認である。南東部の床の状態は、比較的硬く、ほぼ平坦である。主軸はN-13.5°-Eである。残存壁高は、南東部で約3~5cmと僅かであるが、掘形では10~20cmを測る。

竈は、東壁の中央やや北よりに構築されている。燃焼部の壁外への張り出しは約50cmである。大部分が破壊されており、袖は検出することができなかったが、燃焼部に堆積した灰・焼土を確認することができた。南東隅からは貯蔵穴と考えることもできるピットが検出できた。規模は、長軸約110cm・短軸約70cmであり、平面形は楕円形を呈する。貯蔵穴と断定するには、床面からの深さが約5~10cmであり、非常に浅い。北東隅・南西隅からは各々小ピットが1基検出できた。規模は、直径約20cm・確認面からの深さ約20~25cmであり、平面形は不整形な円形を呈する。柱穴と考えることも可能である。壁溝は検出できなかった。遺物は少ないが、須恵器の杯(30・31・32)などが出土している。

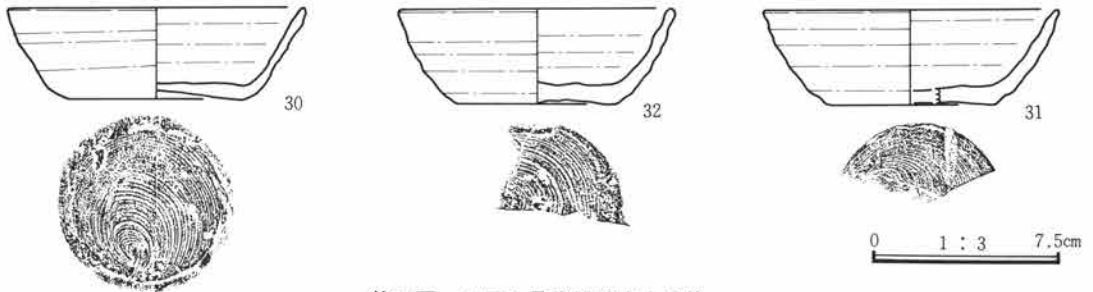


第13図 1区5号住居跡断面



1区5号住居跡竈

- 1 黒褐色土層：焼土・灰を含む。
- 2 灰褐色土層：少量の焼土・炭化物を含む。
- 3 黒褐色土層：炭化物・角閃石安山岩小粒子を含む。
- 4 黒褐色土層：淡褐色土ブロック・ロームブロックを含む。
- 5 黒褐色土層：ロームブロック・マンガンを含む。

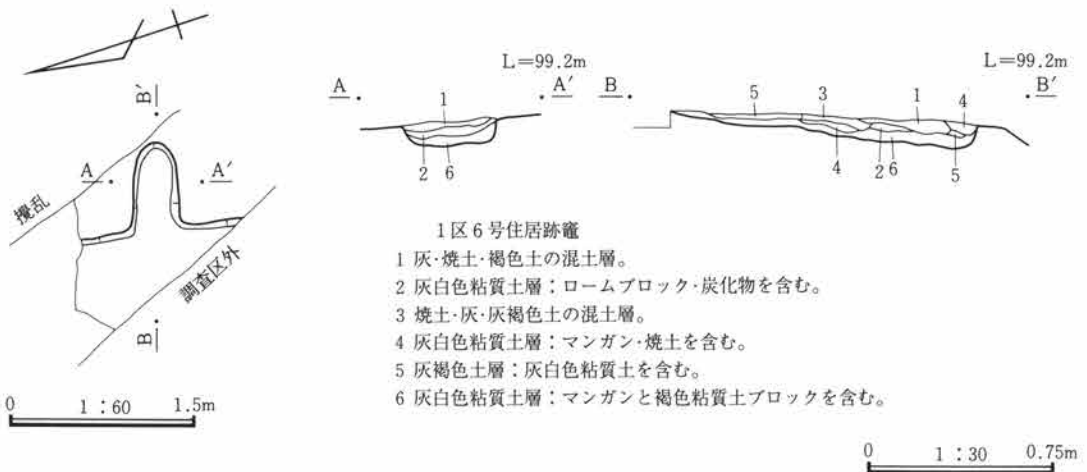


番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0030	杯 須恵器	器高：37mm 口径：120mm 底径：63mm ほぼ完形	径2~3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部~口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部~胴部は回転などで、底部は回転糸切り。内面：口縁部~底部は回転まで。	外面口縁部~底部の一部に自然軸。
0031	杯 須恵器	器高：(38mm) 口径： [118mm] 底径：(68mm) 口縁部~底部1/3	径2~3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部~口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部~胴部は回転などで、底部は回転糸切り。内面：口縁部~底部は回転まで。	内外面に油煙付着。燻し。
0032	杯 須恵器	器高：(38mm) 口径： [110mm] 底径：(66mm) 口縁部~底部1/4	径2~3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや軟質。灰白・鈍い橙。	轆轤整形、右回転。胴部~口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部~胴部は回転などで、底部は回転糸切り。内面：口縁部~底部は回転まで。	内面に一部油煙付着。

### 1区6号住居跡

当住居跡は1区16号溝跡と重複する。新旧関係は、1区16号溝跡の覆土中に当住居跡の壁・床の一部が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。1区4号住居跡とも重複すると推定されるが、確認できなかった。当住居跡は竈及び東壁の一部のみの検出であり、規模は不明である。残存壁高は約5～10cmである。

竈は東壁に構築されている。燃烧部の壁外への張り出しは約70cmである。大部分が破壊されており、袖は検出できなかったが、燃烧部に堆積した灰・焼土を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物も非常に少なく、覆土中から土師器・須恵器の小破片が出土しているだけである。

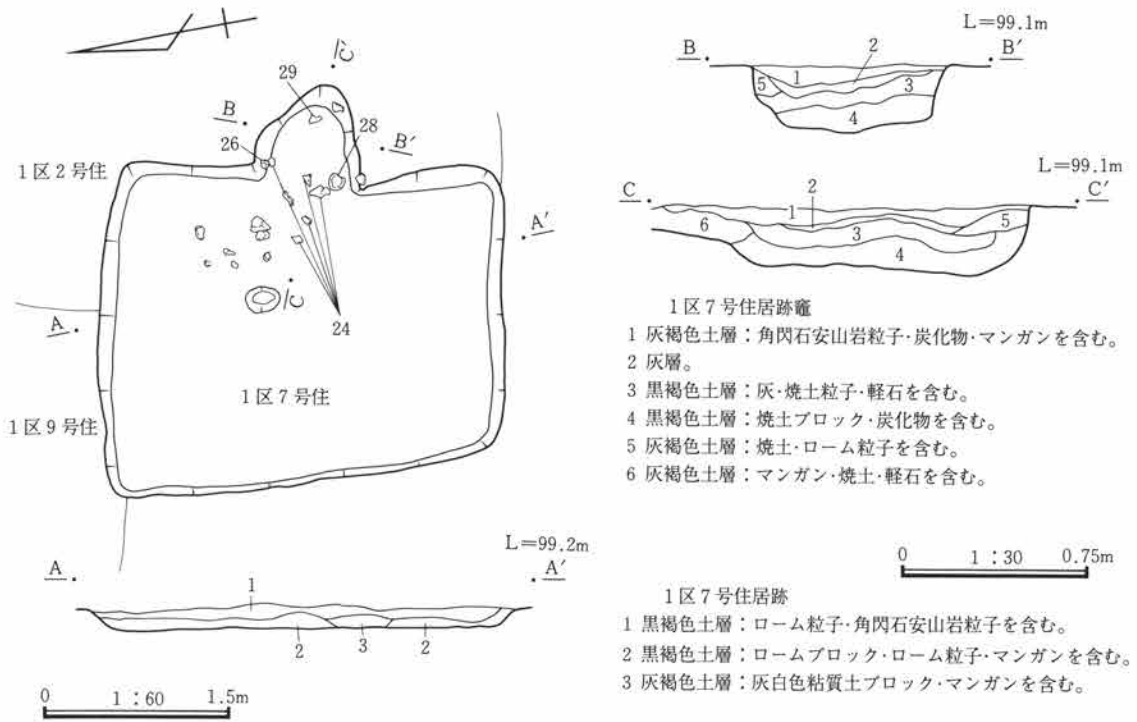


第16図 1区6号住居跡

### 1区7号住居跡

当住居跡は1区2号住居跡・1区9号住居跡・1区14号溝跡と重複する。1区2号住居跡との新旧関係は、同住居跡の西部の床下に当住居跡の東部の壁・床・竈が築かれていることから、当住居跡の方が古い。1区9号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南部の壁・床の一部を破壊して当住居跡の北部の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。1区14号溝跡との新旧関係は、同溝跡の上面を破壊して当住居跡の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は東西約2.3～2.7m・南北約3.2mであり、平面形は隅丸台形を呈する。主軸はN-10°-Eである。床面の状態は張床されており、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約5～15cmである。竈は東壁の中央付近に構築されている。燃烧部の壁外への張り出しは約70cmである。大部分が破壊されており、袖は検出できなかったが、燃烧部に堆積した灰・焼土を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物は竈内・竈前を中心に出土している。種類は、土師器の甕(24・25)、土師器の杯(26・27)、須恵器の杯(28)、須恵器の碗(29)などである。



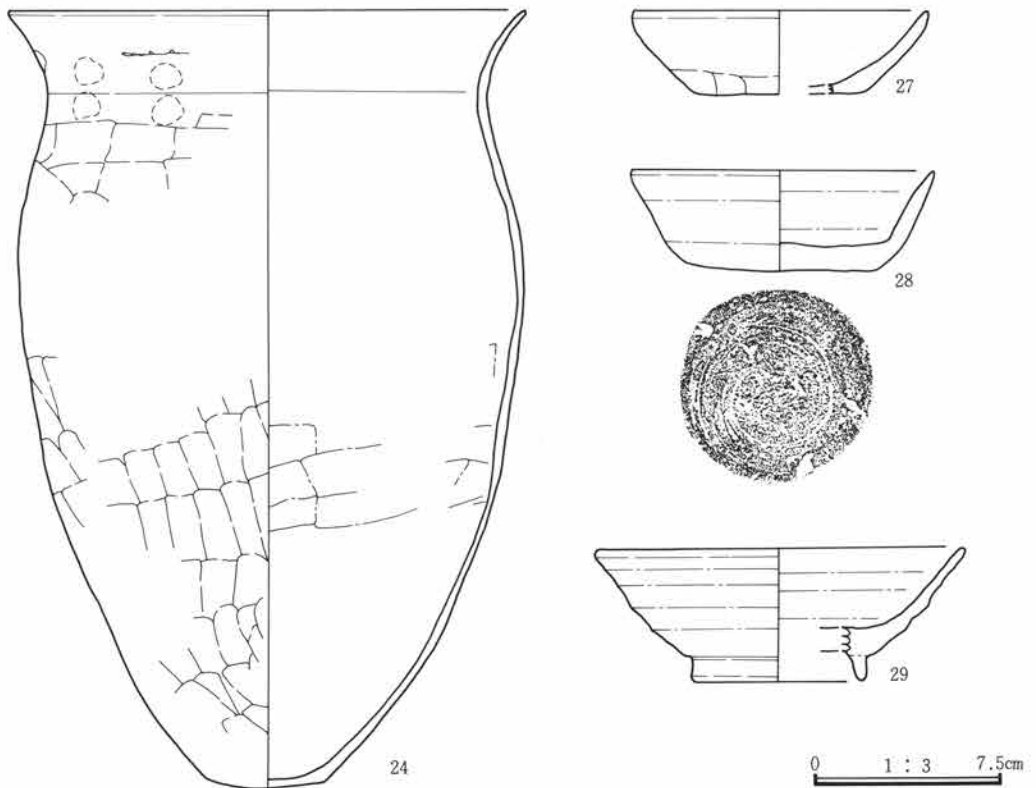
1区7号住居跡

- 1 灰褐色土層：角閃石安山岩粒子・炭化物・マンガンを含む。
- 2 灰層。
- 3 黒褐色土層：灰・焼土粒子・軽石を含む。
- 4 黒褐色土層：焼土ブロック・炭化物を含む。
- 5 灰褐色土層：焼土・ローム粒子を含む。
- 6 灰褐色土層：マンガン・焼土・軽石を含む。

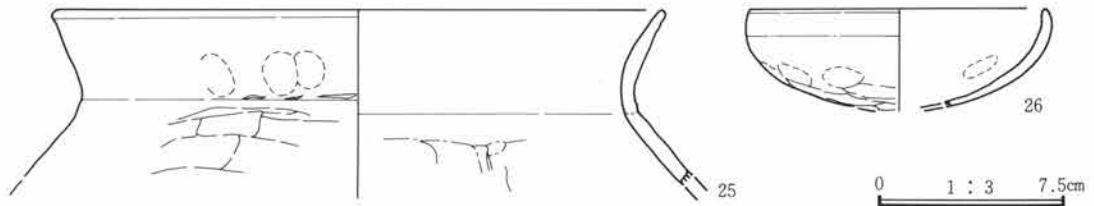
1区7号住居跡

- 1 黒褐色土層：ローム粒子・角閃石安山岩粒子を含む。
- 2 黒褐色土層：ロームブロック・ローム粒子・マンガンを含む。
- 3 灰褐色土層：灰白色粘質土ブロック・マンガンを含む。

第17図 1区7号住居跡



第18図 1区7号住居跡出土遺物①



第19図 1区7号住居跡出土遺物②

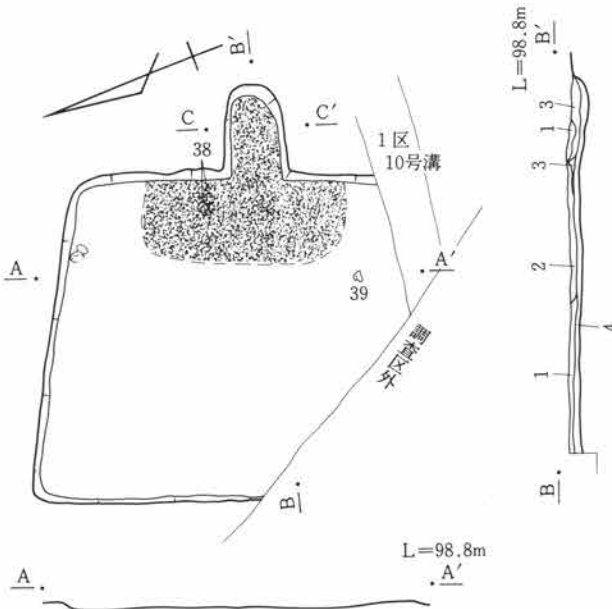
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0024	甕 土師器	器高：309mm 口径： [205mm] 底径：47mm 口 縁部～底部1/2	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや軟 質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は 横なで、一部指頭痕が残り、胴部～底部は鈍 削り。内面：口縁部は横なで、胴部～底部は 鈍なで、一部輪積痕・指頭痕が残る。	外面胴部下半～底 部に多量の油煙付 着。二次炎を受け ている。
0025	甕 土師器	器高：(70mm) 口径： [246mm] 底径：- 口縁 部～胴部上端1/10	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや硬 質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は 横なで、一部輪積痕・指頭痕が残り、胴部上 端は鈍削り。内面：口縁部は横なで、胴部上 端は鈍なで。	
0026	杯 土師器	器高：(39mm) 口径： [120mm] 底径：- 口縁 部～底部1/3	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。外面：口縁部は 横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は鈍 削り。口縁部～底部上端は横なで、一部指頭 痕が残り、底部はなで。	
0027	杯 土師器	器高：(33mm) 口径： [120mm] 底径：[66mm] 口縁部～底部1/8	径3～4mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや硬 質。橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。 外面：口縁部は横なで、胴部～底部は鈍削 り。内面：口縁部～底部上端は横なで。	外面に一部油煙付 着。
0028	杯 須恵器	器高：40mm 口径： [122mm] 底径：81mm 口 縁部～底部3/4	径3～4mmの小石及び砂 粒を含む。還元。硬質。 灰。	轆轤整形。胴部～口縁部はほぼ直線的に広 がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部 は回転鈍切り。内面：口縁部～底部は回転 なで。	
0029	碗 須恵器	器高：(53mm) 口径： [148mm] 底径：[68mm] 口縁部～高台部1/5	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。やや軟質。灰 白。	轆轤整形。胴部～口縁部はほぼ直線的に広 がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部 は高台貼り付け。内面：口縁部～底部上端 は回転なで。	

### 1区8号住居跡

当住居跡は1区10号溝跡と重複する。新旧関係は、1区10号溝跡が当住居跡の南東部の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。当住居跡の規模は、南壁は掘形の確認であるが、東西約2.6m・南北約2.9mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-10°-Eである。床面の状態は、硬く良好な床であり、ほぼ平坦である。残存壁高は約5～20cmである。

竈は東壁の中央付近に構築されている。燃焼部の壁外への張り出しは約70cmである。袖は検出できなかったが、燃焼部からは灰・焼土の堆積が検出できた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。掘形での竈前からはピットが1基検出できた。規模は、長軸約50cm・短軸約40cm・床面からの深さ約5cmで

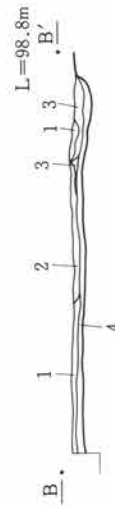
あり、平面形は不整形な楕円形を呈する。遺物は、須恵器の杯 (38・39・40・41)、須恵器の蓋 (42) などが出土している。



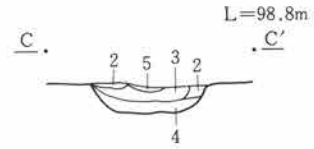
L=98.8m

0 1 : 60 1.5m

第20図 1区8号住居跡・同掘形



L=98.8m



L=98.8m

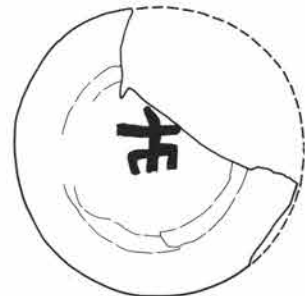
1区8号住居跡

- 1 淡褐色土層：黒褐色土・角閃石安山岩粒子を含む。
- 2 淡褐色土層：焼土粒・ローム粒子を含む。
- 3 黒褐色土層：ローム粒子・焼土粒子を含む。
- 4 黒褐色土層：灰・焼土を含む。
- 5 焼土・ロームブロック・赤褐色土の混土層。

0 1 : 30 0.75m



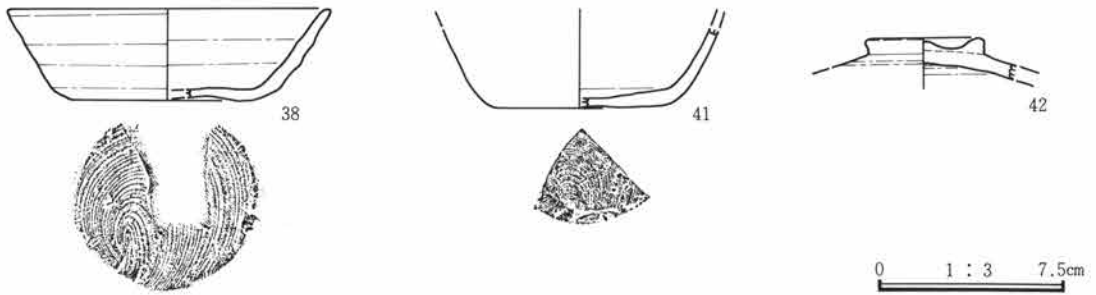
39



40

0 1 : 3 7.5cm

第21図 1区8号住居跡出土遺物①



第22図 1区8号住居跡出土遺物②

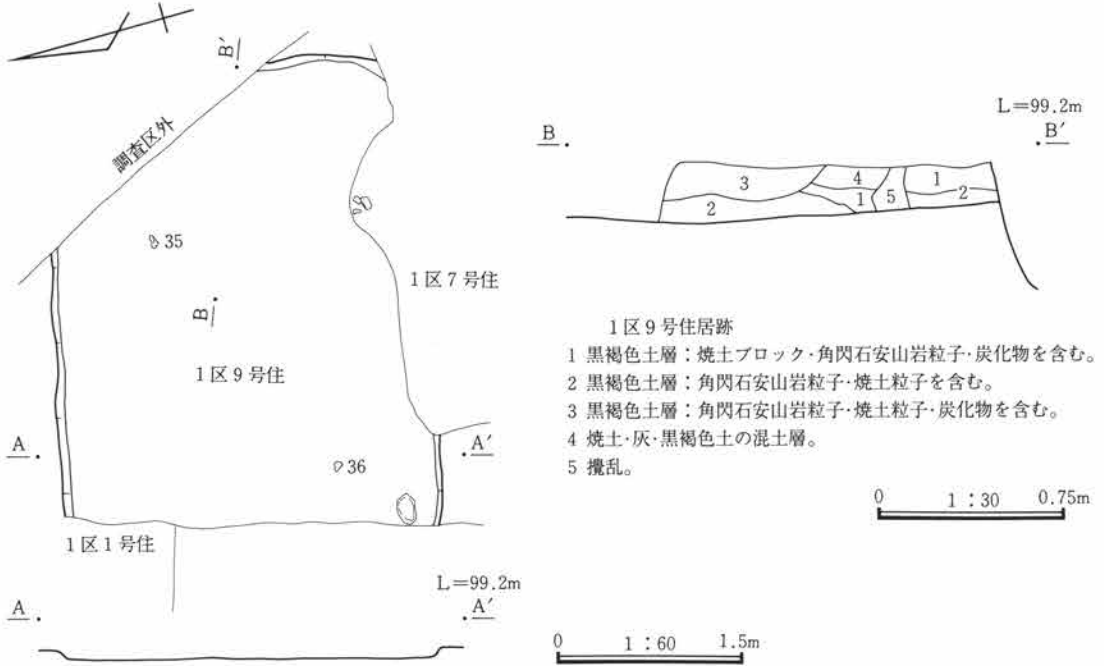
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0038	杯 須恵器	器高：(36mm) 口径：130mm 底径：70mm 口縁部～底部4/5	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転など。	外面口縁部に一部自然軸。
0039	杯 須恵器	器高：36mm 口径：116mm 底径：64mm 口縁部～底部3/4	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや軟質。灰白・鈍い橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転など。	内面に油煙付着燻し。外面底部に墨書「市」。
0040	杯 須恵器	器高：(16mm) 口径：一 底径：77mm 胴部下半～底部1/2	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転などで、底部は回転糸切り。内面：胴部下半～底部は回転など。	
0041	杯 須恵器	器高：(32mm) 口径：一 底径：[68mm] 胴部～底部1/4	径1mm前後の砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部は回転などで、底部は回転糸切り。内面：胴部～底部は回転など。	外面胴部に一部自然軸。
0042	蓋 須恵器	器高：(18mm) 口径：一 つまみ径：47mm つまみ部～天井部上半2/3	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。ボタン状つまみ。つまみ部は貼り付け。外面：つまみ部は回転などで、天井部上半は回転糸切り。内面：天井部上半は回転など。	

1区9号住居跡

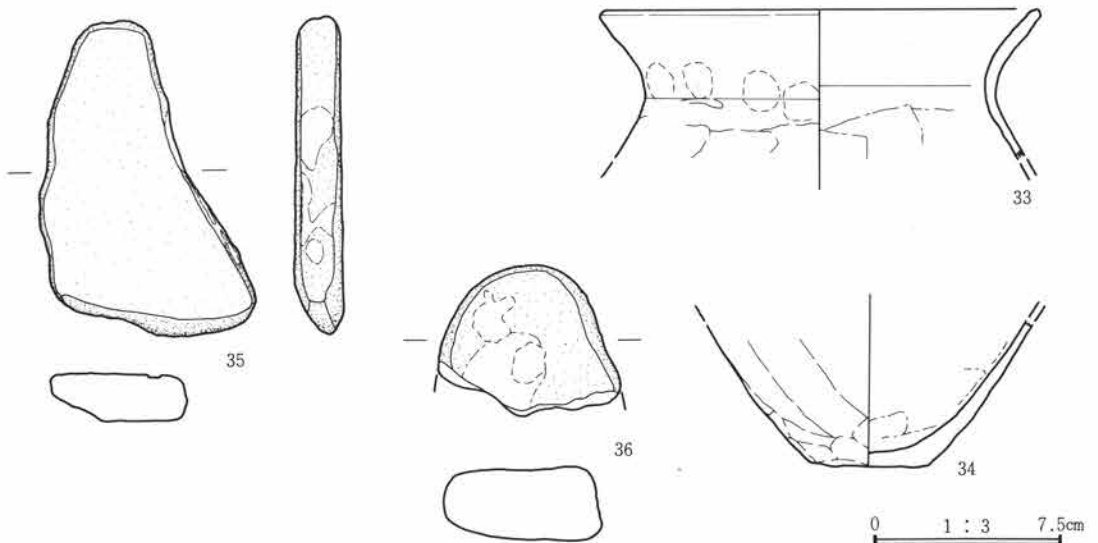
当住居跡は1区1号住居跡・1区2号住居跡・1区7号住居跡・1区6号溝跡と重複する。1区1号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南東部の壁・床が当住居跡の北西部の床上に築かれていることから、当住居跡の方が古い。1区2号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南東部の壁・床が当住居跡の北西部の壁・床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。1区7号住居跡との新旧関係は、同住居跡北部の壁・床の一部が当住居跡の南部の壁・床の一部を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。1区6号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の北西部の床上から検出されたことから、当住居跡の方が古い。



当住居跡の規模は、北東部及び西部の壁が確認できなかったので確定できないが、東西は3.7m以上、南北約3.0mであり、平面形は隅丸長方形を呈するものと推定される。床面の状態は、比較的硬く張床がされており、ほぼ平坦である。壁の残りは悪く、立ち上がりは約5～10cmである。竈は東壁に構築されていると推定できるが、確認できず、竈前と推定される部分から焼土の散布が検出できただけである。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は少ないが、土師器の甕(33・34)、石(35・36)などが出土している。



第23図 1区9号住居跡



第24図 1区9号住居跡出土遺物

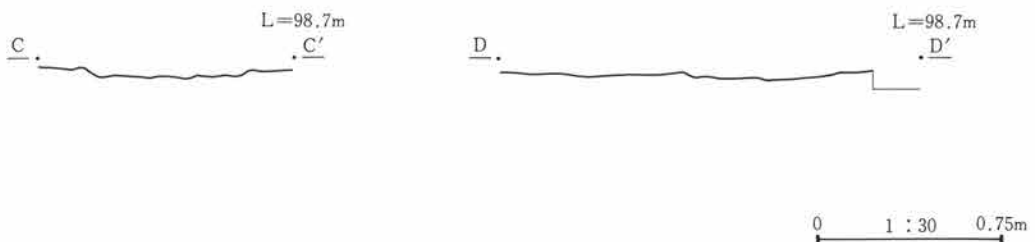
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0033	甕 土師器	器高：(63mm) 口径： [176mm] 底径：- 口縁 部～胴部上端1/8	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや軟 質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は 横なで、一部輪積痕・指頭痕が残り、胴部上 端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上 端は篋なで。	
0034	甕 土師器	器高：(58mm) 口径：- 底径：46mm 胴部下半～ 底部2/3	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。軟質。 橙。	外面：胴部下半～底部は篋削り。内面：胴 部下半～底部は篋なで。	外面に多量の油煙 を含む。二次炎を 受けている。
0035	用途不明 石製品	長：125mm 幅：86mm 厚 ：20mm 重：295.6g	粗粒安山岩。	両面は擦れて平らになっている。	
0036	用途不明 石製品	長：(60mm) 幅：(74mm) 厚：(30mm) 重：164.6g	粗粒安山岩。	周囲は擦れている。	

### 1区10号住居跡

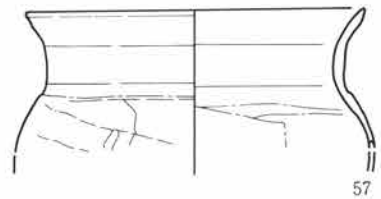
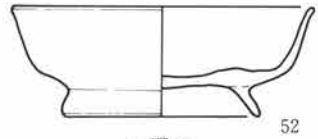
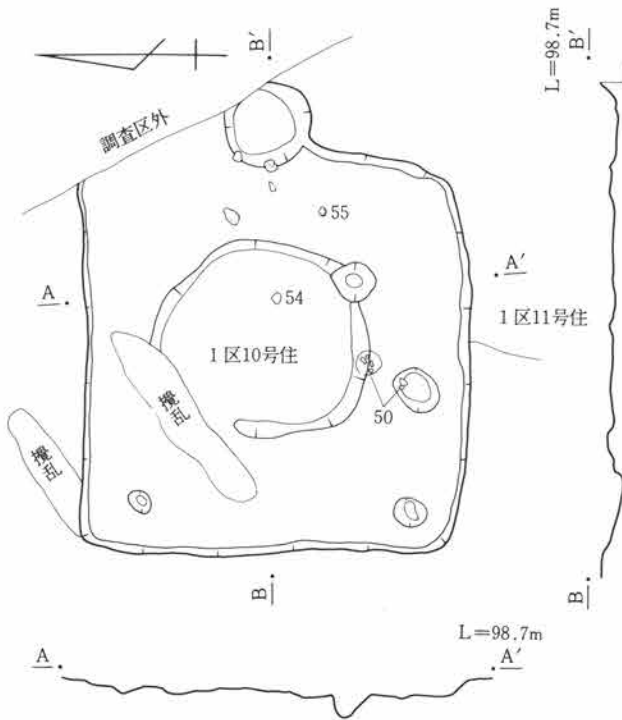
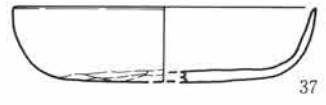
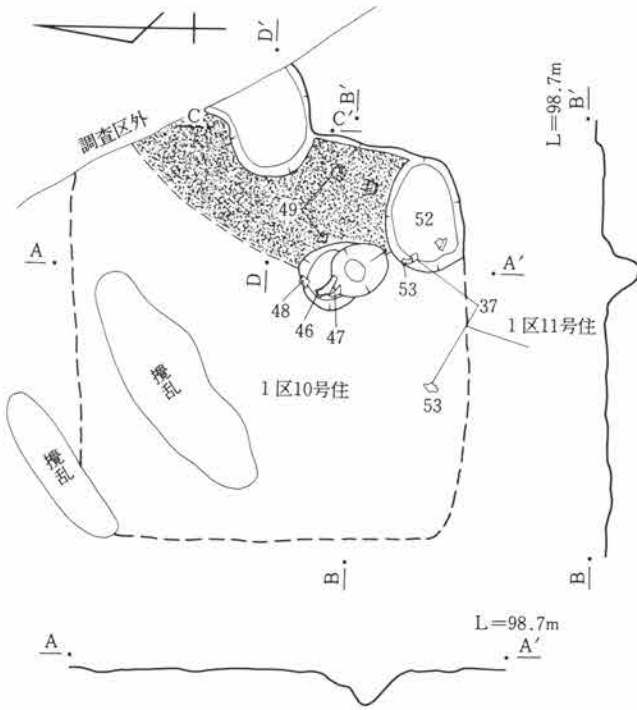
1区11号住居跡と重複する。新旧関係は、1区11号住居跡の北西部の壁・床を当住居跡の南東部の壁・床・竈が破壊していることから、当住居跡の方が新しい。当住居跡の規模は、掘形での確認で東西約3.0m・南北約3.1mであり、平面形は隅丸方形を呈する。床面の状態は、やや軟弱な部分もあるが、比較的硬く、ほぼ平坦である。確認できた南東部の残存壁高は約5cmである。

竈は東壁の中央付近に構築されている。燃烧部の先端は排水口により破壊されているが、壁外への張り出しは50cm以上である。大部分が破壊されており、袖は検出できなかったが、燃烧部に堆積した灰・焼土を確認することができた。住居跡内の南東隅からは、貯蔵穴と推定されるピットが確認できた。規模は、長軸約90cm・短軸約60cm・床面からの深さ約10cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。貯蔵穴の北西からは小ピットが2基重なって検出された。南よりの小ピットの規模は、長軸約45cm・短軸約35cm・床面からの深さ約25cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。柱穴と断定するには難が残る。柱穴・壁溝は不明である。

遺物は貯蔵穴とその周辺の南東部から多量に出土している。種類は、土師器の甕(48・56・57)、土師器の杯(37・49・50)、須恵器の甕(46・47)、須恵器の杯(51)、須恵器の椀(52・53)、石製品(54)などである。



第25図 1区10号住居跡竈エレベーション

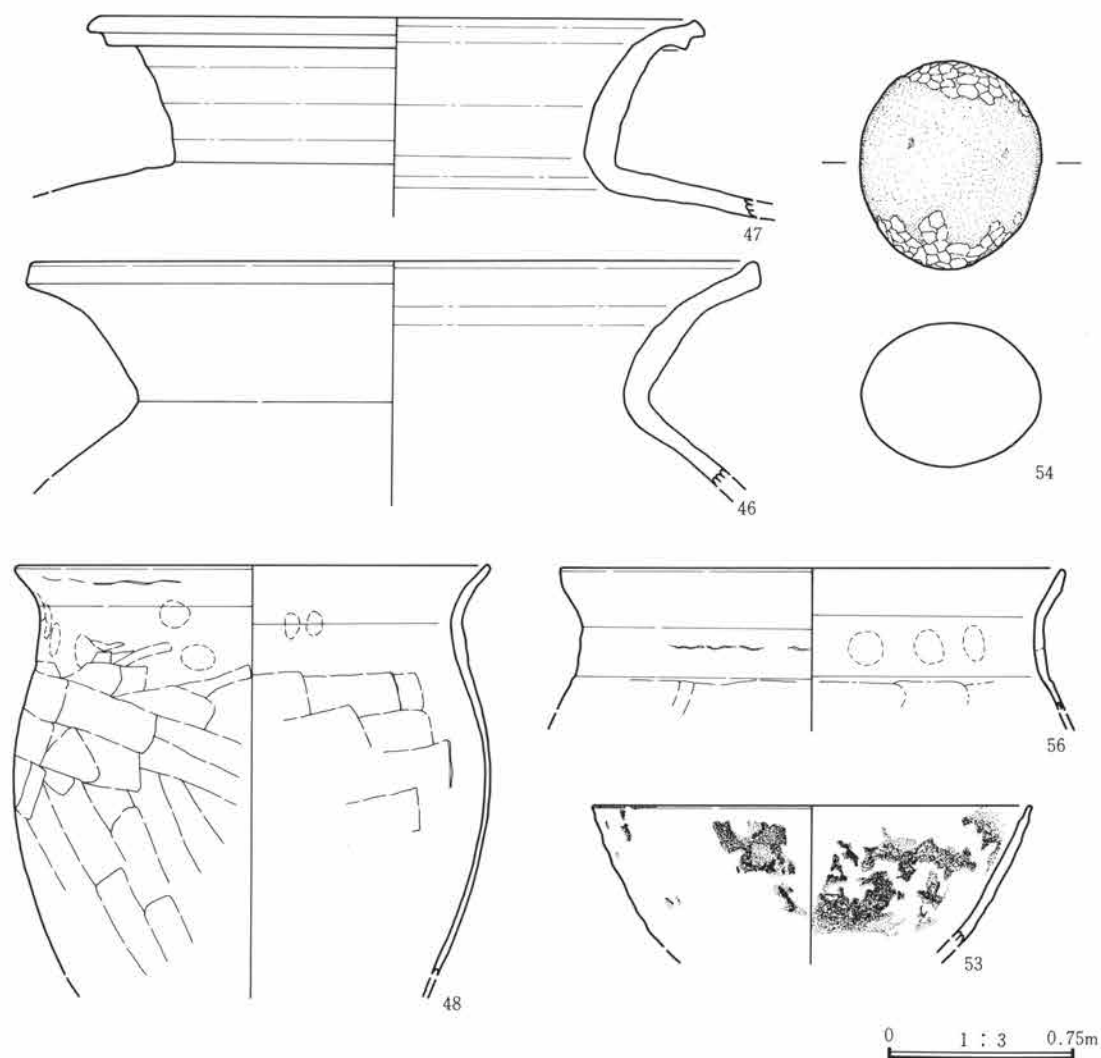


0 1:60 1.5m

第26図 1区10号住居跡・同掘形

0 1:3 7.5cm

第27図 1区10号住居跡出土遺物①



第28図 1区10号住居跡出土遺物②

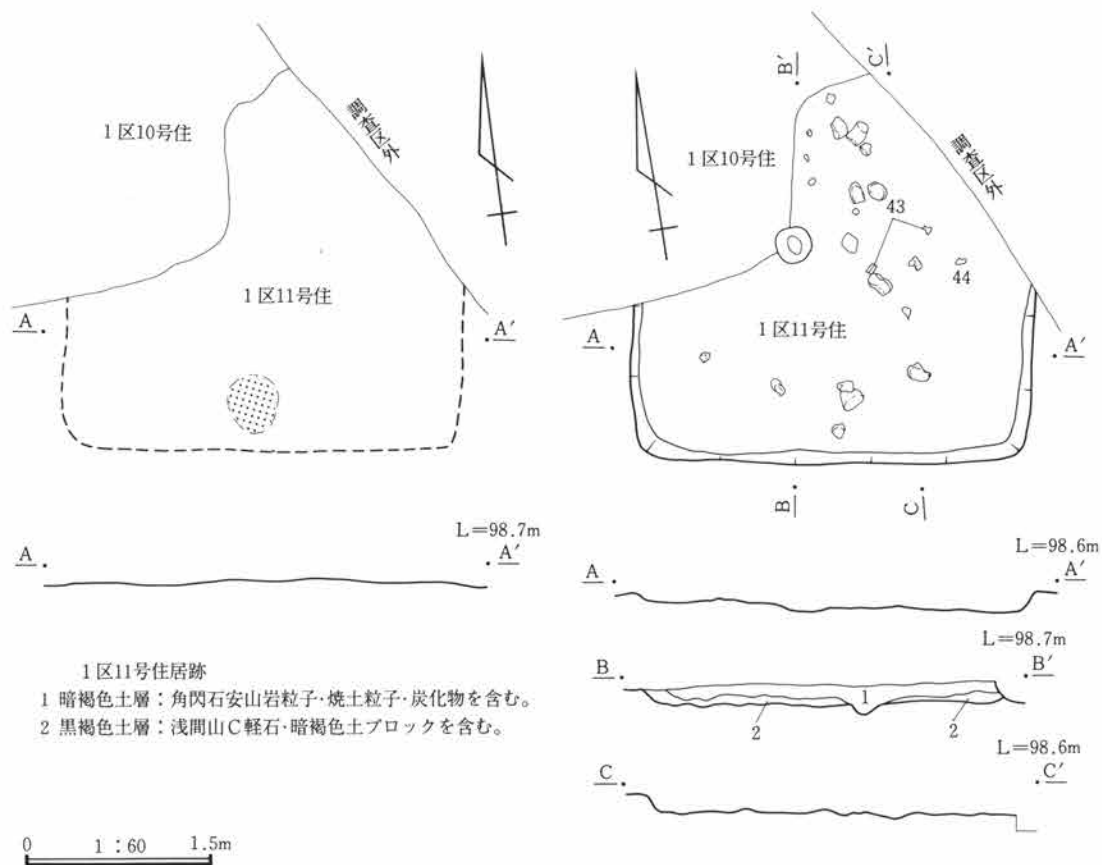
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0037	杯 土師器	器高：(30mm) 口径： [122mm] 底径：89mm 口 縁部～底部1/2	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。軟質。 橙。	胴部は内湾し、口縁部はほぼ直立。外面：口 縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底 部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、 底部はなで。	外面口縁部～底部 にやや多量の油煙 附着。
0046	甕 須恵器	器高：(90mm) 口径： [290mm] 底径：- 口縁 部～胴部上端1/4	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。還元。硬質。 青灰。	轆轤整形。口縁部は「く」字状に大きく外反。 外面：口縁部～胴部上端は回転なで。内面 ：口縁部は回転なで、胴部上端は叩目。	
0047	甕 須恵器	器高：(78mm) 口径： 242mm 底径：- 口縁部 ～胴部上端1/2	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。還元。硬質。 灰。	轆轤整形。口縁部は「コ」字状に大きく外反。 口縁部は外縁帯を持ち、外面口縁部直 下に凸帯一条。内外面共に口縁部は回転な で、胴部上端は叩目が残る。	外面の一部に自然 釉。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0048	甕 土師器	器高：(162mm) 口径： 〔190mm〕底径：— 口縁 部～胴部上半1/6	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。軟質。 橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は 横なで、一部輪積痕・指頭痕が残り、胴部上 半は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部は 篋なで、一部指頭痕が残る。	内面に一部油煙付 着。
0049	杯 土師器	器高：30mm 口径：119mm 底径：84mm ほぼ完成形	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。軟質。鈍い橙。	胴部は内湾し、口縁端部は僅かに内湾。外面 ：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底 部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横 なで、指頭痕が残り、底部下半はなで。	内外面の一部に油 煙附着。
0050	杯 土師器	器高：(27mm) 口径： 〔118mm〕底径：〔88mm〕 口縁部～底部1/3	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外 面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が 残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は 横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
0051	杯 須恵器	器高：36mm 口径：125mm 底径：65mm 口縁部～底 部4/5	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。還元。やや硬 質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はほぼ直線 的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転な で、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部 は回転なで。	内面に漆又はター ール附着。
0052	碗 須恵器	器高：43mm 口径： 〔121mm〕底径：79mm 口 縁部～高台部1/2	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。還元。やや硬 質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～高台部はほぼ直線 的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面： 口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切 り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は 回転なで。	
0053	碗 須恵器	器高：(56mm) 口径： 〔176mm〕底径：— 口縁 部～胴部1/4。	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はほぼ直線的に広 がる。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	内外面に漆又はター ール附着。
0054	用途不明 石製品	長：82mm 幅：72mm 厚： 58mm 重：465.1g	粗粒安山岩。	周囲は丸く擦れており、両端に打ち付けた 痕あり。	
0056	甕 土師器	器高：(56mm) 口径： 〔200mm〕底径：— 口縁 部～胴部上端1/10	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は 横なで、一部輪積痕が残り、胴部上端は篋削 り。内面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残 り、胴部上端は篋なで。	内外面に一部油煙 附着。二次炎を受 けている。
0057	甕 土師器	器高：(55mm) 口径： 〔136mm〕底径：— 口縁 部～胴部上端1/10	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや軟質。鈍 い橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は 横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は 横なで、胴部上端は篋なで。	内面に多量の油煙 附着。二次炎を受 けている。

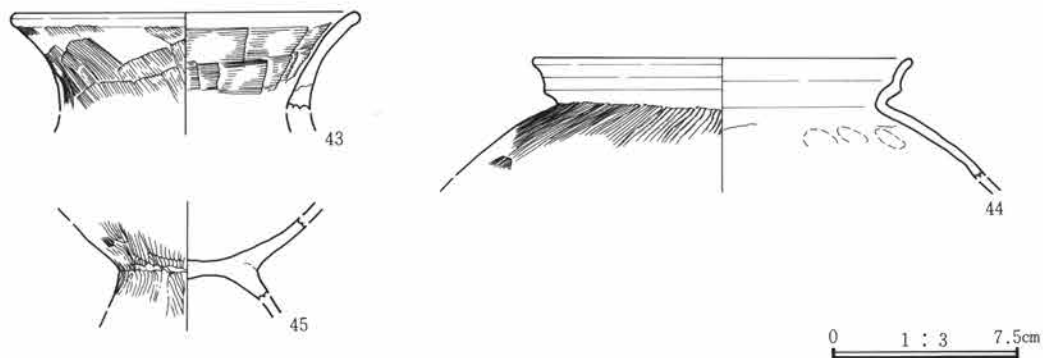
## 1区11号住居跡

当住居跡は1区10号住居跡・1区19号溝跡・1区37号溝跡・1区38号溝跡と重複する。1区10号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南東部の壁・床・竈が当住居跡の北西部の壁・床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。1区19号溝跡との新旧関係は不明である。1区37号溝跡との新旧関係は、同溝跡を当住居跡の壁・床が破壊していることから、当住居跡の方が新しい。1区38号溝跡との新旧関係は、同溝跡を当住居跡の壁・床が破壊していることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、掘形での確認で、東西は約3.2mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。床面の状態は、やや軟弱な部分もあるが、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約2cmであり、僅かである。竈・柱穴・貯蔵穴は不明である。遺物は、土師器の甕(43)、土師器の台付甕などが出土しているが、少ない。



第29図 1区11号住居跡・同掘形



第30図 1区11号住居跡出土遺物

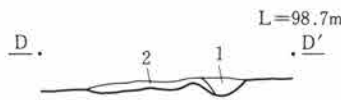
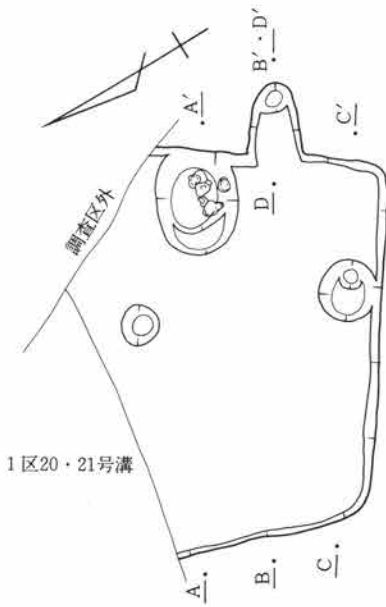
番号	器種 土師器	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0043	甕 土師器	器高：(39mm) 口径： 〔140mm〕 底径：－ 口縁 部1/3	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや硬 質。鈍い黄橙。	口縁部は外反。外面：口縁部上半はハケな で後横なで、胴部下半はハケなで。内面：口 縁部はハケなで。	内外面に油煙付 着。
0044	台付甕 土師器	器高：(48mm) 口径： 〔151mm〕 底径：－ 口縁 部～胴部上端1/5	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや軟質。鈍 い黄橙。	口縁部は「S」字状に外反。外面：口縁部は 横なで、胴部上端は縦ハケ目。内面：口縁部 は横なで、胴部上端はなで、一部輪積痕・指 頭痕が残る。	内外面に油煙付 着。二次炎を受け ている。
0045	台付甕 土師器	器高：(38mm) 口径：－ 底径：－ 胴部下端～脚 部上端2/3	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや硬質。明 赤褐・鈍い黄橙。	外面：胴部下端～脚部上端はハケ目。内面 ：胴部下端～底部はなで、脚部はなで、一部 指頭痕が残る。	内外面に油煙付 着。二次炎を受け ている。

## 1区12号住居跡

当住居跡は1区20号溝跡・1区21号溝跡と重複する。新旧関係は不明である。当住居跡の規模は、北部が確認できなかつたために確定できないが、東西は約2.8～3.2mであり、平面形は不整形な隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。床面の状態は、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は、約2～7cmであり、僅かである。

竈は東壁の南よりに構築されている。燃烧部の壁外への張り出しは約60cmである。大部分が破壊されており、軸は検出できなかったが、燃烧部からは炭化物・焼土の堆積を確認することができた。竈の左脇からは貯蔵穴と考えられるピットが検出できた。規模は長軸約80cm・短軸約60cm・床面からの

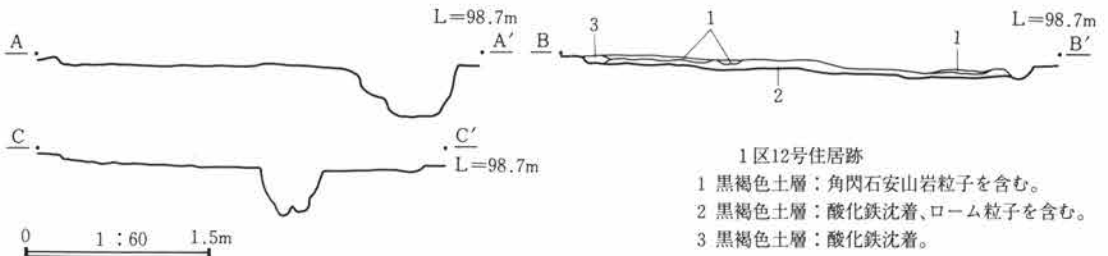
深さ約40cmであり、平面形は楕円形を呈する。形態的には貯蔵穴であるが、竈の左、住居跡の東壁中央近くに築かれているのは珍しい。住居跡の南壁脇と中央付近から各々1基のピットが検出できた。南壁脇のピットの規模は、上面での直径約45cm・床面からの深さ約40cmであり、平面形は円形を呈する。中央付近のピットの規模は、直径約30cm・床面からの深さ約15cmであり、平面形は不整形な円形を呈する。柱穴と断定はできない。柱穴・壁溝は不明である。遺物は非常に少なく、覆土中から土師器・須恵器の小破片が出土しているだけである。



1区12号住居跡竈

- 1 黒褐色土層：焼土・黒褐色土・炭化物を含む。
- 2 黒褐色土層：焼土粒子・角閃石安山岩粒子を含む。

第31図 1区12号住居跡

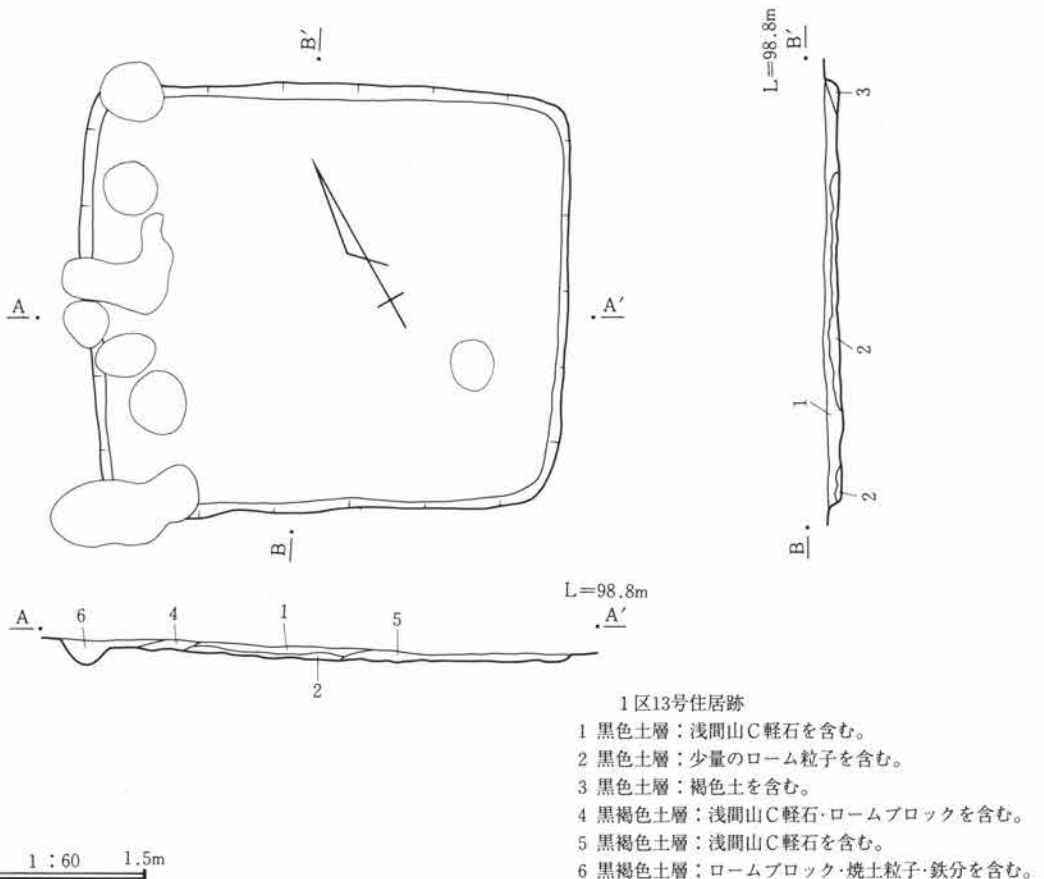


第32図 1区12号住居跡断面・エレベーション

1区13号住居跡

当住居跡は1区1号掘立柱跡と重複する。新旧関係は、1区1号掘立柱跡の南東隅のピットが当住居跡の北西隅の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。当住居跡の規模は、東西約3.9m・南北約3.9mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。床面の状態は、やや軟弱な部分もあるが、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約3～10cmである。

竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。西壁に沿い6基・南東部に1基、計7基のピットが検出できたが、当住居跡には属さないと考えられる。遺物は非常に少なく、覆土中から土師器の小破片が出土しているだけである。



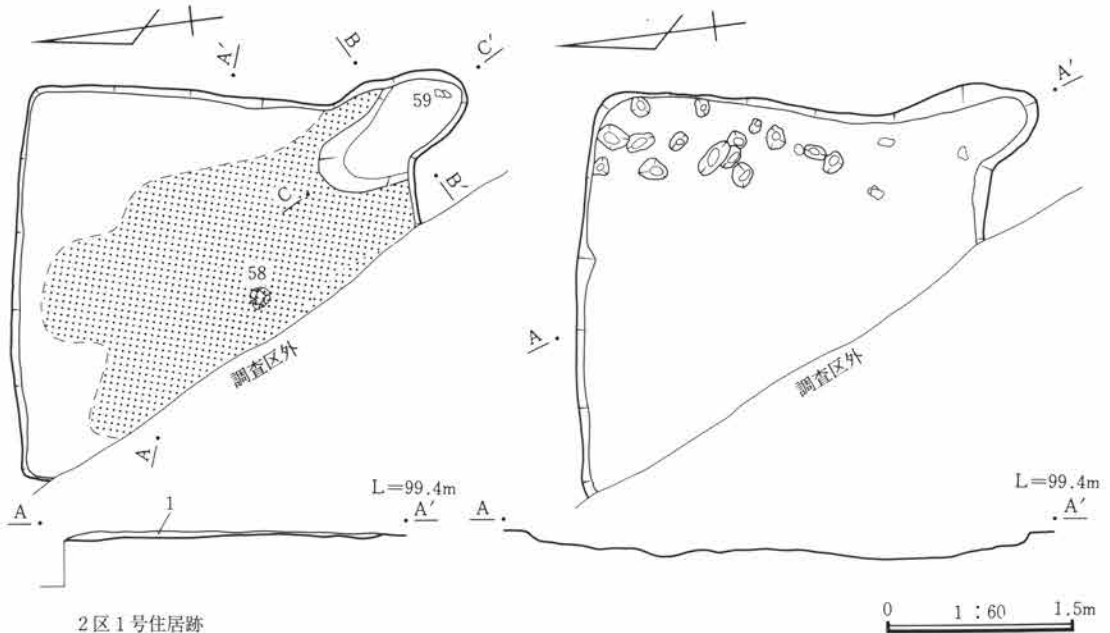
第33図 1区13号住居跡



2区1号住居跡

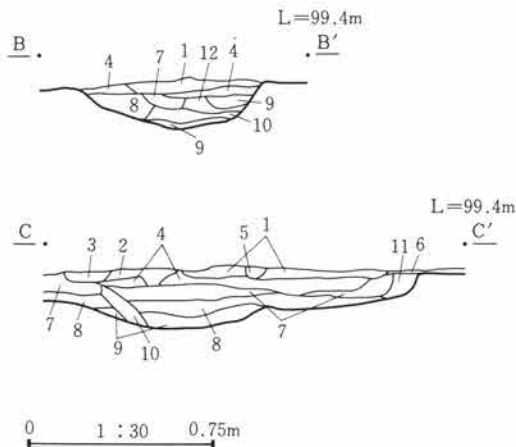
当住居跡は2区2号住居跡・2区12号溝跡が近接するが、重複はない。当住居跡の規模は、南西部が排水口により破壊され確定できないが、東西約3.1m・南北約3.2mであり、平面形は隅丸方形を呈すると推定される。主軸はN-11°-Eである。床面の状態は、やや軟弱な部分もあるが、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は、約5cmであり、僅かである。

竈は南東隅に構築されている。燃烧部の壁外への張り出しは約50cmである。大部分が破壊されており、袖は検出できなかったが、燃烧部に堆積した灰・焼土を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は、土師器の杯(58・59・60)、須恵器の杯(61・62)、須恵器の蓋(63)などが出土している。



2区1号住居跡

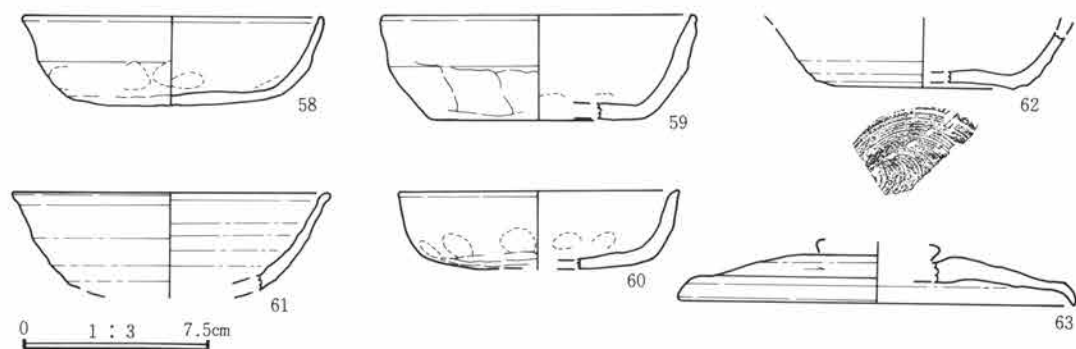
1 灰褐色土層：角閃石安山岩粒子・焼土粒子・炭化物を含む。



2区1号住居跡竈

- 1 灰褐色土層：焼土粒子・炭化物・角閃石安山岩粒子を含む。
- 2 灰・焼土・灰褐色土の混土層。
- 3 灰褐色土層：炭化物・焼土・黒褐色土を含む。
- 4 暗褐色土層：炭化物・焼土粒子を含む。
- 5 攪乱。
- 6 灰と灰褐色土の混土層。
- 7 黒褐色土層：焼土・浅間山C軽石及び少量の黄褐色土粒子を含む。
- 8 黒褐色土層：少量の焼土・浅間山C軽石を含む。
- 9 黒褐色土層：ローム粒子を含む。
- 10 黒褐色土層：少量の焼土・炭化物を含む。
- 11 黒褐色土層：やや多量の焼土を含む。
- 12 褐色土層：黒褐色土を含む。

第34図 2区1号住居跡・同掘形



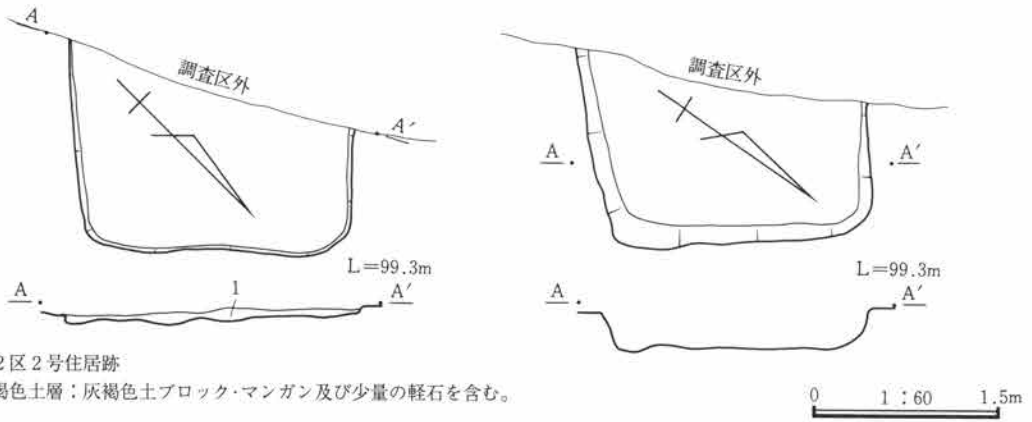
第35図 2区1号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0058	杯 土師器	器高：36mm 口径：120mm 底径：81mm 口縁部～底部3/4	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。鈍い橙。	胴部は内湾し、胴部上半～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	外面に一部油煙付着。
0059	杯 土師器	器高：(41mm) 口径：(126mm) 底径：(82mm) 口縁部～底部2/5	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
0060	杯 土師器	器高：(31mm) 口径：(112mm) 底径：— 口縁部～底部1/8	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部下半は内湾し、胴部上半～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
0061	杯 須恵器	器高：(38mm) 口径：(127mm) 底径：— 口縁部～胴部1/5	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	外面に一部自然軸。
0062	杯 須恵器	器高：(22mm) 口径：— 底径：(74mm) 胴部下半～底部1/4	径1mm前後の砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰白・浅黄橙。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下半は回転なで、底部は回転糸切り。内面：胴部下半～底部は回転なで。	
0063	蓋 須恵器	器高：(19mm) 口径：(158mm) つまみ径：— 天井部～口縁部1/8	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。返りは先端部にあり短い。外面：天井部上半は回転篋削り、天井部下半～口縁部は回転なで。内面：天井部～口縁部は回転なで。	口縁部に油煙付着。

### 2区2号住居跡

当住居跡は2区1号住居跡が近接するが、重複はない。規模は、西部が排水口により破壊されており確定できないが、南北は約2.2mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。床面の状態は、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約5cmであり、僅かである。

竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物も非常に少なく、覆土中から土師器・須恵器の小破片が出土しているだけである。



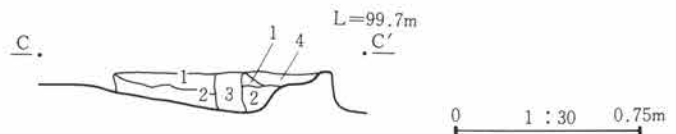
第36図 2区2号住居跡・同掘形

## 2区3号住居跡

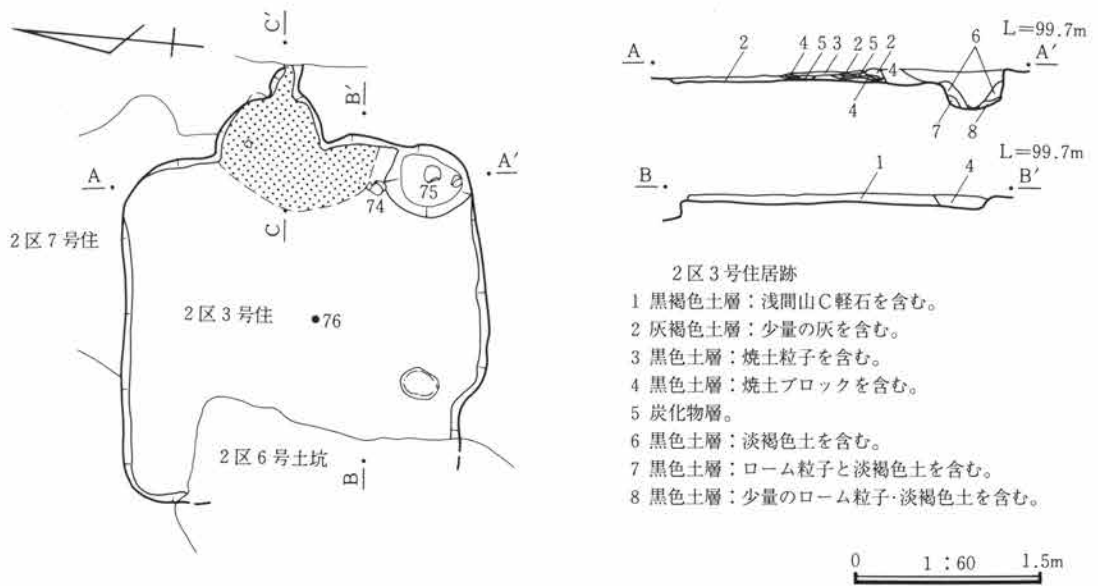
当住居跡は2区4号住居跡・2区7号住居跡・2区10号住居跡・2区6号土坑と重複する。2区4号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南東部の壁・床が当住居跡の北西部の床上に築かれていることから、当住居跡の方が古い。2区7号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南部の壁・床を破壊して当住居跡の北部の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。2区10号住居跡との新旧関係は、同住居跡の西部の床上に当住居跡の壁・床・竈が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。2区6号土坑との新旧関係は、同土坑が当住居跡の南西部の壁・床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、南西部を2区6号土坑により破壊されていることから確定できないが、東西約2.7m・南北約2.8mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸はN-9°-Wである。床面の状態は、やや軟弱な部分もあるが、ほぼ平坦である。残存壁高は約5~15cmである。竈は東壁の中央やや北よりに構築されている。燃烧部・煙道部の壁外への張り出しは約70cmである。大部分が破壊されており、袖は検出できなかったが、燃烧部・竈前に堆積した灰・焼土を確認することができた。貯蔵穴と考えられるピットは南東隅から検出できた。規模は、長軸約70cm・短軸約60cm・床面からの深さ約20cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。柱穴・壁溝は検出できなかった。遺物は少ないが、土師器の杯(74)、須恵器の杯(75)、石製垂飾具(76)などが出土している。

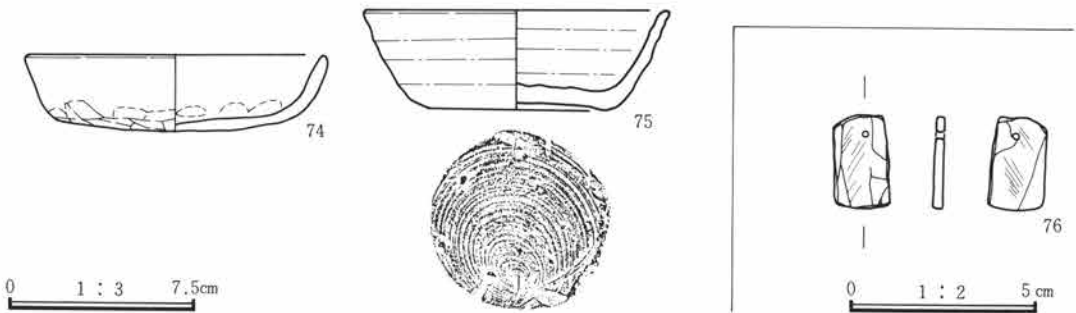
- 2区3号住居跡竈
- 1 黒色土層：浅間山C軽石・焼土粒子を含む。
  - 2 黒色土層：炭化物・焼土ブロックを含む。
  - 3 攪乱。
  - 4 黒色土層：浅間山C軽石を含む。



第37図 2区3号住居跡竈断面



第38図 2区3号住居跡



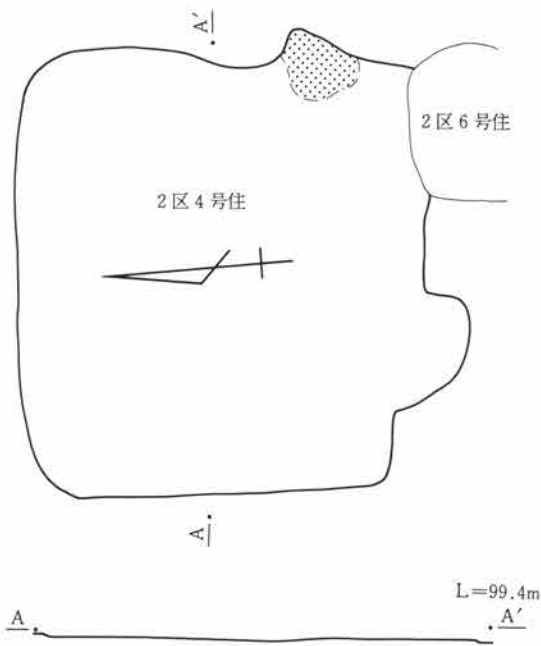
第39図 2区3号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0074	杯 土師器	器高：30mm 口径：121mm 底径：— 口縁部～底部 3/4	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。軟質。 鈍い橙。	胴部は内湾し、胴部上半～口縁部はほぼ直 線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部 は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面： 口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が 残り、底部はなで。	
0075	杯 須恵器	器高：40mm 口径：121mm 底径：72mm ほぼ完形	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。還元。硬質。 灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾 しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面 ：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸 切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0076	垂飾 石製品	長：25mm 幅：15mm 厚： 2.5mm 孔径：1.5mm 重： 2.0g	準片岩。	両面及び側面は擦って調整してある。	

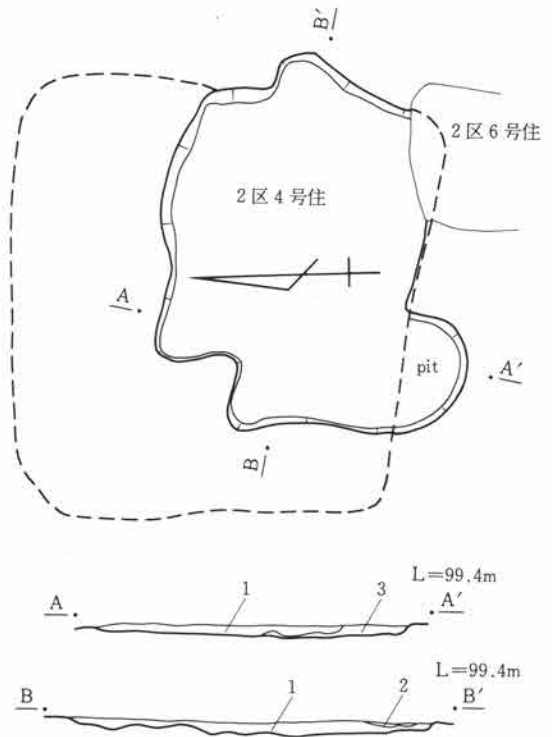
## 2区4号住居跡

当住居跡は2区3号住居跡・2区7号住居跡・2区10号住居跡・2区6号土坑と重複する。2区3号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北西部の壁・床を破壊して当住居跡の南東部の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。2区7号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北西部の壁・床を破壊して当住居跡の南東部の壁・床・竈が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。2区10号住居跡との新旧関係は、同住居跡北西部の壁・床が当住居跡の東部の床下に築かれていることから、当住居跡の方が新しい。2区6号土坑との新旧関係は、同土坑の北端が当住居跡の南東隅の壁・床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約3.2m・南北約3.5mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-10°-Eである。残存壁高は約2~3cmであり、僅かである。床面の状態は、やや軟弱な部分があるが、ほぼ平坦である。竈は東壁の南よりに築かれている。大部分が破壊されており、殆ど検出できなかったが、燃烧部底面の焼土の検出により、確認できた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物も少なく、土師器の杯(77)以外は、小破片が出土しているだけである。



第41図 2区4号住居跡出土遺物



- 2区4号住居跡
- 1 灰褐色土層：浅間山C軽石・ロームブロックを含む。
  - 2 灰褐色土層：浅間山C軽石と灰を含む。
  - 3 ビット覆土。

第40図 2区4号住居跡・同掘形

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0077	杯 土師器	器高：(22mm) 口径：一 底径：(90mm) 胴部下半 ～底部1/3	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	外面：胴部下半～底部は篋削り。内面：胴部下半～底部上端は横なで、底部はなで。	外面に一部油煙付着。

## 2区5号住居跡

当住居跡は、2区9号住居跡と重複する。新旧関係は、2区9号住居跡の床を破壊して当住居跡の壁・床・竈が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。当住居跡の規模は、南西部と北西隅は確認できなかったが、東西約3.0～3.8m・南北約3.8mであり、平面形は台形を呈する。主軸はN-19°-Eである。床面の状態は、やや軟弱であるが、ほぼ平坦である。残存壁高は約5～10cmである。

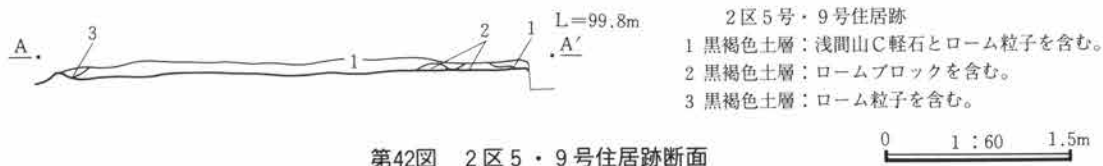
竈は、東壁の中央付近に築かれている。燃烧部はほぼ壁内にある。袖は先端部を土師器の甕を伏せて使用し、残りは石と粘土を用いて築かれている。燃烧部からは、灰・炭化物・焼土の堆積が確認できた。貯蔵穴は南東隅付近に築かれている。規模は、長軸約70cm・短軸約50cm・床面からの深さ約25cmであり、平面形は楕円形を呈する。柱穴・壁溝は検出できなかった。

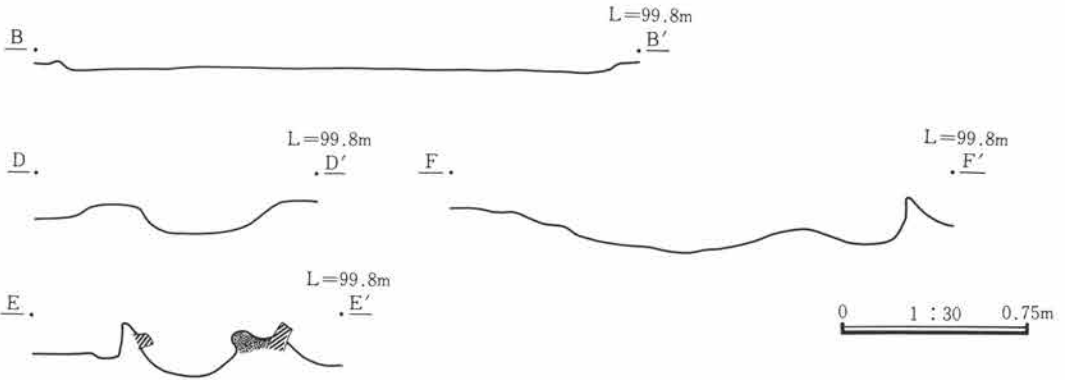
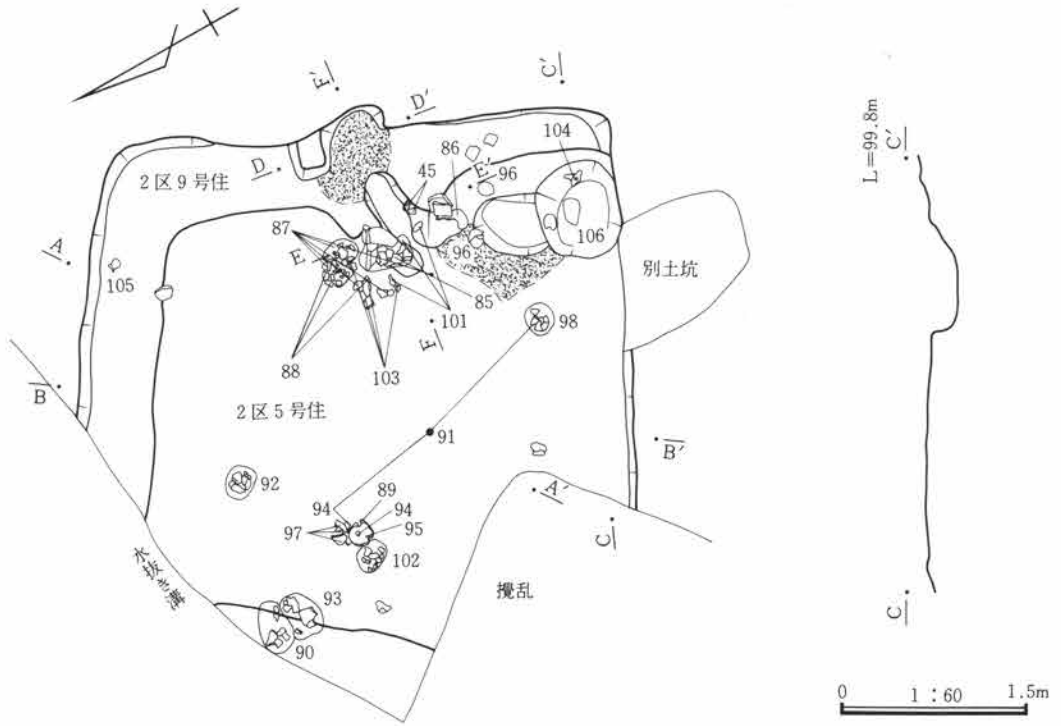
遺物は、竈・貯蔵穴を中心に多量に出土している。種類は、竈の袖に使用されていた土師器の甕(85・86・87・88)をはじめ、土師器の杯(89・90・91・92・93・94・95・96・97・98・99・100・101・102)、土師器の高杯(104)、須恵器の椀(103)の他、砥石(106)などがある。

## 2区9号住居跡

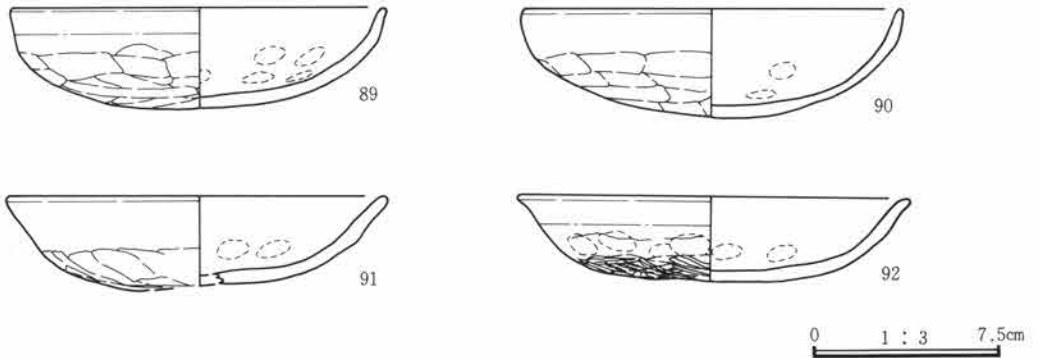
当住居跡は、2区5号住居跡・2区6号住居跡と重複する。2区5号住居跡との新旧関係は、同住居跡の壁・床・竈が当住居跡の床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。2区6号住居跡との新旧関係は、同住居跡の西部の壁・床が当住居跡の東部の壁・床・竈の上面を破壊して築かれて要ることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、西壁が確認できなかったために確定できないが、南北は約4.3mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。主軸はN-25°-Eである。床面の状態は、やや軟弱であるが、ほぼ平坦である。竈は東壁の中央付近に築かれている。燃烧部の壁外への張り出しは約20cmである。大部分が破壊されているが、粘土を用いた左袖の一部と、燃烧部に堆積した灰・焼土を確認することができた。貯蔵穴は南東隅付近に築かれている。規模は、長軸約75cm・短軸約60cm・床面からの深さ約20cmであり、平面形は隅丸長方形を呈する。柱穴・壁溝は検出できなかった。遺物は竈を中心に土師器の甕(70・71・105)、石製品(72・73)などが出土している。

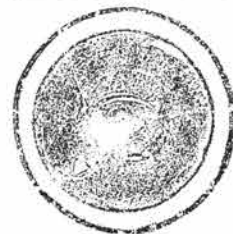
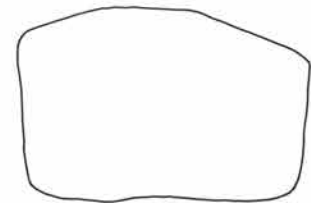
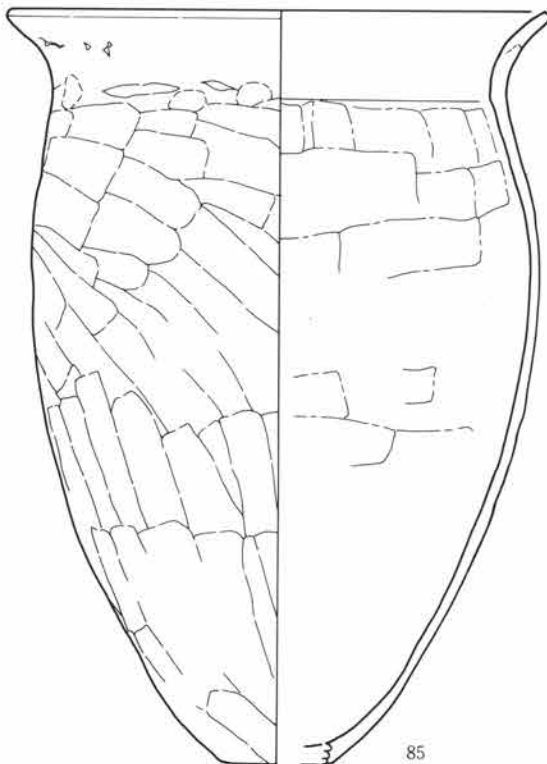
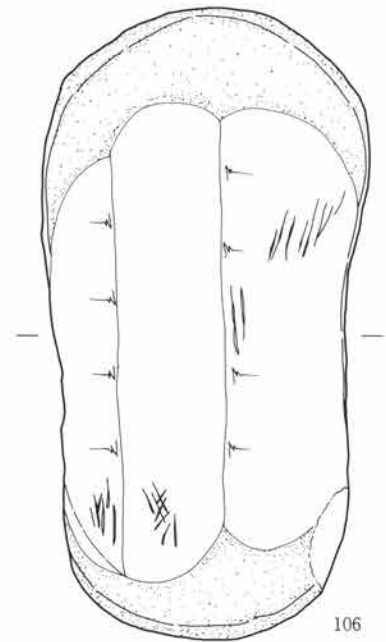
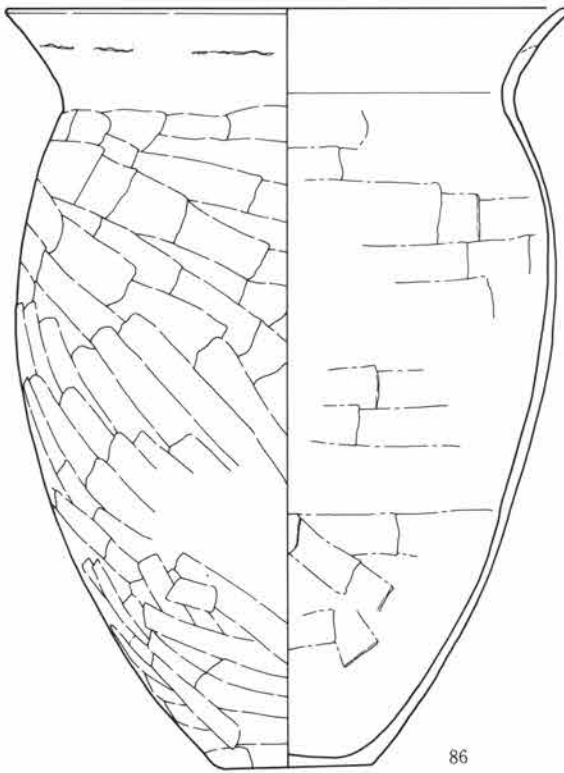




第43图 2区5・9号住居跡



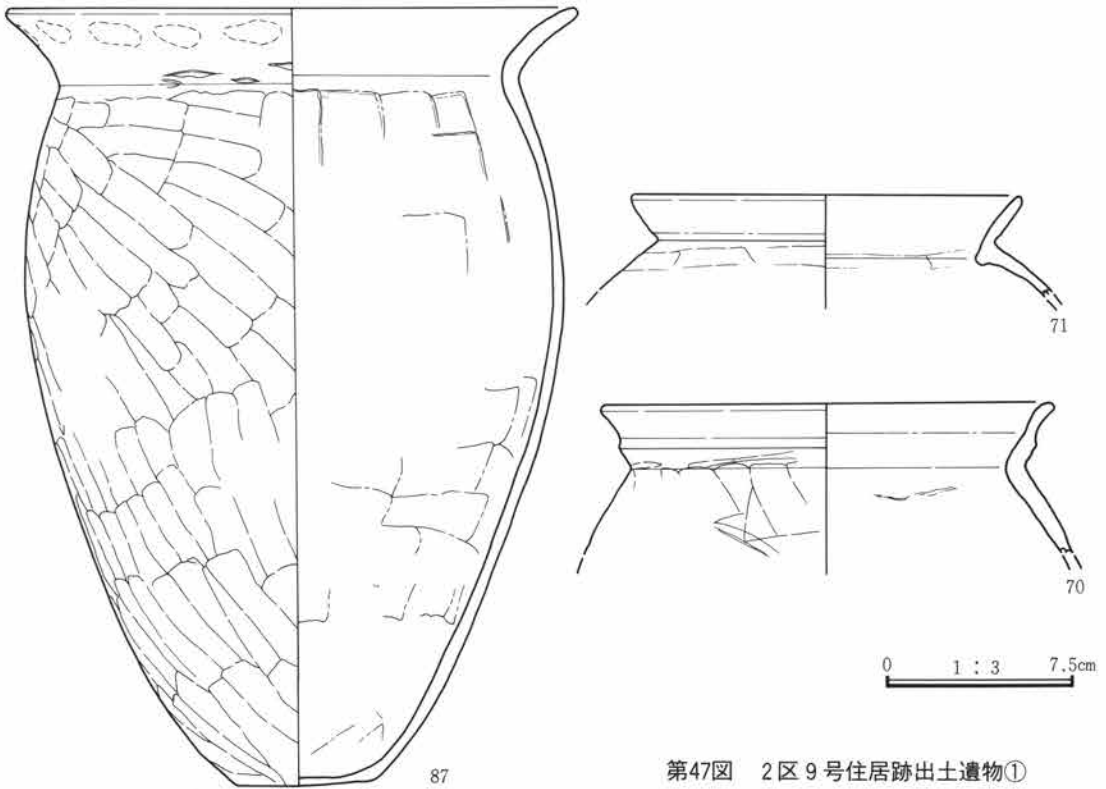
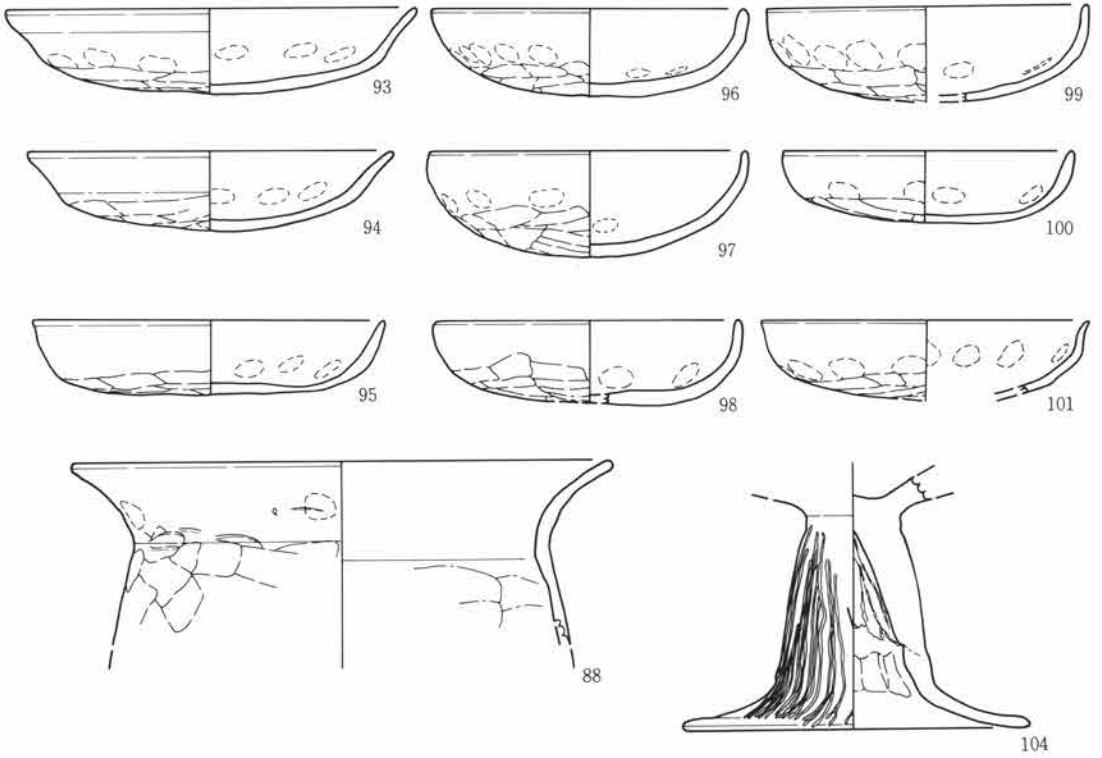
第44图 2区5号住居跡出土遺物①



0 1 : 3 7.5cm

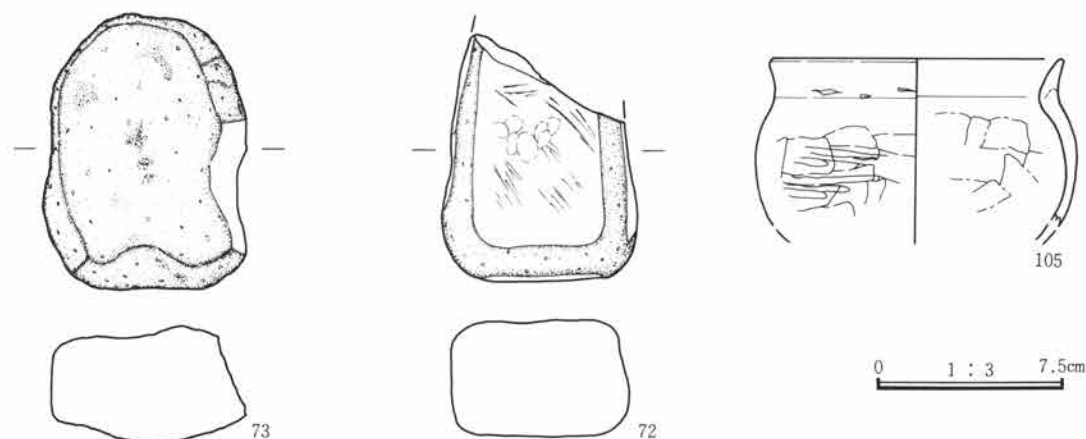
第45図 2区5号住居跡出土遺物②





第46图 2区5号住居跡出土遺物③

第47图 2区9号住居跡出土遺物①



第48図 2区9号住居跡出土遺物②

番号	器種 土師器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0085	甕 土師器	器高：298mm 口径：216mm 底径：[44mm] ほぼ完形	径1~2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。最大径は口縁部。外面：口縁部は横なで、一部輪積痕・指頭痕が残り、胴部~底部は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部~底部は篋なで。	内外面にやや多量の油煙付着。二次炎を受けている。
0086	甕 土師器	器高：302mm 口径：223mm 底径：60mm ほぼ完形	径1~2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。最大径は口縁部。外面：口縁部は横なで、一部輪積痕・指頭痕が残り、胴部~底部は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部~底部は篋なで。	外面胴部~底部に多量の油煙付着。二次炎を受けている。
0087	甕 土師器	器高：308mm 口径：224mm 底径：57mm 口縁部~底部4/5	径1~2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。最大径は口縁部。外面：口縁部は横なで、指頭痕が残り、胴部~底部は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部~底部は篋なで、輪積痕が残る。	外面口縁部~底部にやや多量の油煙付着。二次炎を受けている。
0088	甕 土師器	器高：(73mm) 口径：[216mm] 底径：- 口縁部~胴部上端1/2	径1~2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部輪積痕・指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	内外面に一部油煙付着。二次炎を受けている。
0089	杯 土師器	器高：40mm 口径：149mm 底径：- ほぼ完形	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部は内湾し、口縁部はほぼ直立。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部~底部は篋削り。内面：口縁部~底部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部下半はなで。	
0090	杯 土師器	器高：(43mm) 口径：153mm 底径：- 口縁部~底部3/4	径2~3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部~口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部~底部は篋削り。内面：口縁部~底部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
0091	杯 土師器	器高：(38mm) 口径：153mm 底径：- 口縁部~底部3/4	径1~2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部は内湾し、口縁部はやや外反。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部~底部は篋削り。内面：口縁部~底部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部下半はなで。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0092	杯 土師器	器高：34mm 口径：157mm 底径：－ ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は内湾し、口縁端部はやや外反。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	外面に一部油煙付着。二次炎を受けている。
0093	杯 土師器	器高：34mm 口径：164mm 底径：－ ほぼ完形	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部は内湾し、口縁部はやや外反。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、指頭痕が残り、底部はなで。	内外面の口縁部に一部油煙付着。
0094	杯 土師器	器高：32mm 口径：148mm 底径：－ ほぼ完形	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部は内湾し、口縁部はやや外反。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
0095	杯 土師器	器高：30mm 口径：140mm 底径：80mm ほぼ完形	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
0096	杯 土師器	器高：35mm 口径：127mm 底径：－ 完形	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部下半はなで、一部指頭痕が残る。	内外面の口縁部に一部漆又はタール付着。
0097	杯 土師器	器高：43mm 口径：127mm 底径：－ ほぼ完形	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部は内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	外面底部に油煙付着。
0098	杯 土師器	器高：34mm 口径：121mm 底径：－ ほぼ完形	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	外面口縁部～胴部に一部油煙付着。二次炎を受けている。
0099	杯 土師器	器高：38mm 口径：128mm 底径：－ 口縁部～底部4/5	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部下半はなで。	
0100	杯 土師器	器高：28mm 口径：118mm 底径：－ 完形	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで、一部指頭痕が残る。	
0101	杯 土師器	器高：28mm 口径：131mm 底径：－ 口縁部～底部3/5	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾し、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り、胴部一部指頭痕が残る。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで、一部指頭痕が残る。	外面胴部～底部に一部油煙付着。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0102	杯 土師器	器高：32mm 口径： 〔127mm〕底径：－ 口縁部～底部2/5	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。鈍い褐色。	胴部は内湾し、口縁部はほぼ直立。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部は削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、指頭痕が残り、底部は横なで。	
0103	椀 須恵器	器高：40mm 口径：131mm 底径：88mm 口縁部～高台部4/5	径1mm前後の砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部上半は回転なで、胴部下半は回転削り、底部は高台削り出し後回転なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0104	高杯 土師器	器高：(100mm) 口径：－ 底径：〔140mm〕底部～脚部2/3	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	脚部は漏斗状に開く。外面：底部は横なで、脚部は横なで後磨き。内面：脚部上半は篋成形の痕が残り、脚部下半は横なで。	
0106	砥石	長：249mm 幅：130mm 厚： 87mm 重：4000.0g	デイサイト。	使用面は4面。	

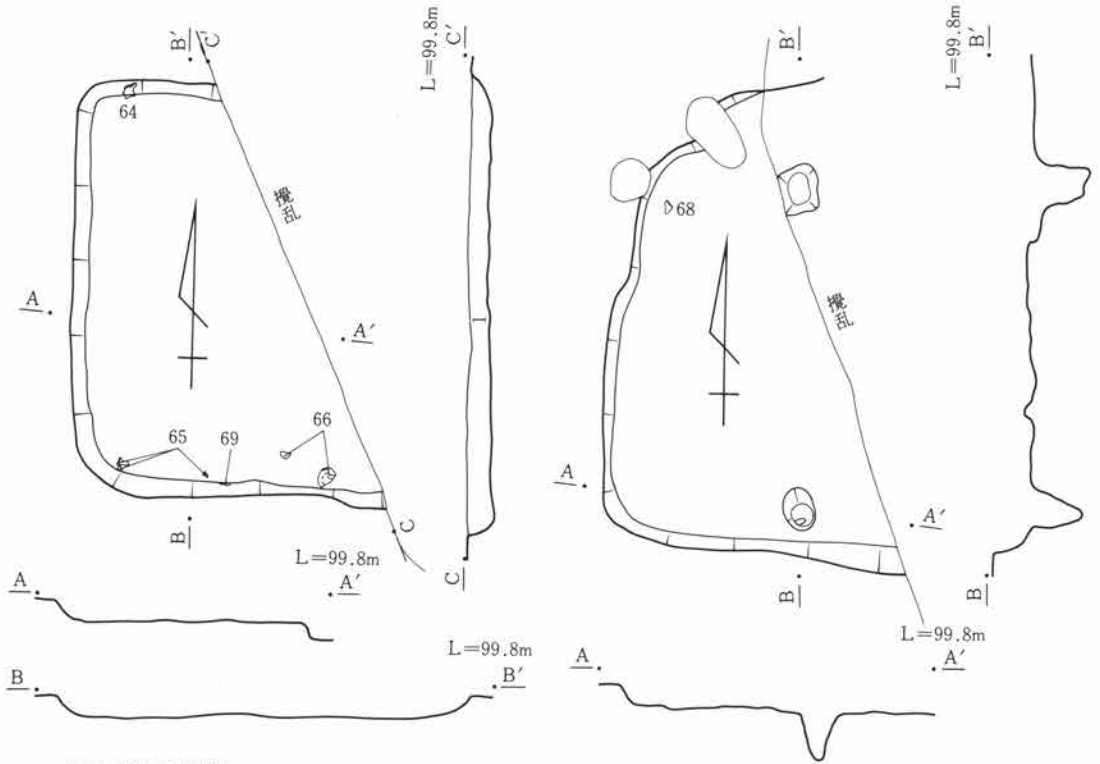
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0070	甕 土師器	器高：(59mm) 口径： 〔180mm〕底径：－ 口縁部～胴部上端1/4	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。明灰褐色。	口縁部は「S」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は横なで、一部輪積痕が残る。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
0071	甕 土師器	器高：(39mm) 口径： 〔156mm〕底径：－ 口縁部～胴部上端1/3	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐色。	口縁部は「く」字状に外反。胴部と口縁部は接合。外面：口縁部は横なで、胴部上端は削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで、口縁部との接合痕が残る。	内外面に一部油煙付着。
0072	用途不明 石製品	長：(97mm) 幅：78mm 厚： 46mm 重：450.7g	粗粒安山岩。	両面擦れており、片面に打ちつけた痕あり。	
0073	用途不明 石製品	長：108mm 幅：82mm 厚： 46mm 重：499.6g	粗粒安山岩。	表面は一部擦れている。	
0105	甕 土師器	器高：(66mm) 口径： 〔118mm〕底径：－ 最大径： 〔128mm〕口縁部～胴部1/8	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。最大径は胴部上半。外面：口縁部～胴部上端は横なで、一部輪積痕が残り、胴部は削り。内面：口縁部は横なで、胴部は篋なで。	

## 2区6号住居跡

当住居跡は2区9号住居跡・2区10号住居跡と重複する。2区9号住居跡との新旧関係は、同住居跡の東部の壁・床・竈の上面を破壊して当住居跡の西部の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。2区10号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北部の壁・床の一部が当住居跡の南部の床下から検出されたことから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東半分が検出できなかったことから確定できないが、南北は約3.3mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定される。床面の状態は比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約5～10cmである。

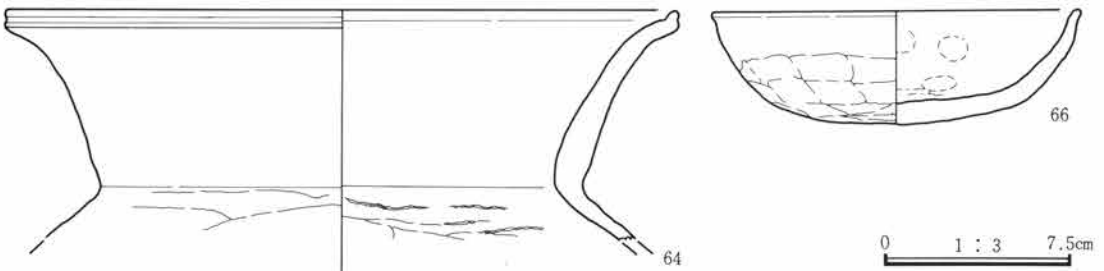
竈は東壁に築かれていると考えられるが、検出できなかった。柱穴と考えられるピットは掘形で検出できた。北部のピットの規模は、長軸約40cm・短軸約30cm・確認面からの深さ約40cmであり、平面形は隅丸長方形を呈する。南部のピットの規模は、長軸約30cm・短軸約25cm・確認面からの深さ約45cmであり、平面形は楕円形を呈する。貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は、土師器の甕（64・65）、土師器の杯（66・67）、須恵器の蓋（69）などが出土している。



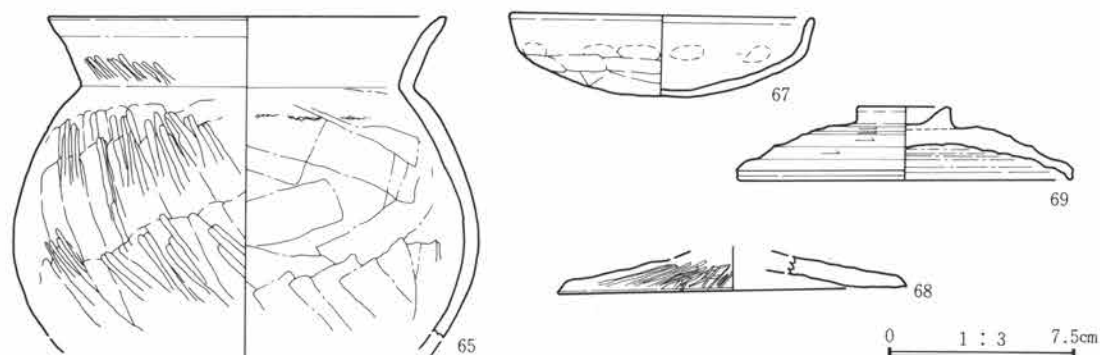
2区6号住居跡掘形  
1 灰褐色土層：浅間山C軽石・ローム粒子を含む。

0 1 : 60 1.5m

第49図 2区6号住居跡・同掘形



第50図 2区6号住居跡出土遺物①



第51図 2区6号住居跡出土遺物②

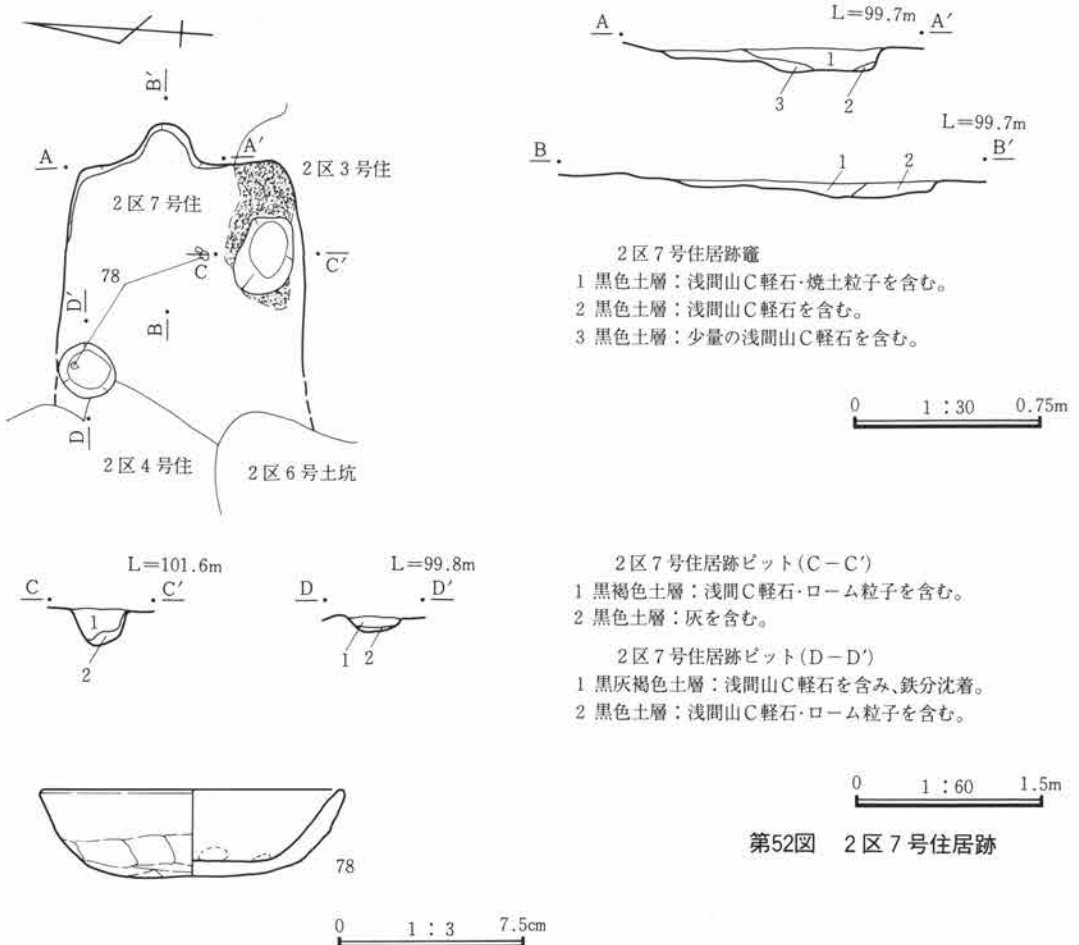
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0064	甕 土師器	器高：(91mm) 口径： 〔268mm〕底径：－ 口縁部～胴部上端1/8	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。浅黄橙。	口縁部はやや外反し、口縁端部は外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は寛なで。内面：口縁部は横なで、胴部上端は寛なで、一部輪積痕が残る。	外面に一部油煙付着。
0065	甕 土師器	器高：(127mm) 口径： 〔160mm〕底径：－ 最大径：〔187mm〕口縁部～胴部上半1/3	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。最大径は胴部中央。外面：口縁部上半は横なで、口縁部下半は横なで後寛磨き、胴部上半は寛削り後寛磨き。内面：口縁部は横なで、胴部上半は寛なで、一部輪積痕が残る。	内外面に油煙付着、外面は多量。二次炎を受けている。
0066	杯 土師器	器高：45mm 口径：148mm 底径：－ 口縁部～底部3/4	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐。	胴部は内湾し、口縁部はほぼ直立し、口縁端部は僅かに外反。平底に近い丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は寛削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部下半はなで。	外面にやや多量の油煙付着。二次炎を受けている。
0067	杯 土師器	器高：(32mm) 口径： 〔121mm〕底径：－ 口縁部～底部1/3	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部は内湾し、口縁部は僅かに内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部は寛削り。内面：口縁部～胴部は横なで、指頭痕が残り、底部はなで。	外面に一部油煙付着。
0068	高杯 土師器	器高：(13mm) 口径： 〔140mm〕底径：－ 口縁部～胴部1/3	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。明赤褐。	胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施す。内面：口縁部～胴部は横なで。	
0069	蓋 須恵器	器高：29mm 口径： 〔135mm〕つまみ径：37mm つまみ部～口縁部2/3	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。返りは口縁端部にあり短い。ボタン状つまみ。つまみ部は貼り付け。外面：つまみ部は回転なで、天井部は回転寛削り、口縁部は回転なで。内面：天井部～口縁部は回転なで。	外面に一部自然釉。

### 2区7号住居跡

当住居跡は2区3号住居跡・2区4号住居跡・2区10号住居跡・2区6号土坑と重複する。2区3号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北部の壁・床が当住居跡の南部の壁・床を破壊して築かれている。

ることから、当住居跡の方が古い。2区4号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南東部の壁・床・竈が当住居跡の北西部の壁・床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。2区10号住居跡との新旧関係は、同住居跡の壁・床が当住居跡の床下に築かれていることから、当住居跡の方が新しい。2区6号土坑との新旧関係は、同土坑が当住居跡の南西部の壁・床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡は2区3号住居跡・2区4号住居跡により破壊されており確定できないが、南北約2.0m・掘形では東西約2.0mであり、平面形は隅丸方形を呈するものと推定される。主軸はN-7°-Wである。床面の状態は、やや軟弱な部分もあるが、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約3~10cmである。竈は東壁の中央付近に築かれている。燃烧部の壁外への張り出しは約30cmである。大部分が破壊されており、袖は検出できなかったが、燃烧部では焼土を確認することができた。貯蔵穴と考えられるピットは南東隅のやや西よりから検出できた。規模は、長軸約60cm・短軸約40cm・床面からの深さ約25cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。柱穴・壁溝は検出できなかった。遺物は少ないが、土師器の杯(78)などが出土している。

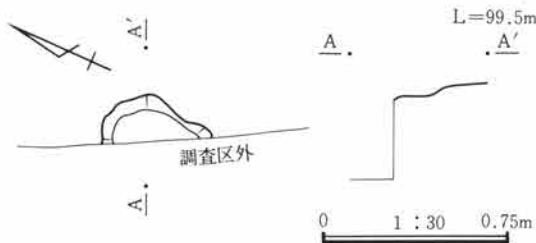


第53図 2区7号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0078	杯 土師器	器高：35mm 口径：121mm 底径：－ 口径部～底部 3/5	径3～4mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや軟 質。橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。 平底に近い丸底。外面：口縁部は横なで、胴 部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部上 半は横なで、一部指頭痕が残り、底部下半は なで。	外面口縁部～胴部 の一部油煙付着。

### 2区8号住居跡

当住居跡は2区14号溝跡の底面から竈の燃焼部だけが検出されたものであり、大部分は調査区域外



第54図 2区8号住居跡

である。新旧関係は、2区14号溝跡の上面では検出できなかったことから、当住居跡の方が古い。当住居跡の規模は、竈燃焼部のみの検出であり、不明である。竈の燃焼部からは灰・焼土の堆積を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物も出土していない。

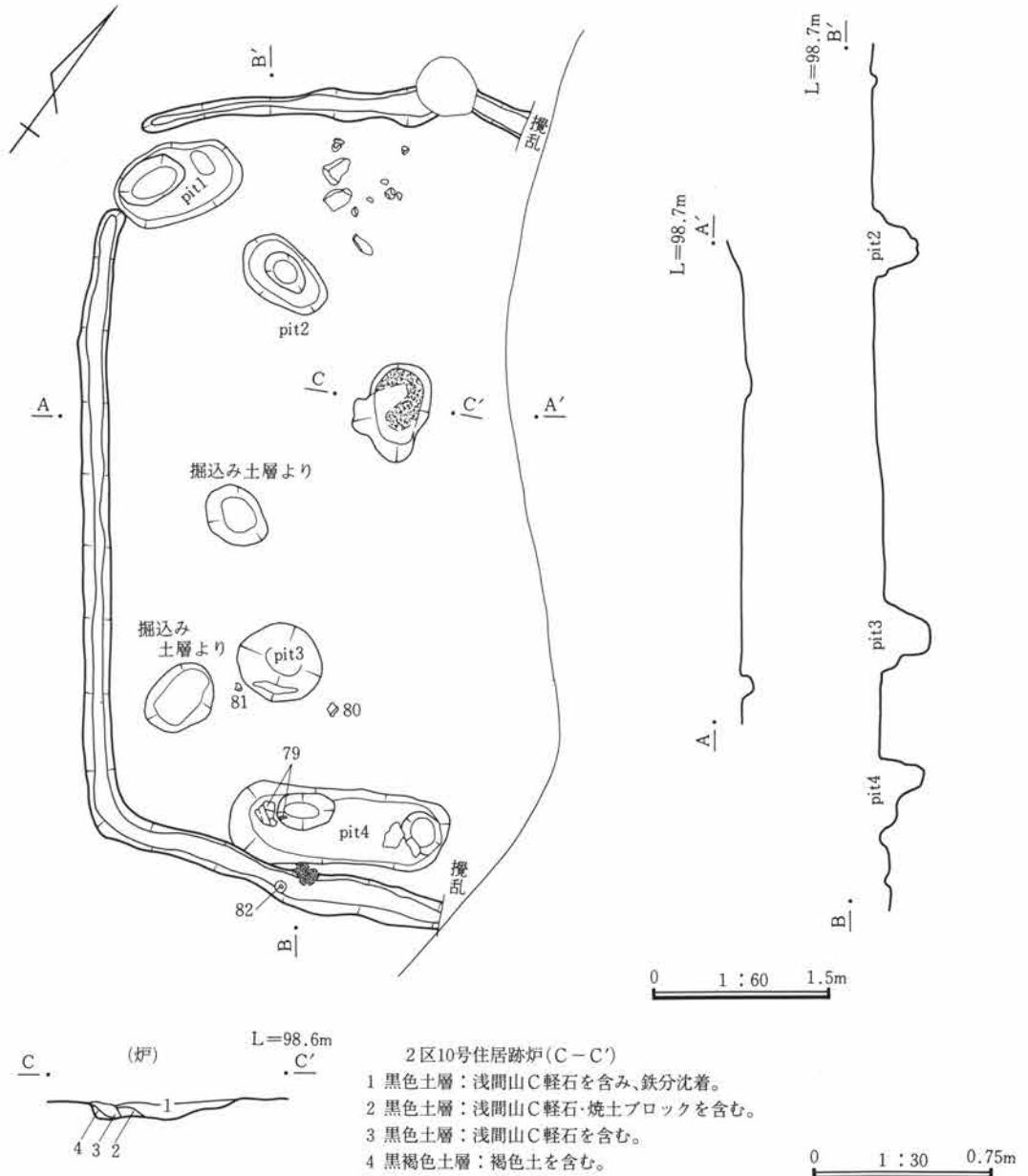
### 2区10号住居跡

当住居跡は2区3号住居跡・2区4号住居跡・2区6号住居跡・2区7号住居跡・2区11号住居跡・2区22号溝跡・2区6号土坑と重複する。2区3号住居跡との新旧関係は、同住居跡床下から当住居跡の壁・床が検出されていることから、当住居跡の方が古い。2区4号住居跡との新旧関係は、同住居跡の東部の床下から当住居跡の北西部の壁・床が検出されていることから、当住居跡の方が古い。2区6号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南東部の壁・床の一部が当住居跡の北部の床上から検出されていることから、当住居跡の方が古い。2区7号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床下から当住居跡の壁・床が検出されていることから、当住居跡の方が古い。2区11号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北部の壁・床が当住居跡の南部の壁・床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。2区22号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の覆土中に築かれていることから、当住居跡の方が古い。2区6号土坑との新旧関係は、同土坑が当住居跡の西部の覆土中に築かれていることから、当住居跡の方が古い。

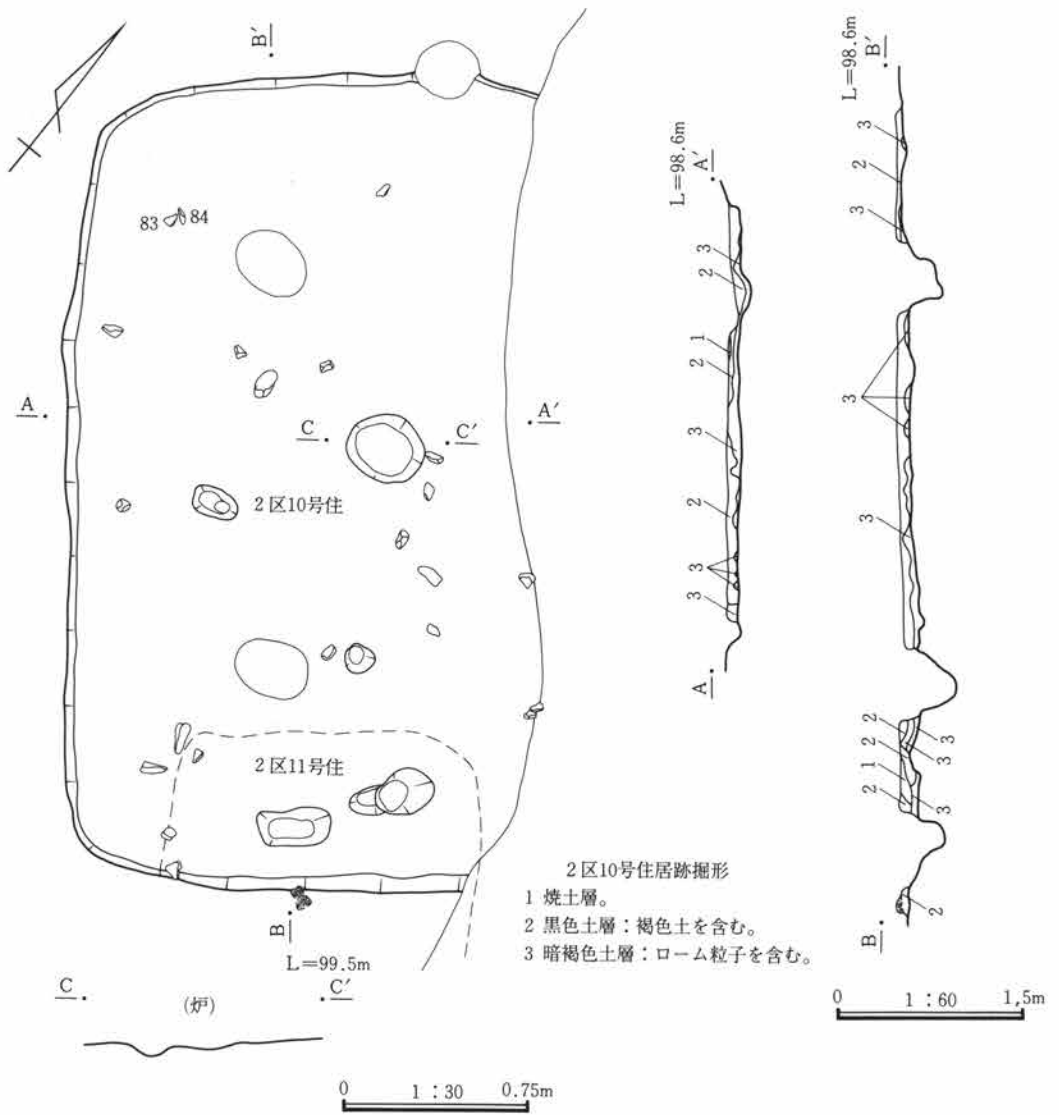
当住居跡の規模は、東部が検出できなかったために確定できないが、南北は約6.8mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。床面の状態は、水位の影響か、やや軟弱であるが、ほぼ平坦である。壁溝で住居跡の確認ができたものであり、残存壁高は約2～3cmであり、僅かである。炉は住居跡の中央やや北よりに築かれている。規模は、長軸約60cm・短軸約50cm・床面からの深さ約5cmであり、平面形は楕円形を呈する。炉の南半分からは焼土の堆積が確認できた。



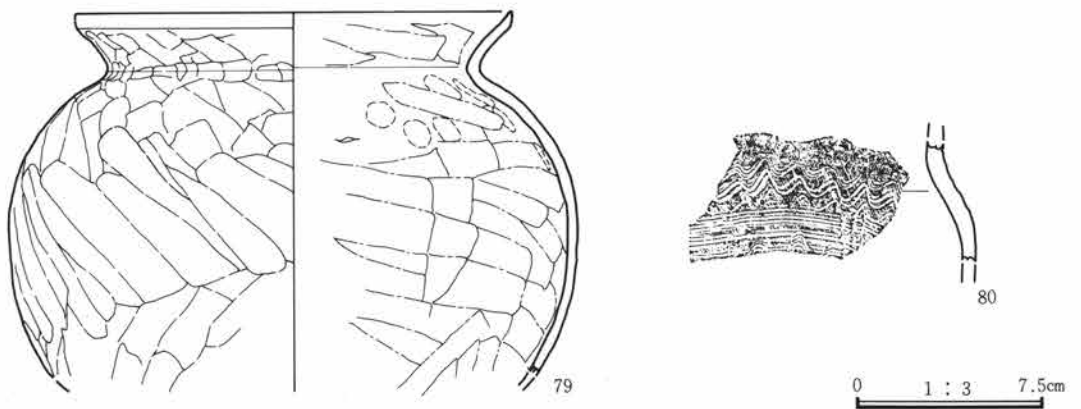
支柱穴は4基と考えられるが、検出できたのは西側の2基である。北西柱穴の規模は、長軸80cm・短軸50cm・床面からの深さ約35cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。南西柱穴の規模は、直径約65cm・床面からの深さ約45cmであり、平面形は不整形な円形を呈する。貯蔵穴と推定されるピットは南壁の脇から検出できた。規模は、長軸170cm・短軸60cm・床面からの深さ約15cmであり、平面形は長円形を呈する。住居跡検出範囲からは、北西隅を除き壁溝が検出できた。規模は、幅15~30cmであり、床面からの深さは約5~10cmである。遺物は南半分の貯蔵穴を中心に出土している。種類は、甕(79・80)、台付甕(82)、高杯(81)、石製品(83・84)などである。



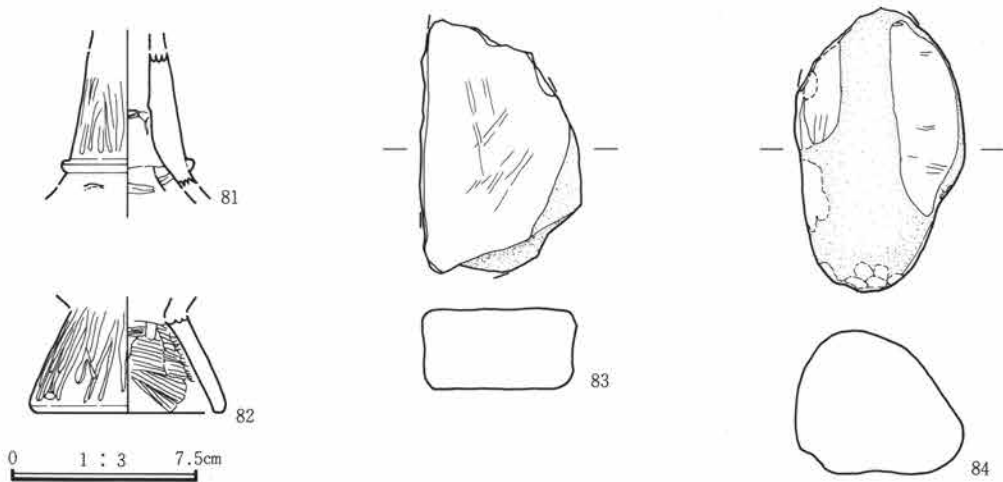
第55図 2区10号住居跡



第56図 2区10号住居跡掘形



第57図 2区10号住居跡出土遺物①



第58図 2区10号住居跡出土遺物②

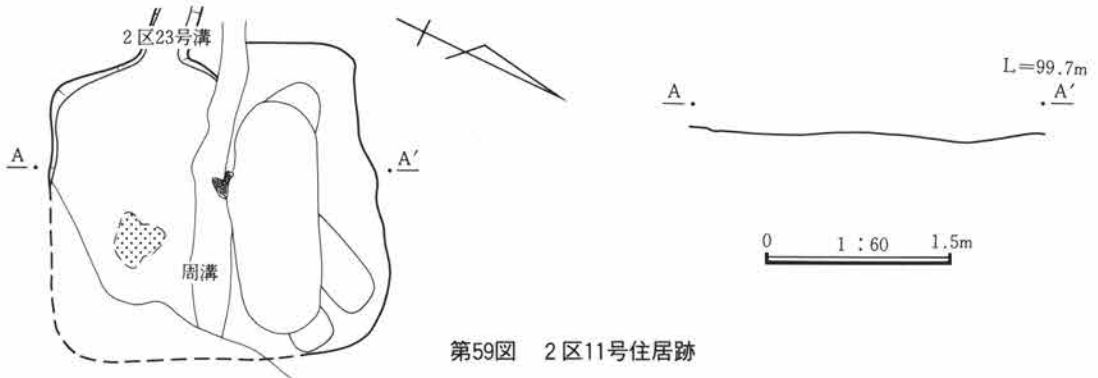
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0079	甕 土師器	器高：(143mm) 口径： [174mm] 底径：－ 最大 径：[226mm] 口縁部～ 胴部1/3	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。軟質。 鈍い橙。	口縁部は「く」字状に外反。最大径は胴部中 央。外面：口縁部はハケなで後横なで、胴部 はハケ目。内面：口縁部はハケ目、胴部は匏 なで、一部ハケ目。	内外面に油煙付 着。二次炎を受け ている。
0080	甕 弥生土器	器高：－ 口径：－ 底径 ：－ 胴部上半1/8	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや硬 質。橙。	外面：胴部上半は波状文を2段施し、その 間に簾状文を施す。内面：胴部上半はなで。	
0081	器台 土師器	器高：(53mm) 口径：－ 底径：－ 脚部上半3/5	径4～5mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや硬 質。橙。	脚部は「ハ」字状に開く。脚部中央に凸帯が1 条巡り、円形の透かしが穿たれている。外面 ：脚部上半はなで後匏磨き。内面：脚部上 半はなで。	
0082	台付甕 土師器	器高：(39mm) 口径：－ 底径：79mm 脚部4/5	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや硬 質。橙。	脚部は「ハ」字状に開く。外面：脚部はなで 後匏磨き。内面：脚部はハケ目。	内外面に油煙付 着。二次炎を受け ている。
0083	用途不明 石製品	長：(100mm) 幅：(35mm) 厚：32mm 重：370.3g	粗粒安山岩。	表面は擦れて平らになっている。	
0084	用途不明 石製品	長：(112mm) 幅：70mm厚 ：58mm 重：539.5g	粗粒安山岩。	表面は一部擦れている。	

## 2区11号住居跡

当住居跡は2区10号住居跡・2区22号溝跡・2区23号溝跡と重複する。2区10号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南部の壁・床が当住居跡の北部の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が新しい。2区22号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の北西部の床上に築かれていることから、当住居跡の方が古い。2区23号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の西部の壁を破壊して築かれ

ていることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、壁が確認できたのは南西部だけであり、他は床面範囲での確認であるが、東西約2.5m・南北約2.6mであり、平面形は隅丸方形を呈すると推定される。床面の状態は、やや軟弱な部分もあるが、ほぼ平坦である。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかったが、住居跡内の中央東よりからは焼土の散布が検出できた。遺物は非常に少なく、小破片が出土しているだけである。

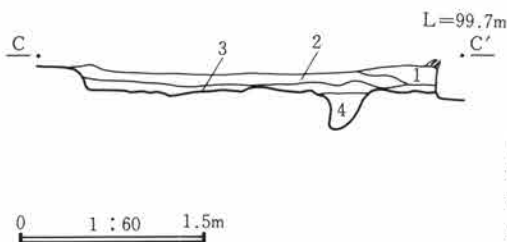


第59図 2区11号住居跡

### 3区1号住居跡

当住居跡は3区2号溝跡と重複する。新旧関係は、同溝跡が当住居跡の東部の壁・床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。当住居跡の規模は、北西部のみの検出のために不明である。床面の状態は、やや軟弱であるが、ほぼ平坦である。残存壁高は、確認できた西壁で10~30cmを測るが、南壁は壁溝の検出で確認できた。

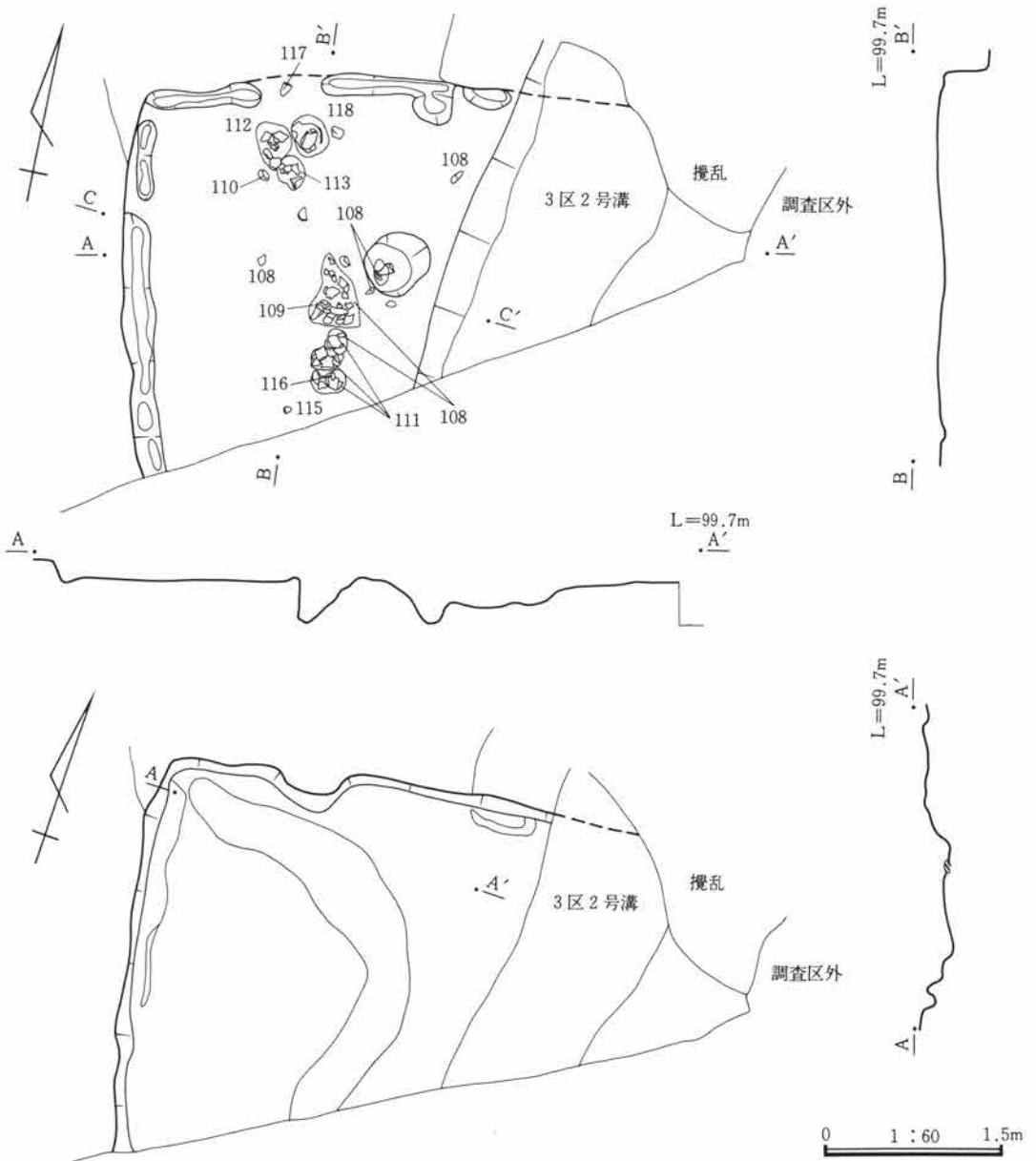
柱穴と考えられるピットは住居内の北西部から1基検出できた。規模は、長軸約55cm・短軸約50cm・床面からの深さは約30cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。北西部からは壁溝も検出できた。断続的に北西部を巡り、規模は幅15~25cm・床面からの深さ約3~10cmである。炉・貯蔵穴は不明である。遺物の出土は比較的多く、種類は土師器の甕(108・109・110)、土師器の台付甕(118)、土師器の高杯(111・112・113)、土師器の鉢(114)、土師器の手捏(115)、石製品(116・117)などである。



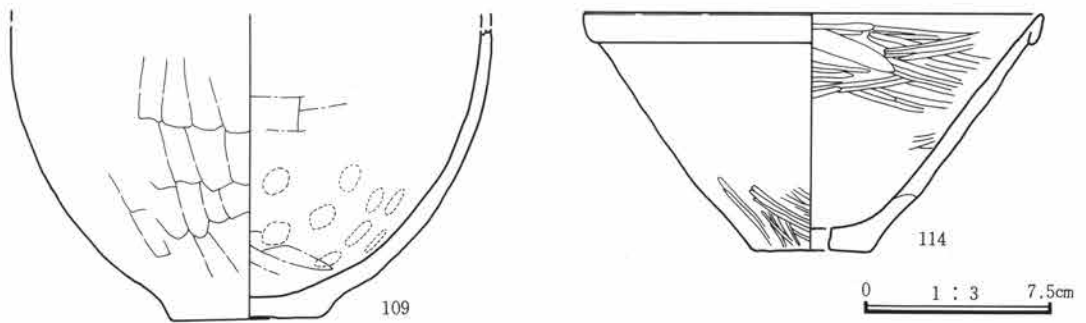
3区1号住居跡

- 1 暗褐色粘質土層：鉄分沈着、軽石を含む。
- 2 黒褐色土層：浅間山C軽石・多量の鉄分・炭化物ブロックを含む。
- 3 ロームブロックと黒褐色土の混土層：浅間山C軽石を含み、鉄分沈着。
- 4 黒色土層：鉄分を含み、周囲はロームでドーナツ状に落ち込む。

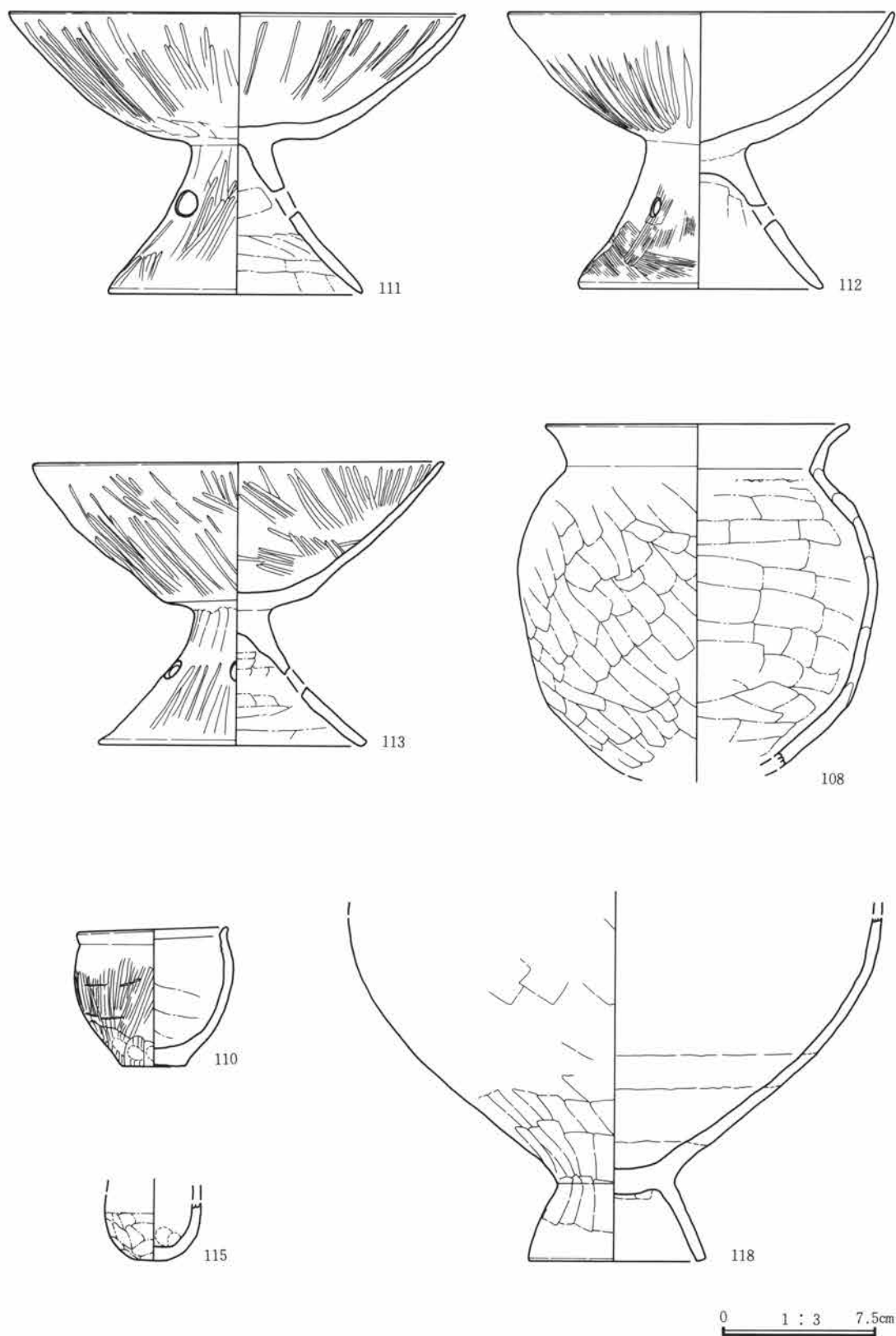
第60図 3区1号住居跡断面



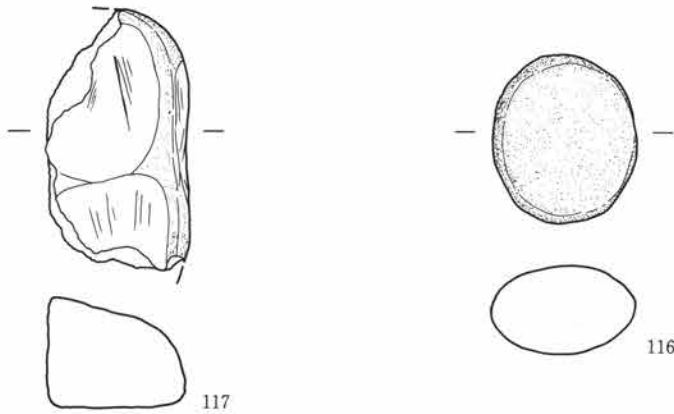
第61図 3区1号住居跡・同掘形



第62図 3区1号住居跡出土遺物①



第63図 3区1号住居跡出土遺物②



第64図 3区1号住居跡出土遺物③

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0108	甕 土師器	器高：(185mm) 口径： 148mm 底径：— 最大径： 176mm 口縁部～胴部 4/5	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。軟質。 橙。	口縁部は「く」字状に外反。最大径は胴部中 央。外面：口縁部は横なで、胴部は篋削り。 内面：口縁部は横なで、胴部は篋なで、一部 指頭痕が残る。	外面に多量の油煙付 着。二次炎を受け ている。
0109	甕 土師器	器高：(114mm) 口径：— 底径：63mm 胴部下半～ 底部1/2	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。軟質。 橙。	外面：胴部下半～底部は篋削り。内面：胴 部下半～底部は篋なで、一部指頭痕が残る。	内外面に油煙付 着。二次炎を受け ている。
0110	甕 土師器	器高：67mm 口径：75mm 底径：33mm 最大径： 80mm ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。軟質。 浅黄橙。	口縁部は「く」字状に外反。口縁部は横なで、 胴部～底部は篋削り、一部ハケ目が残り、胴 部下端は一部指頭痕が残る。内面：口縁部 は横なで、胴部～底部は篋なで。	内外面に油煙付 着。二次炎を受け ている。
0111	高杯 土師器	器高：135mm 口径： [222mm] 底径：126mm 口縁部～脚部4/5	径4～5mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。軟質。 鈍い橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、脚 部は「ハ」字状に開く。脚部上半には3カ所に 円形の透かしを穿つ。外面：口縁部～胴部 はなで後篋磨き、胴部下端は篋削り痕が 残り、脚部はなで後篋磨き。内面：口縁部～ 脚部はなで後篋磨き、底部はなで、脚部は ハケ目が残る。	内外面の口縁部及 び脚部の一部に油 煙附着。
0112	高杯 土師器	器高：134mm 口径： 190mm 底径：119mm 口縁 部～脚部4/5	径3～4mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。軟質。 灰白・橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、脚 部は「ハ」字状に開く。脚部中央には3カ所に 円形の透かしを穿つ。外面：口縁部～胴部 はなで後篋磨き、底径～脚部上端はなで、脚 部はハケ目が残る。内面：口縁部は横なで、 胴部～底部はなで、脚部上半は篋なで、脚部 下半は横なで。	内外面の口縁部及 び脚下端に油煙付 着。二次炎を受け ている。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0113	高杯 土師器	器高：137mm 口径： 200mm 底径：132mm ほぼ 完形	径4～5mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。軟質。 橙。	胴部～口縁部はほぼ直線的に広がり、脚部 は「ハ」字状に開く。脚部上半には4カ所に円 形の透かしを穿つ。外面：口縁部～胴部は なで後篋磨き、底部はなで、脚部上端は篋な で、脚部はなで後篋磨き。内面：口縁部～胴 部はなで後篋磨き、底部はなで、脚部は篋な で、脚部下端は横なで。	外面に一部油煙付 着。
0114	甌 土師器	器高：94mm 口径： 〔184mm〕 底径：〔47mm〕 孔径：〔15mm〕 口縁部～ 底部2/5	径3～4mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。軟質。 淡黄。	胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁部は 折り返し。底部の穿孔は1カ所。外面：口縁 部～胴部はなで後篋磨き、底部はなで。内面 ：口縁部～底部はなで後篋磨き。	外面口縁部に一部 油煙付着。
0115	手捏 土師器	器高：(30mm) 口径：－ 底径：－ 口縁部～底部 2/3	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや軟質。淡 黄。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁 部は横なで、胴部～底部は指頭痕が残る。内 面：口縁部～底部はなで、一部指頭痕が残 る。	
0116	用途不明 石製品	長：67mm 幅：59mm 厚： 35mm 重：180.6 g	粗粒安山岩。	周囲は擦れて丸くなっている。	
0117	用途不明 石製品	長：(103mm) 幅：(57mm) 厚：45mm 重：399.5 g	粗粒安山岩。	1面は擦れて平らになっている。	
0118	台付甕 土師器	器高：(161mm) 口径：－ 底径：88mm 胴部中央～ 脚部2/5	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。軟質。 淡黄。	脚部は「ハ」字状に開く。外面：胴部はなで、 一部ハケ目が残り、脚部はなで、脚部下端は 横なで。内面：胴部～底部は横なで、脚部は 横なで。	外面にやや多量の 油煙付着。二次炎 を受けている。



## 1区1号掘立柱跡

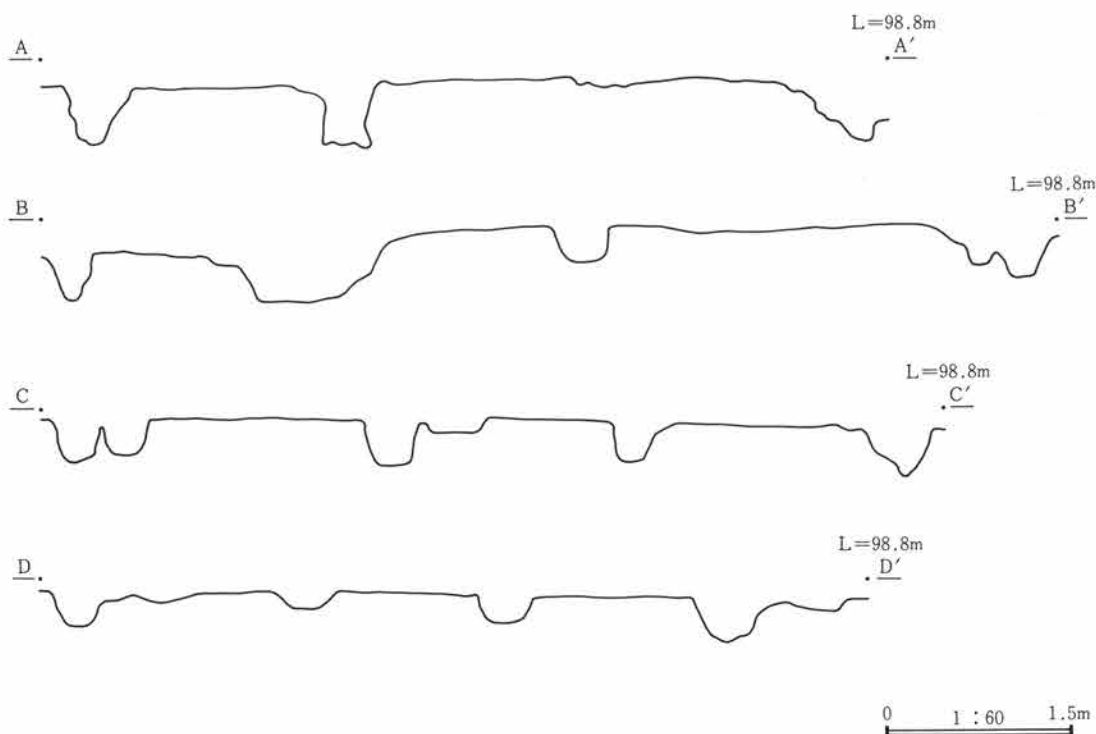
当掘立柱跡は、1区13号住居跡・1区2号掘立柱跡・1区20号溝跡・1区21号溝跡・1区24号溝跡と重複する。1区13号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北西隅の壁・床を当掘立柱の南東隅の柱穴が破壊していることから、当掘立柱跡の方が新しい。1区2号掘立柱跡・1区20号溝跡・1区21号溝跡・1区24号溝跡との新旧関係は不明である。

当掘立柱跡の規模は、東西約6.0m・南北約7.5mであり、柱間は東西3間・南北2間である。柱間の距離は東西約1.8~2.5m・南北約3.2~4.0mである。柱穴の規模は径0.3~0.6m・確認面からの深さ約0.2~0.5mであり、平面形は不整形な円形ないしは不整形な楕円形を呈する。遺物は確認面から土師器・須恵器の小破片が出土しているだけである。

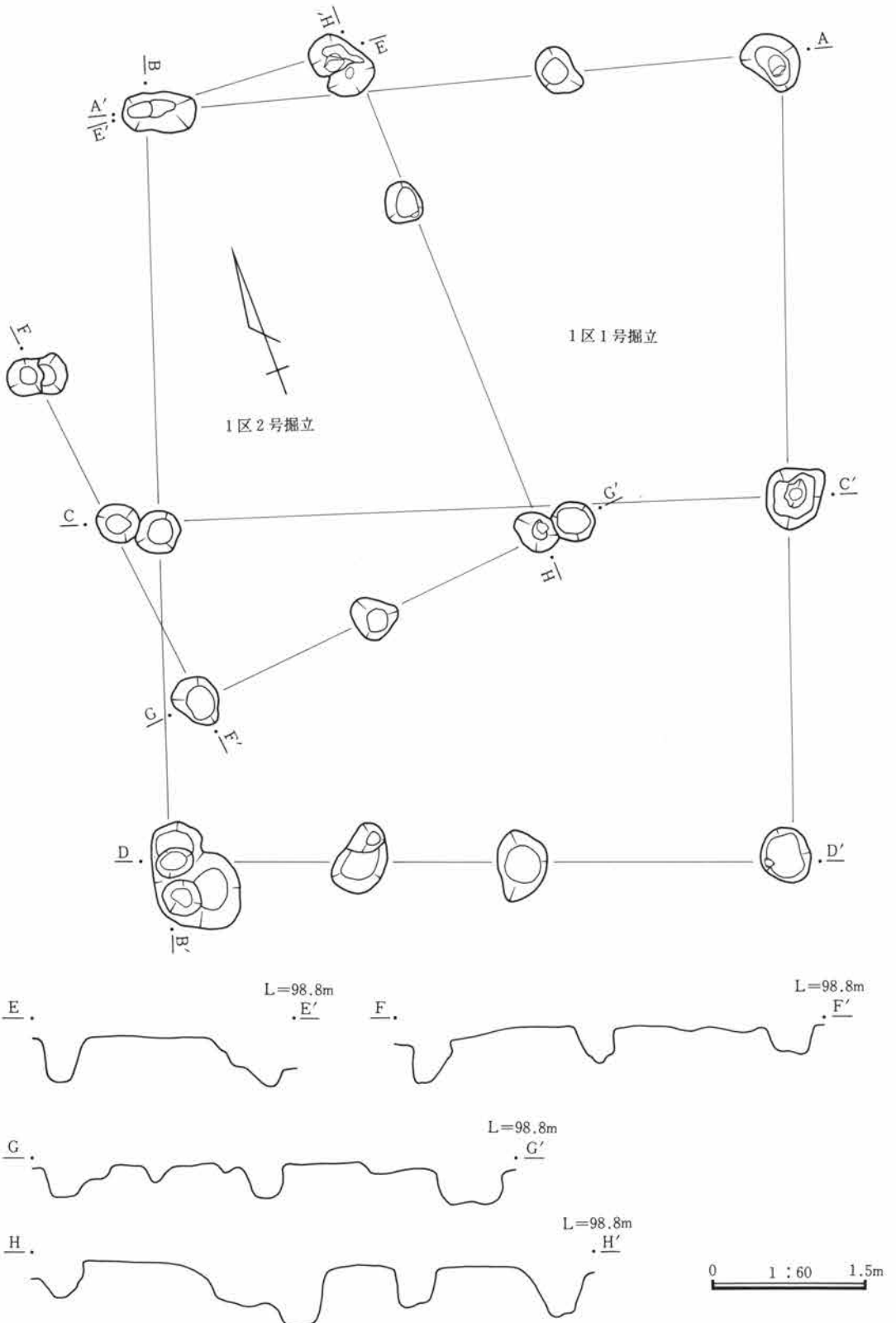
## 1区2号掘立柱跡

当掘立柱跡は1区1号掘立柱跡・1区20号溝跡・1区21号溝跡・1区24号溝跡と重複する。1区20号溝跡との新旧関係は、同溝跡の一部を当掘立柱跡の北側の柱穴が破壊していることから、当掘立柱跡の方が新しい。1区1号掘立柱跡・1区21号溝跡・1区24号溝跡との新旧関係は、不明である。

当掘立柱跡の規模は、北西隅の柱穴が検出できなかったために確定できないが、東西約3.5m・南北約5.1mと推定され、柱間は東西2間・南北3間と推定される。柱間の距離は東西約1.8m・南北約1.6~1.9mである。柱穴の規模は、径約0.4~0.5m・確認面からの深さ約0.1~0.4mであり、平面形は不整形な円形ないしは不整形な楕円形を呈する。遺物は出土していない。



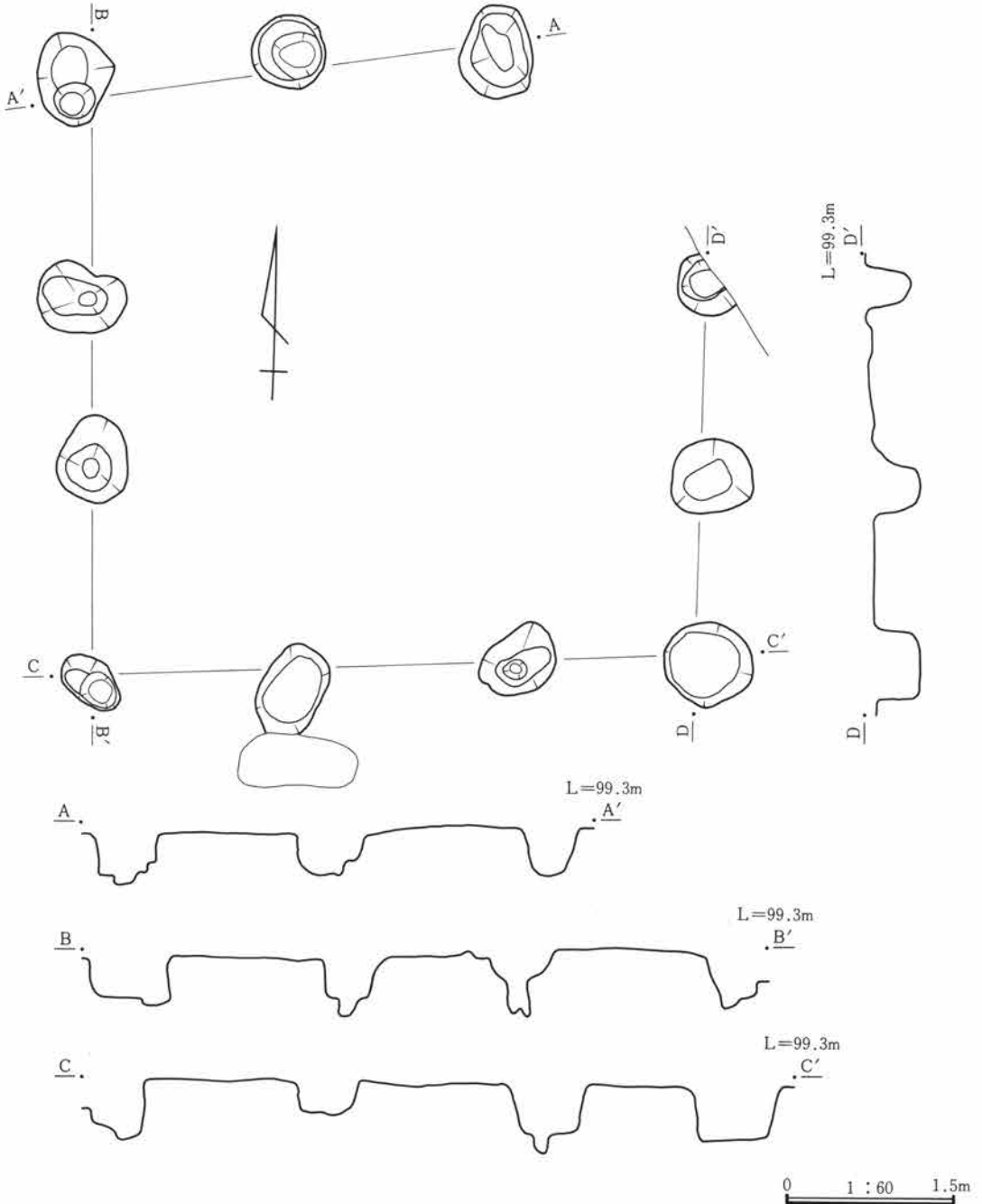
第65図 1区1号掘立柱跡エレベーション



第66図 1区1・2号掘立柱跡

2区1号掘立柱跡

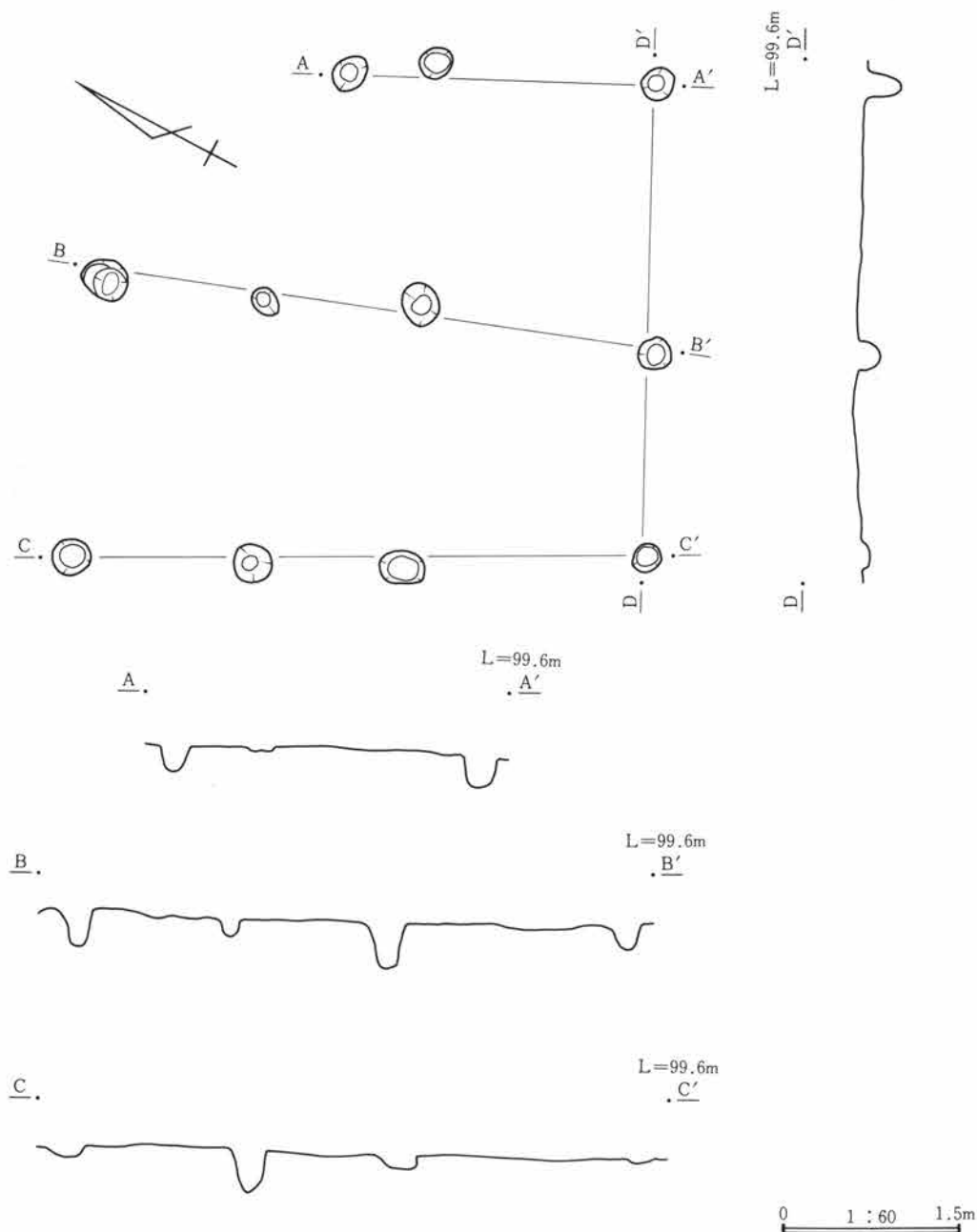
当掘立柱跡には、2区2号井戸跡が近接するが重複は無い。当掘立柱跡の規模は東西約5.5m・南北約5.3mであり、柱間は東西3間・南北3間であるが、北東隅の柱穴は検出できなかった。柱間の距離は約1.6~1.8mである。柱穴の規模は、径0.5~0.8m・確認面からの深さ約0.3~0.5mであり、平面形は不整形な円形ないしは不整形な楕円形を呈する。遺物は出土していない。



第67図 2区1号掘立柱跡

## 2区2号掘立柱跡

当掘立柱跡は、2区34号溝跡・2区17号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。当掘立柱跡の規模は、東西約4.0~4.2m・南北約4.6~4.8mであり、柱間は東西2間・南北3間の総柱である。柱間の距離は、1.8~2.3mである。柱穴の規模は、径0.2~0.4m・確認面からの深さ約0.1~0.4mであり、平面形は不整形な円形ないしは不整形な楕円形を呈する。遺物は出土していない。



第68図 2区2号掘立柱跡

## 溝 跡

### 概 要

当遺跡では、本線部分と側道部分で調査年度が異なるため、同一溝であっても異なった番号を付していることがあり、当報告書作成にあたって走行の方向・規模・形態等の類似から同一と考えられる場合は、若い番号に統一した。従って、大きい方の溝番号は欠番となるが、一覧表の備考に大きい方の番号も記入してある。溝跡個々の説明は一覧表によって行い、当文では概要の説明を行う。重複関係については、溝跡と溝跡の新旧関係のみを記入した。住居跡・井戸等との重複関係については、住居跡・井戸跡の本文に記入してある。また、出土遺物の項は、報告書掲載遺物の種類と番号を記入し、小破片のみの場合は種類を記入した。備考には、火山灰や軽石が認められる場合の覆土の観察、溝についてのコメントを記入した。

当遺跡の基本土層の中には、浅間山や榛名山二ツ岳の火山灰・軽石が認められる。表土の下には、浅間山B軽石を含む層があり、1～2区では浅間山B軽石純層が部分的に認められ、3区より北では純層として全面的に堆積している。浅間山B軽石を含む層の下、遺構の検出面には、洪水等の原因によると考えられる、二次堆積の榛名山二ツ岳の火山灰や軽石を含む層が部分的に認めらる。さらに、榛名山二ツ岳を含む層の下には、浅間山のC軽石を含む黒褐色土の層が認められる。

当遺跡から検出された溝跡は、1区から31本、2区から30本、3区から4本、4区から2本、5区から3本、6区から13本、計83本である。当遺跡の溝跡の覆土中には、浅間山や榛名山二ツ岳の火山灰や軽石の堆積が確認できる溝が多いが、純粹堆積は少ない。従って、浅間山や榛名山二ツ岳の火山灰・軽石の堆積が検出できても、浅間山や榛名山二ツ岳の火山爆発の時期を示す堆積は少ない。溝跡の時期を考える場合は、出土遺物や重複関係等の考察も必要になる。

溝跡の時期は、古墳時代から近世まで考えられる。覆土中から浅間山B軽石の堆積が認められる溝の多くは、中世以降の溝跡と考えられる。特に、陶磁器の出土している1区2・12・21号溝跡、2区1・30号溝跡等の中世以降の溝跡と考えられる。浅間山C軽石や榛名山二ツ岳の火山灰・軽石の堆積が認められる溝で古墳時代の溝跡は少ない。また、覆土中に砂の堆積が認められる1区2・11・16・18・20・21・22・29・33・39・40号溝跡、2区2・3・7・12・18・21・31・32・33号溝跡、3区5号溝跡は実際に水が流れていたものと考えられる。溝の中で注目されるのは多量の遺物を出土した、1区16号溝跡である。16号溝跡はその形態から、旧河川と考えられる。下層から出土している遺物は、多量の「S」字状口縁部を持つ台付甕等を主にして、弥生土器も含まれる。中層より上からは平安時代の土師器や須恵器が出土している。従って、弥生時代末～古墳時代前期には、近くに集落が存在したことを示唆している。古墳時代中期遺構の遺物は殆ど見られず、中層からは奈良時代から平安時代の遺物であり、この時期に集落があったことを示している。また、2区1号溝には、橋の跡と考えられるピットも出土しており、中世以降の館の存在も考えられるが、確証はない。

第IV章 発見された遺構と遺物

区	番号		走行と形状	断面形状と底部形状	出土遺物(遺物番号)	備考
	区	番号				
1	1	1	ほぼ南北方向に走り、僅かに蛇行。全長約21m。上端幅約1.5～2.3m。	断面形は台形。僅かに南に傾斜。確認面からの深さ約0.6m。	無し。	覆土に浅間山B軽石を含む。西側にピットが3基、橋の跡か？
1	2	2	ほぼ南北方向にはほぼ直線的に走り、途中で直角に屈曲し、ほぼ東西方向に直線的に走る。全長約9m。上端幅約0.5～0.8m。	断面形は台形。比高差は殆どなし。確認面からの深さ約0.3m。	軟質陶器・片口鉢(345)。	26・28号溝は同一。浅間山B軽石を含む。
1	3	3	ほぼ南北方向に走り、僅かに蛇行。全長約7m。上端幅約0.5～0.7m。	断面形は台形。比高差は殆ど無し。	無し。	
1	4	4	ほぼ南北方向に走り、やや蛇行。全長7.5m。上端幅約0.4～0.5m。	断面形は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約0.2m。	無し。	
1	6	6	ほぼ東西方向に走り、直線的。全長約8.5m。上端幅約0.5～0.8m。	断面形は「U」字形。僅かに東に傾斜。比高差は約10cm。確認面からの深さ約0.2m。	土師器杯(149)。	
1	7	7	ほぼ東西方向に走り、直線的。全長約3m。上端幅約0.7～0.8m。	断面形は「U」字形。北側に段を持つ。僅かに東に傾斜。比高差は約10cm。確認面からの深さ約0.2m。	無し。	
1	8	8	ほぼ東西方向に走り、直線的。全長約3.5m。上端幅約0.3m。	断面形は「U」字形。僅かに東に傾斜。比高差は約5cm。確認面からの深さ約0.2m。	無し。	覆土に角閃石安山岩を含む。
1	9	9	ほぼ南北方向に走り、直線的。全長約7.5m。上端幅約0.6～0.7m。16号溝と交差。16号溝より新しい。	断面形は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約0.3m。	土師器・須恵器の小破片。	
1	10	10	ほぼ東西方向に走り、ほぼ直線的。全長約5.5m。上端幅約0.3～0.4m。	断面形は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約0.15m。	土師器の小破片。	
1	11	11	ほぼ東西方向に走り、直線的。全長約5m。上端幅約0.3～0.4m。12・18号溝跡と交差。12号溝跡との新旧関係は不明。18号溝跡より新しい。	断面形は台形。僅かに東に傾斜。比高差は約5cm。確認面からの深さ約0.1m。	無し。	
1	12	12	ほぼ南北方向に走り、直線的。全長9m。上端幅約2.9m。11・17・18号溝と交差。1号溝との新旧関係は不明。17・18号溝跡より新しい。	断面形は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約0.1m。	土師器・須恵器・陶磁器の小破片。	
1	13	13	ほぼ南北方向に走り、直線的。全長約3m。上端幅約0.4～0.6m。16号溝跡と交差するが、新旧は不明。	断面形は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約0.1m。	無し。	上層に角閃石安山岩を含む。
1	14	14	ほぼ東西方向に走り、やや湾曲。全長約5.5m。上端幅約0.2～0.3m。15号溝と交差。断面観察により15号溝より新しい。	断面形は台形。僅かに東に傾斜。比高差は約10cm。確認面からの深さ約5cm。	土師器の小破片。	
1	15	15	ほぼ東西方向に走り、やや蛇行。全長約11m。上端幅約0.4～0.5m。14号溝と交差。断面観察により14号溝より古い。	断面形は「U」字形。僅かに東に傾斜。比高差は約5cm。確認面からの深さ約0.5m。	無し。	

番号		走行と形状	断面形状と底部形状	出土遺物(遺物番号)	備考
区	番号				
1	16	北西から南東方向に蛇行。全長約80m。9・13・29・30・33・36・37・39・40号溝跡と交差。新旧関係は、9号溝跡より古く、13号溝跡とは不明、29・30・36・37・39・40号溝跡より新しい。	断面形は不定形。南東方向に傾斜。比高差は約50cm。確認面からの深さは最大で約1mである。	土師器器台(217・218・219・220・221・222・223)、土師器高杯(224・225・226・227・266・267)、土師器埴(228・229・231・234・235・264・265・269・300・438)、土師器手捏(230・232)、土師器杯(233・268・270・271・272・273)、土師器甕(253・260・261・262・263)、土師器壺(254・255・256・257・258・259)、土師器台付甕(240・241・242・243・244・245・246・247・248・249・250・251・252)、弥生土器壺(274・275・276)、須恵器甕(297)、須恵器長頸壺(277・298・299)、須恵器杯(278・279・280・281・282・283・284・285・286・287)、須恵器椀(288・289・290・291・292・293・294・295)、須恵器蓋(296)、勾玉(236・237)、管玉(238・239)、用途不明石製品(342)、鉄製分銅(301)、木製品の建築部材(459・465・473)、板材(460・466・469・471)、丸杭(461・477)、杭(462)、加工木(464・467・472)、角材(468・470)。	覆土には砂や酸化鉄の堆積が確認でき、水の流れていた旧河川と考えられる。遺物は底面近くからは弥生末～古式土師器が出土し、中層～上層では平安時代の土師器・須恵器が出土し、最上層からは、近世の分銅が出土している。弥生時代末～近世まで流れていた河川と考える。
1	17	ほぼ東西方向に走り、ほぼ直線的。全長約4m。上端幅約0.6～0.9m。12・18号溝跡と交差。12号溝跡より古い。18号溝跡との新旧関係は不明。	断面形は台形。比高差は殆どなし。確認面からの深さ約0.4m。	土師器・須恵器の小破片。	
1	18	ほぼ東西方向に走り、やや蛇行。全長約32m。上端幅約4～9m。11・12・17・32・33・35溝と重複。11・12・32号溝より古い。17・35号溝跡との関係は不明。33号溝跡より新しい。	断面形は台形。比高差は殆どなし。確認面からの深さ約0.5m。	土師器甕(168)、土師器杯(170・171)、土師器器台(172)、須恵器杯(169・175・176・177・183)、須恵器椀(178)、須恵器皿(179・180)、須恵器壺(181)、須恵器長頸壺(173・174)、灰釉陶器皿(182)、青磁(184)。	覆土に角閃石安山岩を含む。
1	19	ほぼ南北方向に走り、直線的。全長約9.5m。上端幅約0.8～1.0m。22・30・31・34・37・38号溝とは交差。新旧関係は、22・30・31・37・38号溝より新しい。34号溝とは不明。	断面形は台形。僅かに南に傾斜。比高差は約10cm。確認面からの深さ約0.1m。	土師器杯(154・155)、須恵器杯(156)。	浅間山B軽石を含む。
1	20	ほぼ南北方向に走り、西端で直角に屈曲し、ほぼ東西に走る。直線的。全長約7.5m。上端幅約0.6～0.7m。21・24号溝跡と交差。21・24号溝跡より新しい。	断面形は台形。僅かに東に傾斜。比高差は約10cm。確認面からの深さ約0.3m。	須恵器椀(150)。	東西方向は21溝とほぼ重なり、時期も殆ど同じと考えられる。上層に浅間山B軽石を含む。
1	21	ほぼ南北方向に走り、西端で直角に屈曲し、ほぼ東西に走る。直線的。全長約8m。上端幅約0.6～0.8m。21・24号溝と交差。21号溝より古く、24号溝より新しい。	断面形は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約0.5m。	軟質陶器・内耳鍋(151)・砥石(152)。	東西方向は20溝とほぼ重なり、時期も殆ど同じと考えられる。

第IV章 発見された遺構と遺物

番号		走行と形状	断面形状と底部形状	出土遺物(遺物番号)	備考
区	番号				
1	22	北西から南東方向に走る。やや蛇行。全長約14m。上端幅約0.5~0.8m。新旧関係は、19・24・29・37・38号溝跡と重複。19号溝跡より古く、29・37・38号溝跡より新しい。24号溝跡とは不明。	断面形は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約0.6m。	土師器台付甕(185・186)、土師器埴(187)、土師器杯(189)、用途不明石製品(190)。遺物は流れ込みと考えられる。	軽石を含む。
1	23	ほぼ東西方向に走る。直線的。全長約9.5m。上端幅約0.2~0.4m。29・37・39号溝跡と交差。新旧関係は、29・37・39号溝跡より新しい。	断面形は台形。僅かに東に傾斜。比高差は約10cm。確認面からの深さ約0.1m。	無し。	
1	24	北西より南東方向へ走る。僅かに蛇行。全長約16m。上端幅約0.15~0.25m。19・20・22号溝跡と交差。新旧関係は、22号溝跡より新しい。19・20号溝跡とは不明。	断面形は台形。僅かに南東方向に傾斜。比高差は約20cm。確認面からの深さ約0.1m。	土師器の小破片。	
1	27	ほぼ南北方向に走り、南端ではほぼ東西に走る。直線的。全長約2.5m。上端幅約0.4~0.5m。	断面形は台形。殆ど傾斜は無し。確認面からの深さ約0.1m。	土師器・須恵器の小破片。	浅間山B軽石を含む。
1	29	ほぼ南北方向に走る。僅かに蛇行。全長約12m。上端幅約0.7~0.9m。16・22・23・31・38・39号溝跡と交差。新旧関係は、16・22・23・31・39号溝跡より古い。38号溝跡より新しい。	断面形は「U」字形。僅かに南に傾斜。比高差は約0.1m。確認面からの深さ約0.3m。	土師器甕(191・192・193・194)、土師器台付甕(195・196・203・204・205)、土師器埴(197)、土師器杯(198・199・200・201・206)。溝の北部に古墳時代の土師器が集中するが、流れ込みと考えられる。	上層に浅間山B軽石を含む。
1	30	北西から南東方向に走り、僅かに蛇行。全長約8m。上端幅約0.3~0.5m。16・37号溝跡と交差。16号溝跡より古く、37号溝跡より新しい。	断面形は台形。殆ど傾斜は無し。確認面からの深さ約0.2m。	無し。	
1	31	東西方向に走る。ほぼ直線的。全長約4.5m。上端幅約0.7~1.0m。19・29・37号溝と交差。19・37号溝より古い。29号溝より新しい。	断面形は台形。傾斜は殆ど無し。確認面からの深さ約0.3m。	土師器杯(207)。	角閃石安山岩及び浅間山C軽石を含む。
1	32	ほぼ東西方向に走り、ほぼ直線的。全長約2m。18号溝跡と交差。18号溝跡より新しい。	断面形は台形。比高差は殆どなし。確認面の深さ約0.1m。	無し。	
1	33	ほぼ東西方向に走り、やや蛇行。全長約28m。16・18号溝跡と交差。16号溝跡との新旧関係は不明。18号溝跡より古い。	断面形は台形。僅かに東に傾斜。比高差は約10cm。確認面からの深さ約0.1m。底面に多数の小ビットがある。	須恵器杯(153)、土師器・須恵器の小破片。	
1	34	北西より南東方向に走る。僅かに蛇行。全長約6.5m。上端幅約0.2~0.4m。	断面形は台形。僅かに南東方向に傾斜。比高差は約15cm。確認面からの深さ約0.2m。	土師器の小破片。	
1	35	北西より南東方向に走る。ほぼ直線的。全長約12m。上端幅約1.5~2.0m。18・37・39・40号溝跡と交差。18号溝跡との新旧関係は不明。37・39・40号溝跡より古い。	断面形は台形。比高差は殆どなし。確認面からの深さ約0.4m。	土師器杯(157)、須恵器杯(158)、須恵器碗(159)。	覆土に角閃石安山岩を含む。



番号		走行と形状	断面形状と底部形状	出土遺物(遺物番号)	備考
区	番号				
1	36	北東より南西方向に走る。直線的。全長約2m。上端幅約0.2~0.3m。16号溝跡と交差。16号溝跡より古い。	断面形は台形。僅かに南西方向に傾斜。比高差は約10cm。確認面からの深さ約0.1m。	無し。	浅間山C軽石を含む。
1	37	ほぼ南北方向に走り、やや蛇行。全長約15m。上端幅約0.4~1.0m。16・19・23・30・31・35・38号溝と交差。16・19・23・38号溝より古い。31・35号溝より新しい。	断面形は台形に近い。僅かに南に傾斜。比高差は約5cm。確認面からの深さ約0.2m。	土師器台付甕(208)、土師器杯(209)、須恵器椀(210)。	浅間山C軽石を含む。
1	38	ほぼ南北方向に走る。全長約5.5m。上端幅約3m。22・29・37号溝跡と交差。22・29号溝跡より古い。37号溝跡より新しい。	断面形は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約0.15m。	土師器壺(211)、土師器甕(212)、土師器杯(213・214)、須恵器杯(215)。	角閃石安山岩・浅間山C軽石を含む。
1	39	北東から南西方向に蛇行。全長約10m。上端幅約0.6~1.0m。16・30・40号溝跡と交差。16・30号溝より古い。40号溝より新しい。	断面形は不定形。僅かに南に傾斜。比高差は約5cm。確認面からの深さ約0.3m。	無し。	浅間山C軽石を含む。
1	40	ほぼ南北に走る。全長約5m。16・30・39号溝跡と交差。16・30・39号溝跡より古い。	断面形は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約0.2m。	土師器の小破片。	浅間山C軽石を含む。
2	1	ほぼ南北に走り、南端で直角に屈曲し、ほぼ東西に走る。直線的。全長約35m。上端幅約1.0~1.8m。4・5・24号溝跡と交差。4・5・24号溝跡より新しい。	断面形は「V」字形に近い。南に傾斜。比高差は約0.3m。確認面からの深さ約0.7m。	土師器・須恵器・軟質陶器の小破片。	2区9号溝跡の北半分と合体。浅間山B軽石を含む。
2	2	ほぼ南北方向に走り、南端で直角に屈曲し、ほぼ東西に走る。ほぼ直線的。全長約37m。上端幅約1.0~1.2m。3・4・10号溝跡と交差。3・4号溝跡より古い。10号溝跡より新しい。	断面形は「U」字形に近い。確認面からの深さ約0.3m。確認面からの深さ約0.7m。	土師器杯(160)、土師器・須恵器の小破片。	2区9号溝跡の南半分・2区26号溝跡と合体。浅間山B軽石を含む。
2	3	ほぼ南北方向に走り、南端で屈曲し、南西に走る。ほぼ直線的。全長約26m。上端幅約0.3~1.0m。2・8号溝跡と交差。2・8号溝跡より新しい。	断面形は台形。僅かに南に傾斜。比高差は約0.2m。確認面からの深さ約0.5m。	土師器・須恵器の小破片。	2区25号溝跡と合体。浅間山B軽石を含む。
2	4	ほぼ東西方向に走る。直線的。全長約17m。上端幅約0.7~1.0m。1・2号溝跡と交差。1号溝跡より古く、2号溝跡より新しい。	断面形は台形。確認面からの深さ約0.3m。	無し。	
2	5	ほぼ東西方向に走り、やや蛇行。全長約6.5m。上端幅約0.5~1.2m。1・6号溝跡と交差。1号溝跡より古く、6号溝跡より新しい。	断面形は台形。	無し。	
2	6	ほぼ南北方向に走り、やや蛇行。全長約2m。上端幅約0.9~1.0m。5号溝跡と交差。5号溝跡より古い。	断面形は台形。	無し。	

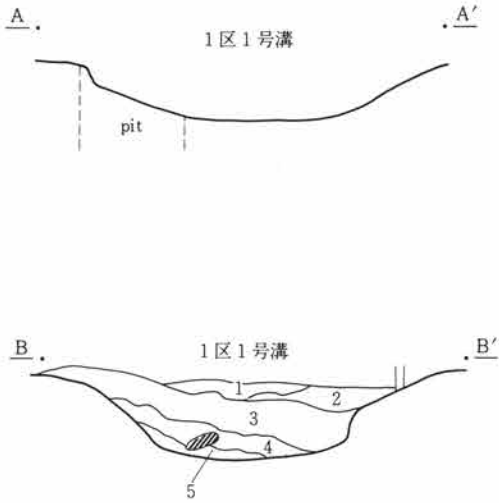
第IV章 発見された遺構と遺物

番号	区	番号	走行と形状	断面形状と底部形状	出土遺物(遺物番号)	備考
2		7	ほぼ南北方向に走り、北端で屈曲し、北西に走る。直線的。全長約34m。上端幅約0.6~0.8m。8・36号溝跡と交差。8号溝跡より古く、36号溝跡より新しい。	断面形は台形。僅かに南に傾斜。比高差は約0.2m。確認面からの深さ約0.2m。	須恵器短頸壺(165)、土師器・須恵器小破片。	2区27号溝跡と合体。
2		8	ほぼ北東から南西方向に走り、直線的。全長約13m。上端幅約0.4~1.0m。3・7・12号溝跡と交差。3号溝跡より古く、7・12号溝跡より新しい。	断面形は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約0.5m。	土師器杯(162)、土師器・須恵器の小破片。	2区20号溝跡と合体。浅間山B軽石を含む。
2		10	ほぼ東西方向に走り、直線的。全長約4m。上端幅約0.4~0.6m。2号溝跡と交差。2号溝跡より古い。	断面形は「U」字形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約0.4m。底部に窪みあり。	無し。	
2		12	ほぼ東西方向に走り、直線的。全長約10m。上端幅約2.1~2.7m。8・19号溝跡と交差。8・19号溝跡より古い。	断面形は台形。中段を持ち。底部は小ビットが多く見られる。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約0.6m。	土師器・須恵器の小破片。	上層に浅間山B軽石を含む。
2		13	ほぼ東西方向に走り、直線的。全長約11m。上端幅約2.2~2.5m。14号溝跡と交差。14号溝跡より古い。	断面形は台形。底面はほぼ平坦。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約0.2m。	土師器・須恵器の小破片。	上層に浅間山B軽石・下層に浅間山C軽石を含む。
2		14	ほぼ南北方向に走り、直線的。全長10m。上端幅約0.5~0.6m。13号溝跡と交差。13号溝跡より新しい。	断面形は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約0.2m。	土師器・須恵器・灰釉陶器の小破片。	浅間山B軽石を含む。
2		15	ほぼ南北方向に走り、やや湾曲。全長9m。上端幅0.5~0.7m。16号溝跡と交差。新旧関係は不明。	断面形は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約0.1m。	須恵器蓋(161)、土師器・須恵器の小破片。	浅間山B軽石を含む。
2		16	ほぼ南北方向に走り、直線的。全長約5m。上端幅約0.2m。15号溝跡と交差。新旧関係は不明。	断面形は台形。溝に沿い小ビットが並ぶ。確認面からの深さ約0.1m。	無し。	
2		17	ほぼ南北方向に走り、やや蛇行。全長約6m。上端幅約0.7~0.8m。	断面形は台形。僅かに南に傾斜。比高差は約5cm。確認面からの深さ約0.1m。	無し。	
2		18	ほぼ南北方向に走り、直線的。全長約5m。上端幅約0.7~0.8m。	断面形は台形。比高差は殆どないが、南側の底面に窪みがある。確認面からの深さ約0.3m。	土師器・須恵器の小破片。	
2		19	ほぼ南北方向に走り、ほぼ直線的。全長約8m。上端幅約0.4~0.5m。12号溝跡と交差。12号溝跡より新しい。	断面形は「U」字形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約0.2m。	土師器・須恵器の小破片。	上層に浅間山B軽石を含む。
2		21	ほぼ北東より南西に走る。やや蛇行。全長約1.5m。上端幅約0.4~0.5m。	断面形は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約0.5m。	無し。	浅間山C軽石を含む。
2		22	ほぼ南北方向に走り、直線的。全長約4m。上端幅0.3~0.4m。23号溝跡と交差。新旧関係は不明。	断面形は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約0.2m。	土師器甕(163)、土師器・須恵器の小破片。	
2		23	ほぼ東西方向に走り、直線的。全長約4m。上端幅約0.4m。22号溝跡と交差。新旧関係は不明。	断面形は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約0.1m。	土師器器台(164)。	浅間山C軽石を含む。

番号		走行と形状	断面形状と底部形状	出土遺物(遺物番号)	備考
区	番号				
2	24	ほぼ東西方向に走り、やや蛇行。全長約4m。上端幅約0.5～0.8m。1号溝跡と交差。1号溝跡より古い。	断面形は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約0.2m。	土師器・須恵器の小破片。	浅間山B軽石を含む。
2	28	ほぼ南北方向に走り、やや湾曲。全長約6.5m。上端幅約0.6～0.7m。3号溝跡と交差。3号溝跡より古い。	断面形は台形。僅かに南に傾斜。比高差は約10cm。確認面からの深さ約15cm。	土師器の小破片。	浅間山B軽石を含む。
2	29	北西から南東方向に走り、直線的。全長約6m。上端幅約0.4～0.5m。36号溝跡と交差。36号溝跡より新しい。	断面形は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約0.1m。	土師器・須恵器の小破片。	浅間山B軽石・C軽石を含む。
2	30	ほぼ東西方向に走り、直線的。全長約9m。上端幅約0.4～0.9m。	断面形は台形。僅かに東に傾斜。比高差は約5cm。確認面からの深さ約0.2m。	土師器・須恵器・陶器の小破片。	上層に浅間山B軽石・二ツ岳火山灰、下層に浅間山C軽石を含む。
2	31	北西より南東方向に走り、やや湾曲。全長約11m。36号溝跡と交差。36号溝跡より古い。	断面形は台形と推定。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約0.3m。	鉄製品(166)、土師器・須恵器の小破片。	上層に浅間山B軽石を含む。
2	32	ほぼ東西方向に走り、直線的。全長約10m。上端幅約0.4～0.5m。	断面形は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約0.2m。	無し。	上層に浅間山B軽石を含む。
2	33	ほぼ東西方向に走り、直線的。全長約5m。上端幅約0.6m。	断面形は台形。僅かに東に傾斜。比高差は5cm。確認面からの深さ約0.2m。	無し。	
2	34	ほぼ南東方向に走り、直線的。全長約8m。上端幅約0.4～0.6m。	断面形は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約15cm。	土師器・須恵器の小破片。	角閃石安山岩を含む。
2	35	ほぼ東西方向に走り、やや湾曲。全長4m。上端幅約0.2～0.5m。	断面形は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約0.1m。	土師器杯(167)。	
2	36	北東から南西方向に走り、湾曲。全長約7m。上端幅約0.7～1.0m。7・29・31号溝跡と交差。7・29号溝跡より古く、36号溝跡より新しい。	断面形は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約0.1m。	無し。	浅間山C軽石を含む。
3	1	ほぼ東西方向に走り、直線的。全長約8m。上端幅約1.0m。	断面形は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約0.2m。	無し。	二ツ岳火山灰を含む。
3	2	ほぼ東西方向に走り、直線的。全長約37m。上端幅約0.5～1.0m。	断面形は台形。確認面からの深さ約0.4m。	須恵器杯(343)、須恵器蓋(344)、土師器・須恵器の小破片。	
3	3	ほぼ東西方向に走り、直線的。全長約9m。上端幅約0.5～0.6m。	断面形は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約5cm。	無し。	二ツ岳火山灰。
3	5	ほぼ南西方向に走り、直線的。全長約13m。上端幅約0.3～0.4m。	断面形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約0.2m。	無し。	浅間山B軽石を含む。
4	1	ほぼ東西方向に走り、直線的。全長約5m。上端幅約0.6～0.7m。	断面形は台形。	無し。	
4	2	ほぼ南北方向に走り、直線的。全長約35m。上端幅約0.4～0.6m。	断面形は台形。	無し。	

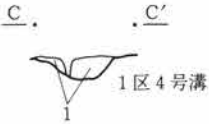
第IV章 発見された遺構と遺物

番 号		走 行 と 形 状	断 面 形 状 と 底 部 形 状	出 土 遺 物 ( 遺 物 番 号 )	備 考
区	番 号				
5	1	ほぼ東西方向に走り、直線的。全長約1.5m。上端幅約0.2~0.3m。	断面形は台形。	無し。	
5	2	ほぼ東西方向に走り、直線的。全長約3.5m。上端幅約0.3m。	断面形は台形。	無し。	
5	3	ほぼ東西方向に走り、やや蛇行。全長約1.5m。上端幅約0.3~0.7m。	断面形は台形。	無し。	
6	1	ほぼ南北方向に走り、やや蛇行。全長約21m。上端幅約0.5~0.9m。	断面形は台形。	無し。	
6	2	ほぼ南北方向に走り、直線的。全長約2.5m。上端幅約0.4m。	断面形は台形。	無し。	
6	3	ほぼ南北方向に走り、直線的。全長約3m。上端幅約0.2m。	断面形は台形。	無し。	
6	4	ほぼ南北方向に走り、直線的。全長約2m。上端幅約0.4m。	断面形は台形。	無し。	
6	5	ほぼ南北方向に走り、直線的。全長約3m。上端幅約0.4m。	断面形は台形。	無し。	
6	6	ほぼ南北方向に走り、直線的。全長約2.5m。上端幅約0.5m。	断面形は台形。	無し。	
6	7	ほぼ東西方向に走り、直線的。全長約3m。上端幅約0.4~0.5m。	断面形は台形。	無し。	
6	8	ほぼ東西方向に走り、直線的。全長約3.5m。上端幅約0.4~0.5m。	断面形は台形。	無し。	
6	9	ほぼ東西方向に走り、直線的。全長約1m。上端幅約0.5m。	断面形は台形。	無し。	
6	10	ほぼ東西方向に走り、蛇行。全長約1.5m。上端幅約0.5m。	断面形は台形。	無し。	
6	11	ほぼ東西方向に走り、直線的。全長約2m。上端幅約0.2~0.4m。	断面形は台形。	無し。	
6	12	ほぼ東西方向に走り、直線的。全長約2m。上端幅約0.2~0.3m。	断面形は台形。	無し。	
6	13	ほぼ東西方向に走り、直線的。全長約2m。上端幅約1.1m。	断面形は台形。	無し。	



1区1号溝跡 (A-A')

- 1 灰褐色土層：浅間山B軽石・鉄分を含む。
- 2 灰褐色土層：浅間山B軽石を含む。
- 3 灰褐色土層：シルトブロックを含む。
- 4 暗褐色土層と黒色土層の混土層。
- 5 暗褐色土層：シルトブロックを含む。

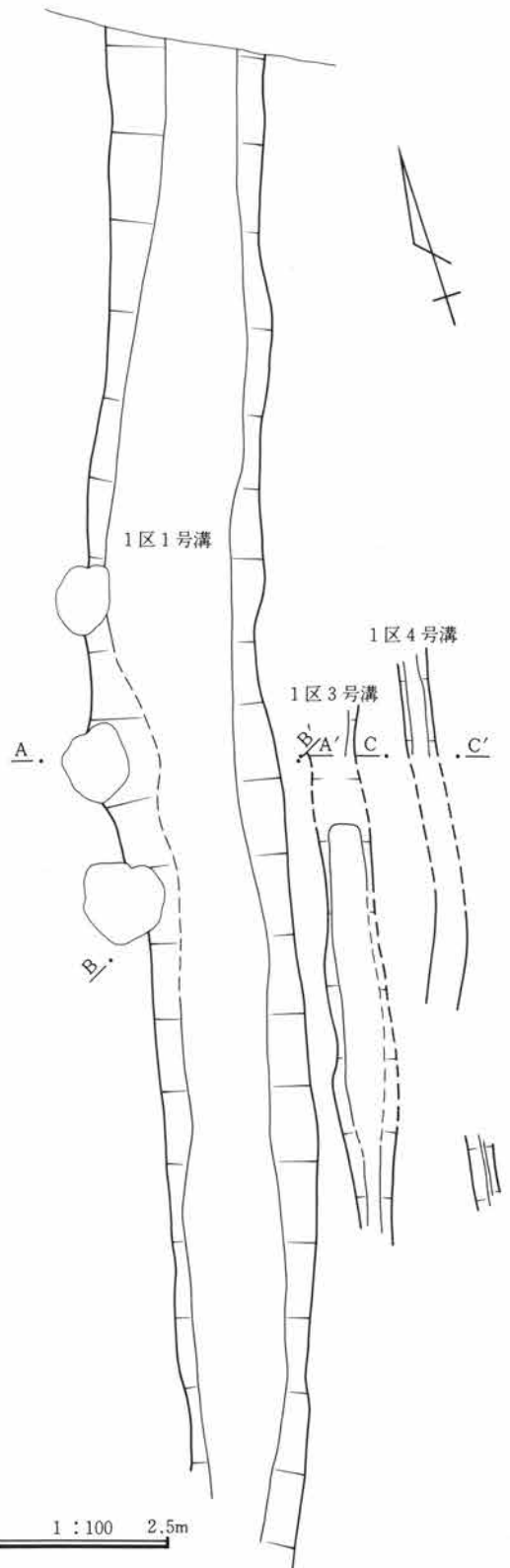


1区4号溝跡

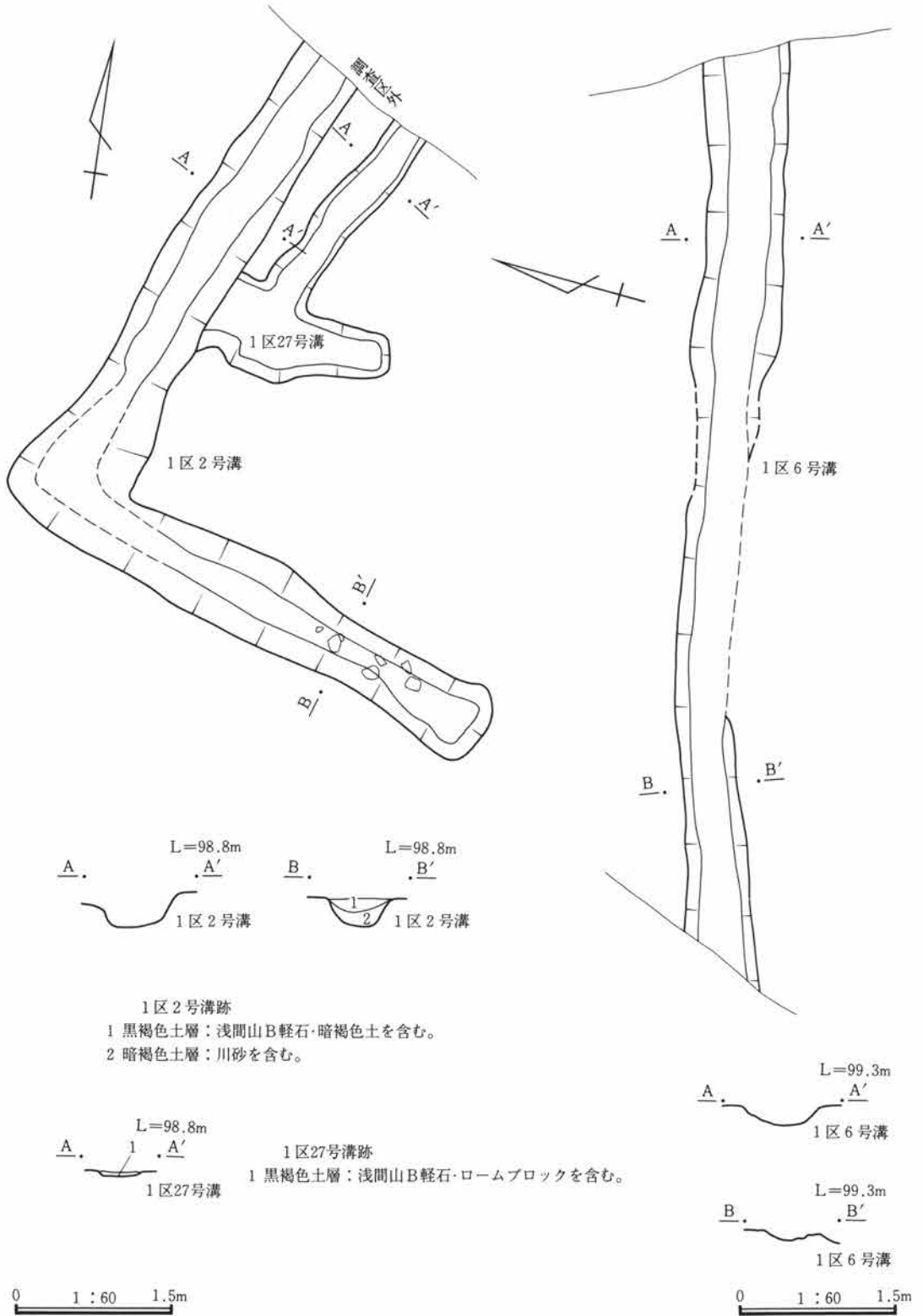
- 1 黒褐色粘土層：多量の鉄分を含み、粘性が強い。

0 1:60 1.5m

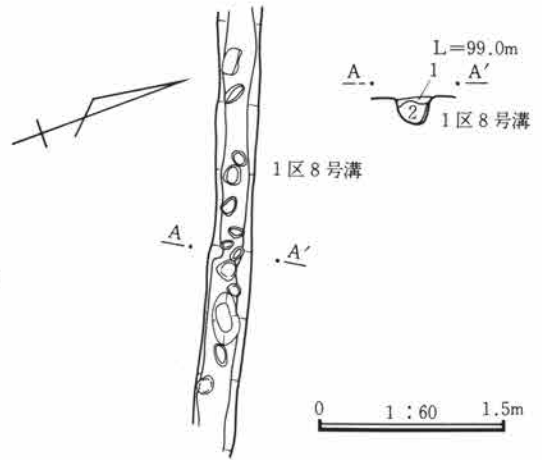
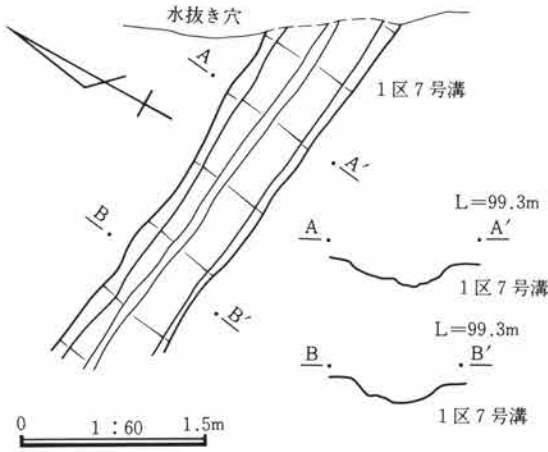
0 1:100 2.5m



第69図 1区1・3・4号溝跡

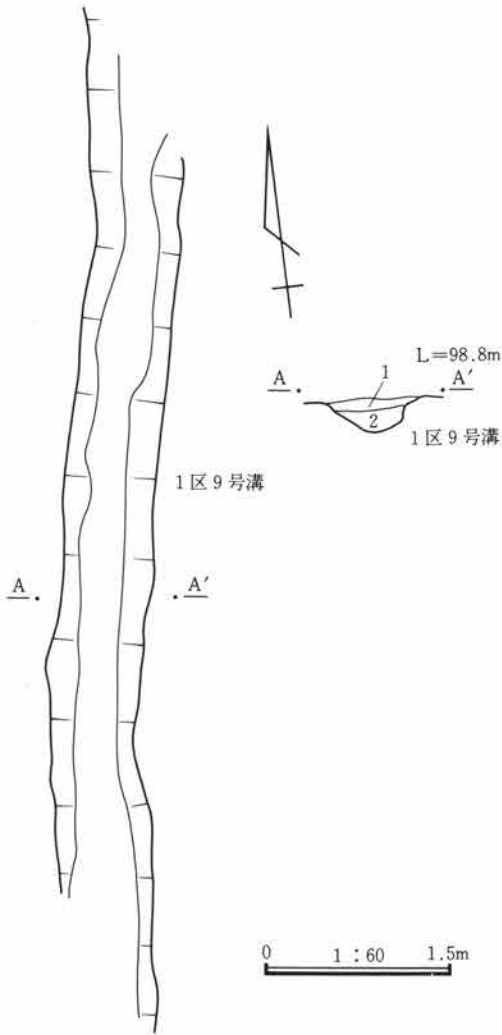


第70図 1区2・6・27号溝跡



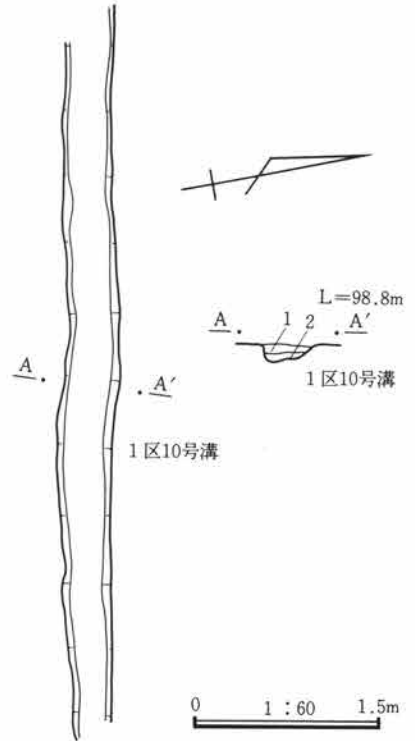
1区8号溝跡

- 1 灰褐色土層：角閃石安山岩・マンガンを含む。
- 2 褐色砂質土層：角閃石安山岩・マンガン・灰褐色粘質土を含む。



1区9号溝跡

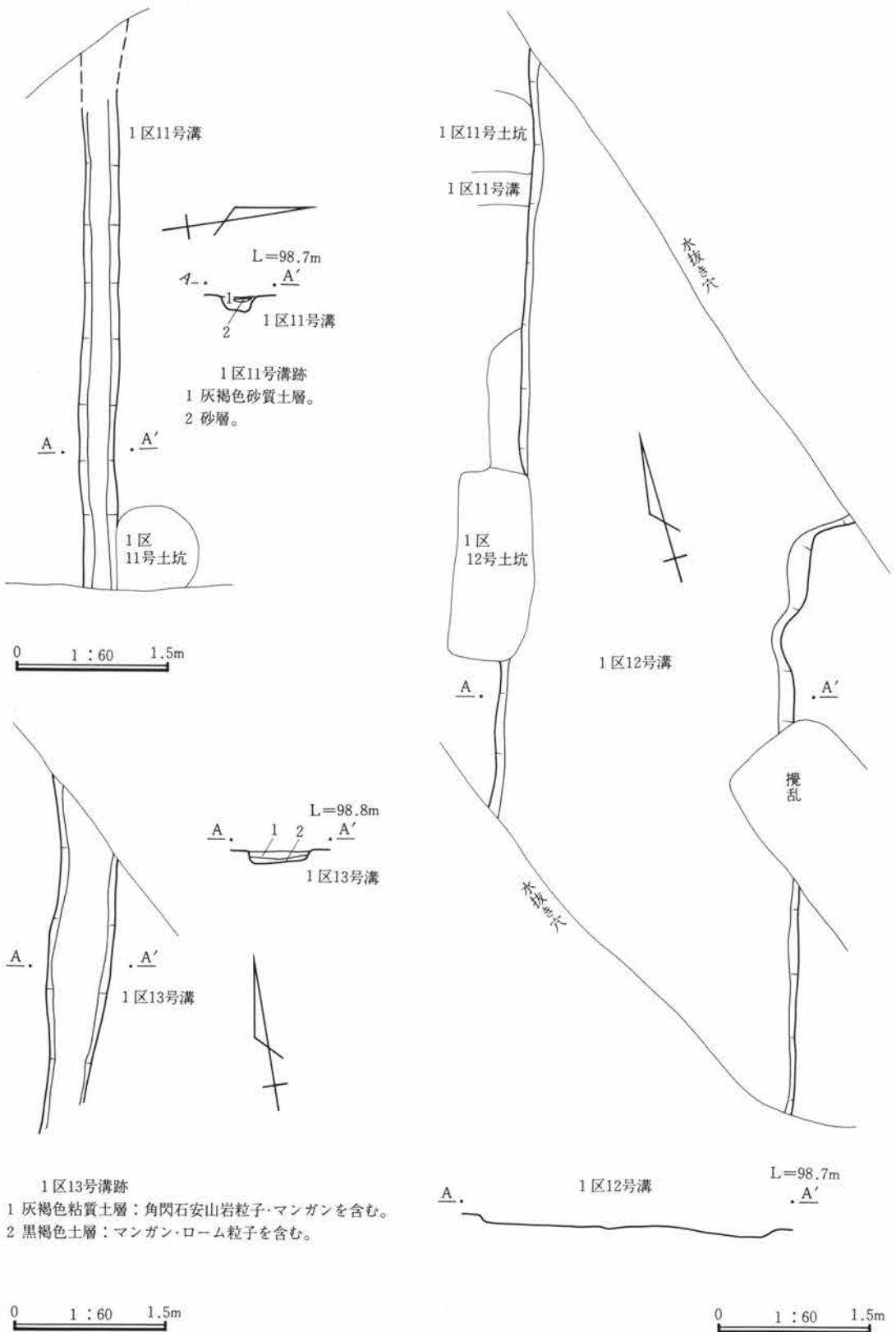
- 1 灰褐色砂質土層：鉄分・マンガン・灰褐色粘質土を含む。
- 2 灰褐色粘質土層：灰褐色砂質土・鉄分を含む。



1区10号溝跡

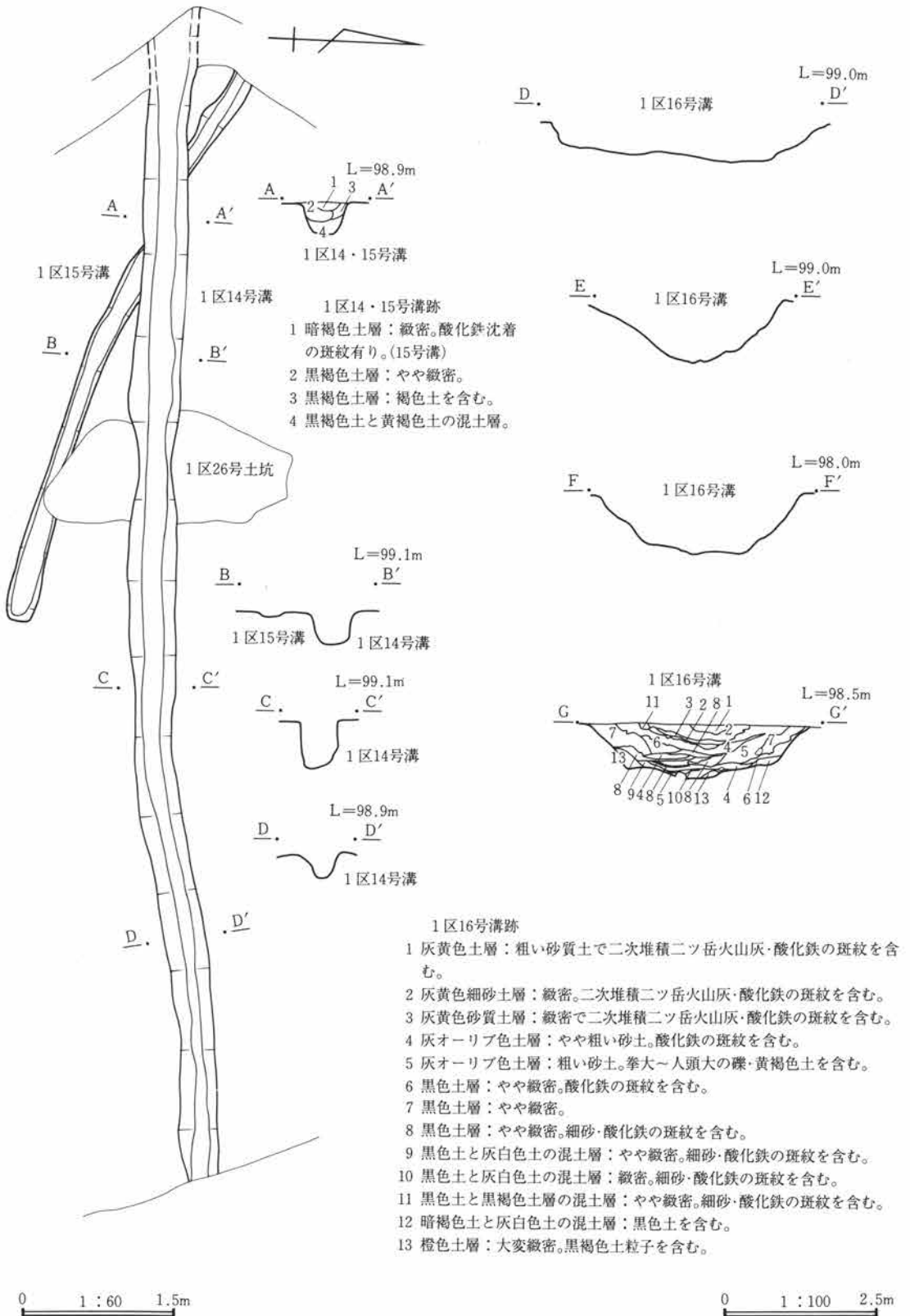
- 1 黒褐色土層：少量のロームブロックを含む。
- 2 ロームブロックと黒褐色土の混土層：ローム粒子を含む。

第71図 1区7・8・9・10号溝跡

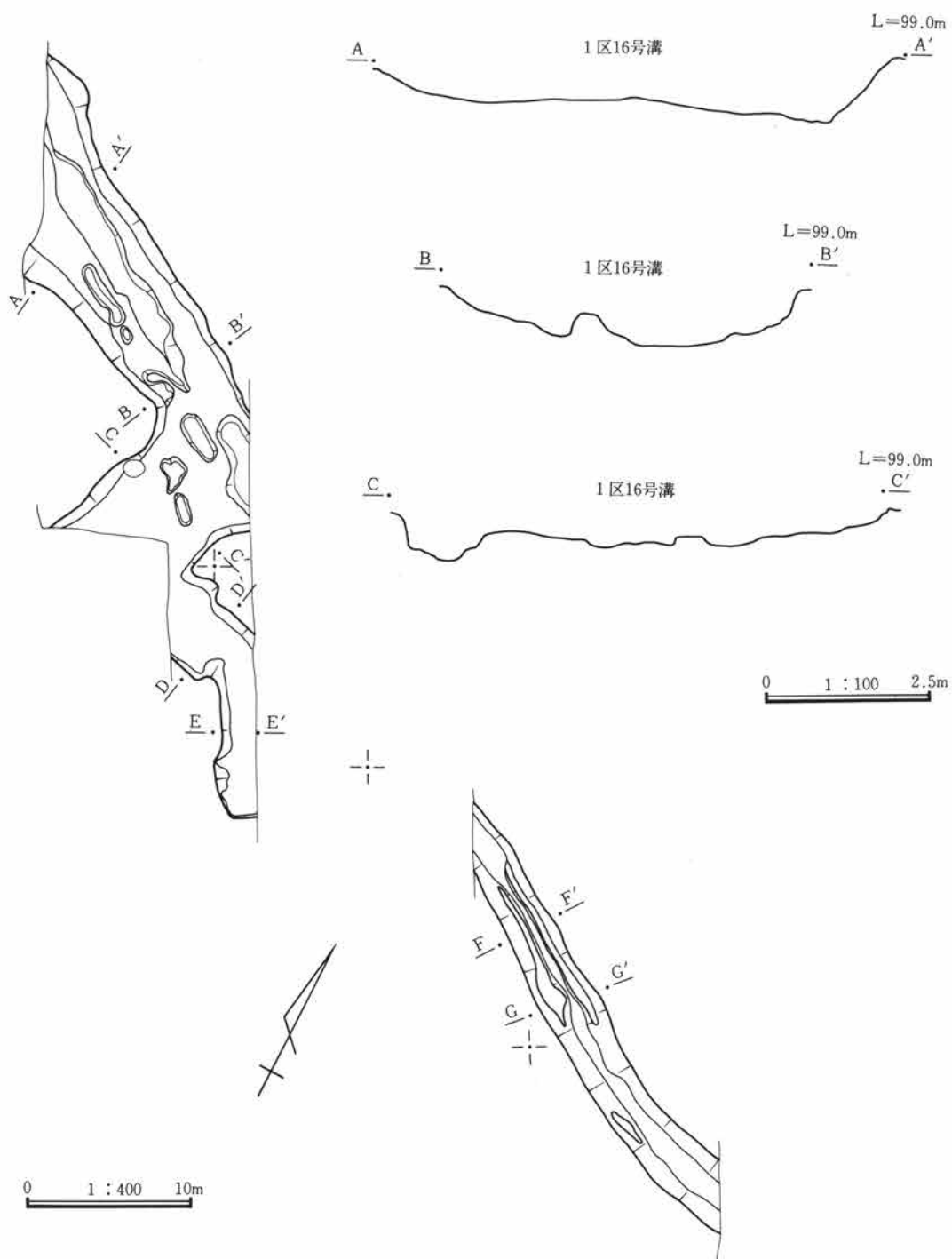


第72図 1区11・12・13号溝跡

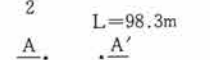
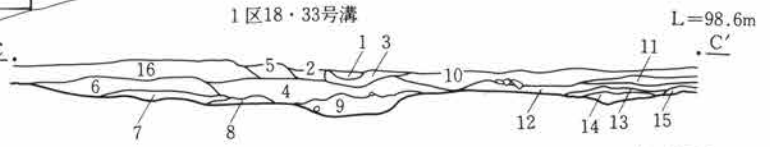
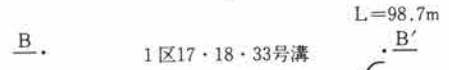
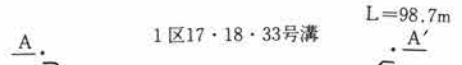
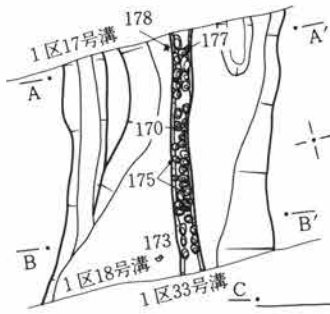




第73図 1区14・15号溝跡、16号溝跡断面



第74図 1区16号溝跡

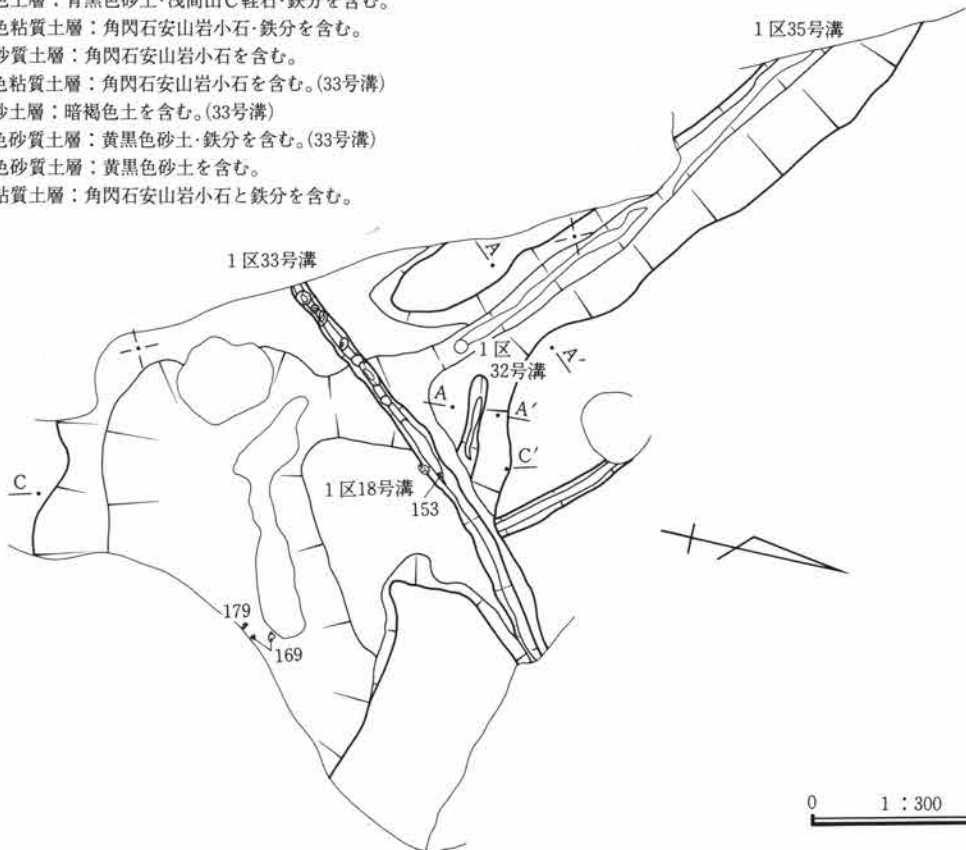


1区18・33号溝跡 (C-C')

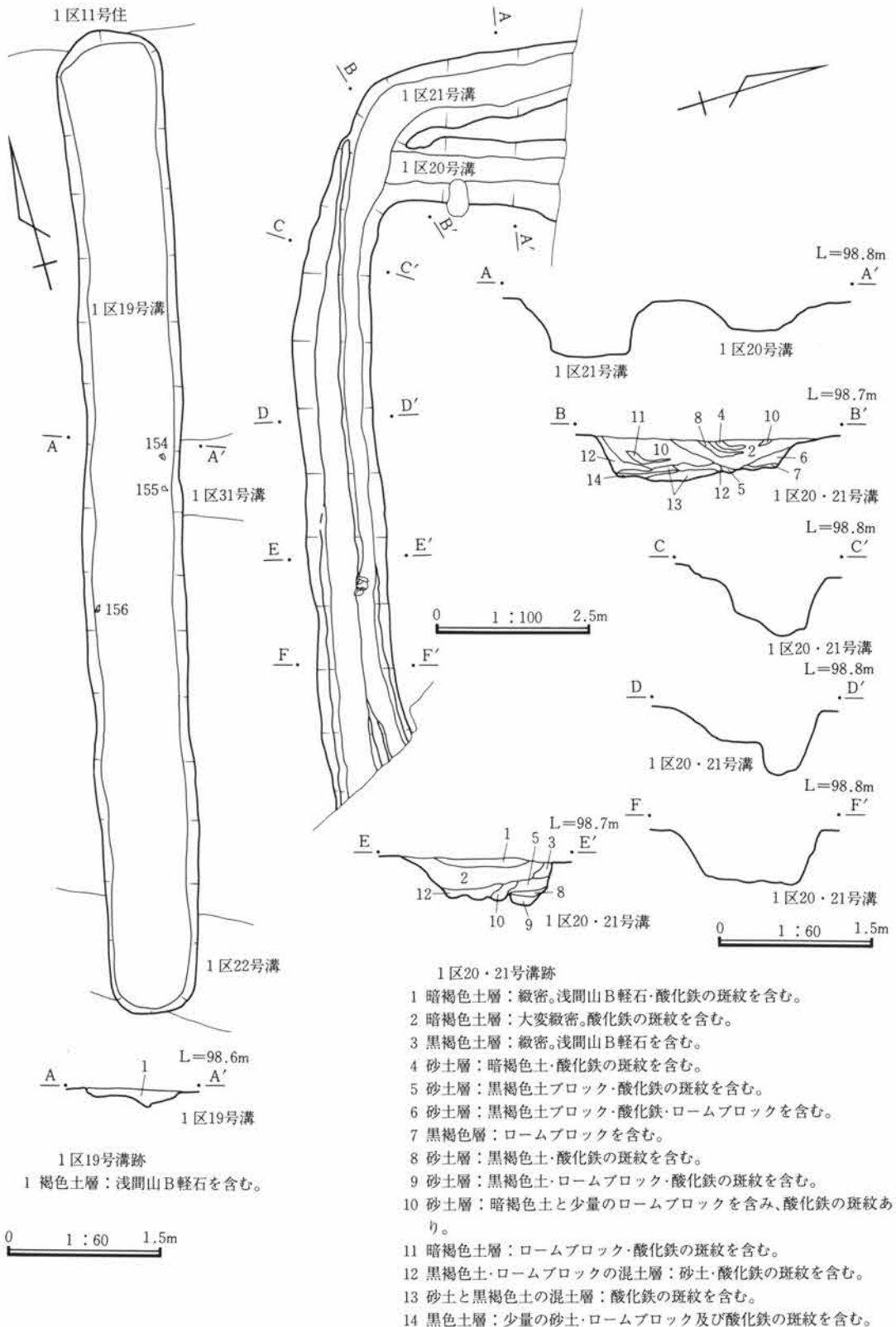
- 1 砂土層：角閃石安山岩小石を含む。
- 2 砂土層：角閃石安山岩・暗褐色土を含む。
- 3 暗褐色粘質土層：角閃石安山岩小石を含む。
- 4 褐色砂土層：角閃石安山岩小石と浅間山C軽石を含む。
- 5 暗褐色粘質土層：角閃石安山岩小石と明褐色細砂を含む。
- 6 暗褐色粘質土層：角閃石安山岩小石と鉄分を含む。
- 7 褐色砂土層：浅間山C軽石を含む。
- 8 赤褐色砂土層：多量の鉄分を含む。
- 9 黒褐色土層：青黒色砂土・浅間山C軽石・鉄分を含む。
- 10 暗褐色粘質土層：角閃石安山岩小石・鉄分を含む。
- 11 褐色砂質土層：角閃石安山岩小石を含む。
- 12 暗褐色粘質土層：角閃石安山岩小石を含む。(33号溝)
- 13 褐色砂土層：暗褐色土を含む。(33号溝)
- 14 黒褐色砂質土層：黄黒色砂土・鉄分を含む。(33号溝)
- 15 黒褐色砂質土層：黄黒色砂土を含む。
- 16 褐色粘質土層：角閃石安山岩小石と鉄分を含む。

1区35号溝跡

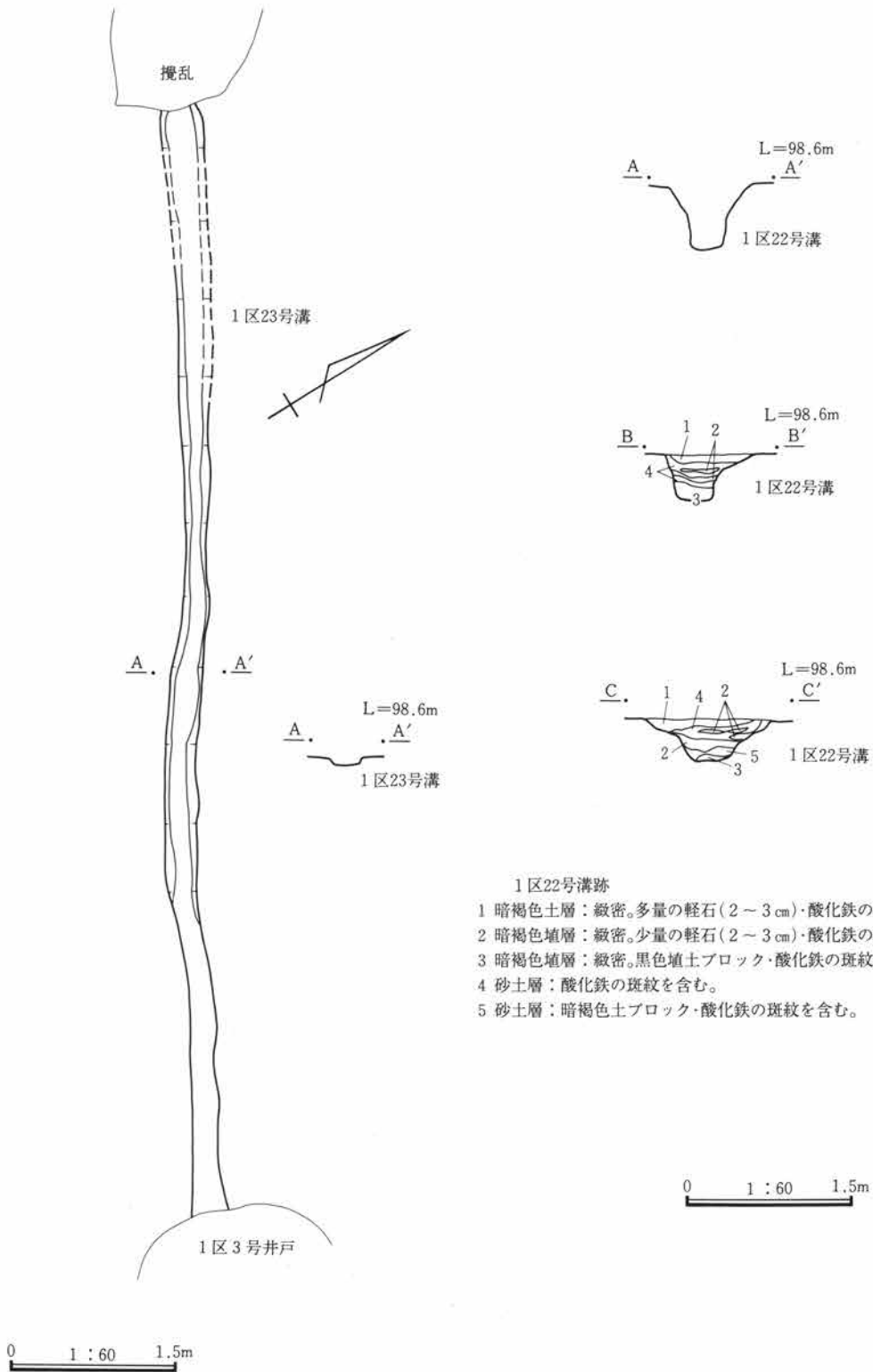
- 1 灰褐色粘質土層：褐色砂土・角閃石安山岩小石を含む。
- 2 暗褐色土層：角閃石安山岩小石・浅間山C軽石・青黒色砂土を含む。



第75図 1区17・18・32・33・35号溝跡



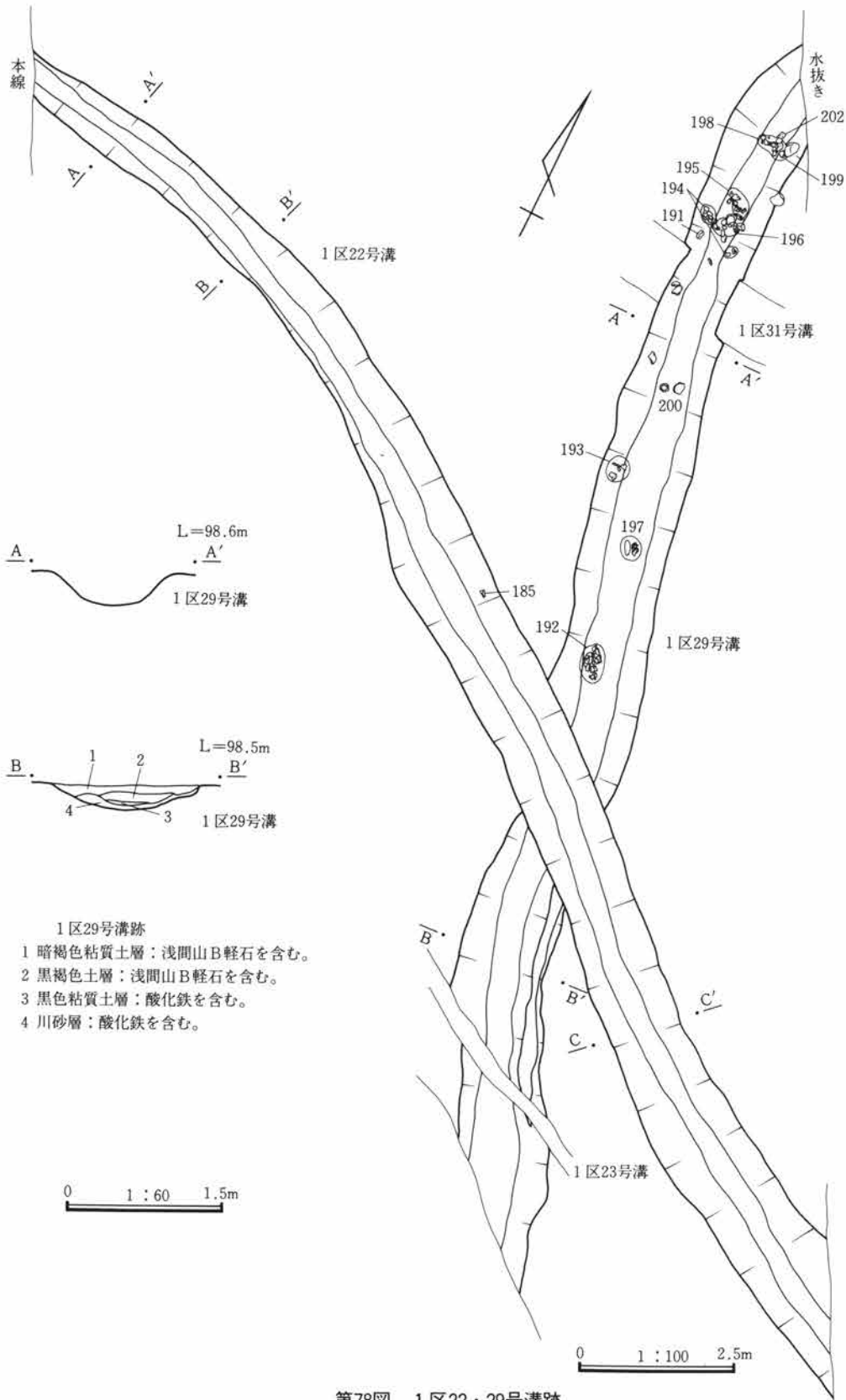
第76図 1区19・20・21号溝跡



1区22号溝跡

- 1 暗褐色土層：緻密。多量の軽石(2~3cm)・酸化鉄の斑紋を含む。
- 2 暗褐色埴層：緻密。少量の軽石(2~3cm)・酸化鉄の斑紋を含む。
- 3 暗褐色埴層：緻密。黒色埴土ブロック・酸化鉄の斑紋を含む。
- 4 砂土層：酸化鉄の斑紋を含む。
- 5 砂土層：暗褐色土ブロック・酸化鉄の斑紋を含む。

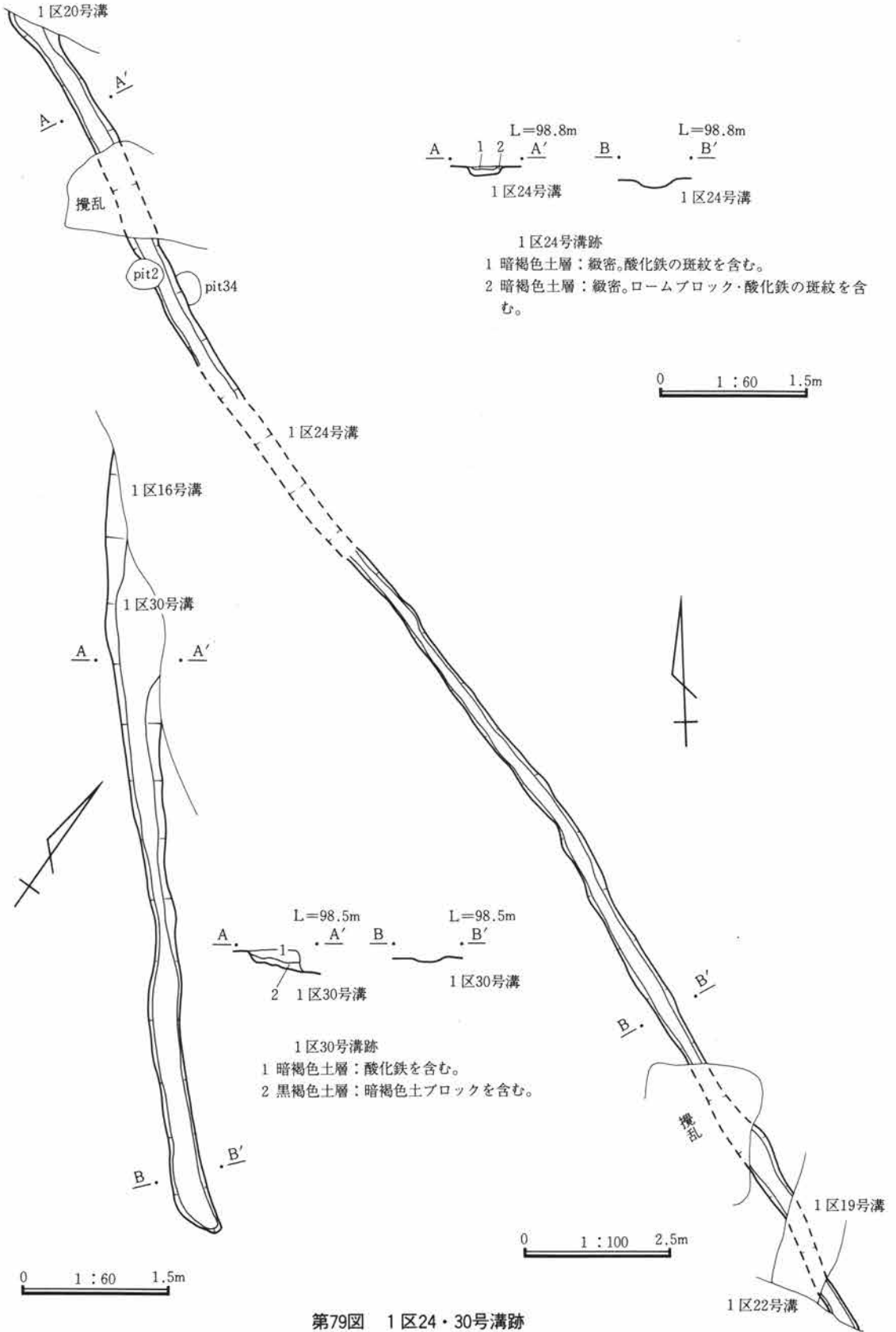
第77図 1区22号溝跡断面、23号溝跡



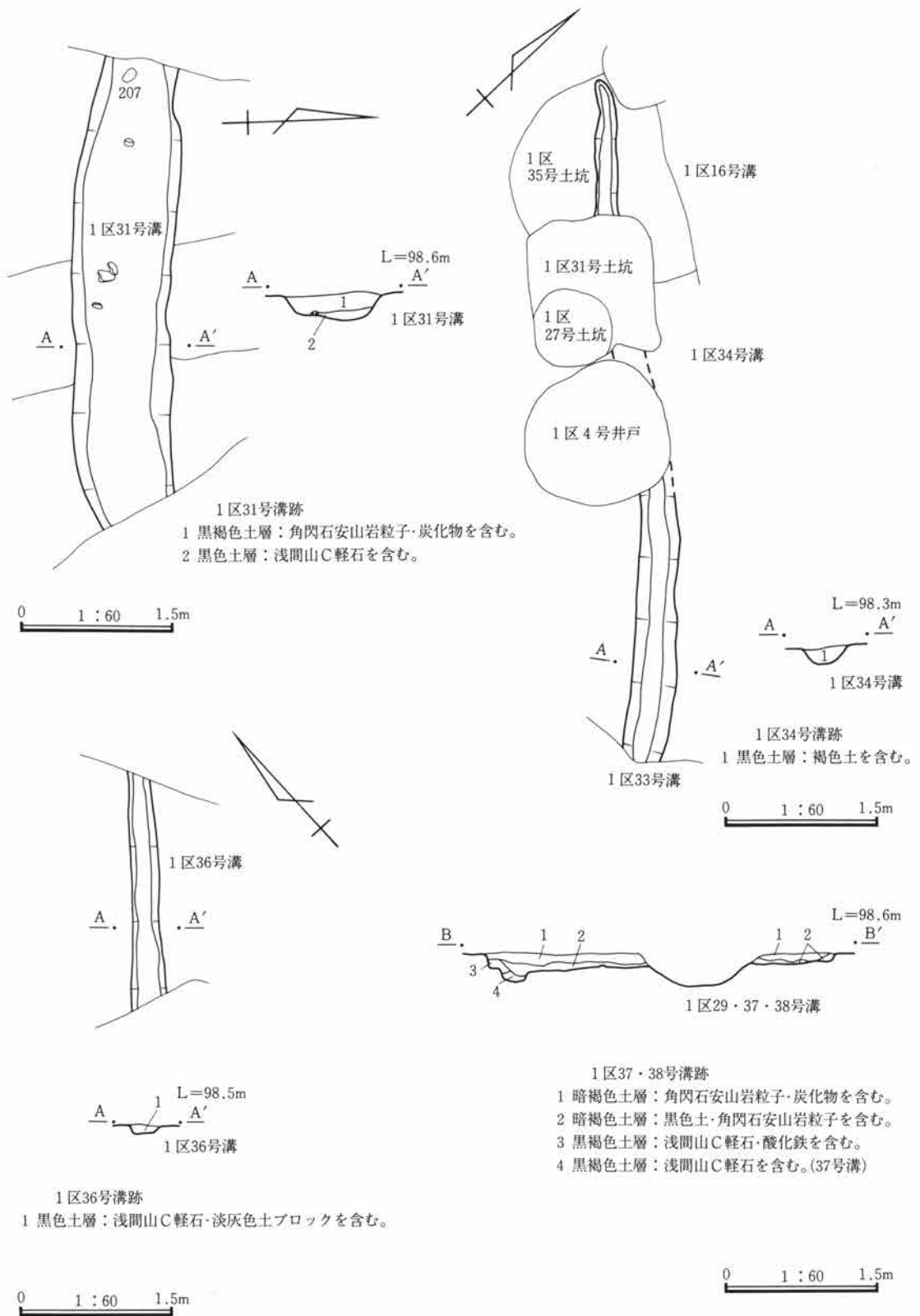
1区29号溝跡

- 1 暗褐色粘質土層：浅間山B軽石を含む。
- 2 黒褐色土層：浅間山B軽石を含む。
- 3 黒色粘質土層：酸化鉄を含む。
- 4 川砂層：酸化鉄を含む。

第78図 1区22・29号溝跡

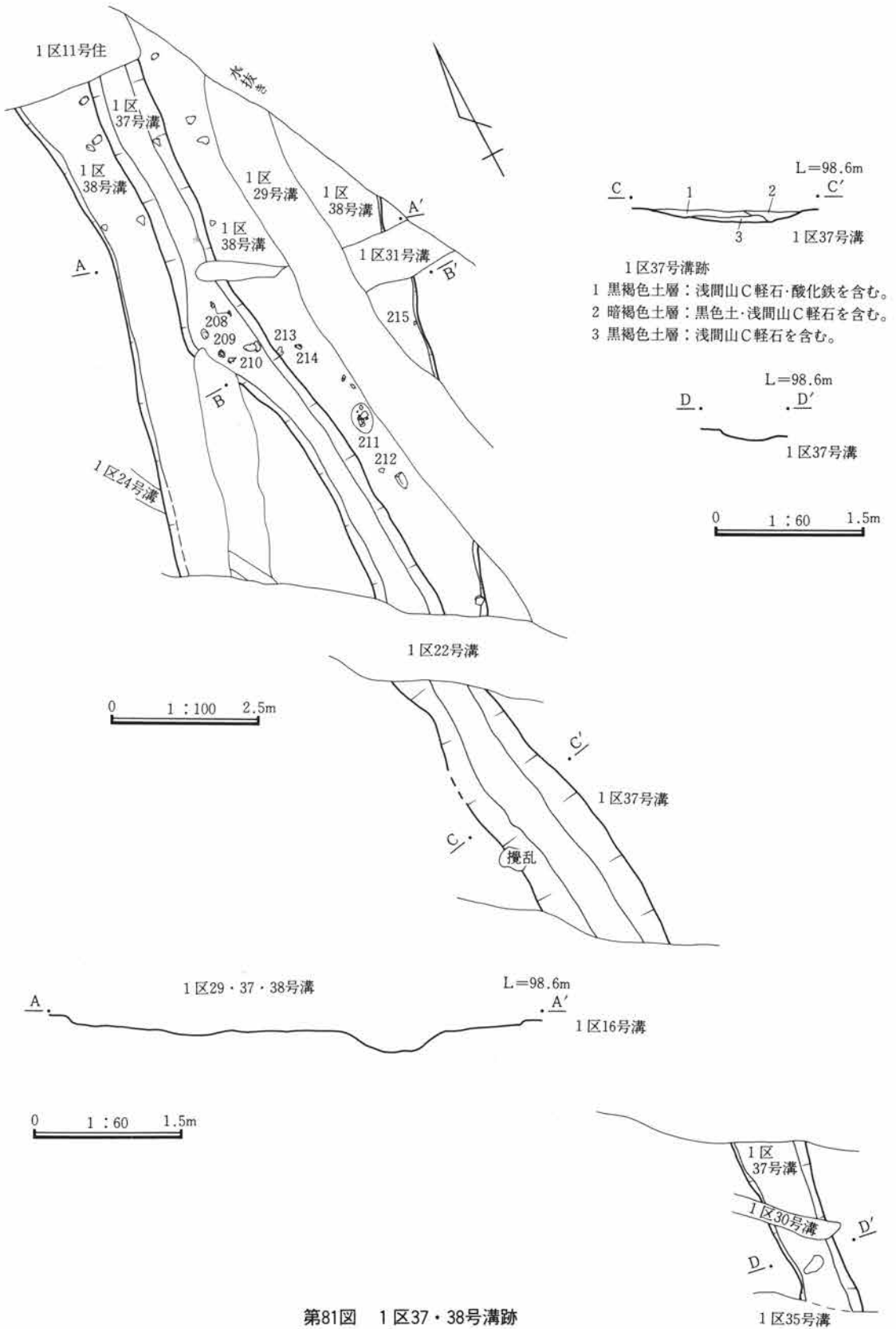


第79図 1区24・30号溝跡

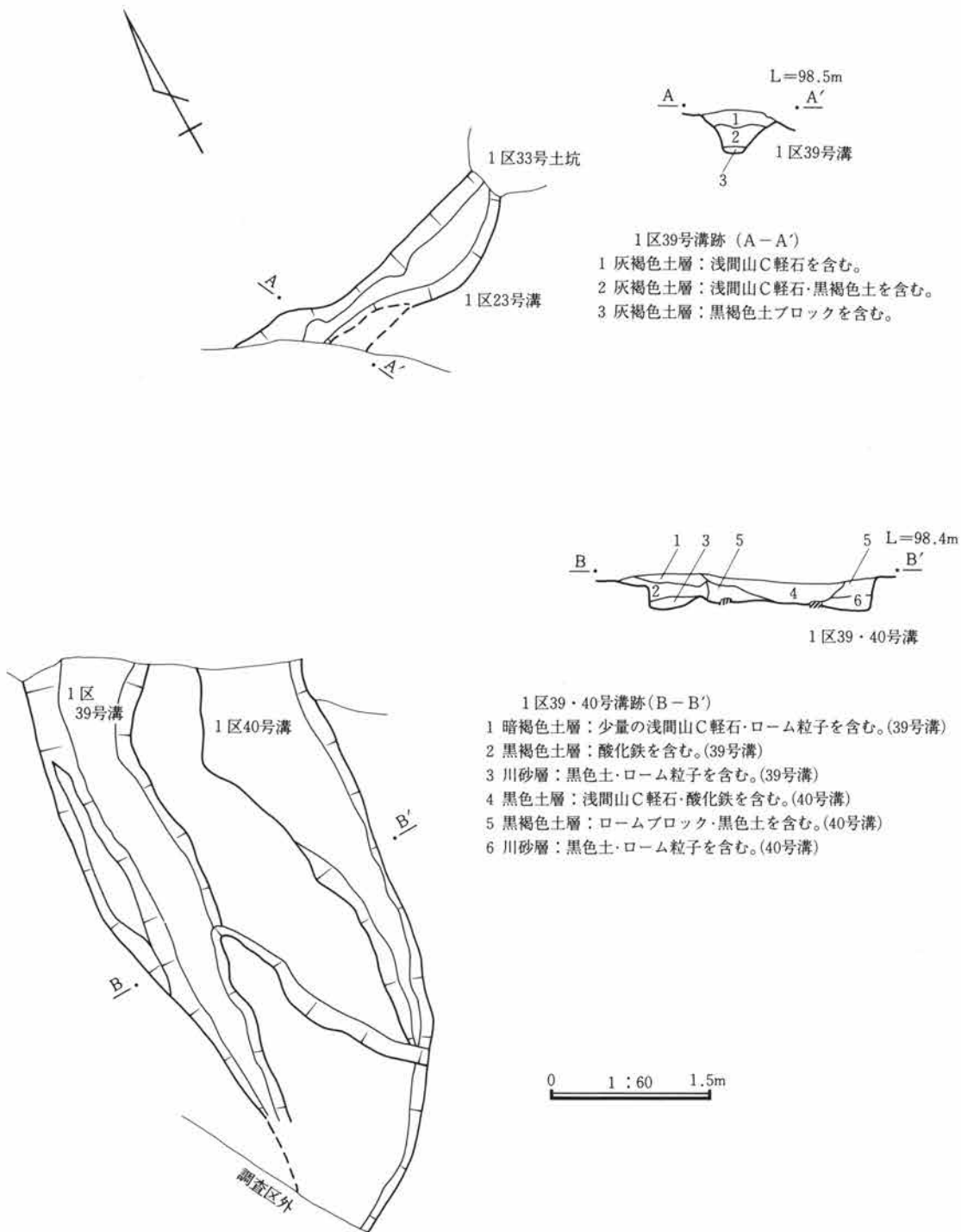


第80図 1区31・34・36号溝跡、37・38号溝跡断面

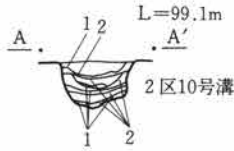
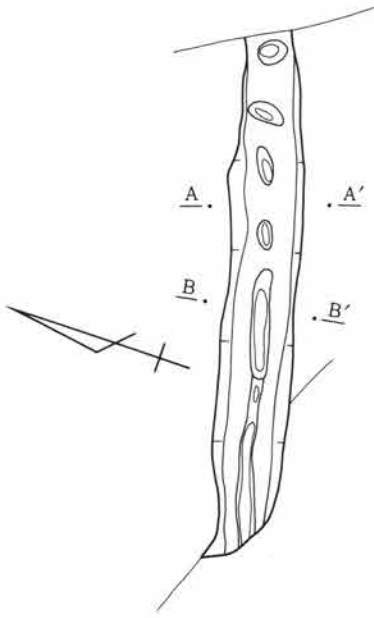




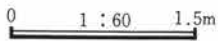
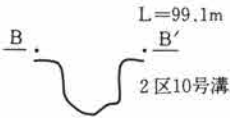
第81図 1区37・38号溝跡



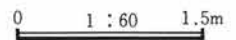
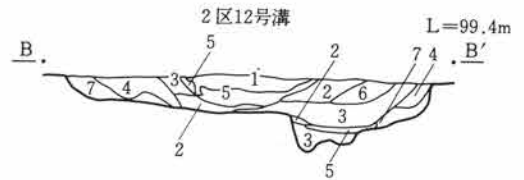
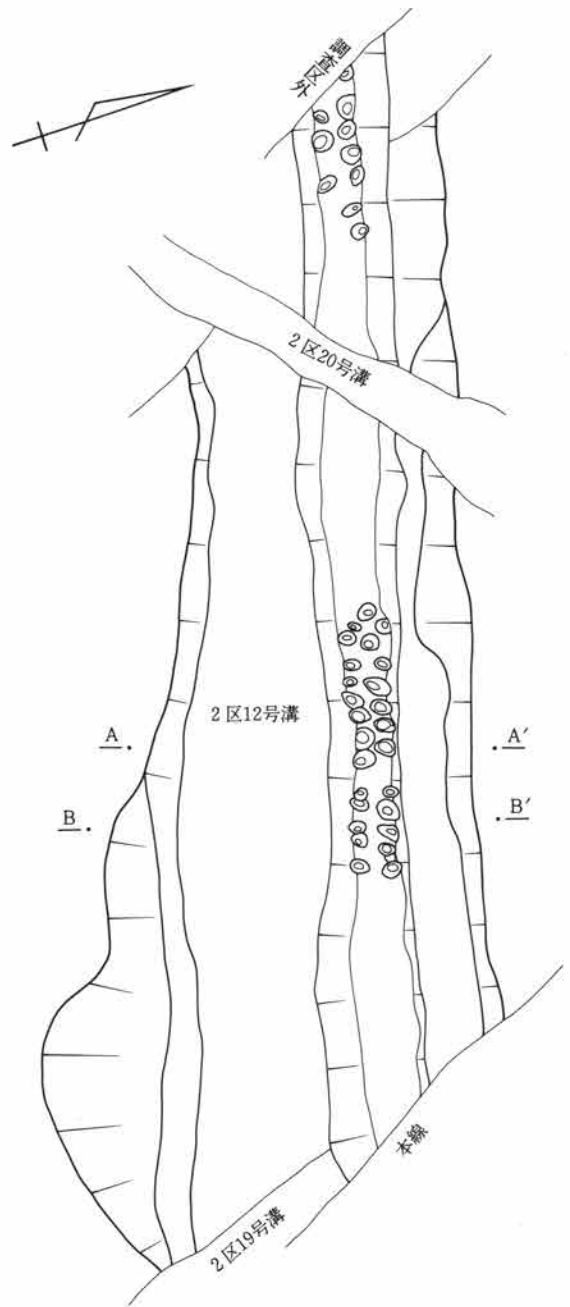
第82図 1区39・40号溝跡



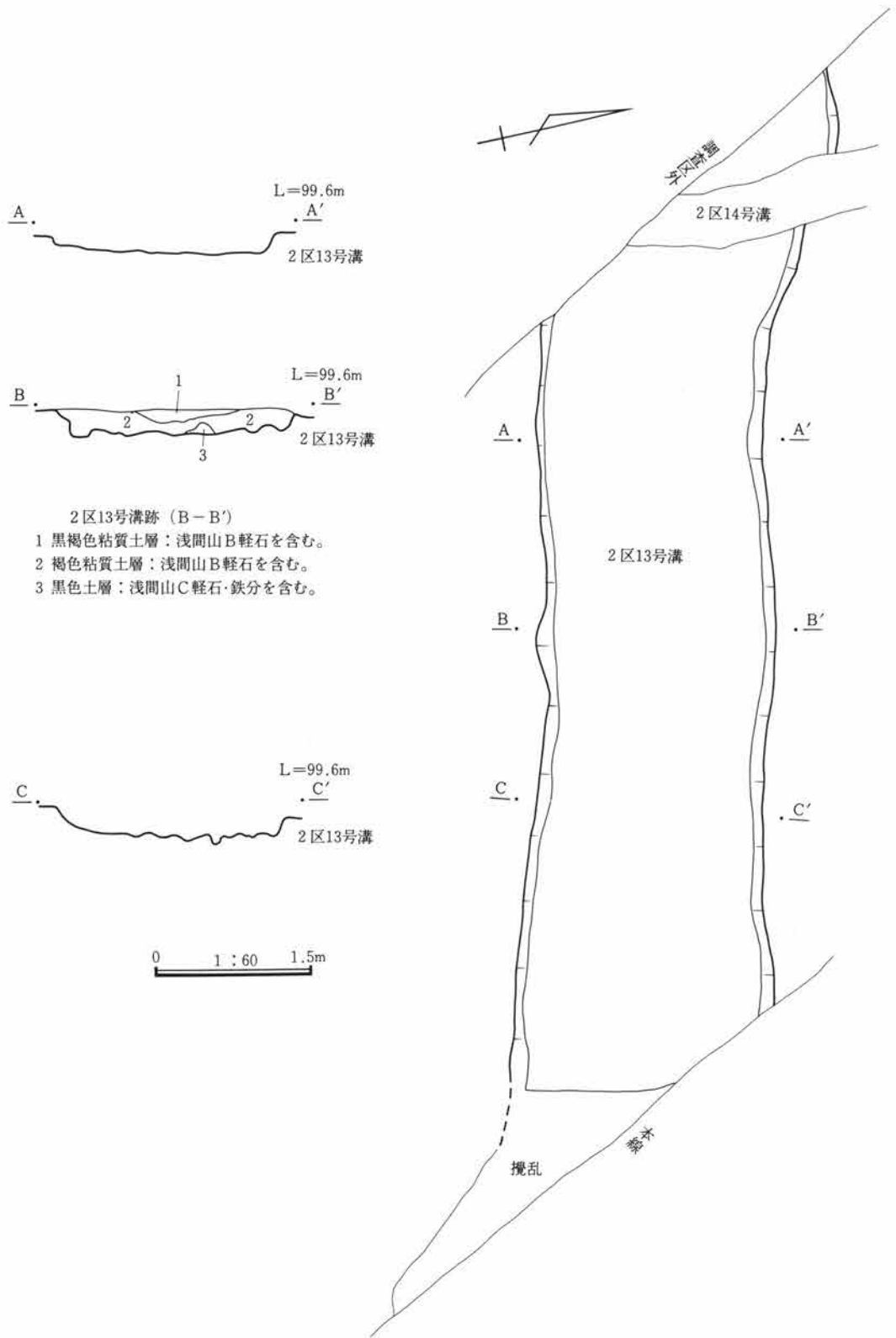
- 2区10号溝跡
- 1 灰褐色土層：ラミナ状の淡黄色細砂・鉄分の斑紋を含む。
  - 2 暗褐色土層：ラミナ状の黒色土を含む。



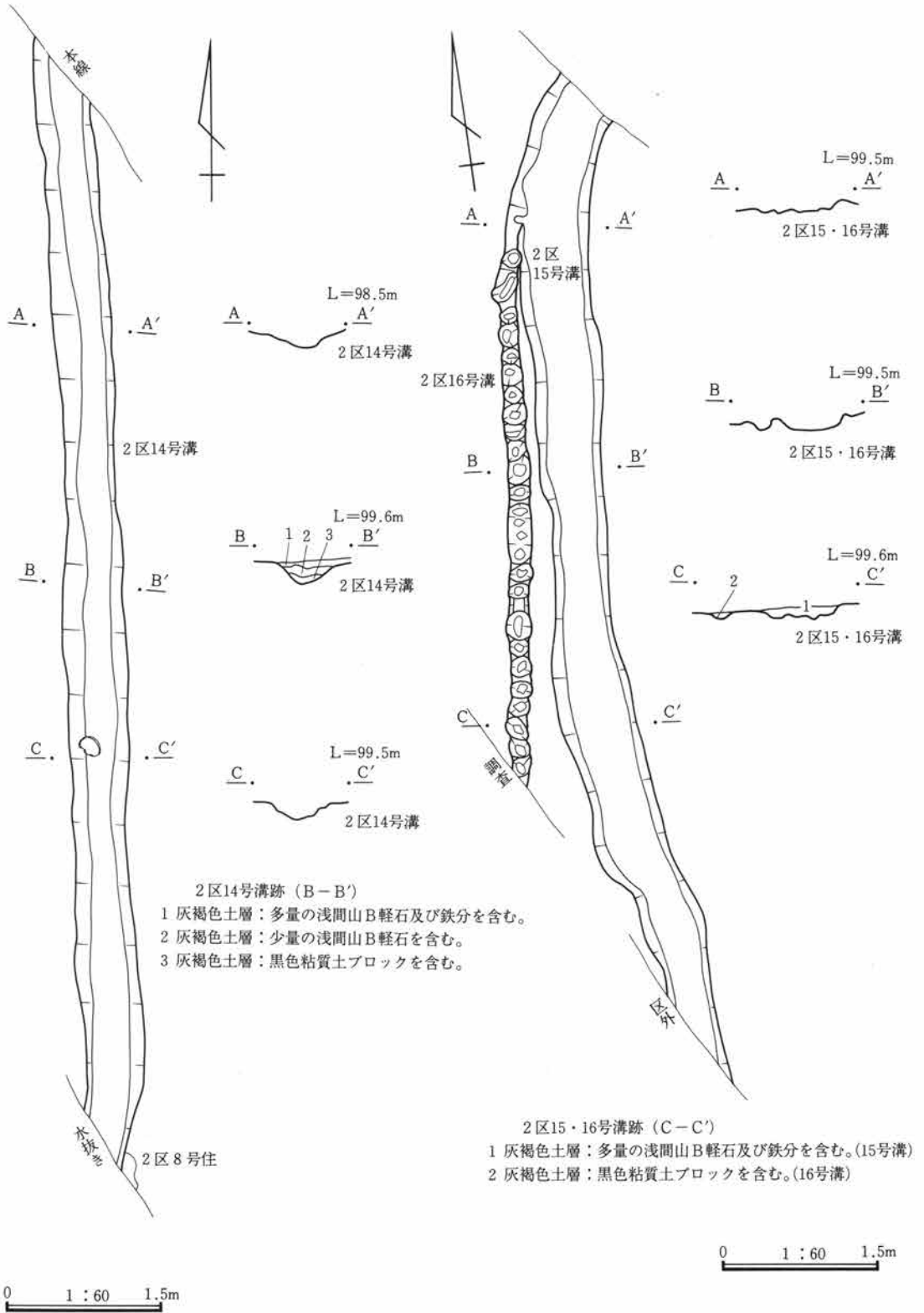
- 2区12号溝跡
- 1 砂層：やや粗い。浅間山B軽石を含む。
  - 2 細砂層：浅間山B軽石を含む。
  - 3 やや粗い砂と細砂の混土層。
  - 4 やや粗い砂と細砂の混土層：黒色土を含む。
  - 5 明灰褐色土層：細砂を含む。
  - 6 黒色土層：軽石を含む。
  - 7 黒色土層：黄褐色土ブロックを含む。



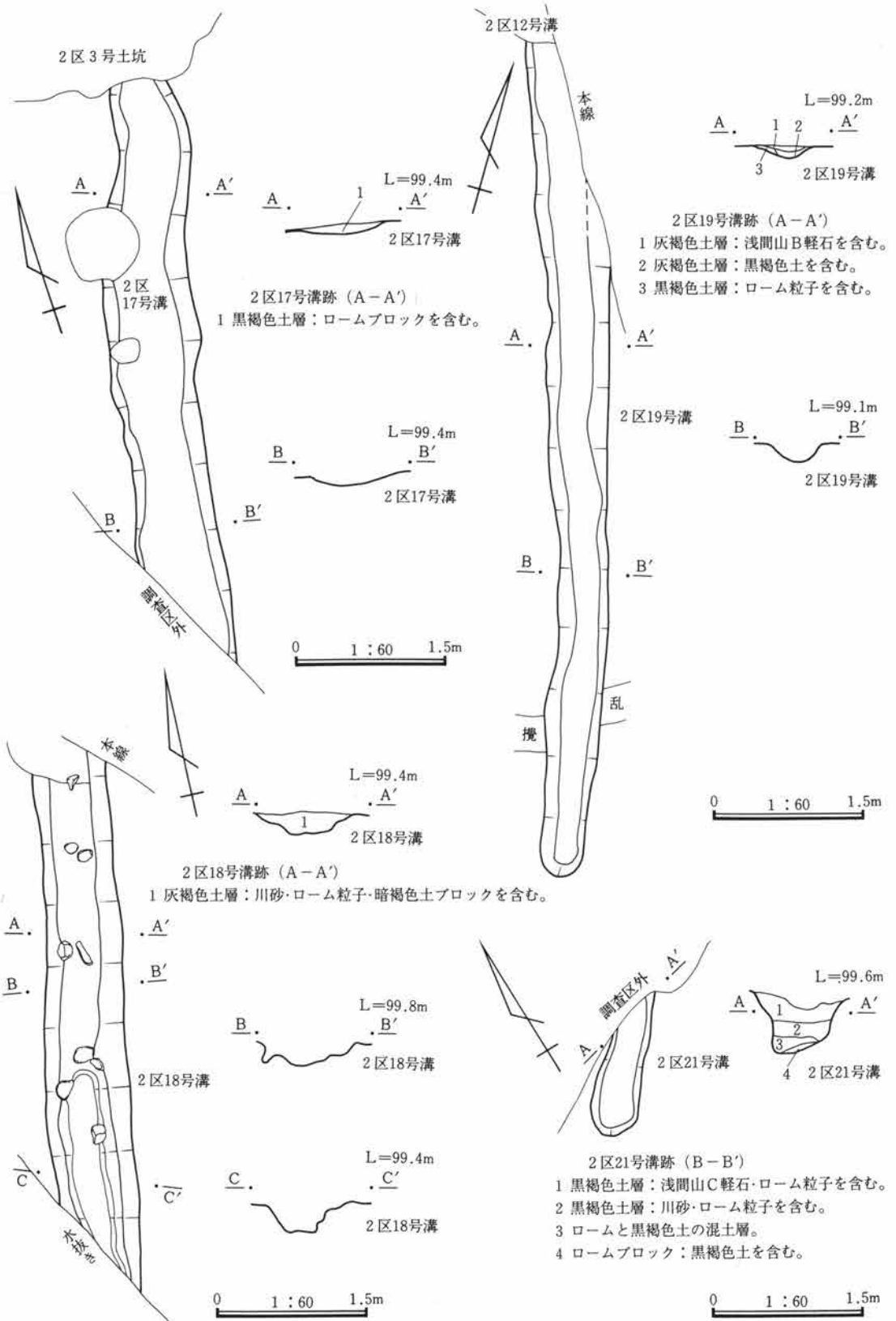
第83図 2区10・12号溝跡



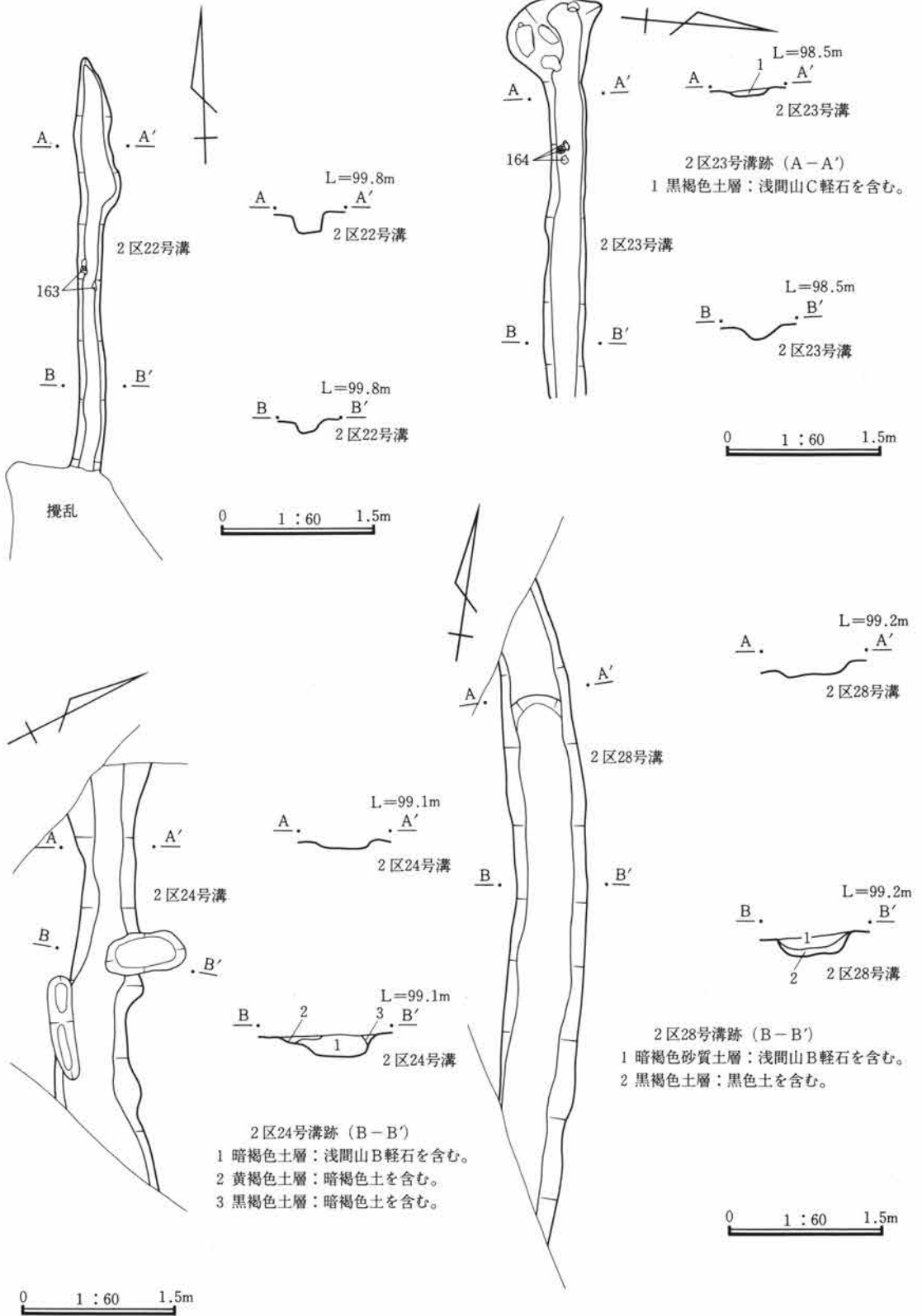
第84図 2区13号溝跡



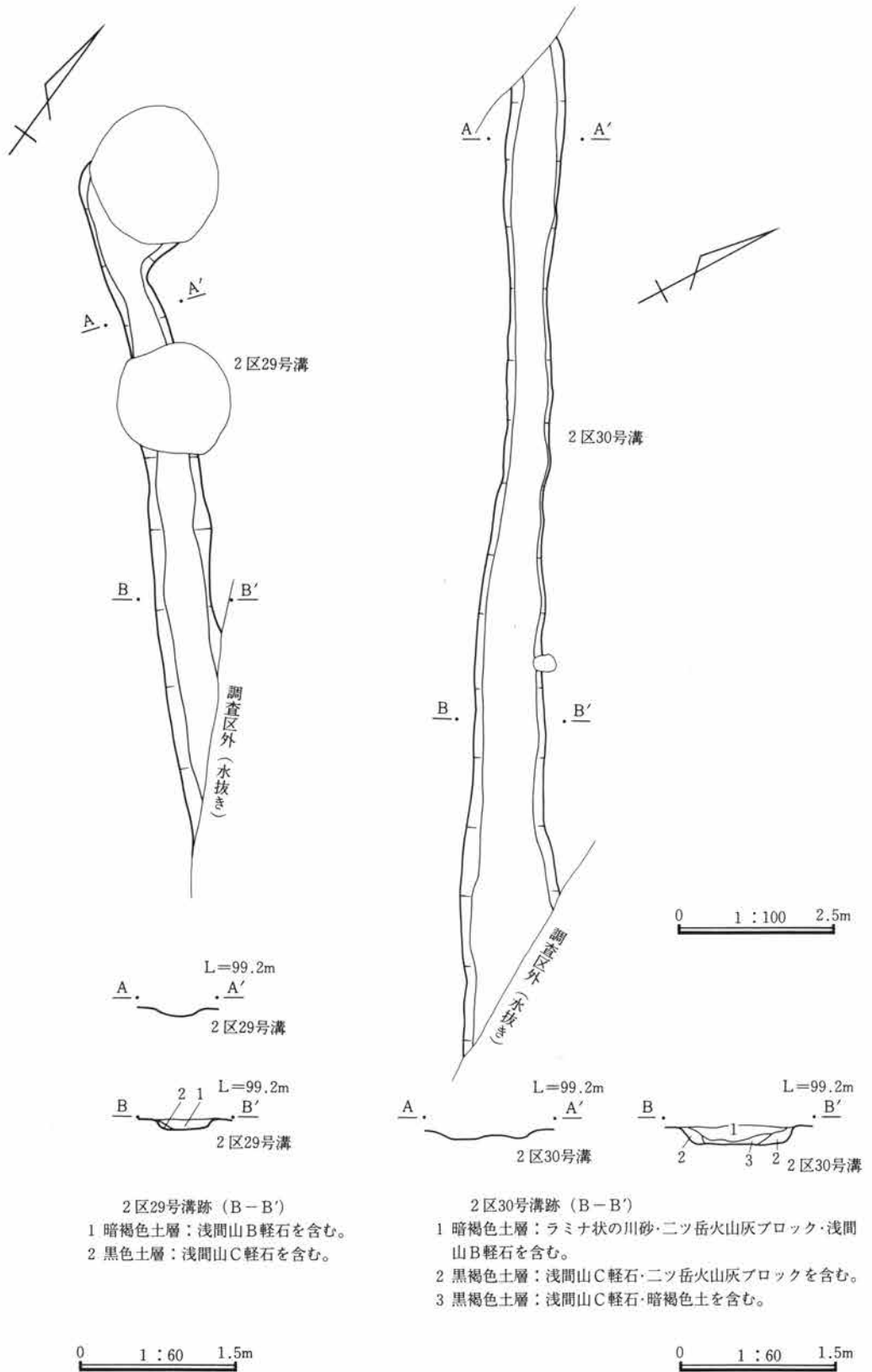
第85図 2区14・15・16号溝跡



第86図 2区17・18・19・21号溝跡

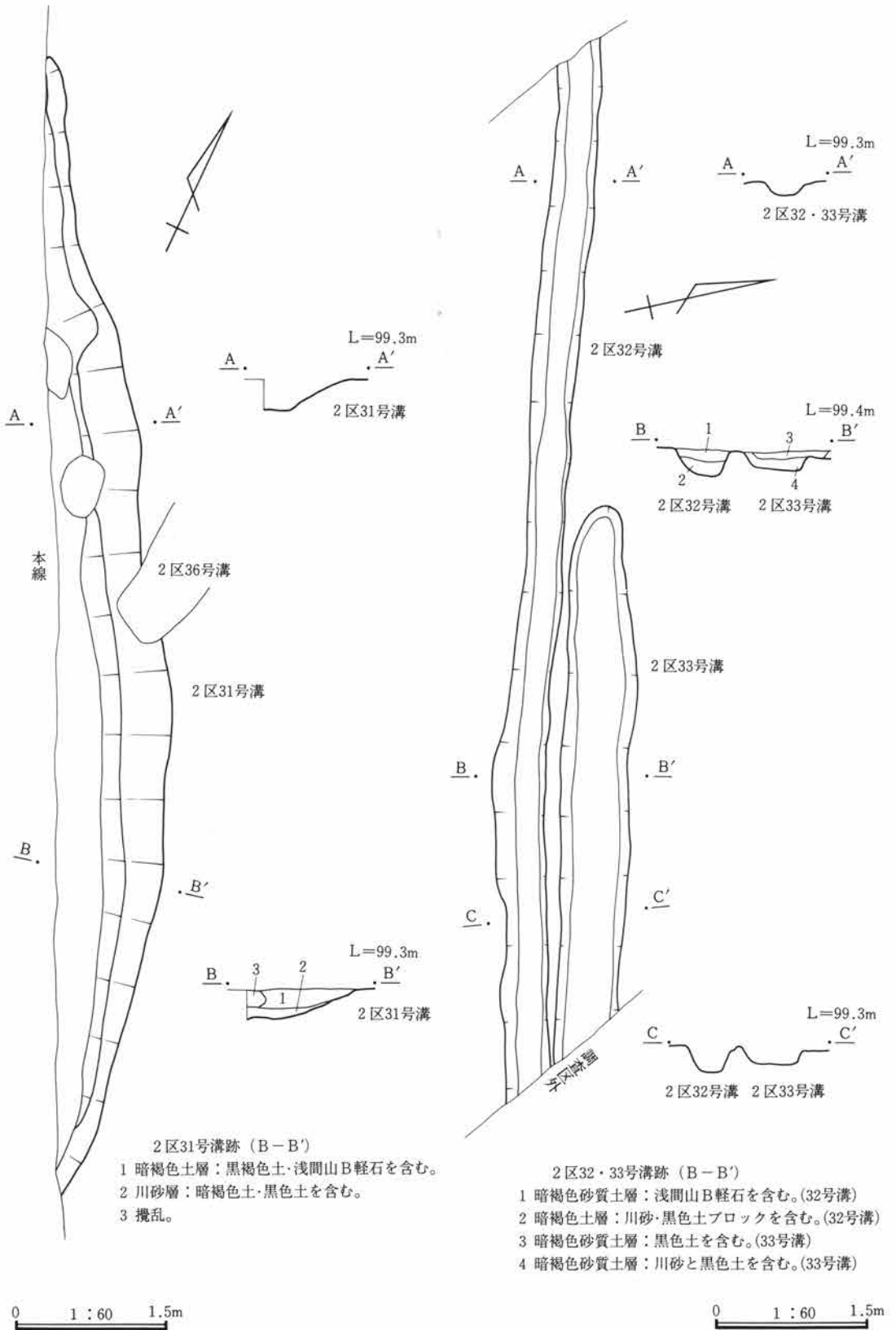


第87図 2区22・23・24・28号溝跡

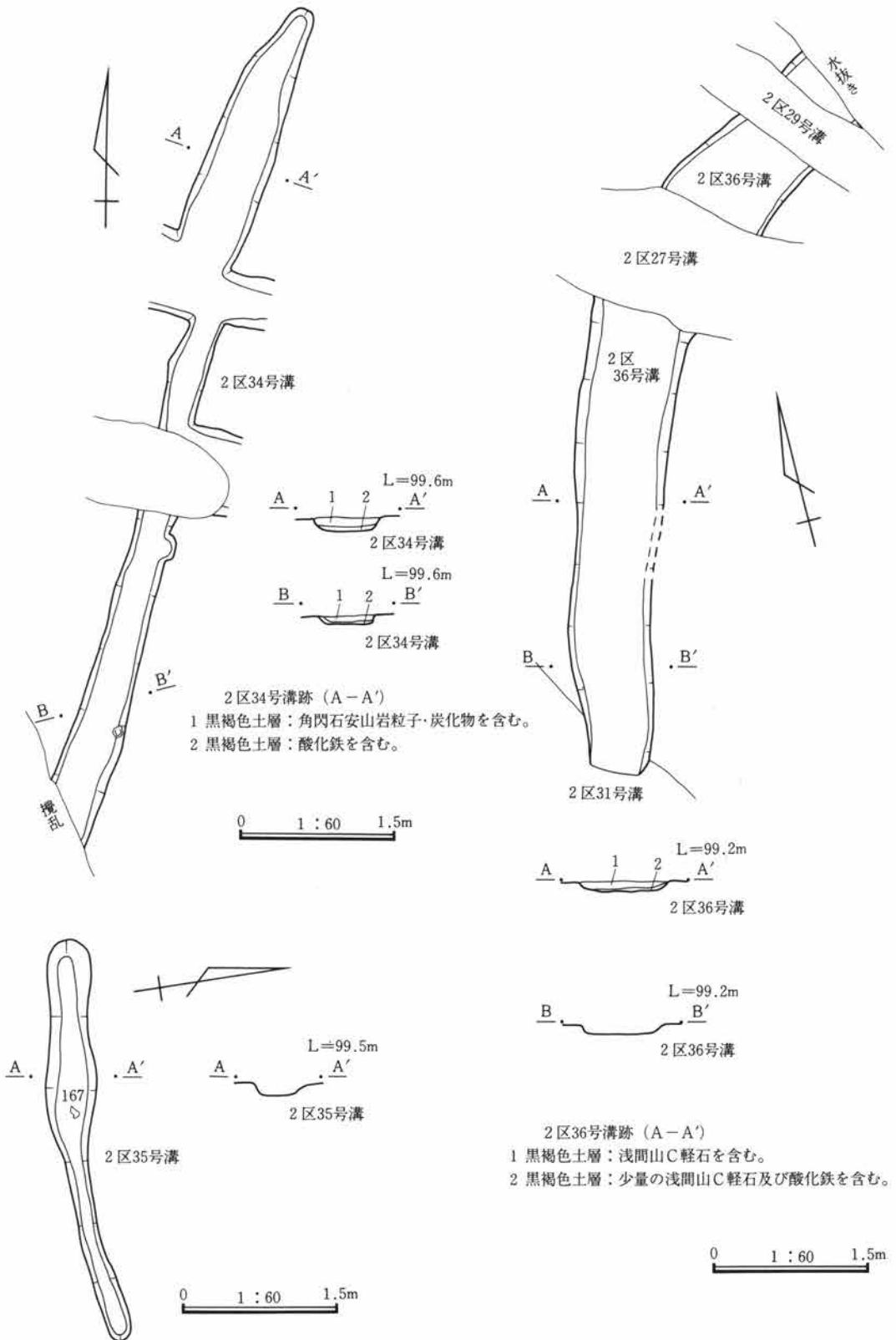


第88図 2区29・30号溝跡

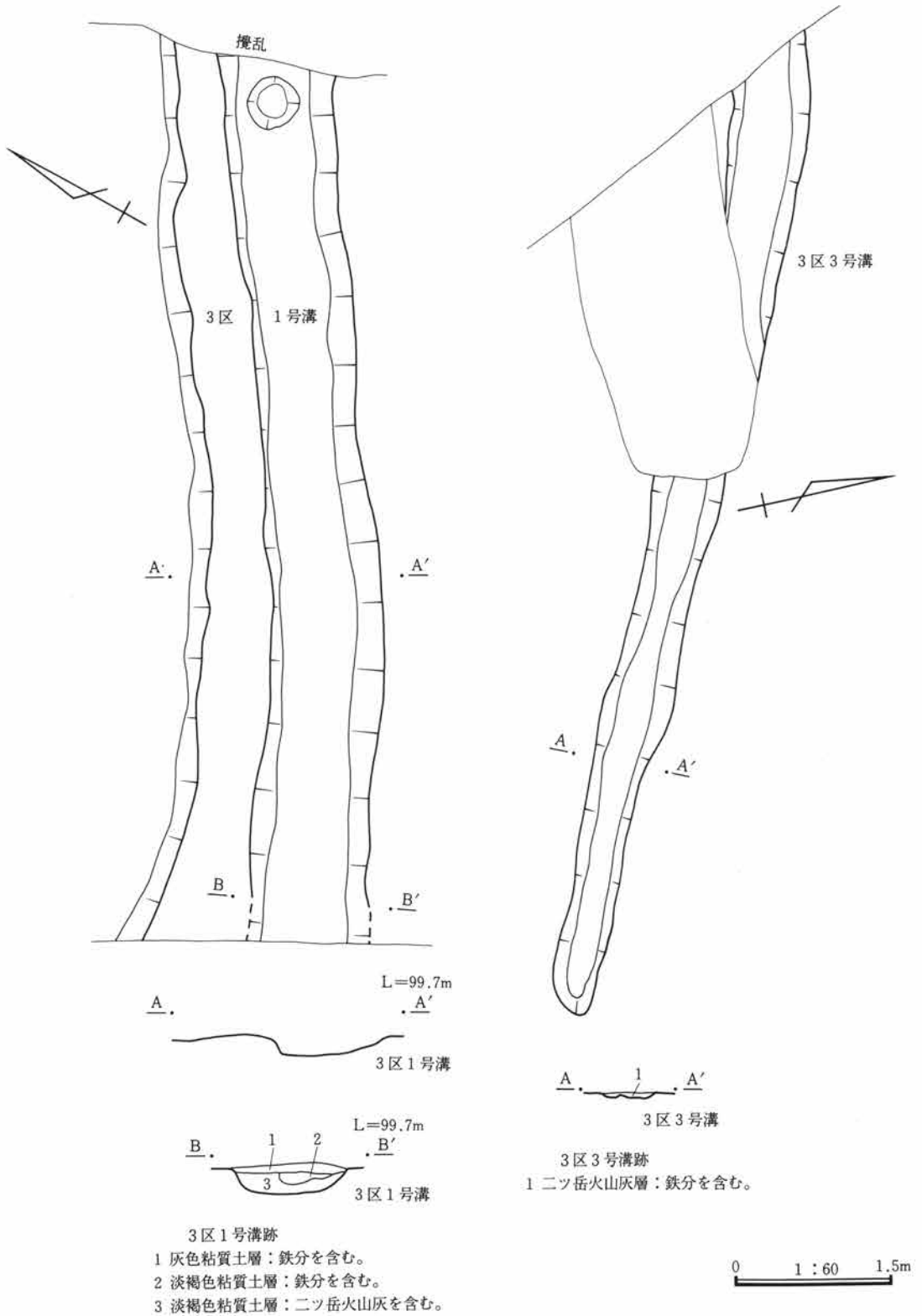




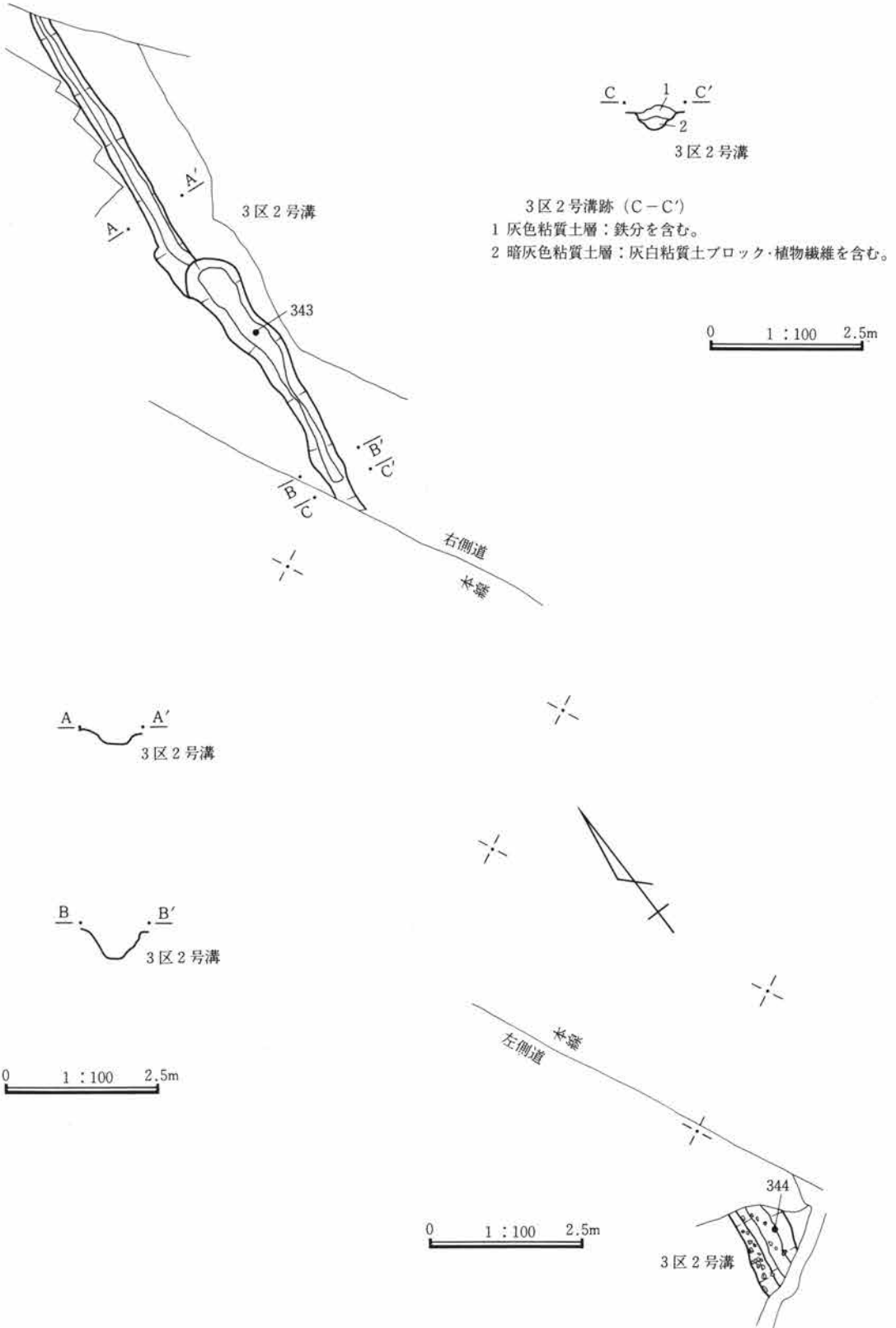
第89図 2区31・32・33号溝跡



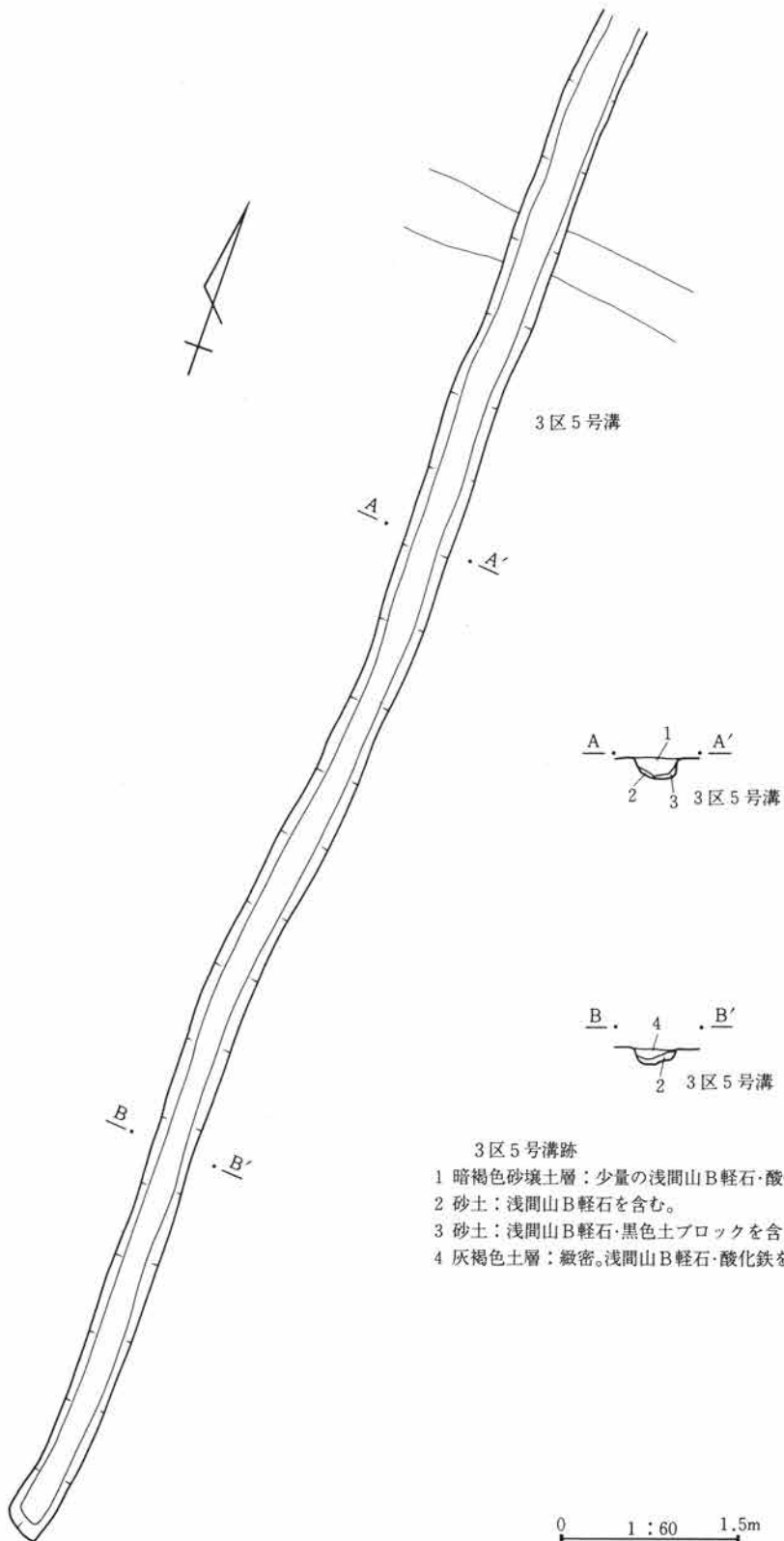
第90図 2区34・35・36号溝跡



第91図 3区1・3号溝跡



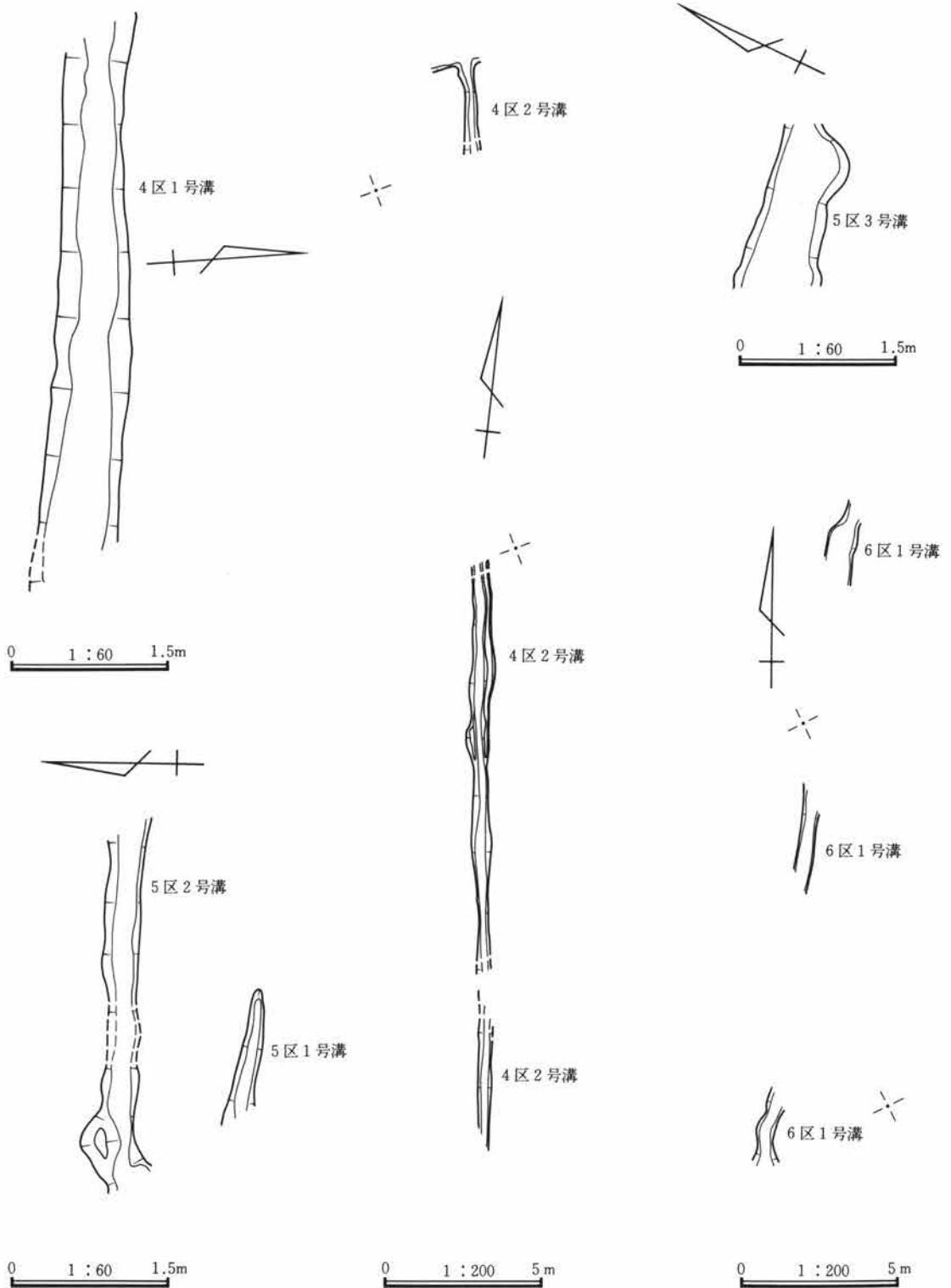
第92図 3区2号溝跡



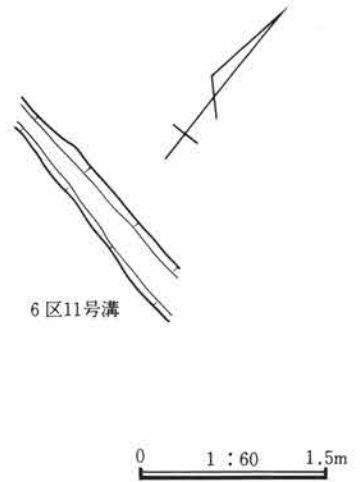
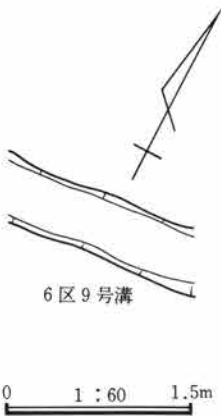
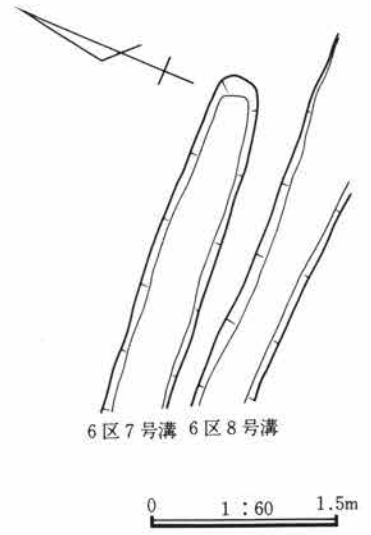
3区5号溝跡

- 1 暗褐色砂壤土層：少量の浅間山B軽石・酸化鉄を含む。
- 2 砂土：浅間山B軽石を含む。
- 3 砂土：浅間山B軽石・黒色土ブロックを含む。
- 4 灰褐色土層：緻密。浅間山B軽石・酸化鉄を含む。

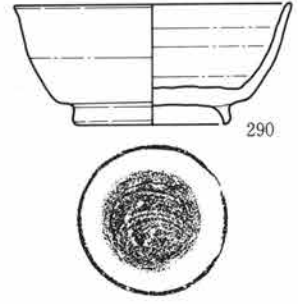
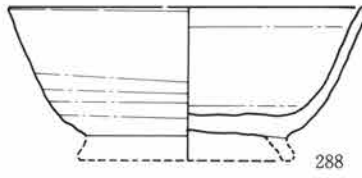
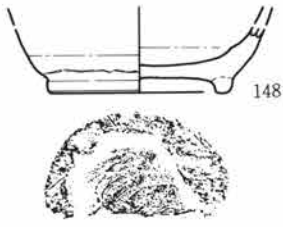
第93図 3区5号溝跡



第94図 4区1・2号、5区1・2・3号、6区1号溝跡

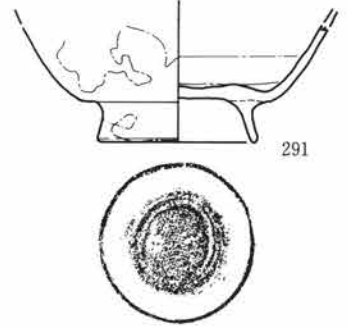
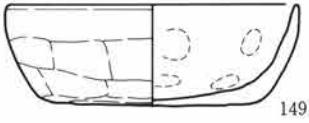


第95图 6区2·3·4·5·6·7·8·9·10·11·12·13号沟迹



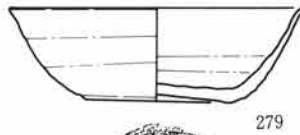
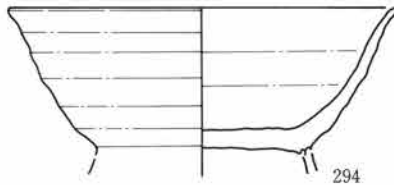
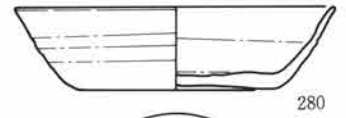
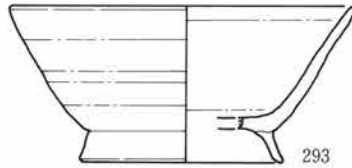
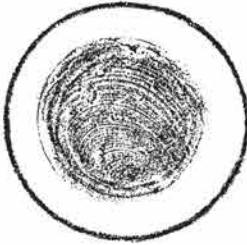
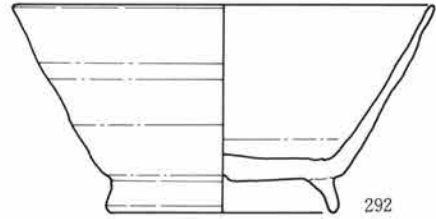
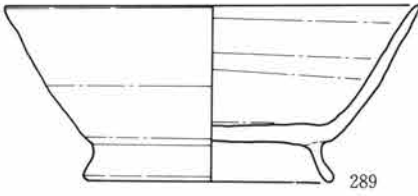
0 1 : 3 7.5cm

1区5号溝



0 1 : 3 7.5cm

1区6号溝

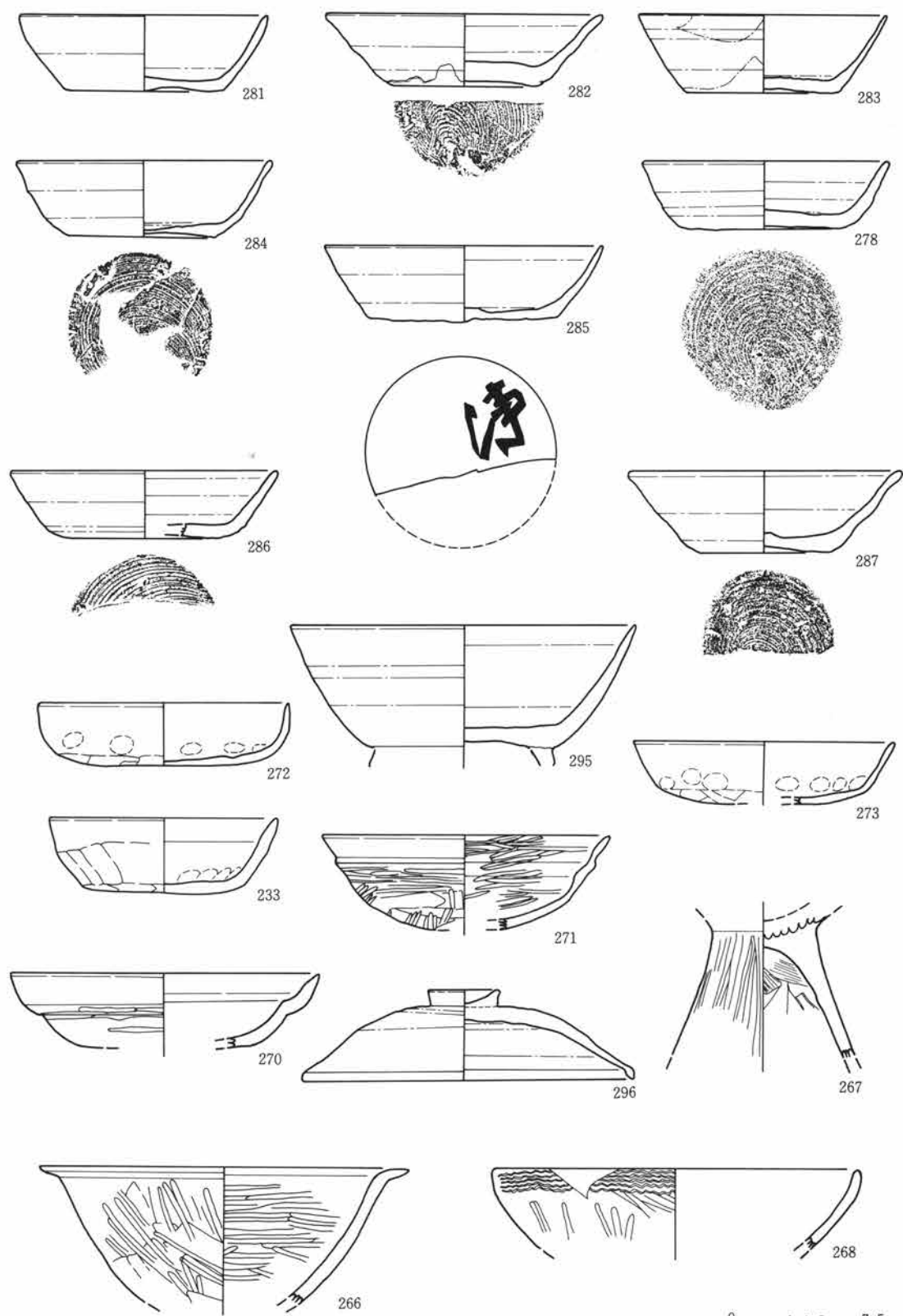


1区16号溝

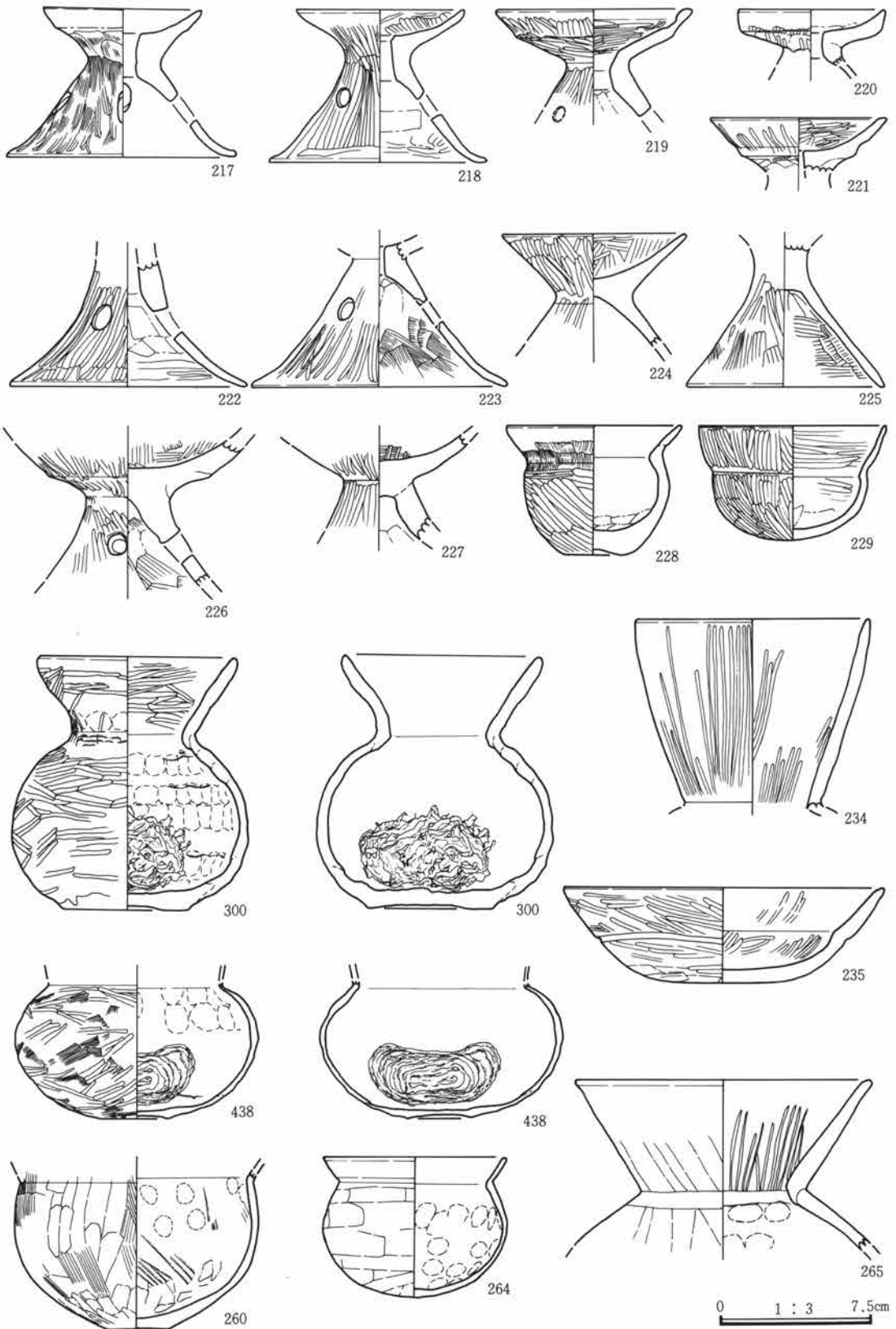
0 1 : 3 7.5cm

第96図 1区5・6号溝跡出土遺物、16号溝跡出土遺物①

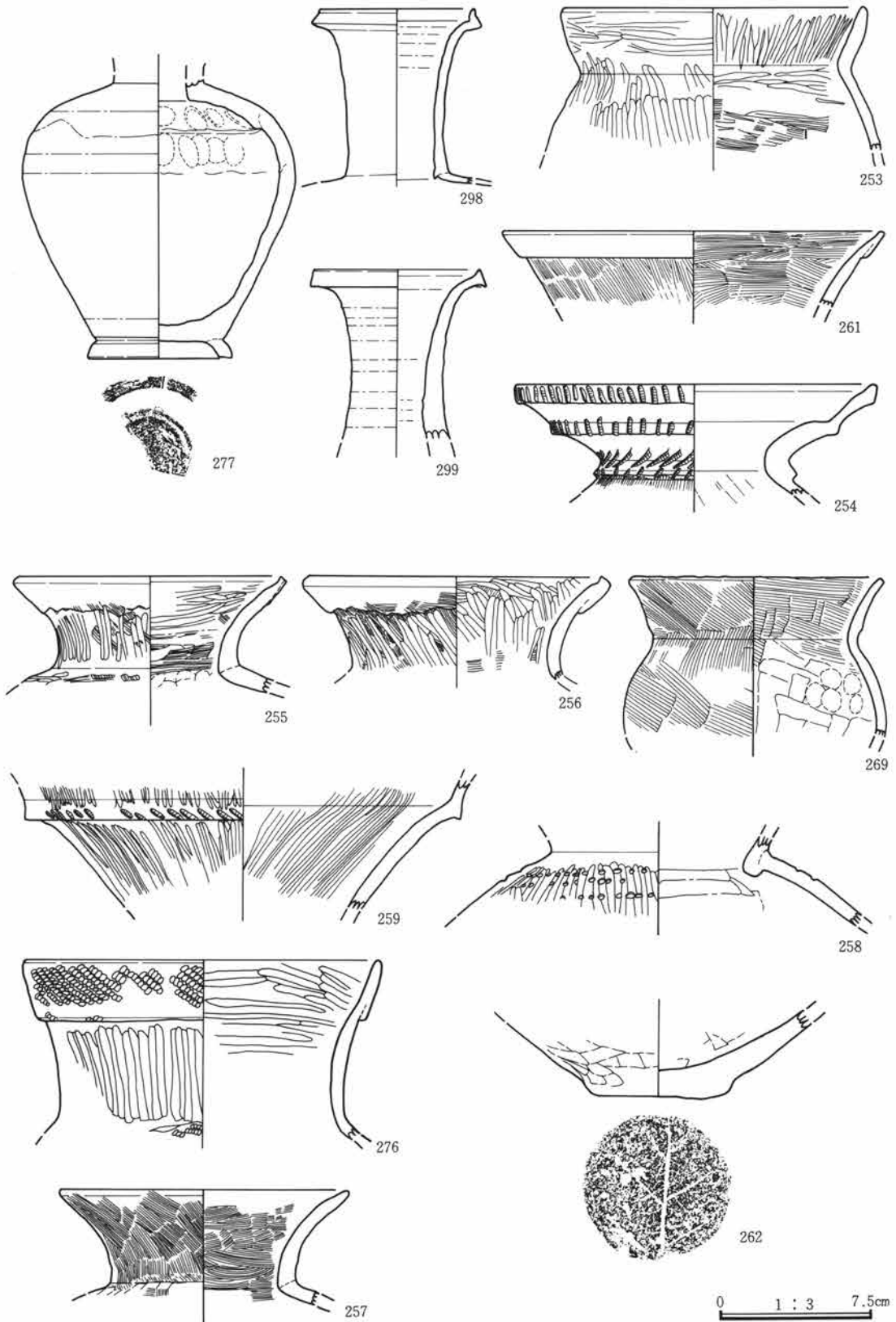




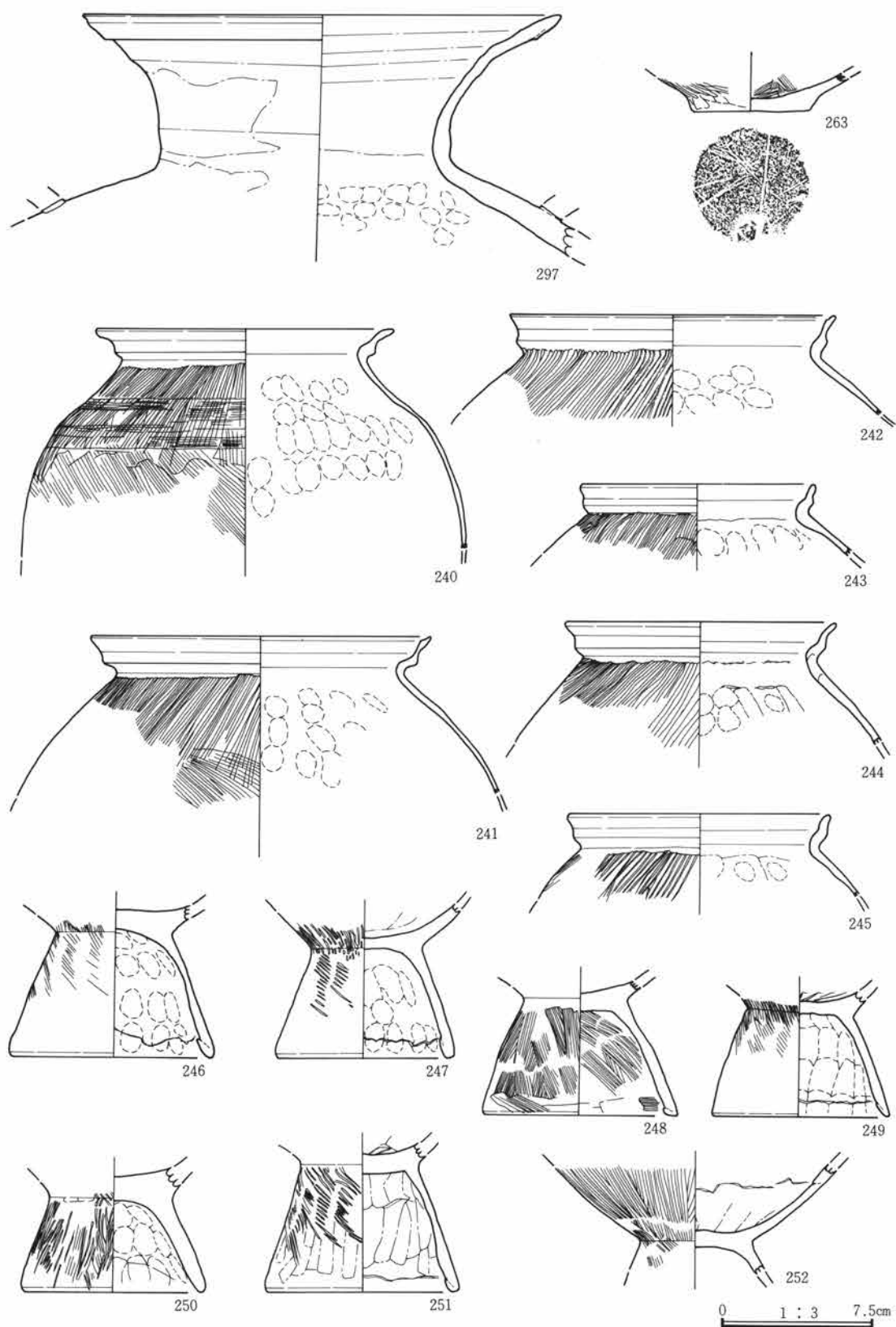
第97图 1区16号沟迹出土遗物②



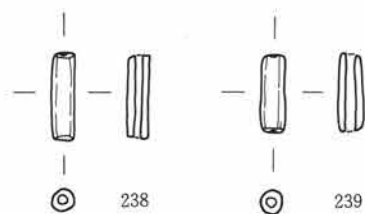
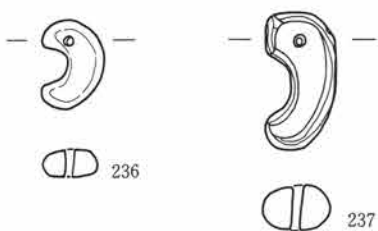
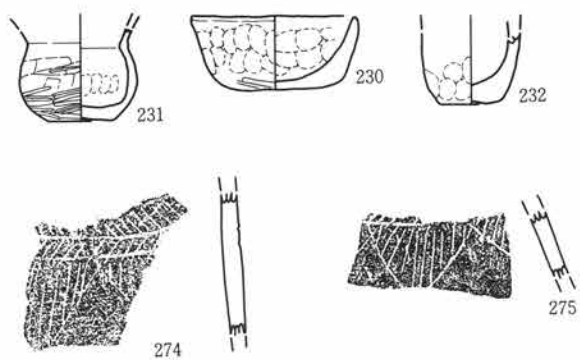
第98図 1区16号溝跡出土遺物③



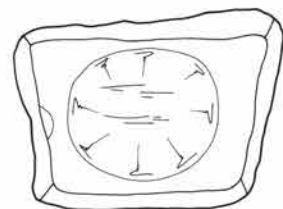
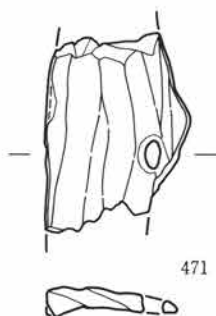
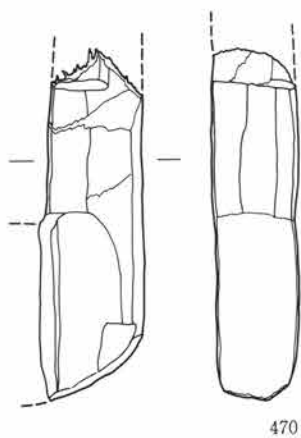
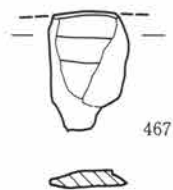
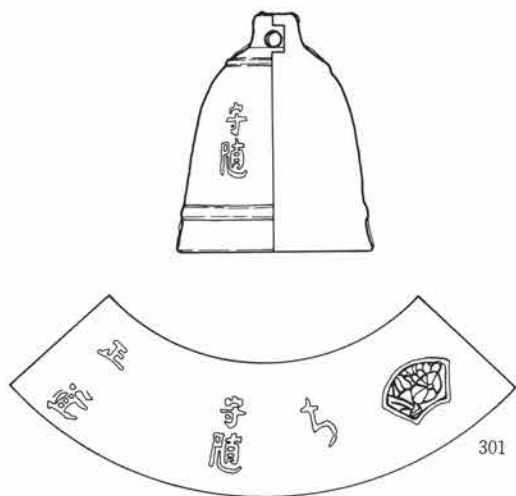
第99图 1区16号沟迹出土遗物④



第100図 1区16号溝跡出土遺物⑤



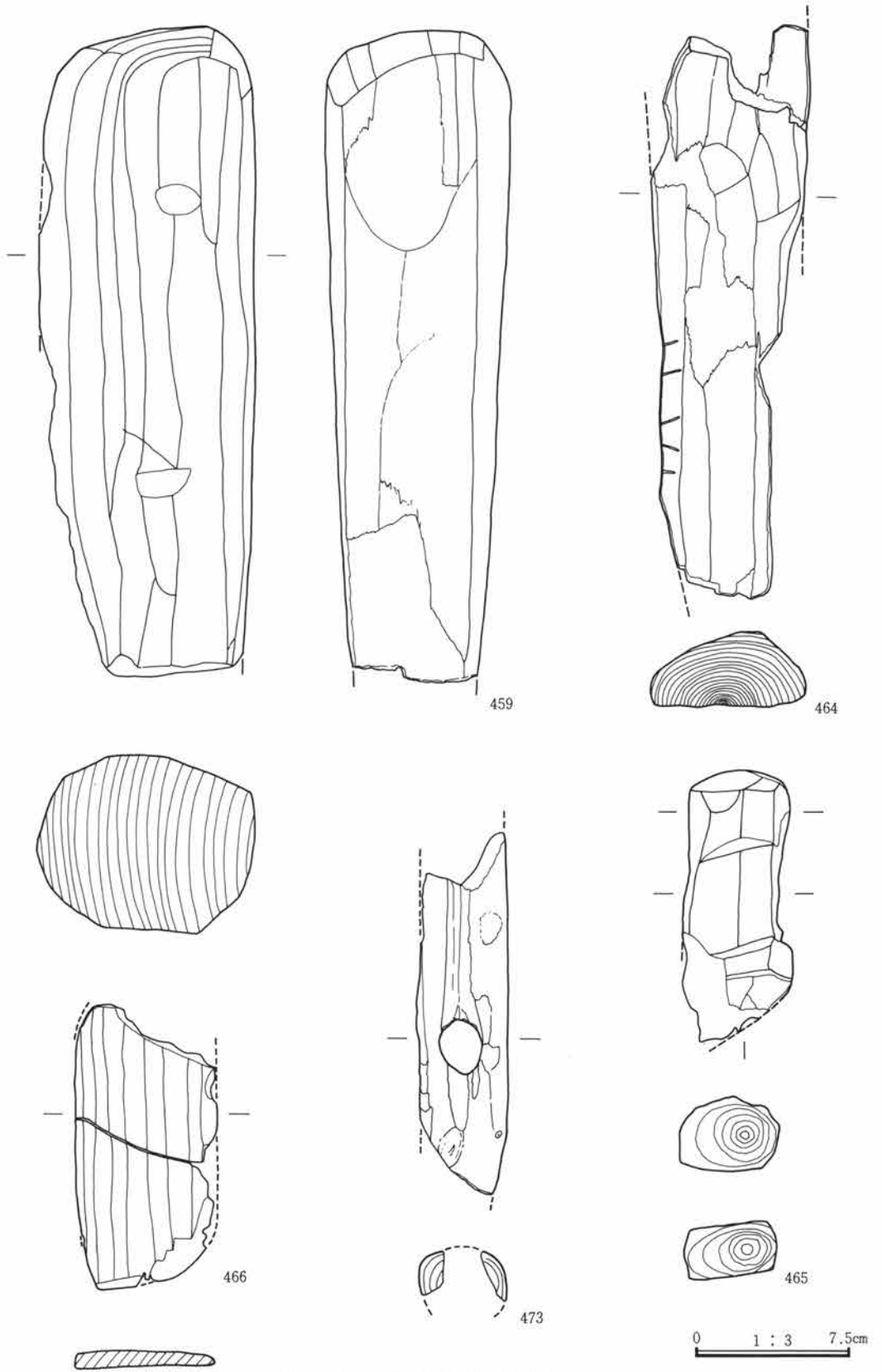
0 1 : 2 5 cm



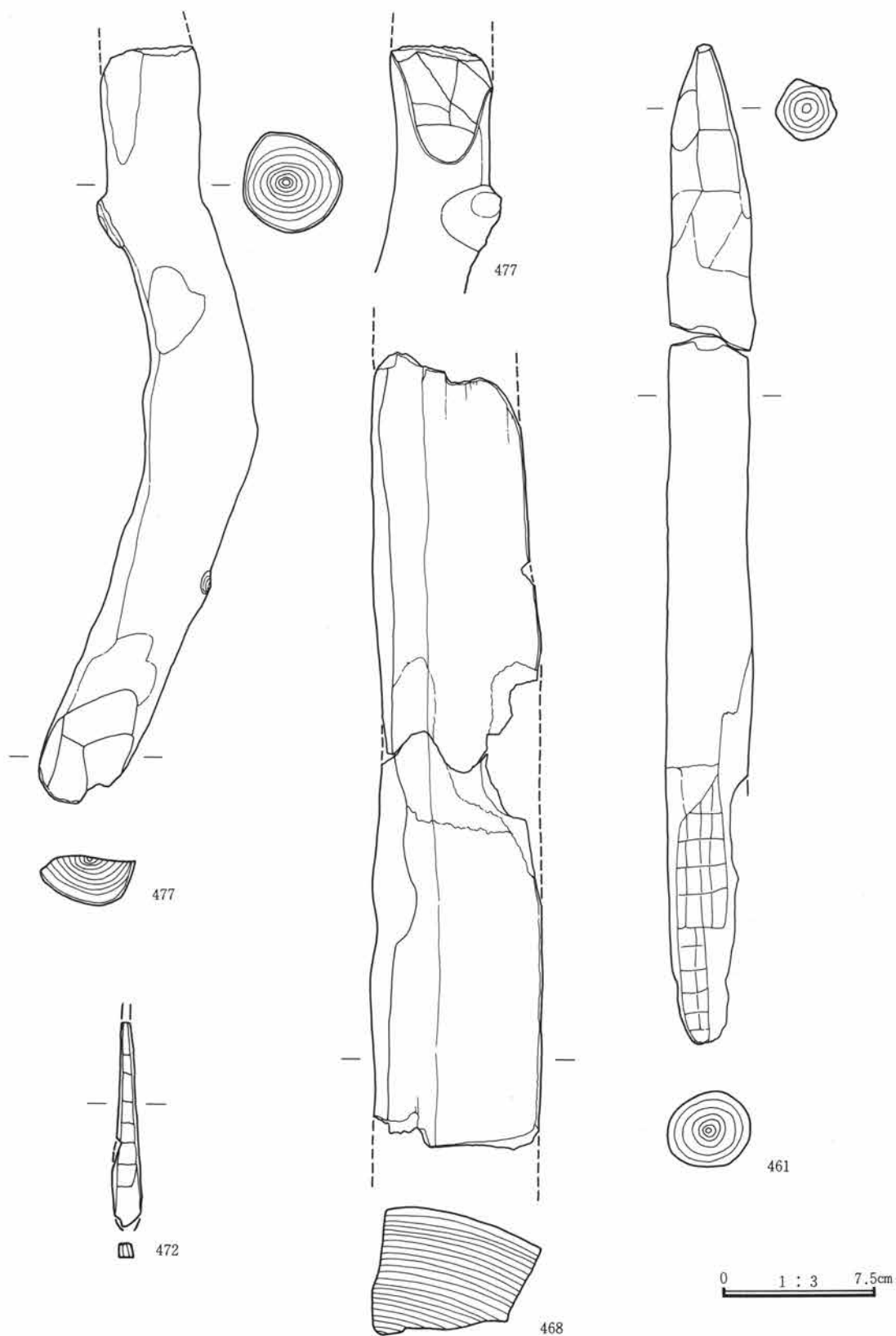
342

0 1 : 3 7.5cm

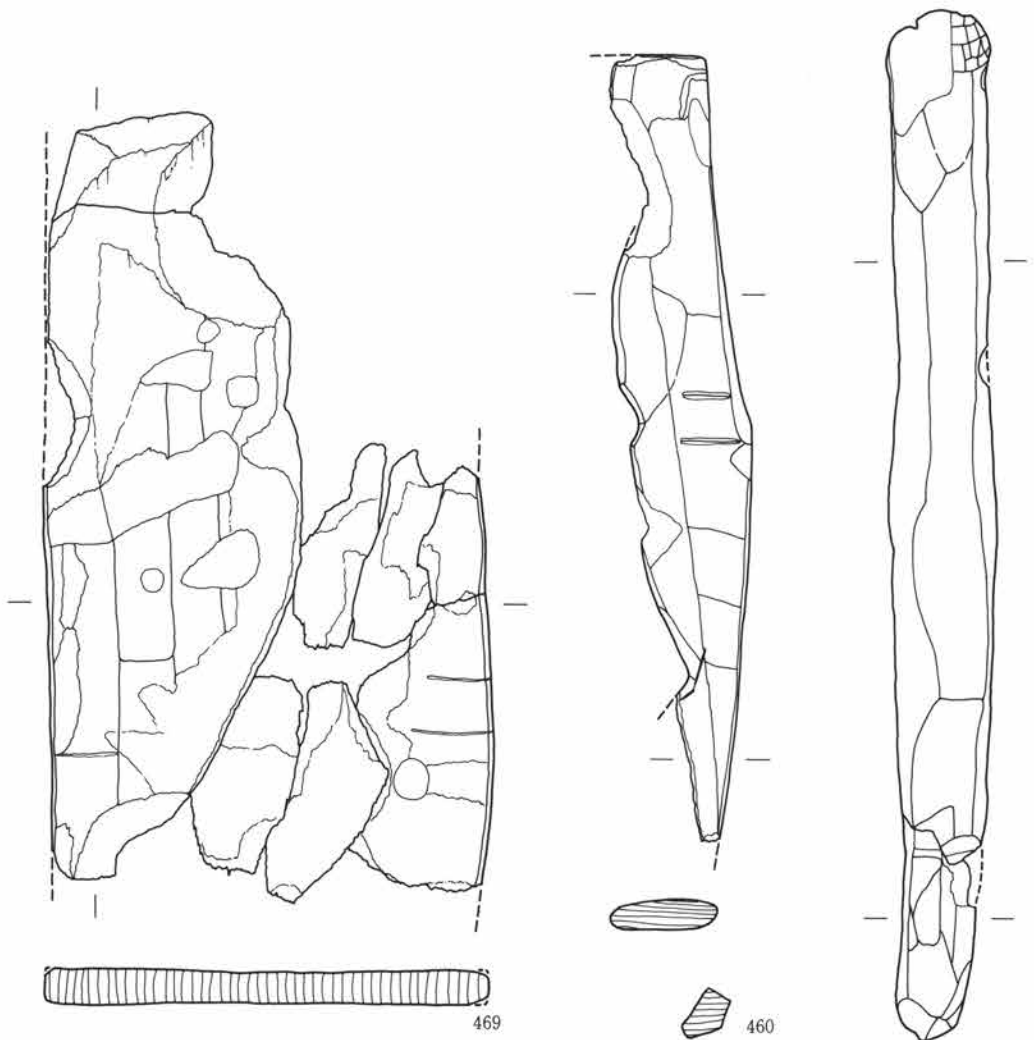
第101图 1区16号沟迹出土遗物⑥



第102図 1区16号溝跡出土遺物⑦



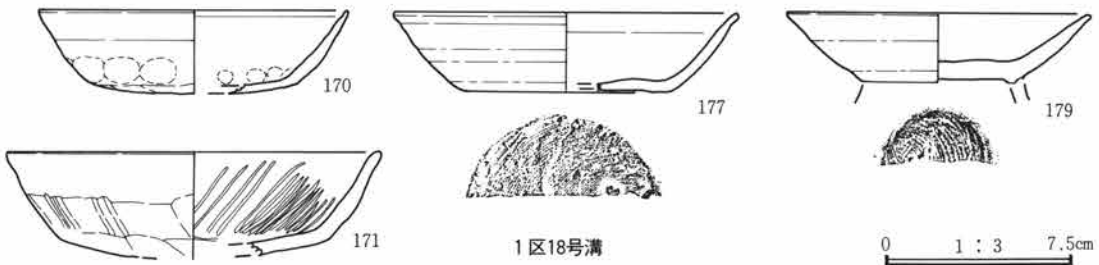
第103图 1区16号沟迹出土遗物⑧



1区16号溝



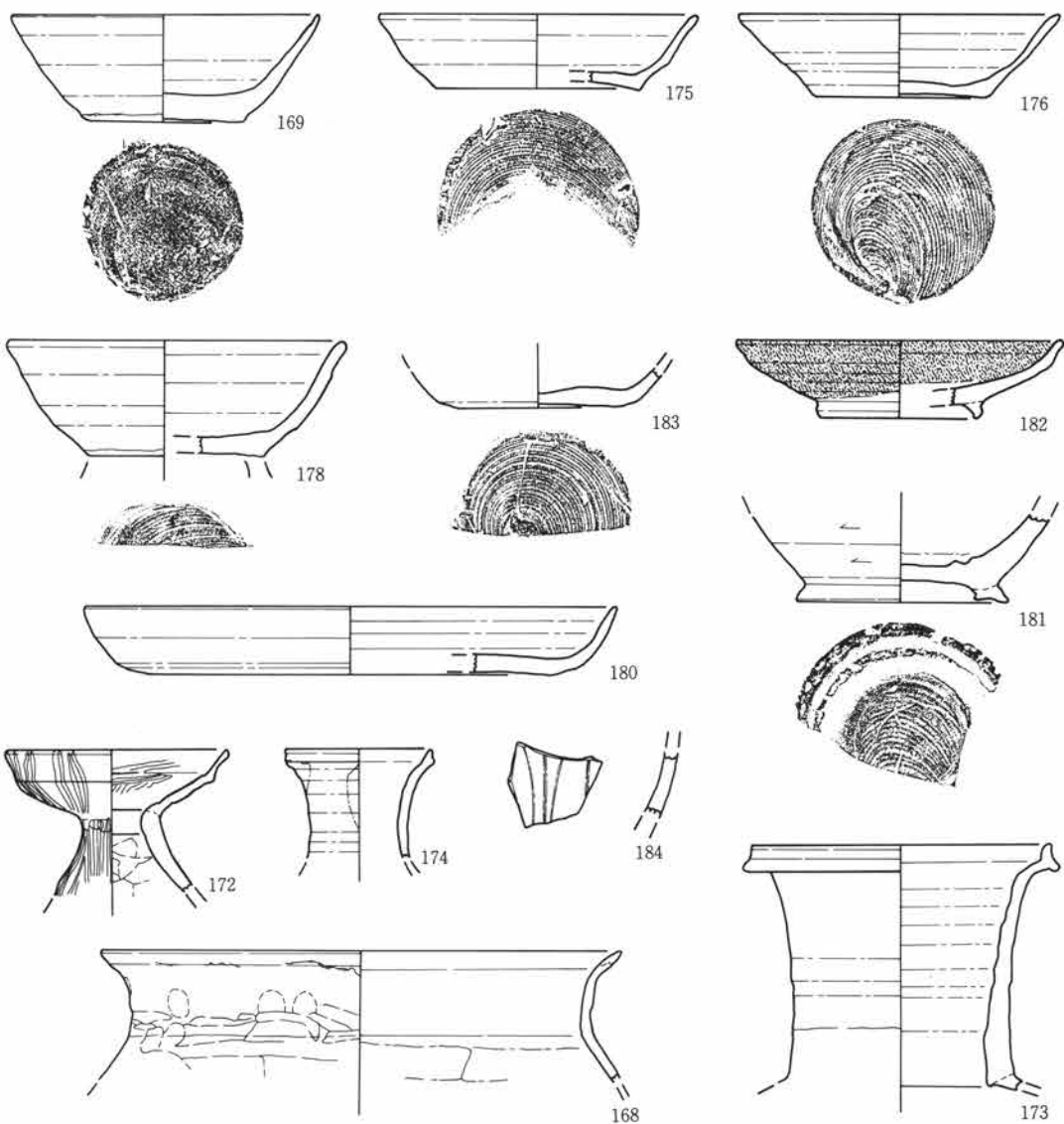
462



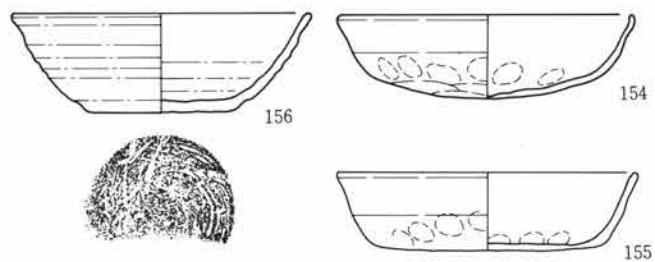
1区18号溝

第104図 1区16号溝跡出土遺物⑨、18号溝跡出土遺物①

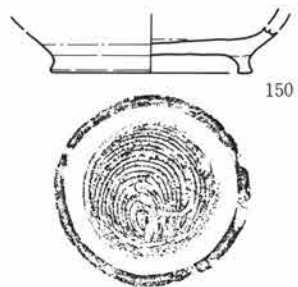




1区18号沟

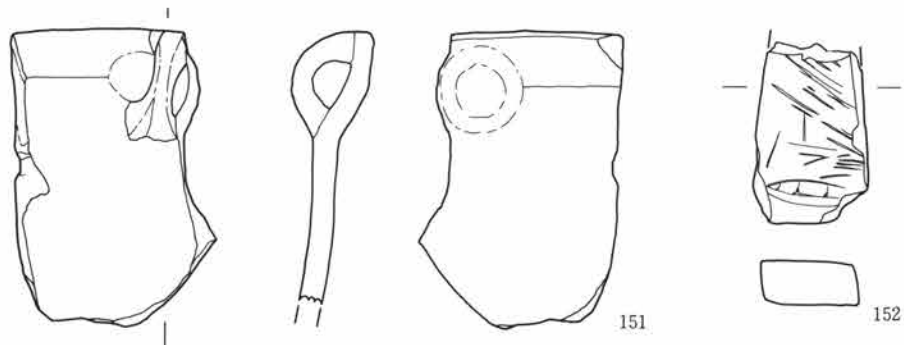


1区19号沟

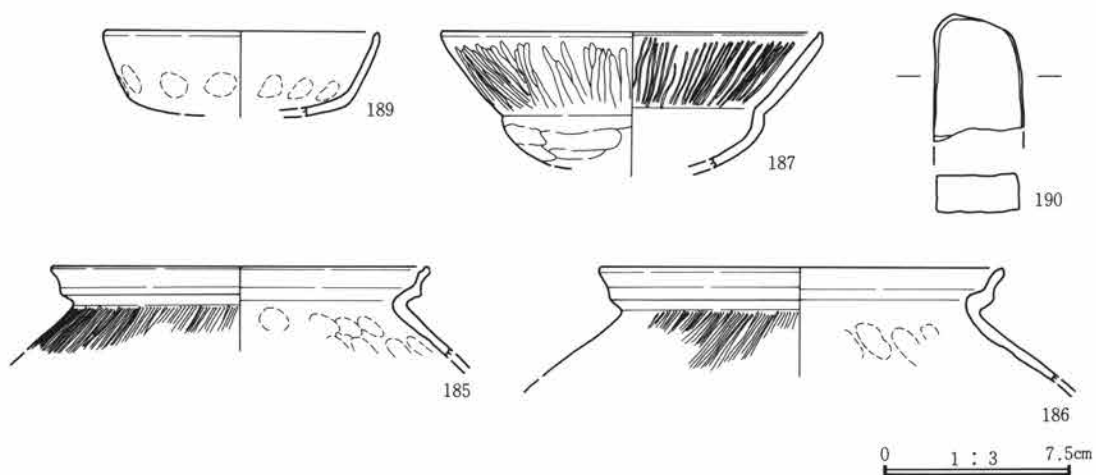


1区20号沟

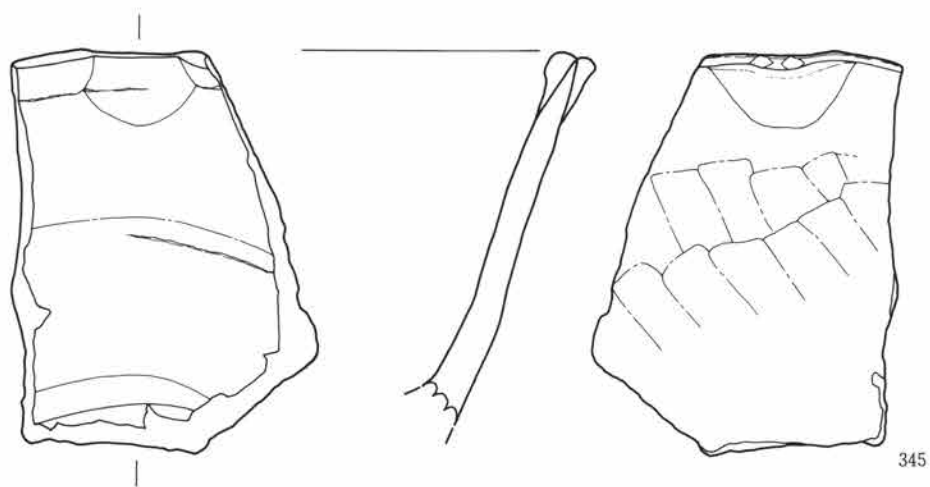
第105图 1区18号沟迹出土遗物②、19·20号沟迹出土遗物



1区21号溝

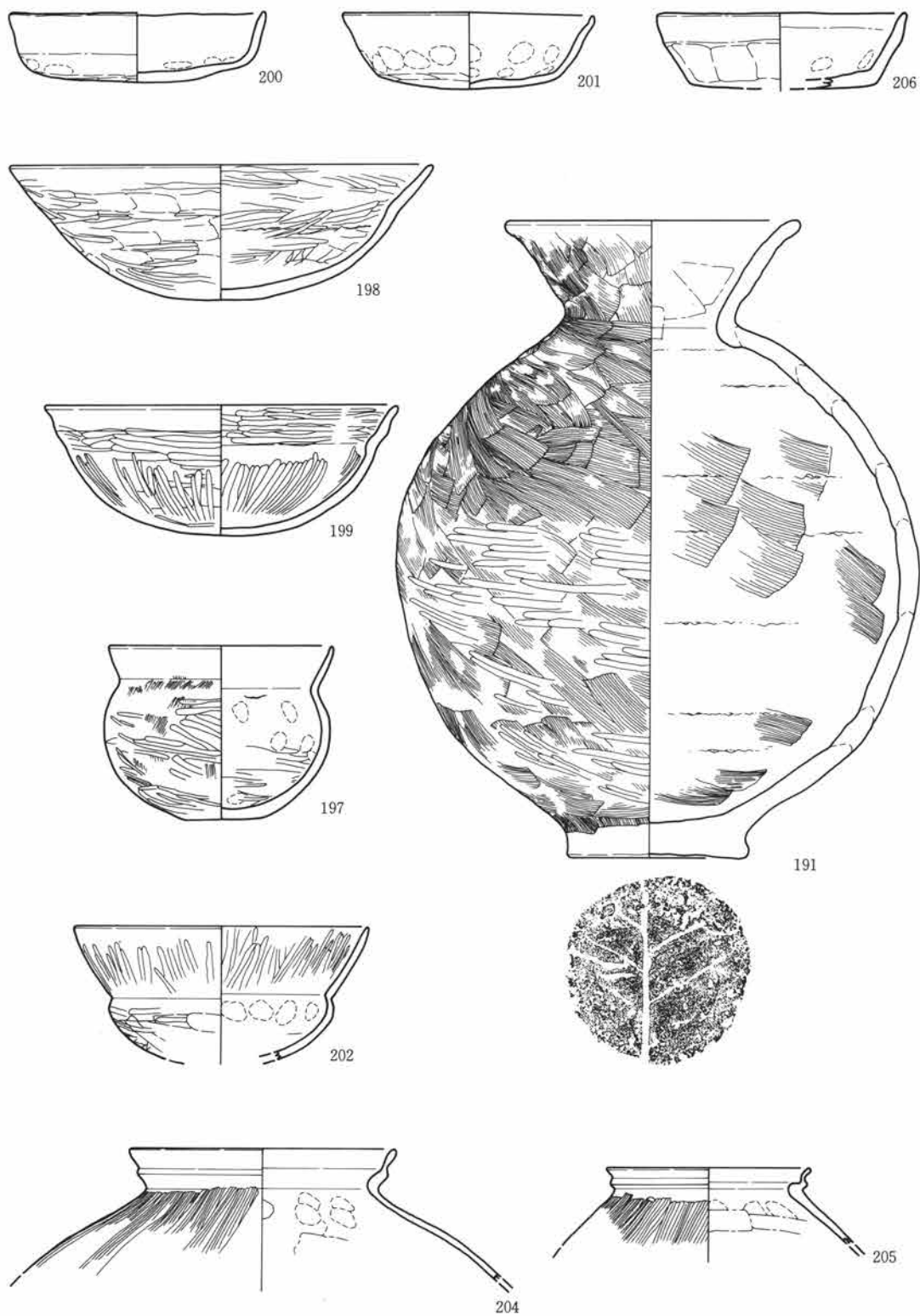


1区22号溝



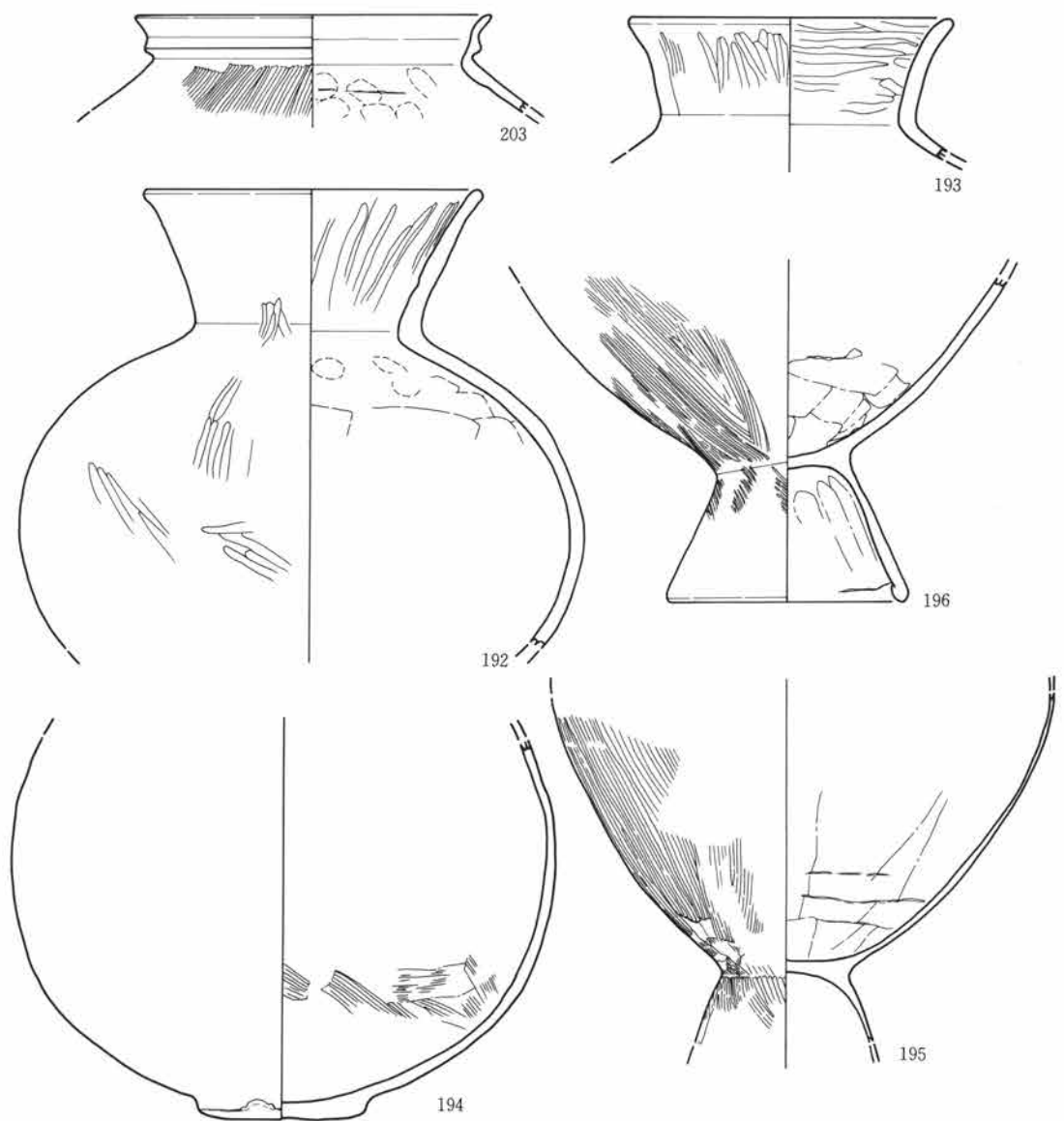
1区28号溝

第106図 1区21・22・28号溝跡出土遺物



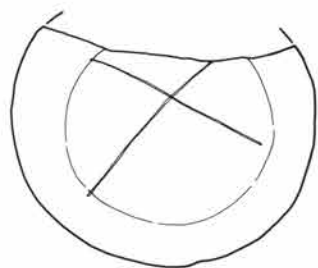
0 1 : 3 7.5cm

第107图 1区29号沟迹出土遗物①



0 1 : 3 7.5cm

1区29号溝



0 1 : 3 7.5cm



1区31号溝

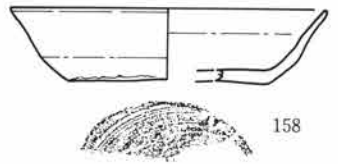
第108図 1区29号溝跡出土遺物②、31号溝跡出土遺物



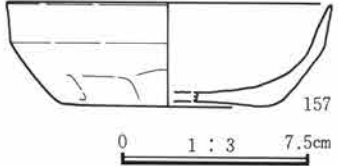
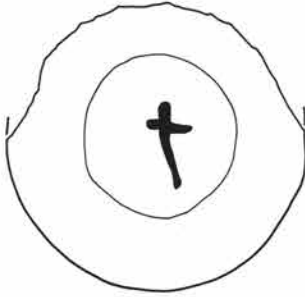
153



159



158



157

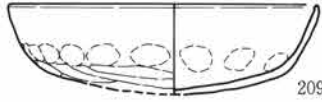
0 1 : 3 7.5cm

1区35号沟



0 1 : 3 7.5cm

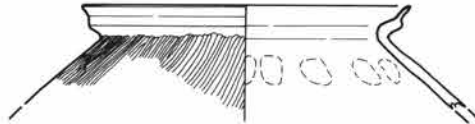
1区33号沟



209



210



208



0 1 : 3 7.5cm

1区37号沟



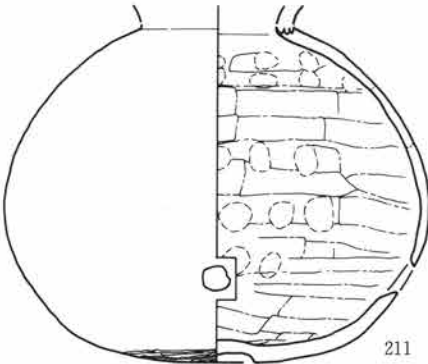
213



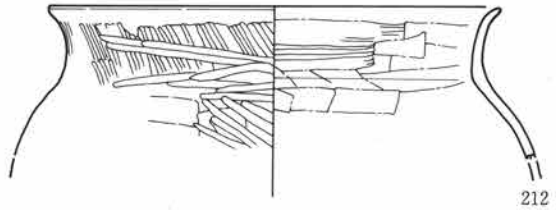
214



215



211

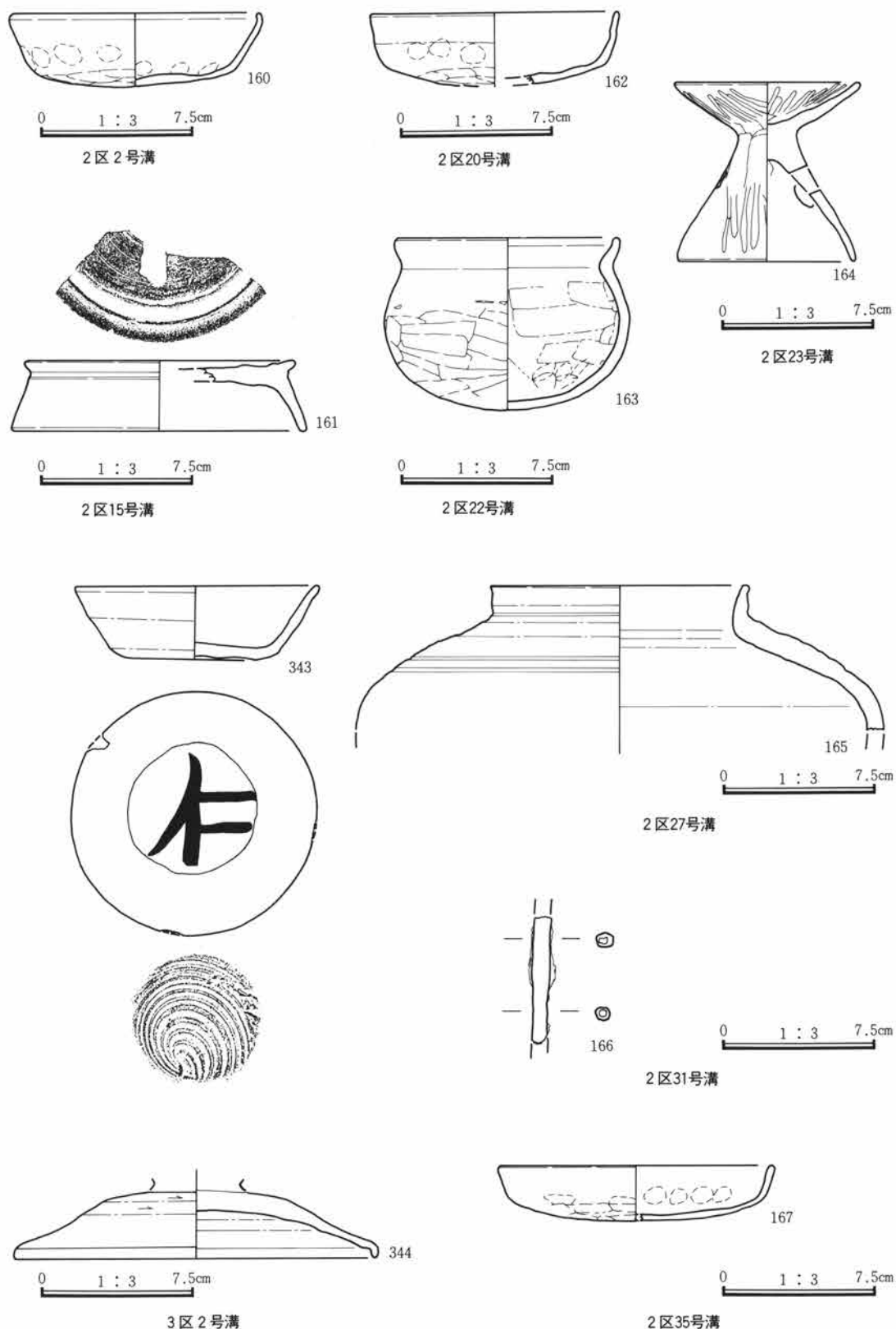


212

0 1 : 3 7.5cm

1区38号沟

第109图 1区33·35·37·38号沟迹出土遗物



第110図 2区2・15・20・22・23・27・31・35号、3区2号溝跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1区 0148	5号溝跡 碗 須恵器	器高：(25mm) 口径：－ 底径：[74mm] 胴部下半 ～高台部1/2	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。還元。やや軟 質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部は回転まで、 底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面： 胴部～底部は回転まで。	内外面に一部油煙 付着。
1区 0149	6号溝跡 杯 土師器	器高：(40mm) 口径： [116mm] 底径：[80mm] 口縁部～底部1/4	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。硬質。 橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外 面：口縁部は横まで、胴部～底部は篋削り。 内面：口縁部～底部上端は横まで、一部指 頭痕が残り、底部はなで。	内外面の口縁部に 一部油煙付着。
1区 0217	16号溝跡 器台 土師器	器高：72mm 口径：78mm 底径：113mm ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや硬 質。浅黄。	胴部上端～口縁部下端で段を持ち、脚部は 漏斗状に開く。内面底部は穿孔。脚部に4カ 所の円形透かし。外面：口縁部は横まで、胴 部はなで、脚部はハケなどで後篋磨き。内面： 口縁部～底部は横まで、脚部上半はなで、脚 部下半は横まで。	
0218	器台 土師器	器高：74mm 口径： [83mm] 底径：[107mm] 口縁部～脚部2/3	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや硬質。鈍 い黄橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がり、 口縁端部はやや内湾。脚部は漏斗状に開く。 底部は穿孔。脚部は3カ所の円形透かし。外 面：口縁部～胴部上半は横まで、胴部下半 ～脚部は篋磨き、脚部下端は横まで。内面： 口縁部～底部は篋磨き、脚部はなで。	
0219	器台 土師器	器高：(60mm) 口径： 96mm 底径：－ 口縁部～ 脚部上半1/1	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや硬質。灰 黄。	胴部上端～口縁部下端に段を持ち、口縁端 部は僅かに外反。内面底部は穿孔。脚部に3 カ所の円形透かし。外面：口縁部は横まで、 胴部は篋磨き、底部はなで、脚部上端は篋磨 き。内面：口縁部～底部は篋磨き、脚部上半 はなで。	
0220	器台 土師器	器高：(27mm) 口径： 72mm 底径：－ 口縁部～ 脚部上端1/1	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。硬質。 鈍い黄橙。	胴部上端で屈曲し、口縁部はほぼ直立。内面 底部は穿孔。外面：口縁部は横まで、口縁部 下端～胴部上端にハケ目が残る、胴部～底 部はなで後篋磨き、脚部上端はなで。内面： 口縁部は横まで、胴部～脚部上端はなで。	外面口縁部・内面 口縁部～底部に油 煙付着。
0221	器台 土師器	器高：(35mm) 口径： 85mm 底径：－ 口縁部～ 底部1/1	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや軟 質。明赤褐。	胴部上端～口縁部下端に段を持ち、口縁部 は僅かに内湾。内面底部は穿孔。外面：口縁 部は横まで、胴部～底部はなで後篋磨き、一 部ハケ目が残る。内面：口縁部～底部はな で後篋磨き。	内面口縁部～底部 に一部油煙付着。
0222	器台 土師器	器高：(62mm) 口径：－ 底径：120mm 脚部4/5	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや軟 質。赤橙・灰黄。	脚部は漏斗状に開く。内面底部に穿孔。脚部 は3カ所に円形透かし。外面：脚部は篋磨 き。内面：脚部はなで、脚部下端は横まで、 一部ハケ目が残る。	内外面脚部の一部 に油煙付着。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0223	器台 土師器	器高：(70mm) 口径：－ 底径：[126mm] 底部～ 脚部2/5	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。淡橙。	脚部は漏斗状に開く。内面底部は穿孔。脚部に3カ所の円形透かし。外面：脚部は篋磨き、脚部下端は横なで。内面：底部はなで、脚部上端は指頭痕が残り、脚部はハケ目、脚部下端は横なで。	内外面脚部に一部油煙付着。
0224	高杯 土師器	器高：(55mm) 口径： [90mm] 底径：－ 口縁部～ 脚部上半2/3	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。浅黄。	胴部～口縁部は直線的に広がる。脚部は「ハ」字状に開く。外面：口縁部は横なで、胴部はなで、一部ハケ目が残り、脚部はなで。内面：口縁部～底部はなで後篋磨き、脚部はなで。	
0225	高杯 土師器	器高：(70mm) 口径：－ 底径：96mm 脚部1/1	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。淡黄。	脚部は漏斗状に開く。外面：脚部上端はなで、脚部はハケなで後篋磨き、脚部下端は横なで。内面：脚部はハケ目が残り、脚部下端は横なで。	外面脚部に一部油煙付着。
0226	高杯 土師器	器高：(71mm) 口径：－ 底径：－ 胴部～脚部上 半3/4	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	底部上端～胴部下端で屈曲。脚部は「ハ」字状に開く。脚部に3カ所の円形透かし。外面：胴部～脚部上半はなで後篋磨き。内面：胴部～底部は篋磨き、脚部上半はハケ目が残る。	内外面に一部油煙付着。
0227	高杯 土師器	器高：(50mm) 口径：－ 底径：－ 胴部下端～脚 部上半1/1	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	脚部に3カ所の円形透かし。外面：胴部下端～脚部上半はなで後篋磨き。胴部下端～底部はなで後篋磨き、脚部はなで。	
0228	埴 土師器	器高：63mm 口径：86mm 底径：34mm ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。胴部上端は膨らみ、胴部下半にかけてすぼまる。外面：口縁部は横なで、口縁部下端～胴部上端はハケ目が残り、胴部は篋磨き、一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部～底部はなで、一部指頭痕・ハケ目が残る。	
0229	埴 土師器	器高：56mm 口径：90mm 底径：－ 口縁部～底部 2/3	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。浅黄。	胴部上端～口縁部下端は屈曲し、口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで後篋磨き、胴部～底部は篋削り後篋磨き。内面：口縁部は横なで、胴部～底部はなで、一部指頭痕が残る。	内外面の口縁部～底部の一部に油煙付着。
0230	手捏 土師器	器高：30mm 口径：66mm 底径：48mm ほぼ完形	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。浅黄。	胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～底部はなで、指頭痕が残り。内面：口縁部～底部はなで、指頭痕が残り。	外面底部に油煙付着。
0231	埴 土師器	器高：(36mm) 口径：－ 底径：28mm 口縁部下半 ～底部4/5	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い黄橙。	口縁部は「く」字状に外反。胴部は中央が膨らむ。外面：口縁部は篋磨き、胴部は篋削り後篋磨き、底部は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部～底部はなで、一部指頭痕が残る。	外面の一部に油煙付着。
0232	手捏 土師器	器高：(28mm) 口径：－ 底径：25mm 胴部～底部 1/2	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。硬質。浅黄。	胴部はやや内湾。外面：胴部はなで、一部指頭痕が残り、底部はなで。内面：胴部～底部はなで。	内面に油煙付着。燻し。



番号	器種 土師器	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0233	杯 土師器	器高：37mm 口径：117mm 底径：75mm ほぼ完形。	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	外面胴部上端～口縁部下端に段を持つ。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで、一部指頭痕が残る。	
0234	埴 土師器	器高：(92mm) 口径： [113mm] 底径：— 口縁部1/3	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	口縁部はほぼ直線的に広がる。内外面共に口縁部は横なで後縦磨き。	
0235	埴 土師器	器高：(47mm) 口径： [156mm] 底径：— 口縁部～底部1/2	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙・淡黄。	胴部は内湾し、胴部上端～口縁部に段を持ち、口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り後なで。内面：口縁部は横なで、胴部～底部はなで、燻し指頭痕が残る。	
0236	勾玉	長：23.5mm 幅：15.5mm 厚：7.5mm 孔径：2mm 重： 3.7g	玉髓(瑪瑙)。	表面は丁寧に磨いてある。	
0237	勾玉	長：37mm 幅：19mm 厚： 11mm 孔径：2mm 重： 12.0g	蛇紋岩。	表面は丁寧に磨いてある。	
0238	管玉	長：22mm 直径：6mm 孔径： 2.5mm 重：1.5g	蛇紋岩。	表面は丁寧に磨いてある。	
0239	管玉	長：20mm 直径：6mm 孔径： 2.5mm 重：1.4g	蛇紋岩。	表面は丁寧に磨いてある。	
0240	台付甕 土師器	器高：(107mm) 口径： [146mm] 底径：— 口縁部～胴部上半1/3	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。灰白。	口縁部は「S」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上半は縦ハケ目後一部横ハケ目。内面：口縁部は横なで、胴部はなで、一部指頭痕が残る。	外面に多量の油煙付着。二次炎を受けている。
0241	台付甕 土師器	器高：(77mm) 口径： [167mm] 底径：— 口縁部～胴部上半1/3	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。灰白。	口縁部は「S」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上半は縦ハケ目。内面：口縁部は横なで、胴部はなで、指頭痕が残る。	外面に一部油煙付着。
0242	台付甕 土師器	器高：(48mm) 口径： [160mm] 底径：— 口縁部～胴部上端1/4	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。浅黄。	口縁部は「S」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は縦ハケ目。内面：口縁部は横なで、胴部上端はなで、一部指頭痕が残る。	外面に多量の油煙付着。二次炎を受けている。
0243	台付甕 土師器	器高：(35mm) 口径： [116mm] 底径：— 口縁部～胴部上端1/3	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。浅黄。	口縁部は「S」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は縦ハケ目。内面：口縁部は横なで、胴部上端はなで、一部指頭痕が残る。	内外面に多量の油煙付着。二次炎を受けている。
0244	台付甕 土師器	器高：(60mm) 口径： [133mm] 底径：— 口縁部～胴部上端1/4	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。灰白。	口縁部は「S」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は縦ハケ目。内面：口縁部は横なで、胴部上端はなで、一部指頭痕が残る。	外面に油煙付着。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0245	台付甕 土師器	器高：(41mm) 口径： 〔129mm〕底径：－ 口縁 部～胴部上端1/3	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや軟質。鈍 い黄橙。	口縁部は「S」字状に外反。外面：口縁部は 横なで、胴部上端は縦ハケ目。内面：口縁部 は横なで、胴部上端はなで、一部指頭痕が残 る。	外面に多量の油煙 付着。二次炎を受 けている。
0246	台付甕 土師器	器高：(75mm) 口径：－ 底径：101mm 底部～脚部 1/1	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや軟質。鈍 い黄橙。	脚部は「ハ」字状に開き、脚部下端は折り返 し。外面：底部～脚部上半はハケ目、底部下 半はなで。内面：底部～脚部上半はなで、脚 部下半は横なで。	内外面の底部～脚 部上端に油煙付 着。
0247	台付甕 土師器	器高：(75mm) 口径：－ 底径：90mm 底部～脚部 1/1	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや軟質。浅 黄橙。	脚部は「ハ」字状に開き、脚部下端は折り返 し。外面：底部～脚部はハケ目、脚部下端は 横なで。内面：底部～脚部上半はなで、一部 指頭痕が残り、底部下半は横なで。	内外面にやや多量 の油煙付着。二次 炎を受けている。
0248	台付甕 土師器	器高：(66mm) 口径：－ 底径：96mm 底部～脚部 1/1	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。硬質。灰白。	脚部は「ハ」字状に開く。外面：底部～脚部 はハケ目、脚部下端は横なで。内面：底部～ 脚部はハケ目、一部指頭痕が残る。	内外面の底部に油 煙付着し、底部～ 脚部に酸化鉄付 着。
0249	台付甕 土師器	器高：(61mm) 口径：－ 底径：87mm 底部～脚部 1/1	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。軟質。淡黄。	脚部は「ハ」字状に開き、脚部下端は折り返 し。外面：底部～胴部上半はハケ目。内面： 底部は寛なで、脚部はなで、一部指頭痕が残 る。	内外面にやや多量 の油煙付着。二次 炎を受けている。
0250	台付甕 土師器	器高：(61mm) 口径：－ 底径：〔90mm〕 底部～脚 部4/5	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。硬質。明赤褐。	脚部は「ハ」字状に開く。外面：底部はなで、 脚部はハケ目。内面：底部～脚部はなで、一 部ハケ目・指頭痕が残る。	内外面に油煙付 着。二次炎を受け ている。
0251	台付甕 土師器	器高：(72mm) 口径：－ 底径：95mm 底部～脚部 4/5	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや軟質。浅 黄橙。	脚部は「ハ」字状に開き、脚部下端は折り返 し。外面：底部～脚部上半はハケ目、脚部下 半はなで。内面：底部～脚部上半はなで、一 部指頭痕が残り、脚部下半は横なで。	内外面にやや多量 の油煙付着。二次 炎を受けている。
0252	台付甕 土師器	器高：(54mm) 口径：－ 底径：－ 胴部下端～脚 部上端2/3	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや軟質。淡 橙。	外面：胴部下端～脚部上端はハケ目。内面 ：胴部下端～底部はなで、一部輪積痕が残 り、脚部はなで、一部指頭痕が残る。	内外面に多量の油 煙付着。二次炎を 受けている。
0253	甕 土師器	器高：(69mm) 口径： 149mm 底径：－ 口縁部 ～胴部上端1/1	径3～4mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや軟 質。浅黄橙。	口縁部は「く」字状に外反し、口縁部上半は やや内湾。外面：口縁部上半は横なで、口縁 部下半～胴部上端は寛磨き。内面：口縁部 は寛磨き、胴部はハケ目後寛磨き。	内外面の一部に油 煙付着。二次炎を 受けている。
0254	壺 土師器	器高：(53mm) 口径： 〔172mm〕底径：－ 口縁 部～胴部上端2/3	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや硬 質。浅黄橙。	口縁部全体は大きく「く」字状に外反する。 口縁部中央に段を持つ。外面：口縁部・段 部・口縁部下端には櫛状工具による刺突文 が施され、刺突文の間は横なで、胴部上端は ハケ目。内面：口縁部は横なで、胴部上端は なで。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0255	壺 土師器	器高：(56mm) 口径： 137mm 底径：－ 口縁部 ～胴部上端4/5	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや硬 質。淡黄。	口縁部は大きく外反し、口縁端部は折り返し。外面：口縁端部は横なで、口縁部～胴部上端はハケ目後一部なで。内面：口縁端部は横なで、口縁部はハケ目後一部なで、頸部は接合痕が残り、胴部上端はなで、指頭痕が残る。	口縁端部に一部油煙付着。
0256	壺 土師器	器高：(50mm) 口径： [145mm] 底径：－ 口縁部 ～胴部上端1/3	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。硬質。 鈍い黄橙。	口縁部は「く」字状に外反し、口縁端部は折り返し。外面：口縁端部は横なで、口縁部～胴部上端はハケ目後磨き。内面：口縁端部は横なで、口縁部はハケ目後磨き、胴部上端はなで。	内面に一部油煙付着。
0257	壺 土師器	器高：(56mm) 口径： [142mm] 底径：－ 口縁部 ～胴部上端1/3	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。硬質。 浅黄橙。	口縁部は「く」字状に大きく外反。外面：口縁部上半はハケ目後横なで、口縁部下半はハケ目、胴部上端は磨なで。内面：口縁部上半はハケ目後横なで、口縁部下半はハケ目、胴部上端はなで、指頭痕が残る。	
0258	壺 土師器	器高：(43mm) 口径：－ 底径：－ 口縁部下端～ 胴部上端2/5	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや硬質。淡 黄。	口縁部は外反。外面胴部上端には棒状工具による刺突文が3列巡る。外面：口縁部～頸部は横なで、胴部上端はなで。内面：口縁部は横なで、一部ハケ目が残り、頸部は接合痕が残り、胴部上端はなで、一部指頭痕が残る。	内外面に油煙付着。
0259	壺 土師器	器高：(60mm) 口径：－ 底径：－ 口縁部1/6	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや硬 質。浅黄橙。	口縁部は外反し、上半に段を持つ。段部に櫛状工具による刺突文を施す。内外面共に口縁部は磨き。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
0260	甕 土師器	器高：(77mm) 口径：－ 底径：29mm 口縁部下端 ～底部2/5	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。軟質。 橙。	口縁部は外反。外面：口縁部下端～胴部はハケ目、底部はなで。内面：口縁部は横なで、胴部～底部はハケ目、指頭痕が残る。	内外面に多量の油煙付着。二次炎を受けている。
0261	甕 土師器	器高：(37mm) 口径： [188mm] 底径：－ 口縁部 1/4	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。軟質。淡黄。	口縁端部は折り返し。外面：口縁端部は横なで、口縁部はハケ目。内面：口縁部はハケ目。	内外面の口縁部に油煙付着。二次炎を受けている。
0262	甕 土師器	器高：(42mm) 口径：－ 底径：72mm 胴部下端～ 底部2/3	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。硬質。 淡橙。	外面：胴部下端はなで、一部ハケ目が残り、底部は木葉痕。内面：胴部下端～底部はなで。	
0263	甕 土師器	器高：(19mm) 口径：－ 底径：58mm 胴部下端～ 底部2/3	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや硬 質。淡黄。	外面：胴部下端はハケ目後磨き、底部は木葉痕。内面：胴部下端～底部はハケ目。	外面に油煙付着。二次炎を受けている。
0264	埴 土師器	器高：68mm 口径：88mm 底径：－ 最大径：90mm 口縁部～底部2/3	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや軟質。鈍 い橙。	球形。口縁部は「く」字状に外反し、口縁部上半はやや内湾。丸底。最大径は胴部中央。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は磨削り後なで。内面：口縁部は横なで、胴部～底部はなで、一部指頭痕が残る。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0265	埴 土師器	器高：(83mm) 口径： [145mm] 底径：－ 口縁 部～胴部上端1/4	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや軟質。鈍 い黄橙。	口縁部は大きく、「く」字状に外反し、ほぼ直 線的に広がる。外面：口縁部～頸部は横な で、胴部上端は篋磨き。内面：口縁部は横な で、頸部は接合痕が残り、胴部上端はなで、 一部指頭痕が残る。	内面口縁部下端～ 胴部上端に油煙付 着。
0266	高杯 弥生土器	器高：(65mm) 口径： [178mm] 底径：－ 口縁 部～胴部1/4	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや硬 質。浅黄橙。	胴部はやや内湾しつつ広がり、口縁部は 「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴 部はなで。内面：口縁部は横なで、胴部は篋 磨き。	内面口縁部～胴部 に赤色顔料塗布。
0267	高杯 弥生土器	器高：(68mm) 口径：－ 底径：－ 脚部上半1/1	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや硬質。鈍 い橙。	脚部は「ハ」字状に開く。外面：脚部上半は 篋磨き。内面：脚部上半はなで、一部ハケ目 が残る。	外面に赤色顔料塗 布。
0268	高杯 弥生土器	器高：(39mm) 口径： [177mm] 底径：－ 口縁 部～胴部1/4	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外 面口縁端部に波状文を施す。内外面共に口 縁部～胴部はなで。	内外面に赤色顔料 塗布。
0269	甕 土師器	器高：(78mm) 口径： [124mm] 底径：－ 口縁 部～胴部上半1/4	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや硬 質。浅黄。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部～ 胴部上半はハケ目、一部指頭痕が残る。内面 ：口縁部～胴部上端はハケ目、胴部上半は なで、一部指頭痕が残る。	内外面に一部油煙 附着。
0270	杯 土師器	器高：(36mm) 口径： [150mm] 底径：－ 口縁 部～底部上端1/4	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや軟 質。浅黄。	口縁部は「S」字状に外反。内外面共に口縁 部上半は横なで、口縁部下端～底部上端は なで。	
0271	杯 土師器	器高：(45mm) 口径： [140mm] 底径：－ 口縁 部～底部1/4	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。軟質。橙。	口縁部は「S」字状に外反。外面：口縁部は 横なで後篋磨き、胴部～底部は篋削り後篋 磨き。内面：口縁部は横なで後篋磨き、胴部 ～底部はなで後篋磨き、指頭痕が残る。	内外面の一部に油 煙附着。
0272	杯 土師器	器高：30mm 口径： [122mm] 底径：－ 口縁 部～底部1/2	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。軟質。 橙。	胴部は内湾し、口縁部はほぼ直立。外面：口 縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底 部は篋削り。軟質。口縁部～胴部は横なで、 一部指頭痕が残り、底部はなで、一部指頭痕 が残る。	内面口縁部～底部 に漆又はタール付 着。
0273	杯 土師器	器高：(30mm) 口径： [126mm] 底径：－ 口縁 部～底部1/3	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。 外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕 が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部 上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部下半 はなで、一部指頭痕が残る。	内外面に一部油煙 附着。
0274	壺 弥生土器	器高：－ 口径：－ 底径 ：－ 胴部破片	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや硬質。浅 黄橙。	外面：篋状工具による細沈線文様。内面： なで。	
0275	壺 弥生土器	器高：－ 口径：－ 底径 ：－ 胴部破片	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや硬質。浅 黄橙。	外面：篋状工具による細沈線文様。内面： なで。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0276	壺 弥生土器	器高：(86mm) 口径： [174mm] 底径：— 口径部～胴部上端1/4	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。鈍い黄橙。	口径部は「く」字状に大きく外反。口径端部は折り返し。外面：口径端部の折り返し部分は縄文、口径部は篋磨き、胴部上端は縄文。内面：口径部上半は篋磨き、口径部下半～胴部上端はなで。	外面口径部の一部に油煙付着。
0277	長頸壺 須恵器	器高：(131mm) 口径：— 底径：[72mm] 最大径： 134mm 頸部～高台部2/3	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。最大径は胴部上半。胴部は直線的に広がり、胴部上端ですぼまる。外面：胴部は回転なで、一部篋なで、胴部下端は回転篋削り、底部は高台貼り付け後なで。軟質。胴部はなで、指頭痕が残る。	外面胴部上端に自然釉。
0278	杯 須恵器	器高：33mm 口径：122mm 底径：82mm 口径部～底部3/4	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口径部はほぼ直線的に広がる。外面：口径部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口径部～底部は回転なで。	外面口径部の一部に油煙付着。
0279	杯 須恵器	器高：38mm 口径：119mm 底径：61mm ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。明青灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口径部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口径部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口径部～底部は回転なで。	外面に一部油煙付着。
0280	杯 須恵器	器高：33mm 口径：128mm 底径：79mm ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口径部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口径部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口径部～底部は回転なで。	外面口径部・内面に全面的に油煙付着、燻し。外面底部に墨書。積読不能。
0281	杯 須恵器	器高：37mm 口径：122mm 底径：78mm 口径部～底部2/3	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口径部はやや内湾しつつ広がる。外面：口径部～胴部は回転なで、底部は回転篋切り。内面：口径部～底部は回転なで。	
0282	杯 須恵器	器高：35mm 口径： [135mm] 底径：[73mm] 口径部～底部1/2	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口径部はほぼ直線的に広がり、口径端部は僅かに外反。外面：口径部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口径部～底部は回転なで。	外面全体及び内面口径部に油煙付着、燻し。
0283	杯 須恵器	器高：38mm 口径： [121mm] 底径：73mm 口径部～底部2/3	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口径部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口径部～胴部は回転なで、底部は回転篋切り。内面：口径部～底部は回転なで。	外面の一部に自然釉。
0284	杯 須恵器	器高：37mm 口径：125mm 底径：73mm 口径部～底部2/3	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口径部はやや内湾しつつ広がり、口径端部は僅かに外反。外面：口径部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口径部～底部は回転なで。	
0285	杯 須恵器	器高：38mm 口径：137mm 底径：92mm 口径部～底部3/5	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口径部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口径部～胴部は回転なで、底部は回転篋切り。内面：口径部～底部は回転なで。	外面底部に墨書「浄」。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0286	杯 須恵器	器高：(33mm) 口径： 〔130mm〕 底径：〔73mm〕 口縁部～底部1/3	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転で。	外面口縁部の一部に自然釉。
0287	杯 須恵器	器高：40mm 口径： 〔134mm〕 底径：〔64mm〕 口縁部～底部1/3	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転で。	内外面の一部に油煙付着。
0288	碗 須恵器	器高：(51mm) 口径： 143mm 底径：— 口縁部 ～底部3/4	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転で。	内外面に全面的に油煙付着、焦し。外面底部に墨書「佐」。
0289	碗 須恵器	器高：70mm 口径：166mm 底径：99mm ほぼ完形	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転で。	外面口縁部～胴部に油煙付着、焦し。
0290	碗 須恵器	器高：48mm 口径： 〔110mm〕 底径：61mm 口 縁部～高台部2/3	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は高台貼り付け後で。内面：口縁部～底部は回転で。	外面口縁部及び内面口縁部～胴部の一部に自然釉。
0291	碗 須恵器	器高：47mm 口径：— 底 径：64mm 胴部～口縁部 3/4	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。胴部はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部は回転で、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転で。	内外面の口縁部～胴部に自然釉。
0292	碗 須恵器	器高：82mm 口径： 〔169mm〕 底径：〔93mm〕 口縁部～高台部1/4	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は高台貼り付け後で。内面：口縁部～底部は回転で。	
0293	碗 須恵器	器高：62mm 口径：137mm 底径：81mm 口縁部～高 台部1/2	径1mm前後の砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は高台貼り付け後で。内面：口縁部～底部は回転で。	
0294	碗 須恵器	器高：60mm 口径： 〔154mm〕 底径：— 口縁 部～高台部1/2	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転で。	外面口縁部～胴部に油煙付着、焦し。
0295	碗 須恵器	器高：(60mm) 口径： 〔168mm〕 底径：— 口縁 部～底部1/3	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は高台貼り付け後で。内面：口縁部～底部は回転で。	外面口縁部に一部油煙付着。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0296	蓋 須恵器	器高：44mm 口径： 〔167mm〕つまみ径：35mm つまみ部～口縁部3/4	径4～5mmの小石及び砂 粒を含む。還元。硬質。 灰白。	轆轤整形。ボタン状つまみ。つまみ部は貼り 付け。返りは端部で短い。外面：つまみ部は 回転まで、天井部上半は回転篋削り、天井部 下半～口縁部は回転まで。内面：天井部～ 口縁部は回転まで。	内外面に全面的に 油煙付着、燻し。
0297	甕 須恵器	器高：〔118mm〕口径： 235mm 底径：— 口縁部 ～胴部上端2/3	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。還元。硬質。 灰。	口縁部は「コ」字状に大きく外反し、口縁端 部は折り返し。口縁部と胴部は接合。外面： 口縁部は回転まで、胴部上端はなで。内面： 口縁部は回転まで、胴部上端はなで、一部指 頭痕が残る。	内外面の口縁部～ 胴部に一部自然 釉。
0298	長頸壺 須恵器	器高：〔85mm〕口径： 78mm 底径：— 口縁部～ 胴部上端4/5	径4～5mmの小石及び砂 粒を含む。還元。硬質。 灰白。	轆轤整形。口縁部は漏斗状に広がり、口縁端 部は「く」字状に内湾。外面：口縁部～胴部 上端は回転まで。内面：口縁部～胴部は回 転まで、口縁部～胴部の接合痕が残る。	内外面の口縁部の 一部に自然釉。
0299	長頸壺 須恵器	器高：〔86mm〕口径： 〔82mm〕底径：— 口縁 部～頸部3/4	径3～4mmの小石及び砂 粒を含む。還元。硬質。 灰白。	轆轤整形。口縁部は漏斗状に広がり、口縁端 部は外縁帯を持つ。口縁部と胴部は接合。内 外面共に回転まで。	内外面の口縁部～ 頸部の一部に自然 釉。
0300	埴 土師器	器高：124mm 口径： 101mm 底径：60mm 最大 径：116mm 完形	頸部2～3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。やや 軟質。鈍い赤褐色。	口縁部は「く」字状に外反し、口縁端部は僅 かに内湾。最大径は胴部中央。外面：口縁部 ～底部は篋磨き、口縁部に一部指頭痕が残 る。内面：口縁部は篋磨き、胴部～底部はな で、一部指頭痕が残る。	内部に葉状の繊維 の束あり。
0301	分銅 鉄製品	高：94mm 最大直径： 78mm 重：1880.0g		周囲に絵と文字の記号あり。	
0342	用途不明 石製品	長：235mm 幅：104mm 厚 ：80mm 重：3550.0g	粗粒安山岩。		
0438	埴 土師器	器高：〔61mm〕口径：— 底径：32mm 頸部～底部 1/1	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや軟 質。浅黄橙。	底部は小さく、胴部は大きく膨らむ、球形。 口縁部は外反。外面：胴部～底部は篋磨 き。内面：頸部は篋磨き、胴部～底部はな で、一部輪積痕・指頭痕が残る。	内部に葉あり。外 面に多量の油煙付 着。
0459	構築部材 木製品	長：〔315mm〕径：100× 83mm～66×55mm	割材。	細い方は欠損。太い部分の木口は切断。	溝内最下層。
0460	板材 木製品	長：〔312mm〕幅：50mm厚 ：12mm	柾目。	表面はやや丸みを帯びるのに対して裏面は 平坦。部材ではなく、製品の一部。	溝内最下層。
0461	丸杭 木製品	長：〔487mm〕直径：40mm	有芯材。	樹皮付き丸材。上端は焼失。下端は丁寧 に削り、尖らせている。	溝内最下層。
0462	杭? 木製品	長：〔408mm〕最大直径： 43mm	有芯材。	一部に皮が残り、周囲に加工痕は認められ ない。一方の木口は焼失、一方は欠損。	溝内最下層。
0464	加工木 木製品	長：〔275mm〕幅：75mm厚 ：36mm	割材。	丸木をほぼ半割りする。両木口は欠損。表面 の遺存が悪く、調整痕は不明。	溝内最下層。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0465	構築部材 木製品	長：(133mm) 径：45～54mm	有芯材。	木口は遺存するが、加工部付近で焼失。有芯材の両面を削り込んで組み合わせ部を作る。	溝内最下層。
0466	板材 木製品	長：(136mm) 幅：68mm厚：3～8mm	柃目。	両木口は欠損。厚みは一方の側縁が厚く、一方が薄い。	溝内最下層。
0467	加工木 木製品	長：(47mm) 幅：(32mm) 厚：6.5mm	柃目。	加工木の小片。一部炭化。	溝内。
0468	角材 木製品	長：(385mm) 幅：74×60mm	割材。	断面は長方形に近い。遺存が悪く、表面には欠損部分が多いが、木表面のみに比較的遺存が多い。	溝内最下層。
0469	板材 木製品	長：(312mm) 幅：102mm 厚：12mm	柃目。	両木口は欠損。	溝内最下層。
0470	角材 木製品	長：(137mm) 幅：42mm厚：38mm	割材。	木口は遺存する。他方は欠損。周囲は調整されず、割った状態をとどめている。	溝内最下層。
0471	板材 木製品	長：(80mm) 幅：(58mm) 厚：3～13mm	板目。	厚さは不均質。節には穴があいている。表面調整はない。	溝内最下層。
0472	加工木 木製品	長：(98mm) 幅：(13mm) 厚：7mm	割材。	無茎鉄鏝に似た形状を呈する。一方は欠損。	溝内最下層。
0473	構築部材 木製品	長：(174mm) 直径：43mm	有芯材。	両端と裏面は欠損。円形のほぞ穴があるが、摩滅しているために本来の形状は不明。	溝内最下層。
0477	丸杭 木製品	長：(370mm) 最大直径：48mm	有芯材。	樹皮の付いた丸木の根に近いほうを斜めに削る。	溝内最下層。
1区 0168	18号溝跡 甕 土師器	器高：(53mm) 口径：[209mm] 底径：— 口縁部～胴部上端1/4	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部輪積痕・指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、一部輪積痕が残り、胴部上端は篋なで。	内外面の一部に油煙付着。
0169	杯 須恵器	器高：43mm 口径：125mm 底径：67mm 口縁部～底部2/3	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
0170	杯 土師器	器高：(33mm) 口径：[123mm] 底径：— 口縁部～底部1/3	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐。	胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
0171	杯 土師器	器高：(41mm) 口径：[149mm] 底径：— 口縁部～底部1/4	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで放射状暗文を施し、底部はなで、一部指頭痕が残る。	



番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0172	器台 土師器	器高：(57mm) 口径： [90mm] 底径：－ 口縁 部～脚部上半1/2	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。軟質。 浅黄橙。	胴部上端で屈曲し、口縁部はやや外反。脚部 は漏斗状に開く。内面底部は穿孔。外面：口 縁部～脚部上半は鈍磨き。内面：口縁部～ 底部は鈍磨き、脚部上半はなで。	内外面の口縁部～ 底部に赤色顔料塗 布。
0173	長頸壺 須恵器	器高：(97mm) 口径： [119mm] 底径：－ 口縁 部～胴部上端1/3	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。還元。硬質。 灰白。	轆轤整形。頸部～口縁部はやや広がり、口縁 部上端は「く」字状に内湾し、口縁端部はほ ぼ直立。内外面共に口縁部～胴部上端は回 転なで、内面頸部と胴部は接合痕が残る。	内外面の口縁部の 一部に自然釉。
0174	長頸壺 須恵器	器高：(43mm) 口径： [59mm] 底径：－ 口縁 部～頸部1/2	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。やや硬質。灰 白。	轆轤整形。口縁部上半は広がり、口縁端部は ほぼ直立。内外面共に口縁部～頸部は回転 なで。	外面口縁部～頸部 ・内面口縁部に自 然釉。
0175	杯 須恵器	器高：(30mm) 口径： 127mm 底径：83mm 口縁 部～底部2/3	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。やや硬質。灰 白。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつ つ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、 底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は 回転なで。	
0176	杯 須恵器	器高：34mm 口径： [130mm] 底径：72mm 口 縁部～底部3/5	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。やや硬質。灰 白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はほぼ直線 的に広がる。外面：胴部～口縁部は回転な で、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底 部は回転なで。	
0177	杯 須恵器	器高：(32mm) 口径： [138mm] 底径：[82mm] 口縁部～底部1/3	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。還元。やや軟 質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに内 湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回 転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～ 底部は回転なで。	外面口縁部に油煙 付着。
0178	碗 須恵器	器高：(45mm) 口径： [137mm] 底径：－ 口縁 部～高台部上端1/4	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。やや硬質。灰 白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに内 湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回 転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。 内面：口縁部～底部は回転なで。	
0179	皿 須恵器	器高：(27mm) 口径： [122mm] 底径：－ 口縁 部～底部1/3	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。還元。やや硬 質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はほぼ直線 的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転な で、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内 面：口縁部～底部は回転なで。	
0180	皿 須恵器	器高：(28mm) 口径： [215mm] 底径：－ 口縁 部～底部1/8	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。還元。硬質。 灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾。外面： 口縁部～胴部上半は回転なで、胴部下半は 回転鈍削り、底部は回転なで。内面：口縁部 ～底部は回転なで。	
0181	壺 須恵器	器高：(36mm) 口径：－ 底径：[84mm] 胴部下半 ～高台部1/3	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下半は回転な で、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内 面：胴部下半～底部は回転なで。	
0182	碗 灰釉陶器	器高：(31mm) 口径： [132mm] 底径：[65mm] 口縁部～高台部1/6	細砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形。胴部はほぼ直線的に広がり、口縁 部はやや内湾。外面：口縁部～胴部は回転 なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：口 縁部～底部は回転なで。	内外面共に口縁部 ～胴部に施釉。

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0183	杯 須恵器	器高：(16mm) 口径：－ 底径：67mm 胴部下端～ 底部1/2	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。還元。やや硬 質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転な で、底部は回転糸切り。内面：胴部下端～底 部は回転まで。	外面胴部下端は全 面に油煙付着。
0184	碗 青磁	器高：－ 口径：－ 底径 ：－ 胴部破片	青灰色。黒色粒子を含 む。	外面は片切り彫りにより鎬蓮弁文を施す。 内面は無紋。釉は厚く、色調も良く本県に あつては良質な製品である。	中国製。龍泉窯系 青磁。13世紀。
1区 0154	19号溝跡 杯 土師器	器高：33mm 口径： 〔118mm〕 底径：－ 口縁 部～底部2/5	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。軟質。 明赤褐。	胴部は内湾し、胴部～口縁部はほぼ直線的 に広がり、口縁端部は僅かに内湾。外面：口 縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底 部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、 底部はなで、一部指頭痕が残る。	
0155	杯 土師器	器高：31mm 口径： 〔120mm〕 底径：〔86mm〕 口縁部～底部1/4	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや軟 質。鈍い橙。	胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面 ：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残 り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上 半は横なで、一部指頭痕が残り、底部下半 はなで、一部指頭痕が残る。	
0156	杯 須恵器	器高：40mm 口径： 〔120mm〕 底径：58mm 口 縁部～底部2/5	径4～5mmの小石及び砂 粒を含む。還元。やや硬 質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに内 湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回 転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～ 底部は回転まで。	内外面の口縁部に 一部油煙付着。
1区 0150	20号溝跡 碗 須恵器	器高：(18mm) 口径：－ 底径：79mm 胴部下端～ 高台部4/5	径4～5mmの小石及び砂 粒を含む。還元。硬質。 灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転な で、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面 ：胴部下端～底部は回転まで。	
1区 0151	21号溝跡 内耳鍋 軟質陶器	器高：(118mm) 口径：－ 底径：－ 口縁部～胴部 破片	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。不完全還元。 やや軟質。灰・浅黄橙。	口縁部は短く僅かに受け口状を呈する。	外面に多量の煤付 着。在地製品。14～ 15世紀。
0152	砥石	長：(72mm) 幅：(47mm) 厚：(18mm) 重：84.2g	砥沢石。	使用面は3面。表面に金属による傷あり。	
1区 0185	22号溝跡 台付甕 土師器	器高：(31mm) 口径： 〔151mm〕 底径：－ 口縁 部～胴部上端1/2	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。軟質。鈍い黄 橙。	口縁部は「S」字状に外反。外面：口縁部は 横なで、胴部上端は縦ハケ目。内面：口縁部 は横なで、胴部上端はなで、一部指頭痕が 残る。	外面に油煙付着。
0186	台付甕 土師器	器高：(45mm) 口径： 〔162mm〕 底径：－ 口縁 部～胴部上端1/4	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや軟質。鈍 い黄橙。	口縁部は「S」字状に外反。外面：口縁部は 横なで、胴部上端は縦ハケ目。内面：口縁部 は横なで、胴部上端はなで、一部指頭痕が 残る。	内外面の口縁部に 一部油煙付着。

番号	器 種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺 存 状 態	胎土・焼成・色調	器 形・技 法 の 特 徴 他	出 土 状 態 備 考
0187	罎 土師器	器高：(53mm) 口径： 〔152mm〕 底径：－ 口縁 部～底部上半1/4	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。軟質。鈍い橙。	胴部は内湾し、口縁部は外反し、直線的に広 がる。外面：口縁部は横なで後篋磨き、胴部 ～底部は篋削り。内面：口縁部は横なで後 篋磨き、胴部～底部はなで。	外面に漆又はター ル附着。
0189	杯 土師器	器高：(34mm) 口径： 〔110mm〕 底径：－ 口縁 部～底部上半1/3	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。軟質。鈍い橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。 外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕 が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部 上半は横なで、一部指頭痕が残る。	
0190	用途不明 石製品	長：(50mm) 幅：36mm 厚 ：15mm 重：51.2g	デイスait。	側面は擦れて滑らかになっている。	
1区 0345	28号溝跡 摺鉢 軟質陶器	器高：(147mm) 口径：－ 底径：－ 口縁部～胴部 1/8	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。不完全還元。 やや硬質。青灰・鈍い赤 褐。	口縁部は片口部が遺存する。体部下位から 底部は、体部下端と底部周縁を除いて使用 による摩滅がある。	在地製品。15世紀。
1区 0191	29号溝跡 甕 土師器	器高：296mm 口径： 138mm 底径：85mm 最大 径：244mm 口縁部～底部 4/5	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや軟 質。浅黄橙。	球形。口縁部は「く」字状に外反。最大径は 胴部中央。外面：口縁部上半は横なで、一部 ハケ目、口縁部下半～胴部はハケ目後一部 篋磨き、一部指頭痕が残り、底部は木葉痕。 内面：口縁部は横なで、胴部～底部はハケ 目、一部輪積痕・指頭痕が残る。	内外面に一部油煙 附着。
0192	甕 土師器	器高：(188mm) 口径： 140mm 底径：－ 最大径 ：233mm 口縁部～胴部 3/4	径3～4mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。軟質。 浅黄橙。	球形。口縁部は「く」字状に外反。最大径は 胴部中央。外面：口縁部は横なで後篋磨き、 胴部はなで。内面：口縁部は横なで、胴部は なで、一部輪積痕・指頭痕が残る。	内外面にやや多量 の油煙附着。二次 炎を受けている。
0193	甕 土師器	器高：(58mm) 口径： 135mm 底径：－ 口縁部 ～胴部上端3/4	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。軟質。 浅黄橙。	口縁部はやや外反。外面：口縁部上端は横 なで、口縁部は横なで後篋磨き、胴部上端は 篋削り。内面：口縁部は横なで後篋磨き、胴 部上端は篋なで。	内面口縁部上端に 一部油煙附着。
0194	甕 土師器	器高：(154mm) 口径：－ 底径：68mm 胴部中央～ 底部1/3	径2～3mmの小石及び砂 粒をやや多量に含む。 酸化。軟質。浅黄橙。	球形。外面：胴部中央～底部はなで。内面 ：胴部中央～底部はなで、一部ハケ目が残 る。	内外面に油煙付 着。二次炎を受け ている。
0195	台付甕 土師器	器高：(145mm) 口径：－ 底径：－ 最大径： 〔206mm〕 胴部上半～脚 部上半3/4	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。軟質。浅黄橙。	脚部は「ハ」字状に開く。外面：胴部上半～ 脚部上半はハケ目。内面：胴部上半～底部 はなで、一部輪積痕・指頭痕が残り、底部は なで、一部指頭痕が残る。	内外面にやや多量 の油煙附着。二次 炎を受けている。
0196	台付甕 土師器	器高：(133mm) 口径：－ 底径：〔98mm〕 胴部下半 ～脚部1/3	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。軟質。鈍い橙。	脚部は「ハ」字状に開き、脚部下端は折り返 し。外面：胴部下半～脚部上半はハケ目、脚 部下半はなで。内面：胴部下半～脚部上半 はなで、一部輪積痕・指頭痕が残り、脚部下 半は横なで。	内外面にやや多量 の油煙附着。二次 炎を受けている。

番号	器 種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺 存 状 態	胎土・焼成・色調	器 形・技 法 の 特 徴 他	出 土 状 態 備 考
0197	罎 土師器	器高：80mm 口径：104mm 底径：37mm ほぼ完形	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。浅黄橙。	口縁部は「く」字状に外反し、口縁端部は僅かに内湾。外面：口縁部～胴部はハケ目後篋磨き、一部ハケ目が残る、底部はなで。内面：口縁部は横なで、胴部～底部はなで、一部指頭痕が残る。	内外面の胴部下半～底部に一部油煙付着。
0198	杯 土師器	器高：63mm 口径：199mm 底径：— ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	口縁部は外反。丸底。外面：口縁部～底部は篋削り後篋磨き、一部指頭痕が残る。内面：口縁部は横なで後篋磨き、一部ハケ目が残る、胴部～底部はなで後篋磨き、一部輪積痕・指頭痕が残る。	外面口縁部～胴部に一部油煙付着。二次炎を受けている。
0199	杯 土師器	器高：61mm 口径：166mm 底径：— 口縁部～底部4/5	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	口縁部は外反し、外面に稜を持つ。丸底。外面：口縁部は横なで後篋磨き、胴部～底部は篋削り後篋磨き、一部指頭痕が残る。内面：口縁部は横なで後篋磨き、胴部～底部はなで後篋磨き、一部指頭痕が残る。	内外面口縁部の一部に油煙付着。
0200	杯 土師器	器高：33mm 口径：125mm 底径：104mm 完形	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部はほぼ直立し、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残る、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残る、底部はなで、一部指頭痕が残る。	内面口縁部、外面口縁部～底部に油煙付着。二次炎を受けている。
0201	杯 土師器	器高：36mm 口径：120mm 底径：87mm 口縁部～底部3/5	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	口縁部は外反し、口縁端部は僅かに内湾。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残る、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残る、底部はなで、一部指頭痕が残る。	
0202	罎 土師器	器 高：(62mm) 口 径： [139mm] 底径：— 口縁部～胴部1/4	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	胴部上端は内湾し、口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部は篋削り後篋磨き。内面：口縁部は横なで、胴部はなで、一部指頭痕が残る。	内外面に一部油煙付着。
0203	台付甕 土師器	器 高：(41mm) 口 径： [147mm] 底径：— 口縁部～胴部上端1/2	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。鈍い黄橙。	口縁部は「S」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端はハケ目。内面：口縁部は横なで、胴部上端はなで、一部輪積痕・指頭痕が残る。	内外面にやや多量の油煙付着。二次炎を受けている。
0204	台付甕 土師器	器 高：(62mm) 口 径： [125mm] 底径：— 口縁部～胴部上端1/4	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。浅黄。	口縁部は「S」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端はハケ目。内面：口縁部は横なで、胴部上端はなで、一部指頭痕が残る。	内外面にやや多量の油煙付着。二次炎を受けている。
0205	台付甕 土師器	器 高：(37mm) 口 径： [96mm] 底径：— 口縁部～胴部上半1/3	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。浅黄。	口縁部は「S」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上半はハケ目。内面：口縁部は横なで、胴部上半はなで、一部指頭痕が残る。	内外面にやや多量の油煙付着。二次炎を受けている。
0206	杯 土師器	器 高：(35mm) 口 径： [116mm] 底径：[88mm] 口縁部～胴部上半1/3	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部は直線的に広がり、口縁部はやや内湾。外面：口縁部は横なで、胴部は篋削り、一部指頭痕が残る、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで、一部指頭痕が残る。	内外面の一部に油煙付着。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1区 0207	31号溝跡 杯 土師器	器高：30mm 口径：122mm 底径：84mm 口縁部～底部4/5	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。鈍い橙。	胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部下半はなで、一部指頭痕が残る。	内面底部にヘラ記号「×」。内外面の口縁部に油煙付着。
1区 0153	33号溝跡 杯 須恵器	器高：43mm 口径：120mm 底径：63mm 口縁部～底部3/4	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面底部に墨書「十」。外面口縁部～胴部に一部油煙付着。
1区 0157	35号溝跡 杯 土師器	器高：(41mm) 口径：[130mm] 底径：[88mm] 口縁部～底部1/4	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部は直線的に広がり、口縁部はやや内湾。外面：口縁部は横なで、胴部はなで、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、底部はなで、一部指頭痕が残る。	
0158	杯 須恵器	器高：(29mm) 口径：[127mm] 底径：[80mm] 口縁部～底部1/3	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁部は横なで、胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内面に多量の鉄分付着。
0159	碗 須恵器	器高：(39mm) 口径：— 底径：85mm 胴部下半～高台部2/3	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部は内湾。外面：胴部下半は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下半～底部は回転なで。	
1区 0208	37号溝跡 台付甕 土師器	器高：(40mm) 口径：[131mm] 底径：— 口縁部～胴部上端1/3	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。鈍い橙。	口縁部は「S」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端はハケ目。内面：口縁部は横なで、胴部上端はなで、一部指頭痕が残る。	内外面にやや多量の油煙付着。二次炎を受けている。
0209	杯 土師器	器高：(36mm) 口径：[124mm] 底径：— 口縁部～底部1/2	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。平底に近い丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで、指頭痕が残る。	
0210	碗 須恵器	器高：(36mm) 口径：— 底径：79mm 胴部～高台部2/3	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転なで。	
1区 0211	38号溝跡 壺 土師器	器高：(132mm) 口径：— 底径：32mm 胴部～底部2/3	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。浅黄橙。	球形。外面：胴部はなで後篋磨き、胴部下端は一部輪積痕が残り、底部はなで。内面：胴部～底部はなで、一部輪積痕・指頭痕が残る。	内外面に一部油煙付着。
0212	甕 土師器	器高：(60mm) 口径：[180mm] 底径：— 口縁部～胴部上端1/4	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。鈍い黄橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、口縁部～胴部上端はハケ目。内面：口縁部はハケ目後なで、胴部上端は横なで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。

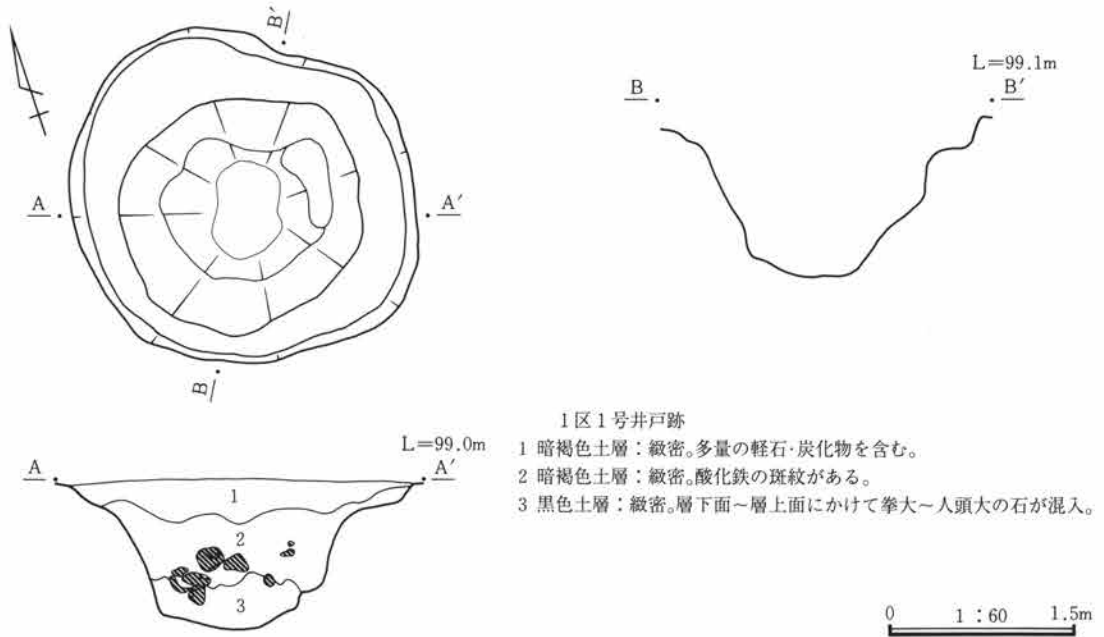
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0213	杯 土師器	器高：35mm 口径：123mm 底径：95mm 口縁部～底 部4/5	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。軟質。 橙。	で、一部指頭痕が残る。 胴部～口縁部はほぼ直線的に広がり、口縁 端部は僅かに内湾。外面：口縁部は横なで、 胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内 面：口縁部～底部上半は横なで、指頭痕が 残り、底部下半はなで、指頭痕が残る。	外面に一部油煙付 着。
0214	杯 土師器	器高：(34mm) 口径： [120mm] 底径：- 口縁 部～底部1/3	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面 ：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が 残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上 半は横なで、一部指頭痕が残り、底部下半 はなで、一部指頭痕が残る。	
0215	杯 須恵器	器高：(36mm) 口径： [132mm] 底径：[78mm] 口縁部～底部1/4	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。還元。やや軟 質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はほぼ直線的に広 がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底 部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回 転なで。	外面は全面的に油 煙付着、燻し。
2区 0160	2号溝跡 杯 土師器	器高：36mm 口径：123mm 底径：96mm ほぼ完形	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや軟 質。鈍い橙。	胴部～口縁部はやや内湾。外面：口縁部は 横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は 篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、 一部指頭痕が残り、底部はなで、一部指頭 痕が残る。	外面にやや多量の 油煙付着。二次炎 を受けている。
2区 0161	15号溝跡 蓋 須恵器	器高：(34mm) 口径： [144mm] つまみ径：- 天井部～口縁部1/4	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。還元。硬質。 明青灰。	轆轤整形。天井部下端は張り出し、凸帯状 をなす。口縁部は直線的に広がる。内外面 共に天井部～口縁部は回転なで。	
2区 0162	20号溝跡 杯 土師器	器高：(34mm) 口径： [121mm] 底径：- 口縁 部～底部1/4	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口 縁端部は僅かに外反。外面：口縁部は横な で、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削 り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指 頭痕が残り、底部はなで一部指頭痕が残る。	外面胴部～底部に 一部油煙付着。
2区 0163	22号溝跡 甕 土師器	器高：(83mm) 口径： [108mm] 底径：- 最大 径：[119mm] 口縁部～ 底部1/3	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや軟 質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。丸底。最大径 は胴部中央。外面：口縁部～胴部上端は横 なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部 は横なで、胴部～底部は篋なで、輪積痕が 残る。	
2区 0164	23号溝跡 器台 土師器	器高：86mm 口径：91mm 底径：[86mm] 口縁部～ 脚部2/3	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや硬 質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がり、脚部は漏 斗状に開く。脚部上半に3カ所の円形透かし あり。外面：口縁部～胴部は横なで、一部 ハケ目が残り、底部～脚部上端は篋削り、 脚部はなで。内面：口縁部～底部は横なで、 一部指頭痕が残り、脚部はなで。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
2区 0165	27号溝跡 短頸壺 須恵器	器高：(70mm) 口径：－ 底径：－ 口縁部～胴部 上半1/6	径1mm前後の砂粒を含む。 還元。硬質。灰白。	轆轤整形。口縁部はほぼ直立。外面：胴部上半に沈線2条。内外面共に口縁部～胴部上半は回転まで。	
2区 0166	31号溝跡 ? 鉄製品	長：(61mm) 幅：7～8mm 厚：6mm		芯は空洞。用途不明。	
2区 0167	35号溝跡 杯 土師器	器高：(27mm) 口径： [134mm] 底径：－ 口縁部～ 底部1/6	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。外面：口縁部～胴部上半は横まで、胴部下半～底部は篋削り。口縁部～胴部は横まで、一部指頭痕が残る、底部はなで、一部指頭痕が残る。	内外面に一部油煙付着。
3区 0343	2号溝跡 杯 須恵器	器高：36mm 口径：119mm 底径：65mm ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転まで。	外面底部に墨書「仁」。内面口縁部・外面口縁部～胴部に油煙付着、燻し。
0344	蓋 須恵器	器高：(42mm) 口径： [177mm] つまみ径：－ 天井部～口縁部1/3	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。返りは口縁端部にあり短い。外面：天井部上半は回転まで、天井部下半～口縁部は回転まで。内面：天井部～口縁部は回転まで。	内面はほぼ全面的に油煙付着、燻し。

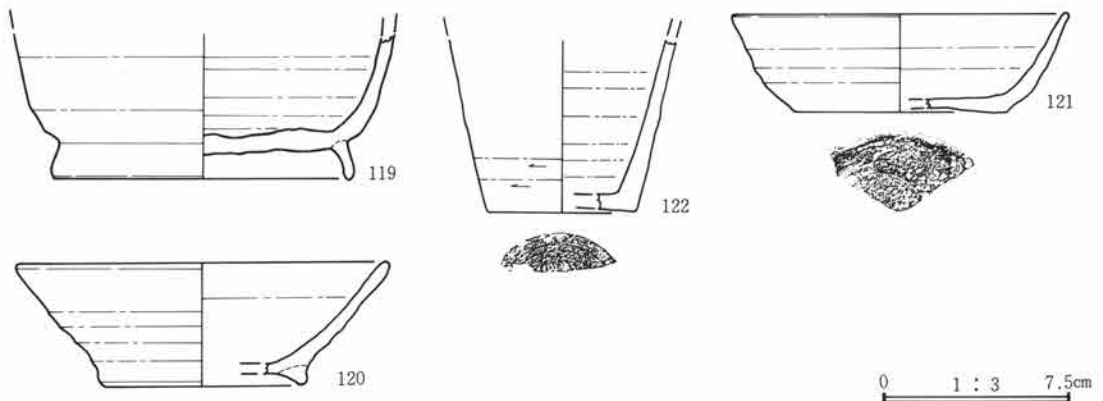
1区1号井戸跡

当井戸跡は1区6号溝跡・1区26号土坑と重複する。1区6号溝跡との新旧関係は、不明である。1区26号土坑との新旧関係は、同土坑の北端部を当井戸跡の南部が破壊していることから、当井戸跡の方が新しい。

当井戸跡の規模は、長軸約2.9m・短軸約2.7m・確認面からの深さ約1.4mであり平面形は不整形な楕円形を呈する。断面形は底部ほど狭くなる摺鉢状であり、確認面から約0.3m下位で段を持つ。上面の北東と南西の対角線上にピットが2基検出できた。井戸に伴う施設の跡と考えられる。遺物は須恵器の杯(121・124)、須恵器の椀(119・120)、須恵器の皿(123)、須恵器の升(122)、木製品の建築部材(439)などが出土している。また、底部から上0.3~0.5mの地点からは、石が投げ込まれた状態で検出できた。

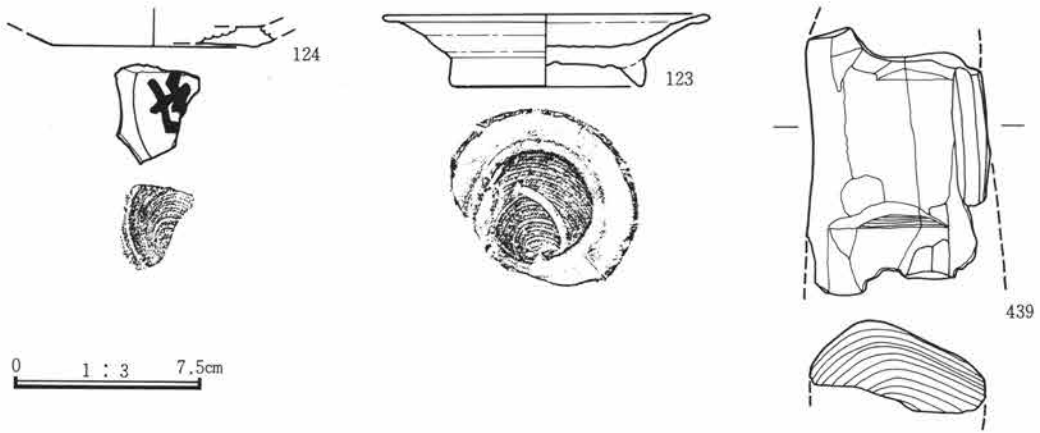


第111図 1区1号井戸跡



第112図 1区1号井戸跡出土遺物①





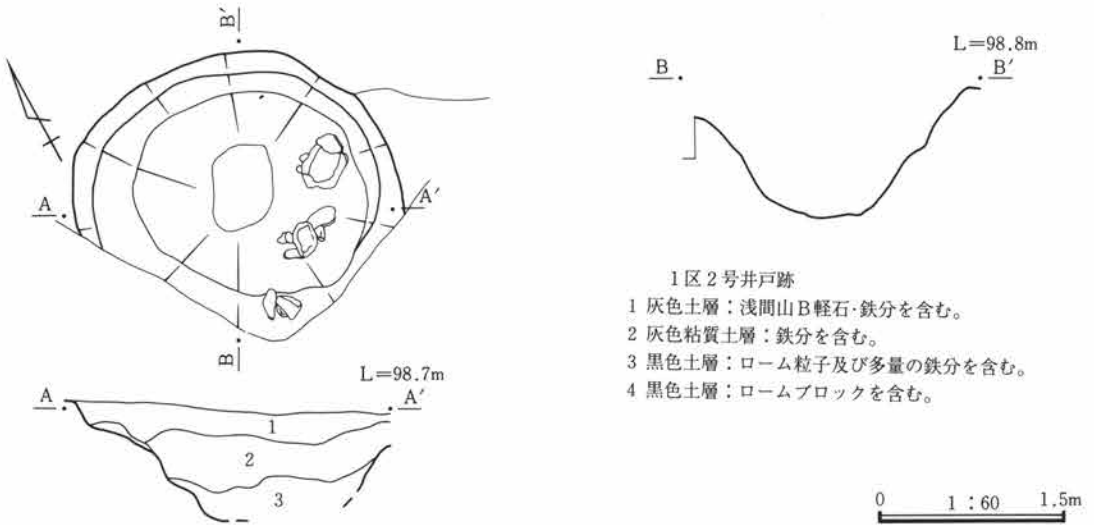
第113図 1区1号井戸跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0119	碗 須恵器	器高：(57mm) 口径：一 底径：105mm 胴部～高台 部3/5	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。還元。硬質。 灰。	轆轤整形。胴部はやや内湾しつ つ広がる。外面：胴部は回転 などで、底部は回転施切り後 高台貼り付け。内面：胴部～ 底部は回転などで。	内外面に一部鉄分 付着。
0120	碗 須恵器	器高：(49mm) 口径： [148mm] 底径：[82mm] 口縁部～高台部1/4	径3～4mmの小石及び砂 粒を含む。還元。硬質。 オリブ灰。	轆轤整形。胴部～口縁部はほ ぼ直線的に広がる。外面：口 縁部～胴部は回転などで、 底部は高台貼り付け後など。 内面：口縁部～底部は回転 などで。	内外面に一部鉄分 付着。
0121	杯 須恵器	器高：(39mm) 口径： [134mm] 底径：[85mm] 口縁部～底部1/4	径1mm前後の砂粒を含 む。不完全還元。硬質。 灰白・鈍い橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口 縁部は僅かに内湾しつにつ つ広がる。外面：口縁部～ 胴部は回転などで、底部は 回転施切り。内面：口縁部 ～底部は回転などで。	内面に一部鉄分 付着。
0122	升 須恵器	器高：(68mm) 口径：一 底径：[60mm] 胴部～底 部1/4	径3～4mmの小石及び砂 粒を含む。還元。硬質。 灰白。	轆轤整形。胴部は直線的に 広がる。外面：胴部は回転 などで、底部は回転施切り 後一部回転などで。内面： 胴部～底部は回転などで。	内外面に一部に鉄 分付着。
0123	皿 須恵器	器高：28mm 口径： [130mm] 底径：76mm 口 縁部～高台部3/5	径3～4mmの小石及び砂 粒を含む。不完全還元。 硬質。灰白・淡赤橙。	轆轤整形、右回転。胴部は直 線的に広がり、口縁部はや や外反。外面：口縁部～ 胴部は回転などで、底部は 回転施切り後高台貼り付け。 内面：口縁部～底部は回転 などで。	内外面の口縁部～ 胴部に油煙付着、 燻し。内外面に一 部鉄分付着。
0124	杯 須恵器	器高：(9mm) 口径：一 底径：[82mm] 胴部下 端～底部1/8	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。還元。硬質。 灰白。	轆轤整形、右回転。外面： 胴部下端は回転などで、 底部は回転施切り。内面： 剝離して不明。	外面底部に墨書。 釈読不能。
0439	建築部材 木製品	長：(106mm) 幅：71mm厚 ：35mm	有芯材。	本来は丸木と思われるが、半 分欠損。両端も欠損。表に 1カ所組み合わせのための 切り込みがある。	井戸底面出土。

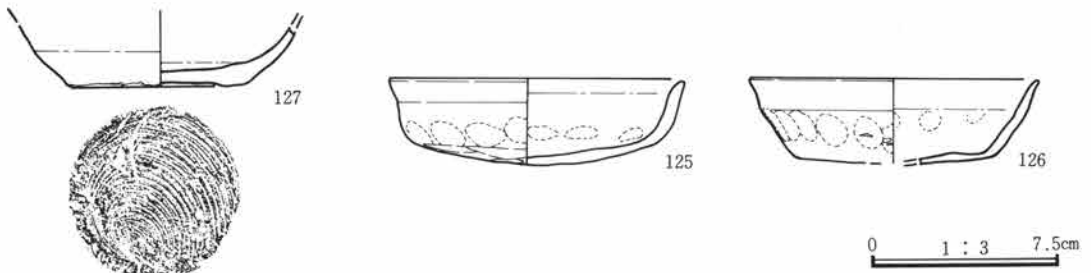
1区2号井戸跡

当井戸跡は、1区16号溝跡・1区25号土坑と重複する。1区16号溝跡との新旧関係は、同溝跡の一部を当井戸跡が破壊していることから、当井戸跡の方が新しい。1区25号土坑との新旧関係は、直接的に確認できなかったが、同溝跡が1区16号溝跡より古いことから、当井戸跡の方が新しい。

当井戸跡の規模は、南部の一部が調査区域外のために確定できないが、東西約2.6m・確認面からの深さ約1.1mであり、平面形は不整形な円形ないしは楕円形を呈するものと推定される。断面形は底部ほど狭くなり、すり鉢状を呈する。遺物は土師器の杯（125・126）、須恵器の杯（127）などが出土している。また、底部近くからは石が投げ込まれた状態で検出できた。



第114図 1区2号井戸跡



第115図 1区2号井戸跡出土遺物

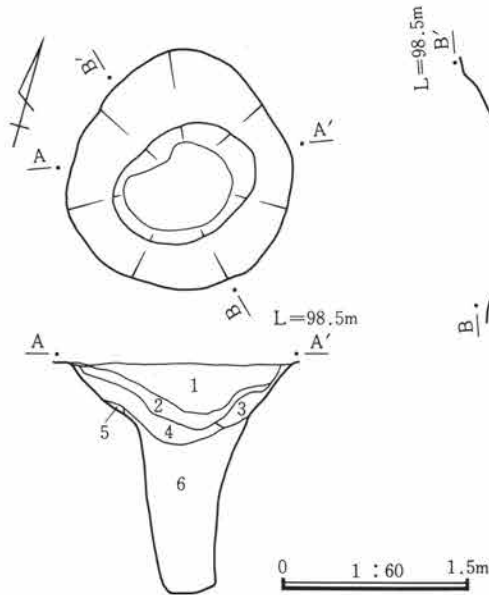
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0125	杯 土師器	器高：34mm 口径：118mm ほぼ完形	径1~2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部~口縁部はほぼ直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部~底部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部下半はなで。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0126	杯 土師器	器高：(33mm) 口径： [115mm] 底径：[80mm] 口縁部～底部1/4	径1mm前後の砂粒を含む。 酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がり、 口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部は横 なで、胴部は指頭痕が残り、底部は篋削り。 内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指 頭痕が残り、底部はなで。	内面口縁部の一部 に漆又はタール付 着。
0127	杯 須恵器	器高：(27mm) 口径：一 底径：70mm 胴部～底部 3/4	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。還元。やや軟 質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部はやや内湾しつつ広 がる。外面：胴部は回転なで、底部は回転糸 切り。胴部～底部は回転なで。	胴部中央で丁寧に 打ち欠いてある。

## 1区3号井戸跡

当井戸跡は、1区23号溝跡・1区33号土坑と重複する。1区23号溝跡との新旧関係は、同溝跡の一部が当井戸跡に破壊されていることから、当井戸跡の方が新しい。1区33号土坑との新旧関係は、同土坑南端が井戸跡の北端の下から検出されたことから、当井戸跡の方が新しい。

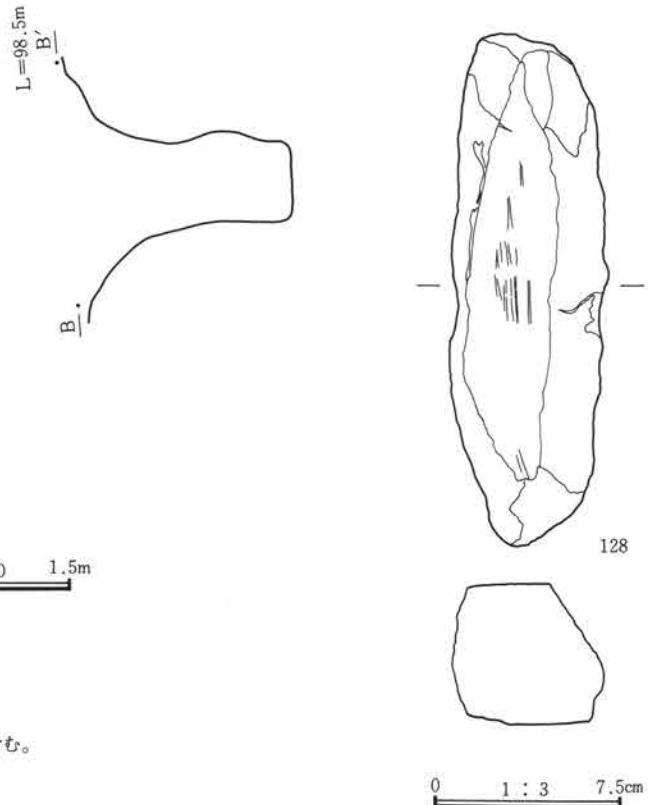
当井戸跡の規模は、長軸約1.9m・短軸約1.8m・確認面からの深さ約1.8mであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。断面形は、円筒形を呈するが底面から1.3m以上は漏斗状に広がる。遺物は砥石(128)の他は、小破片が出土しているだけである。



1区3号井戸跡

- 1 褐色砂土層：多量の浅間山B軽石を含む。
- 2 浅間山B軽石層。
- 3 褐色土層：浅間山B軽石を含む。
- 4 暗褐色砂質土層：浅間山B軽石及び多量の砂を含む。
- 5 黄褐色砂質土層：鉄分を含む。
- 6 黒色土層：浅間山B軽石を含む。

第116図 1区3号井戸跡

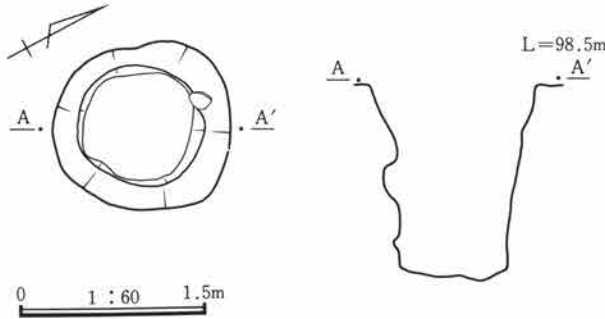


第117図 1区3号井戸跡出土遺物

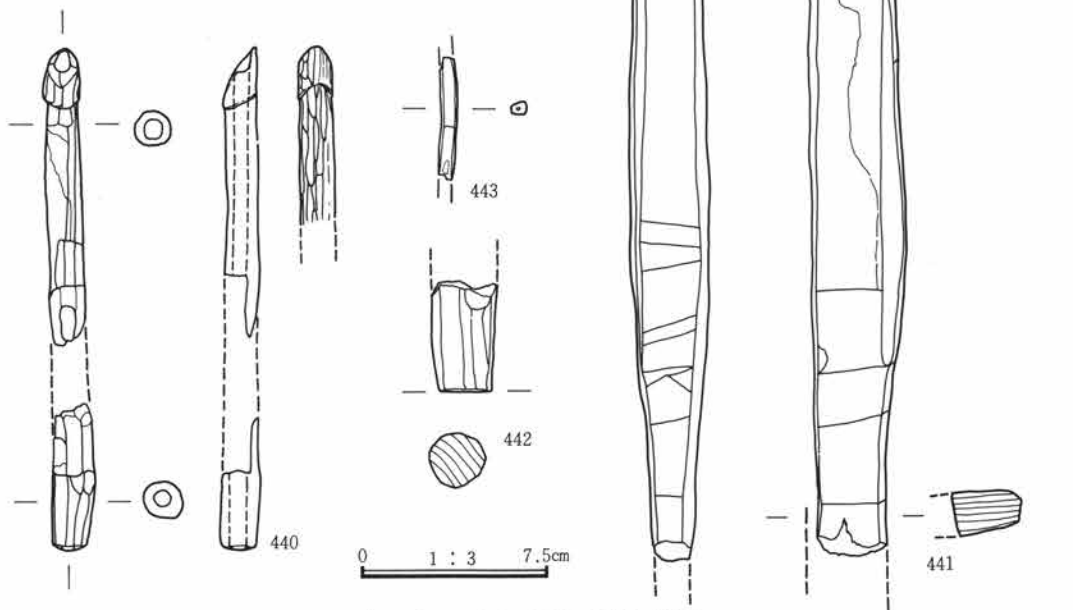
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0128	砥石	長：202mm 幅：63mm 厚：56mm 重：1050.5g	変質安山岩。	仕様面は2面。	

1区4号井戸跡

当井戸跡は、1区34号溝跡・1区27号土坑と重複する。1区34号溝跡との新旧関係は、同溝跡の一部を当井戸跡が破壊していることから、当井戸跡の方が新しい。1区27号土坑との新旧関係は、不明である。当井戸跡の規模は、長軸約1.4m・短軸約1.3m・確認面からの深さ約1.5mであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。断面形は、円筒形を呈するが、上部がやや広がる。遺物は、木製陽物(440)、棒状木製品(442)、加工木(443)、不明木製品(441)など木製品が出土している。



第118図 1区4号井戸跡



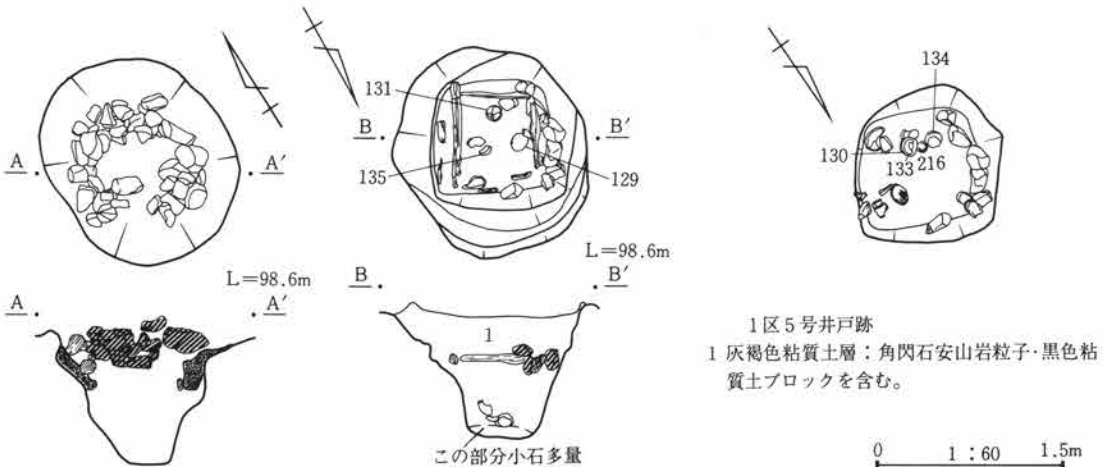
第119図 1区4号井戸跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0440	陽物 木製品	長：(108・58mm) 幅： 17mm 厚：14mm	丸木。	基部は直径1.5cm。若年の茎を使用し、芯を 剥り抜いている。周囲は1.5～3.5cm幅で調 整。先端下部の一部と中央・基部は欠損。	井戸内下層。
0441	不明 木製品	長：(445mm) 幅：48mm厚 ：28mm	割り材。	中央は2.8cm×3.5cmの角形。一方をしいだ いに細くし、一方を幅広くした後、縊を削りだ す。	井戸内下層。
0442	棒状 木製品	長：(44mm) 幅：26mm 厚 ：22mm	みかん割り。	最大径は2.2cm。みかん割りの割り材から丸 棒状に削り出す。木口は切断。一方は欠損。 周囲は粗く削る。	井戸内下層。
0443	加工木 木製品	長：(48mm) 幅：7mm 厚 ：5mm	枝材。	径4mmの細枝の1カ所を面取りする。両端は 欠損。	井戸内下層。

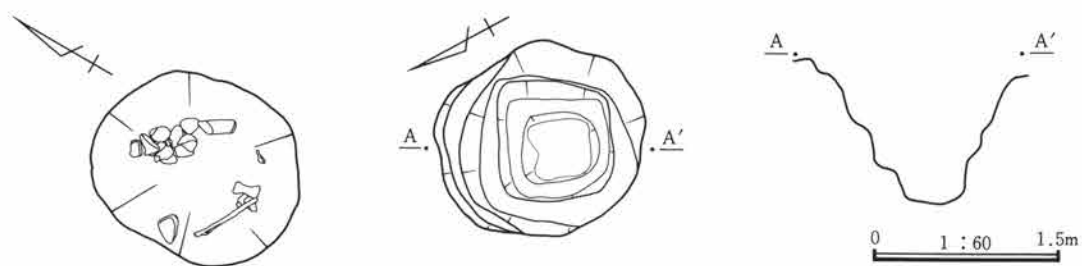
## 1区5号井戸跡

当井戸跡は、1区19号溝跡・1区24号溝跡と重複する。1区19号溝跡との新旧関係は、同溝跡の下面から当井戸跡が検出されたことから、当井戸跡の方が古い。1区24号溝跡との新旧関係は、不明である。当井戸跡の規模は、長軸約1.7m・短軸約1.5m・確認面からの深さ約1.1mであり、上面の平面形は不整形な楕円形を呈する。上面は方形に石が組み立てられており、確認面から約0.5m下の平面形は方形を呈し、内側には木枠が組み立てられていた。断面形はすり鉢状に近いが、底面から0.3m及び0.5mの地点には段がある。

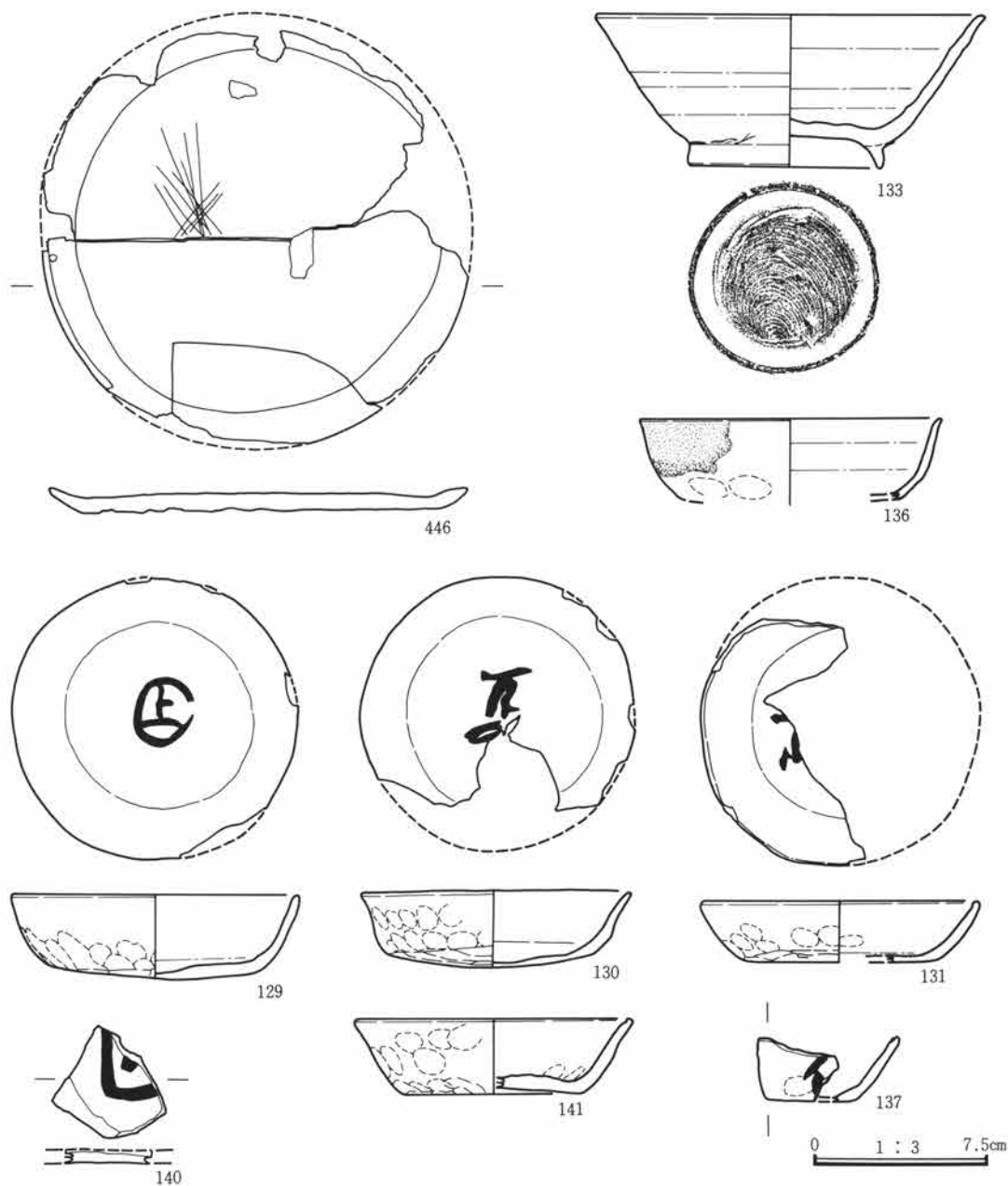
遺物は、土師器の杯(129・130・131・137・138・139・140・216)、土師器の台付甕(132)、須恵器の杯(134・135・136・141)、須恵器の椀(133)、管玉(142)、木製品の枝杭(444)、木製品の皿(446)などが出土している。土師器・須恵器には墨書土器が多い。129・138は「上」、135は「伊」の他、130・131・136・137・139・140・141にも墨痕が認められる。また、土師器の杯の内面には藁状の物が詰まっていた。



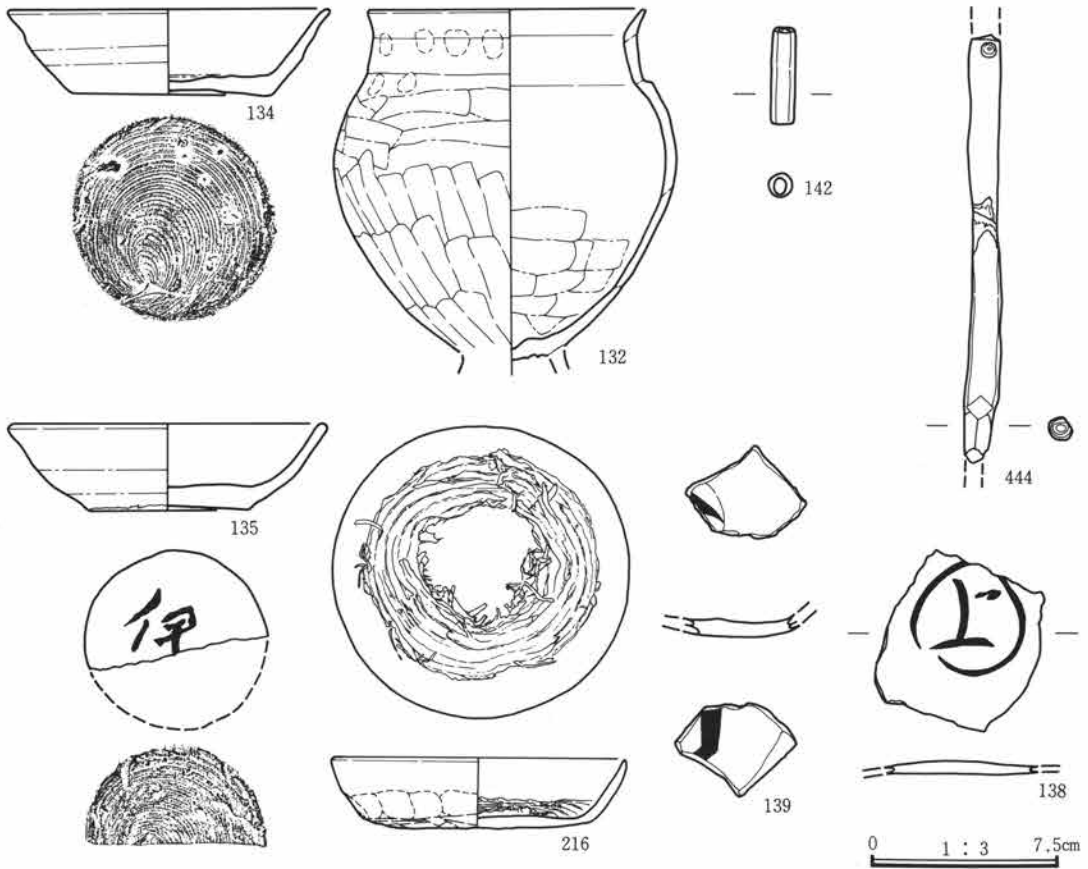
第120図 1区5号井戸跡



第121図 1区5号井戸跡掘形



第122図 1区5号井戸跡出土遺物①



第123図 1区5号井戸跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0129	杯 土師器	器高：36mm 口径：123mm 底径：89mm ほぼ完形	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、底部はなで。一部指頭痕が残る。	内面の底部に墨書「㊦」。
0130	杯 土師器	器高：33mm 口径：117mm 底径：88mm 口縁部～底部3/4	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い褐。	胴部～口縁部はほぼ直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで、指頭痕が残る。	内面の底部に墨書「万呂」。
0131	杯 土師器	器高：(27mm) 口径： [118mm] 底径：[76mm] 口縁部～底部2/5	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い黄橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残る。	内面の底部に墨書。釈読不能。
0132	台付甕 土師器	器高：(138mm) 口径： 113mm 底径：— 最大径： 136mm 口縁部～脚部上端1/1	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐。	口縁部は「コ」字状に外反。最大径は胴部上半。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部は篋削り、胴部下端～脚部上端は横なで。内面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋なで、脚部上端はなで。	内外面に多量の油煙付着。二次炎を受けている。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0133	碗 須恵器	器高：65mm 口径：166mm 底径：84mm 完形	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰白・淡赤橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転まで。	外面口縁部～底部に多量の油煙付着。二次炎を受けている。
0134	杯 須恵器	器高：34mm 口径：128mm 底径：80mm 完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転まで。	外面口縁部～底部に一部油煙付着。
0135	杯 須恵器	器高：35mm 口径：[126mm] 底径：72mm 口縁部～底部1/2	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転まで。	外面の底部に墨書「伊」。外面口縁部に油煙付着。
0136	杯 土師器	器高：(34mm) 口径：[129mm] 底径：[92mm] 口縁部～底部上端1/6	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い黄橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横などで、胴部は指頭痕が残る。内面：口縁部～底部上端は横などで、一部指頭痕が残る。	外面口縁部の一部に漆又はタール付着。
0137	杯 土師器	器高：(27mm) 口径：— 底径：— 口縁部～底部上端小破片	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い褐。	胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部は横などで、胴部は指頭痕残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横などで、一部指頭痕が残る。	外面胴部に墨書。積読不能。
0138	杯 土師器	器高：— 口径：— 底径：— — 底部破片	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い褐。	外面：底部は篋削り。内面：底部上端は横などで、底部はなで、一部指頭痕が残る。	内面の底部に墨書「㊦」。
0139	杯 須恵器	器高：— 口径：— 底径：— — 胴部下端～底部小破片	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転などで、底部は回転糸切り。内面：胴部下端～底部は回転まで。	外面底部に墨書。積読不能。内面に油煙付着。
0140	杯 須恵器	器高：— 口径：— 底径：— — 底部破片	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：底部は回転糸切り。内面：剝落により不明。	外面底部に墨書。積読不能。
0141	杯 土師器	器高：(32mm) 口径：[120mm] 底径：[76mm] 口縁部～底部1/4	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	胴部～口縁部はほぼ直線的に広がり、口縁端部は僅かに内湾。外面：口縁部は横などで、胴部は指頭痕残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横などで、一部指頭痕残り、底部はなで。	
0142	管玉?	長：25mm 直径：7mm 孔径：3mm 重：1.2g	土製品?	直径に比べて穴が太い。	
0216	杯 土師器	器高：28mm 口径：118mm 底径：60mm 完形	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。明黄褐。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横などで、胴部は指頭痕残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横などで、一部指頭痕残り、底部はなで、一部指頭痕が残る。	内部に糞あり。外面に油煙付着。
0444	枝杭 木製品	長：(168mm) 幅：14mm 厚：10mm	枝材。	直径1cmの皮付き枝の一方を尖らす。一方は欠損。	南棗の杭。



番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0446	皿 木製品	直径：186mm 高：11mm厚 ：8mm	柾目。	柾目板から削り出す。口縁部は斜めに立ち上がる。内面底部は平坦。内面調整は非常に丁寧。	井戸内南西隅。

## 2区1号井戸跡

当井戸跡は、2区1号溝跡・2区4号溝跡に近接するが、重複はない。当井戸跡の規模は、長軸約1.3m・短軸約1.1mであり、平面形は不整形な楕円形を呈するが、内部は方形を呈し、木枠が組まれている。木枠の上は石で枠が組まれていたと考えられるが、大部分は内部に落ち込んだ状態で検出された。

遺物は須恵器の杯(143)が出土しているほかは、土師器・須恵器の小破片である。出土した須恵器は「三井」の墨書が内外面に書かれている。



0 1 : 60 1.5m

第124図 2区1号井戸跡



143



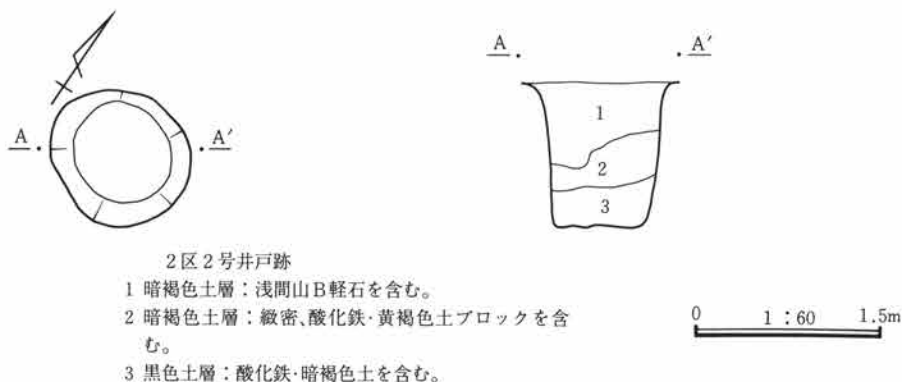
0 1 : 3 7.5cm

第125図 2区1号井戸跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0143	杯 須恵器	器高：38mm 口径：135mm 底径：65mm 口縁部～底 部2/3	径3～4mmの小石及び砂 粒を含む。還元。硬質。 灰白。	甕輪整形。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がりがり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後粘土を貼り付ける。内面：口縁部～底部は回転なで、底部は粘土を貼り付ける。	内面及び外面の口縁部～胴部に墨書「三井」。

### 2区2号井戸跡

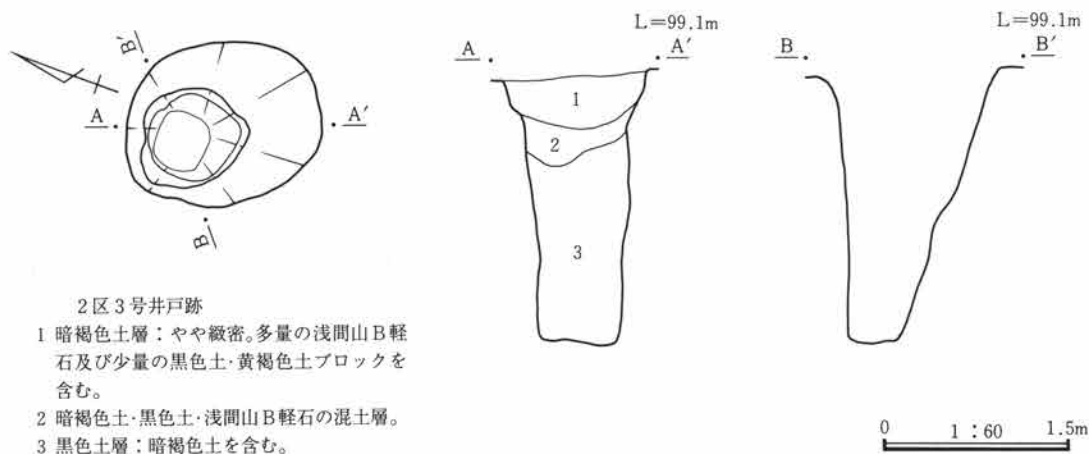
当井戸跡は、2区1号掘立柱跡に近接するが、重複はない。当井戸跡の規模は長軸約1.2m・短軸約1.0m・確認面からの深さ約1.1mであり、平面形は楕円形を呈する。断面形は長方形を呈するが、上部が僅かに広がる形態である。遺物は、土師器・須恵器・灰釉陶器・陶器の小破片が出土しているだけである。



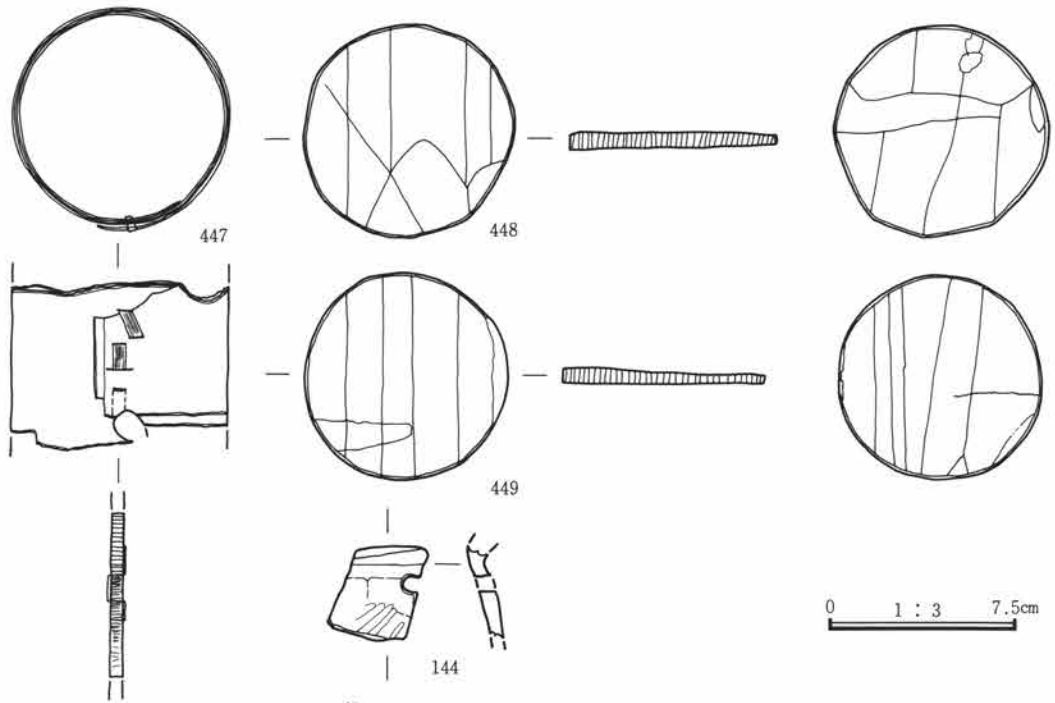
第126図 2区2号井戸跡

### 2区3号井戸跡

当井戸跡に重複はない。当井戸跡の規模は、長軸約1.6m・短軸約1.3m・確認面からの深さ約2.1mであり、平面形は楕円形を呈する。断面形は長方形を呈するが、上端がやや広がる。特に、南側は大きく広がっている。全体の形態は円筒形に近い。遺物は土師器の甕? (144)、木製品の曲物柄杓 (447)、曲物底板 (448・449) などが出土している。447・448・449は同一製品と考えられる。



第127図 2区3号井戸跡

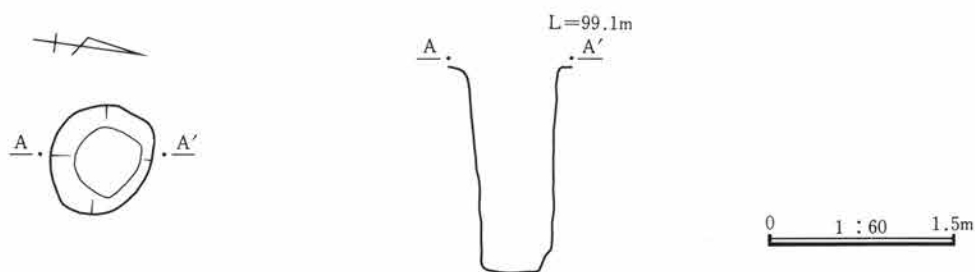


第128図 2区3号井戸跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0144	甕? 土師器?	器高：— 口径：— 底径： — 孔径：6mm 胴部小 破片	径1mm前後の砂粒を含む。 酸化。やや硬質。鈍 い橙。	外面胴部に沈線一条あり、その下に穿孔。外 面：鈍削り。内面：なで。	
0447	柄杓 曲物	直径：86mm 高：(65mm)	柁目。	上下端は欠損。側板は螺旋状に巻き、皮綴じ 部分で3重、他は2重となる。反対側にも3列 皮綴じが認められるが、2枚目の裏側には貫 通していないことから、側板は再利用され ていると考えられる。側板に径1cmの円孔が あり、取っ手を差し込んだものと考えられ る。	井戸内下層。
0448	曲物底板 木製品	直径：81～83mm 厚：4～ 6mm	柁目。	小型であり、周囲と表面の調整は粗い。	井戸内。
0449	曲物底板 木製品	直径：80mm 厚：5～6mm	柁目。	周囲と両面の調整は粗い。	

## 2区4号井戸跡

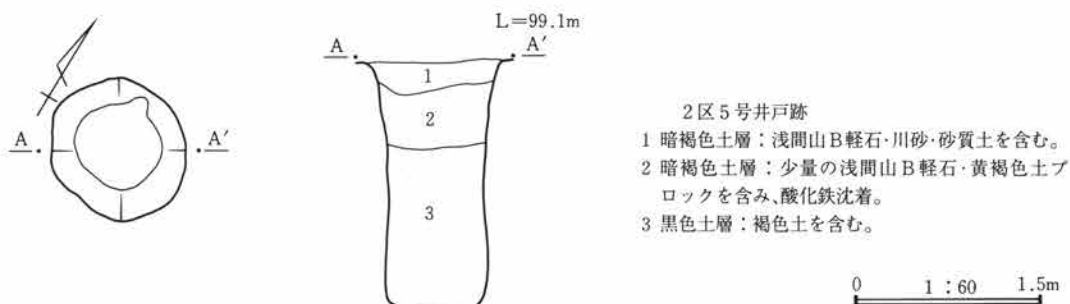
当井戸跡は、2区4号土坑が近接するが、重複はない。当井戸跡の規模は、長軸約0.9m・短軸約0.8m・確認面からの深さ約1.6mであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。断面形はほぼ長方形に近いが、上部が僅かに広がる。全体の形態は円筒形である。遺物は土師器・須恵器の小破片が出土しているだけである。



第129図 2区4号井戸跡

### 2区5号井戸跡

当井戸跡は、2区7号井戸跡・2区9号溝跡と近接するが、重複はない。当井戸跡の規模は、長軸約1.2m・短軸約1.0m・確認面からの深さ約1.9mであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。断面形はほぼ長方形であり、上端が僅かに広がる。全体の形態はほぼ円筒形である。遺物の出土はない。



第130図 2区5号井戸跡

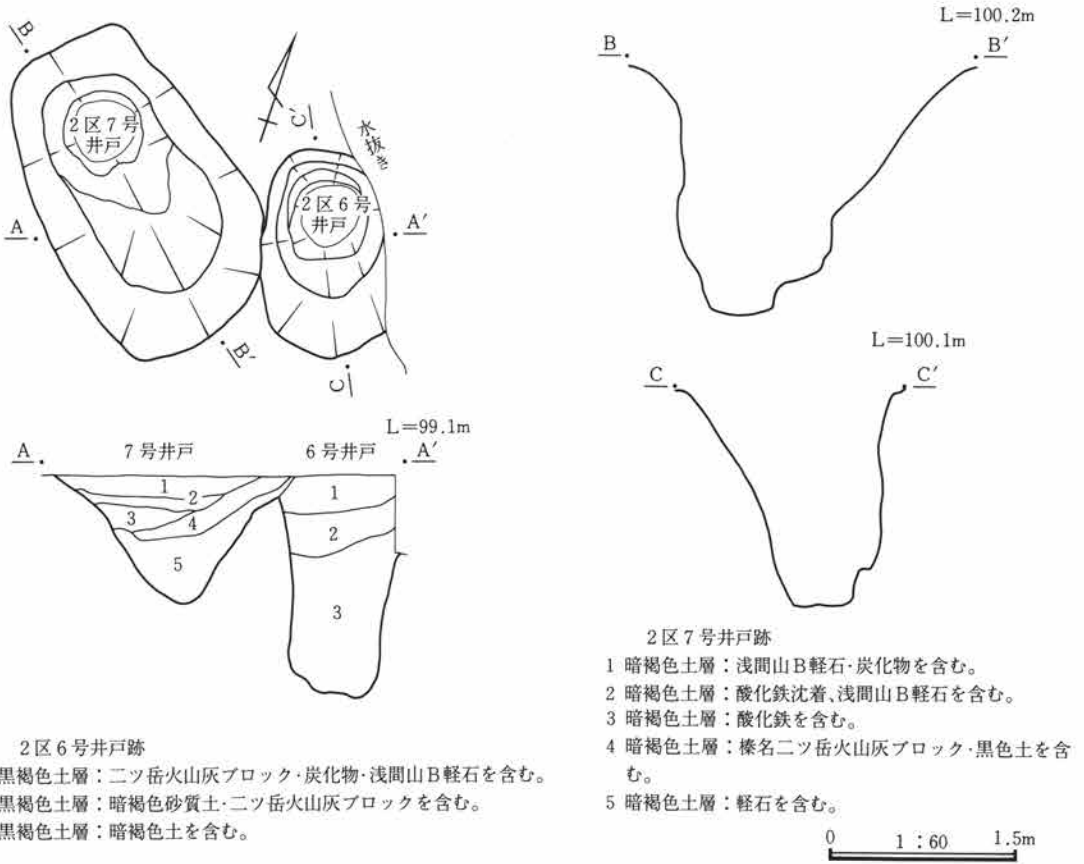
### 2区6号井戸跡

当井戸跡は、2区7号井戸跡と重複する。新旧関係は、2区7号井戸跡により当井戸跡の西側部分の一部が破壊されていることから、当井戸跡の方が古い。当井戸跡の規模は、上端が排水口により破壊されているために確定できないが、長軸約1.6m・確認面からの深さ約1.8mであり、平面形は不整形な楕円形を呈するものと推定される。断面形は、東西方向ではほぼ長方形を呈するが、南側が大きく削られている。全体の形態は、南側が削られているがほぼ円筒形に近い。遺物は出土していない。

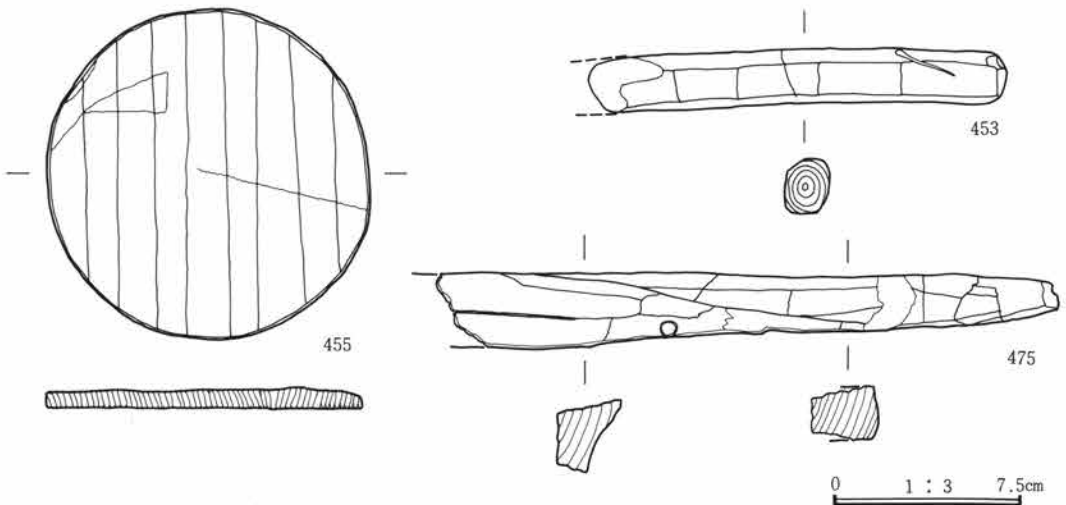
### 2区7号井戸跡

当井戸跡は、2区6号井戸跡と重複し、2区5号井戸跡と近接する。新旧関係は、2区6号井戸跡の西側の一部を当井戸跡の東側が破壊していることから、当井戸跡の方が新しい。当井戸跡の規模は、長軸約2.6m・短軸約1.6m・確認面からの深さ約2.0mであり、平面形は不整形な長方形ないしは不整形な楕円形を呈する。断面形は、北西側が垂直に近く、南東側が緩やかな斜面を呈し、ほぼ三角形

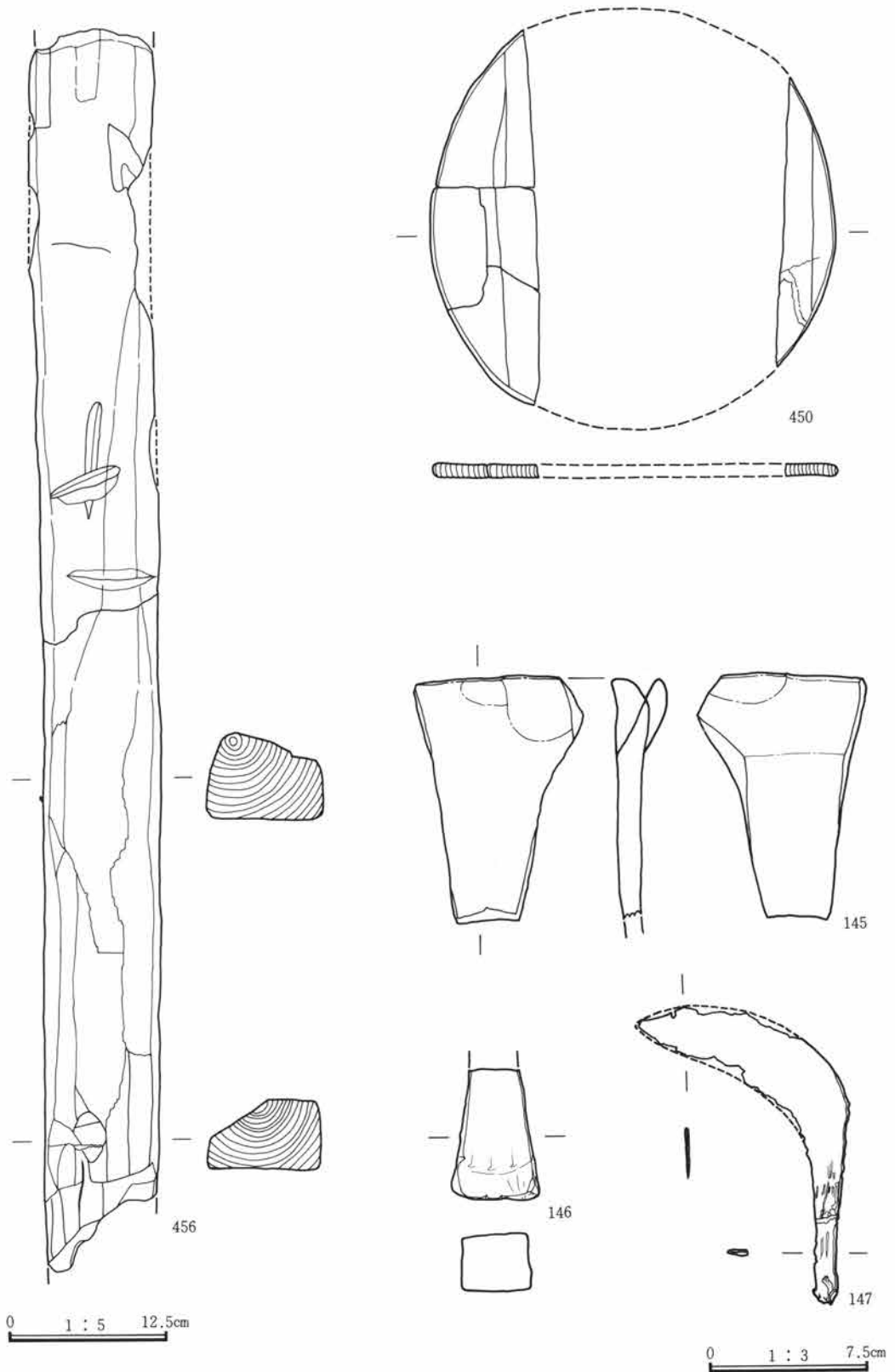
に近い。遺物は軟質陶器・片口鉢（145）、砥石（146）、鉄製鎌（147）の他、木製品が多く出土している。木製品の種類は、曲物底板（450・455）、薄板（451・452・474）、棒状製品（453）、加工木（454）、角材（456）、角杭（475）、くさび状製品（476）などである。



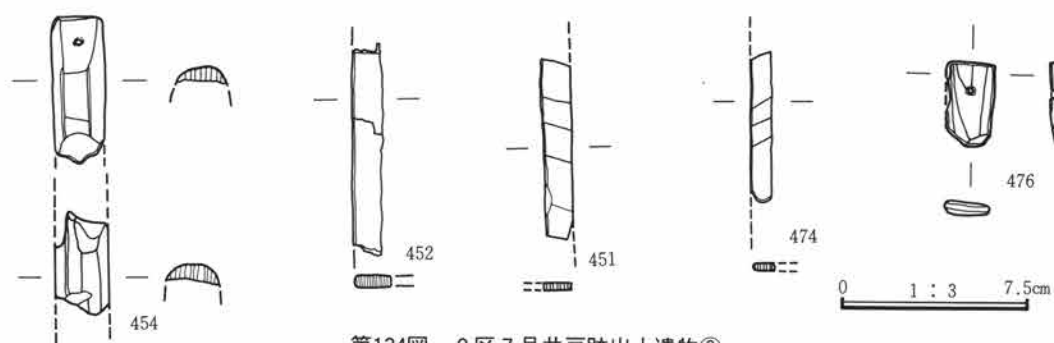
第131図 2区6・7号井戸跡



第132図 2区7号井戸跡出土遺物①



第133図 2区7号井戸跡出土遺物②

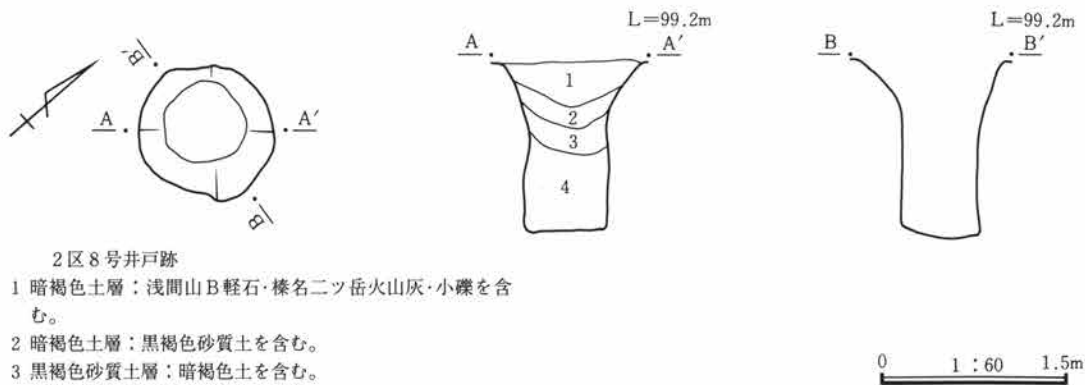


第134図 2区7号井戸跡出土遺物③

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0145	摺鉢 軟質陶器	器高：— 口径：— 底径： — 口縁部～胴部破片	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	口縁部は受け口状を呈する。片口を有する。内面下端から3cm付近まで使用による摩滅が認められる。	在地製品。14～15世紀。
0146	砥石	長：(61mm) 幅：42mm 厚： 27mm 重：98.3g	砥沢石。	使用面は3面。	
0147	鎌 鉄製品	長：158mm 幅：10～32mm 厚：1.5～3mm		刃部は湾曲。鉄板を折り重ねて製造。基部に柄の材の繊維が付着。	
0450	曲物底板 木製品	直径：(150mm) 厚：6mm	柾目。	2片あるが、接合しない。直径・厚さに共に同一であり、同一個体の可能性がある。	井戸内覆土。
0451	薄板 木製品	長：(72mm) 幅：12mm 厚： 2mm	柾目。	3カ所に斜めの切目がある。	井戸内覆土。
0452	薄板 木製品	長：(80mm) 厚：4mm	柾目。	一方の側縁は遺存する。	井戸内下層。
0453	棒状木製品	長：(166mm) 幅：24mm 厚： 18～22mm	有芯材。	周囲を粗く削る。接合しないが同一の個体と考えられる。	井戸内下層。
0454	加工木 木製品	長：(58・41mm) 幅： (20mm) 厚：6mm	割材。	若木の有芯材表面を面取りする。木口よりに小円孔をあける。表面は欠損。小円孔のある木口は切断している。	井戸内下層。
0455	曲物底板 木製品	直径：125～129mm 厚： 6mm	柾目。	表面は目やせする。	井戸内下層。
0456	角材 木製品	長：(960mm) 幅：91mm 厚： 60mm	有芯材。	芯は中央をはずれ、かなり片寄っている。遺存は悪い。	井戸内下層。
0474	薄板 木製品	長：(60mm) 幅：9mm 厚： 3mm	柾目。	7mm間隔で3本の切り込みを施し、更に17mmの所に1本の切り込みを入れ、この部分で欠損している。切り込みの深さは約半分。	井戸内下層。
0475	角杭? 木製品	長：(245mm) 幅：31mm 厚： 26mm	割材。	先端と思われる部分は炭化し、欠損。一方は斜めに切り取られて入る。	井戸内。
0476	くさび状 木製品	長：32mm 幅：19mm 厚： 1～5mm	板目。	小円孔のある木口部に最大厚があり、他方に行くに従い厚さを減じる。	井戸内下層。

### 2区8号井戸跡

当井戸跡は、2区29号溝跡と重複し、2区9号井戸跡と近接する。2区29号溝跡との新旧関係は、同溝跡の一部を当井戸跡が破壊していることから、当井戸跡の方が新しい。当井戸跡の規模は、直径約1.1m・確認面からの深さ約1.3mであり、平面形は不整形な円形を呈する。断面形は、ほぼ長方形であるが、上端がやや広がる。全体の形態はほぼ円筒形である。遺物は出土していない。



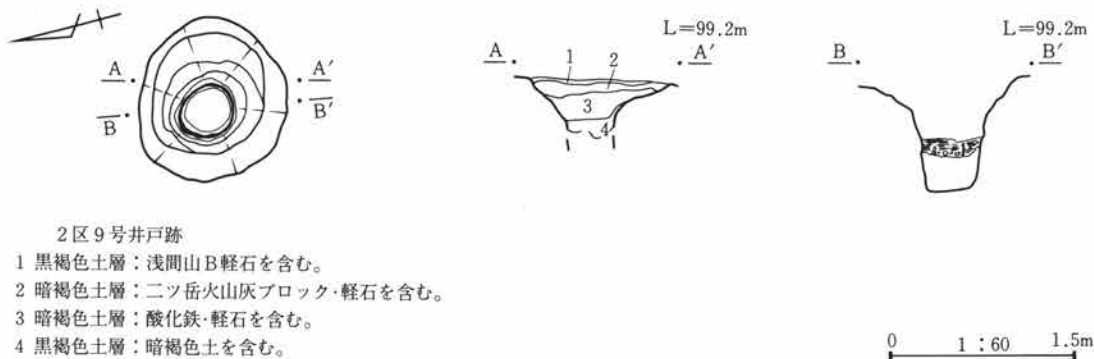
#### 2区8号井戸跡

- 1 暗褐色土層：浅間山B軽石・榛名二ツ岳火山灰・小礫を含む。
- 2 暗褐色土層：黒褐色砂質土を含む。
- 3 黒褐色砂質土層：暗褐色土を含む。
- 4 黒褐色粘質土層：暗褐色土を含む。

第135図 2区8号井戸跡

### 2区9号井戸跡

当井戸跡は、2区29号溝跡と重複し、2区8号井戸跡が近接する。2区29号溝跡との新旧関係は、同溝跡の一部を当井戸跡が破壊していることから、当井戸跡の方が新しい。当井戸跡の規模は、上端で長軸約1.3m・短軸約1.2mであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。下面では長軸約0.45m・短軸約0.4mであり、平面形は楕円形を呈する。確認面からの深さは約0.9mである。断面形は長方形を呈するが、底面から約0.6mの地点からは大きく広がる。全体の形態は漏斗状を呈する。底面から約0.3mの地点からは、井戸枠に用いられている曲物（458）が出土している。

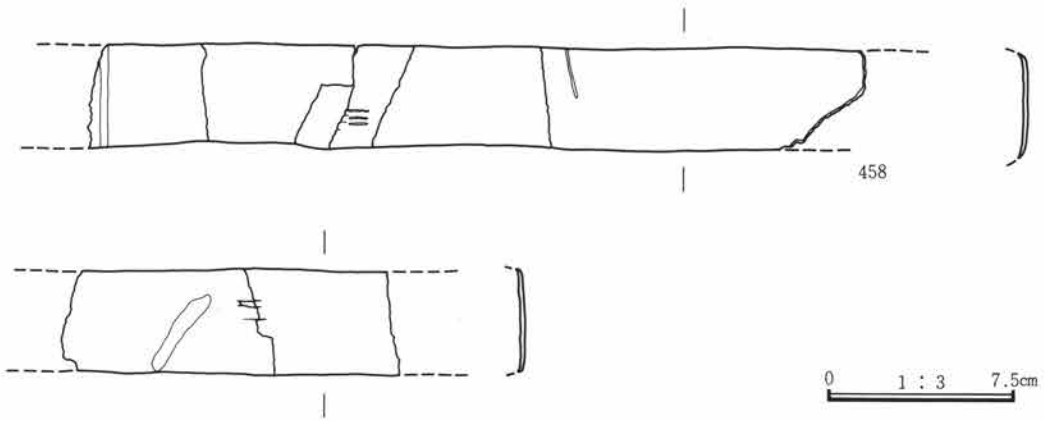


#### 2区9号井戸跡

- 1 黒褐色土層：浅間山B軽石を含む。
- 2 暗褐色土層：二ツ岳火山灰ブロック・軽石を含む。
- 3 暗褐色土層：酸化鉄・軽石を含む。
- 4 黒褐色土層：暗褐色土を含む。

第136図 2区9号井戸跡



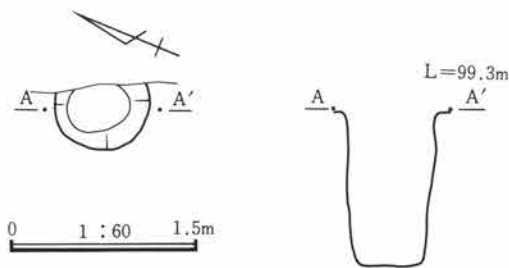


第137図 2区9号井戸跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0458	曲物側板 木製品	直径：一 幅：40～41mm 厚：2mm	柁目。	破片数が多く、個体数は不明であるが、皮とじ部分が1点であることから、1個対の可能性が高い。	井戸内覆土。

## 2区10号井戸跡

当井戸跡は、2区33号溝跡と近接するが、重複はない。当井戸跡の規模は、上面の東側が排水口により破壊されているために確定できないが、径約0.75mであり、平面形は円形ないしは楕円形を呈するものと推定される。下面の規模は長軸約0.5m・短軸約0.4mであり、平面形は楕円形を呈する。確認面からの深さは約1.2mである。断面形は長方形に近いが、上部がやや広がる。全体の形態はほぼ円筒形である。遺物は出土していない。



第138図 2区10号井戸跡

## 土 坑

### 概 要

当遺跡は、1区～6区まであり、遺構番号は区毎につけてある。土坑の子細は一覧表にまとめて記入してあり、一覧表は区順に掲載し、区の中は遺構番号順に掲載してある。一覧表の内容の平面形・規模については土坑上端の形・規模である。主軸方位は、土坑の長軸と磁北との角度を示した。遺物については、当報告書に実測図を掲載した遺物は、遺物の種類と登録番号を記入した。掲載しない遺物については破片が出土していることを記入した。備考欄は、重複関係や覆土中の軽石及び若干のコメントなどについて記入してある。重複については土坑と土坑の関係のみを記入し、住居跡等との関係については、住居跡の本文に記入してある。

当遺跡の基本土層の中には、浅間山や榛名山二ツ岳の火山灰・軽石が認められる。表土のしたには、浅間山B軽石を含む層があり、1～2区では浅間山B軽石純層が部分的に認められ、3区より北では純層として全面的に堆積している。浅間山B軽石を含む層の下、遺構の検出面には、洪水等の原因に因ると考えられる、二次堆積の榛名山二ツ岳の火山灰や軽石を含む層が部分的に認めらる。さらに、榛名山二ツ岳の含む層の下には、浅間山のC軽石を含む黒褐色土の層が認められる。

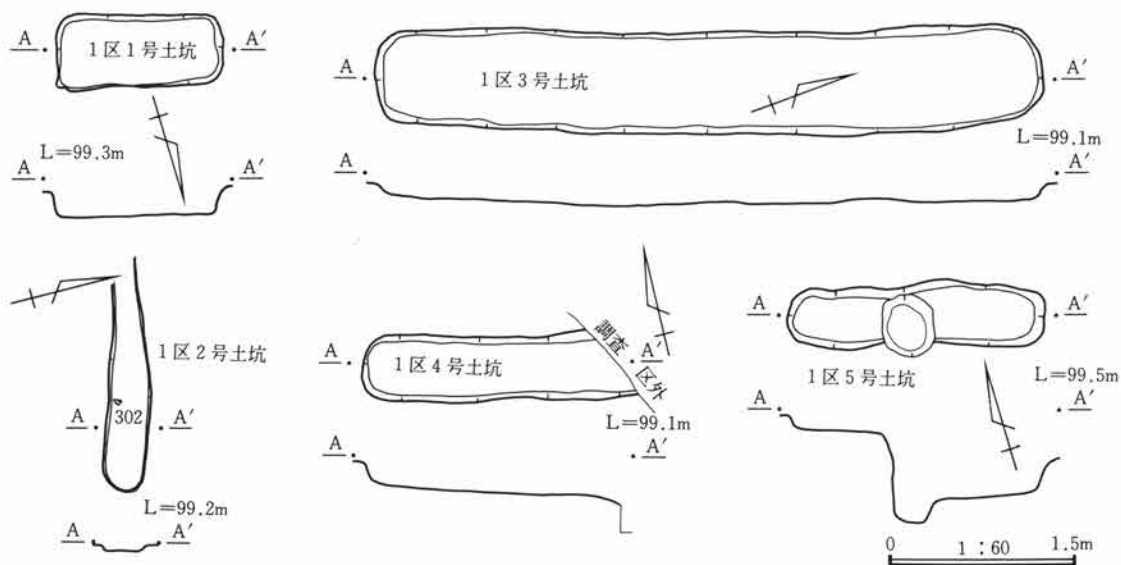
当遺跡から検出された土坑は、1区から33基、2区から18基、3区から6基、計57基である。遺構番号は、現場の番号を出来る限り使用した。従って、実測図のない土坑は欠番にしてある。複数の土坑が重複していると考えられる土坑もあるが、調査時の所見に従い1基の土坑として扱った。土坑の覆土中には、浅間山や榛名山二ツ岳の火山灰や軽石の堆積が確認できるものも多いが、純粋堆積は少ない。従って、浅間山や榛名山二ツ岳の火山灰や軽石の堆積が検出できても、浅間山や榛名山二ツ岳の爆発の時期を示す堆積ではない。

土坑の時期は、弥生時代末から近代まで考えられる。弥生時代の土坑は、遺物が出土している2区3号土坑である。覆土中から、浅間山C軽石や榛名山二ツ岳の火山灰・軽石が検出されている土坑の中で、古墳時代のものと考えられるのは、遺物の出土している土坑と、純層に近い堆積が見られるものである。1区14・24・32・33号土坑、2区17号土坑、3区1・2・3・5号土坑が古墳時代の土坑と考えられる。古代の土坑と考えられるのは、遺物の出土している1区15・18・21・25号土坑である。浅間山B軽石の堆積が認められるもの、遺物の出土しているものは、中世以降である。番号は1区2・27号土坑、2区1・2・5・6・7・8・9・10・11・13号土坑である。2区11号土坑は、底面から桶の底部が出土しているが、ボタンも出土しており、近代のものと考えられる。

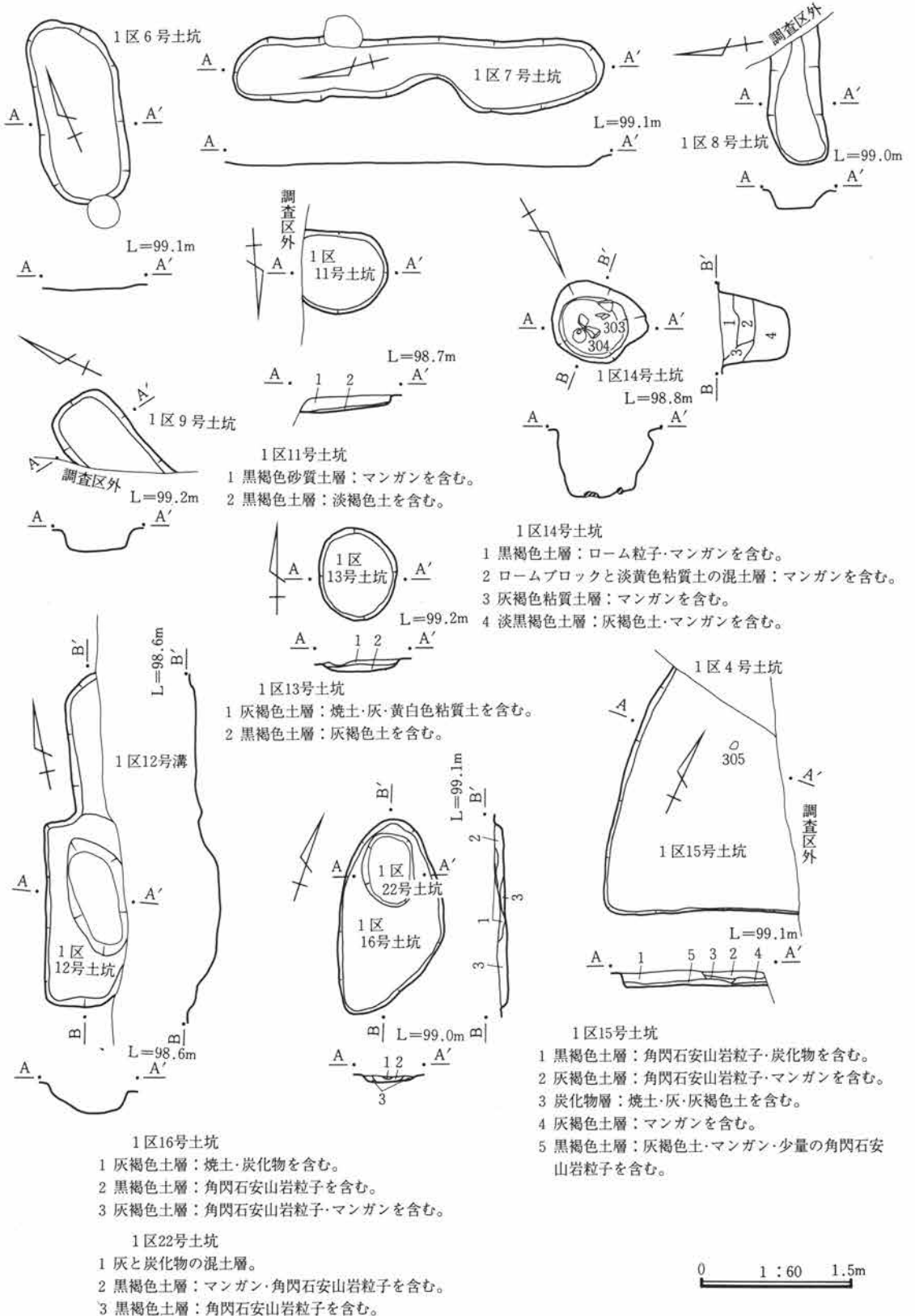
土坑の中で特に注目されるのは、1区18号土坑である。同土坑から出土している須恵器(306)の内部からは、漆紙文書が発見された。同土坑の覆土中には、炭化物粒子・焼土粒子が全体にわたって認められる。また、小ピットを除いた底面の状態は、細かい凹凸は認められるが、比較的平坦である。従って、土坑と考えるより、住居跡の掘形や他の遺構を考えることもできる。漆紙文書の解釈については、別項を参照されたい。

区	番号	平面形	長軸方位	規 模 (m)		遺 物	備 考	遺構図 番 号
				長軸×短軸×深さ				
1	1	長方形	N-73°-W	1.32×0.56×0.19		土師器・須恵器の小破片。		139
1	2	不定形		-×0.48×0.05		陶器・志野菊皿(302)。		139
1	3	長方形	N-19°-E	5.30×0.80×0.17		土師器・須恵器の小破片。		139
1	4	長方形		-×0.48×0.22		土師器の小破片。		139
1	5	不整長方形	N-77°-W	2.04×0.56×0.87		土師器・須恵器の小破片。	3基の土坑の重複か?	139
1	6	不整楕円形	N-12°-E	1.82×0.83×0.05		土師器の小破片。		140
1	7	不整長楕円形	N-11°-E	3.62×0.42×0.16		土師器・須恵器の小破片。	2基の土坑の重複か?	140
1	8	不整長方形?		-×0.53×0.20		無し。		140
1	9	長方形?		-×0.70×0.20		無し。		140
1	11	不整楕円形		-×0.80×0.10		灰釉陶器の小破片。		140
1	12	長方形		3.73×0.75×0.38		無し。		140
1	13	楕円形	N-16°-W	0.92×0.78×0.16		土師器・須恵器の小破片。	覆土上層に灰・焼土を含む。	140
1	14	不整楕円形		0.94×0.74×0.66		土師器台付甕(303)、土師器埴(304)、土師器の小破片。		140
1	15	不定形		-×-×0.11		須恵器杯(305)、土師器・須恵器の小破片。	覆土に角閃石安山岩及び中層に灰・焼土・炭化物を含む。底面は平坦。	140
1	16	不整楕円形	N-11°-W	1.96×1.01×0.10		土師器・須恵器の小破片。	覆土に角閃石安山岩・焼土・炭化物を含む。1区22土坑と重複。当土坑の方が古い。	140
1	17	楕円形	N-10°-W	1.74×1.06×0.10		土師器・須恵器の小破片。	覆土に角閃石安山岩を含む。	141
1	18	不定形		4.00×-×0.10		須恵器杯(306・307)、306の内部に漆紙文書あり。土師器・須恵器の小破片。	覆土全体に角閃石安山岩及び焼土粒子・炭化物粒子を含み、底面は比較的平坦である。当土坑の規模から考えると、住居後の掘形の可能性がある。	141
1	19	長方形?		-×-×0.07		土師器・須恵器の小破片。		141
1	20	楕円形		0.50×0.40×0.07		土師器・須恵器の小破片。	覆土に角閃石安山岩を含む。	141
1	21	不整楕円形		2.82×2.47×0.28		土師器杯(308)、須恵器蓋(309)、土師器・須恵器の小破片。	覆土上層に角閃石安山岩・炭化物を含む。	141
1	22	楕円形	N-26°-W	0.72×0.50×0.65		土師器の小破片。	覆土上層に灰・炭化物、下層に角閃石安山岩を含む。1区16土坑と重複。当土坑の方が新しい。	140
1	23	長方形?		-×0.68×0.16		土師器の小破片。	覆土に角閃石安山岩を含む。	141
1	24	楕円形?		-×1.30×0.21		土師器台付甕(310)、土師器埴(311)、土師器の小破片。	覆土に角閃石安山岩・炭化物を含む。	141
1	25	不明		-×-×0.12		須恵器杯(313)、灰釉陶器壺(312)、土師器・須恵器の小破片。		141
1	26	不定形		-×0.98×0.42		無し。		142
1	27	楕円形		0.80×0.74×0.22		無し。	覆土に多量の浅間山B軽石を含む。1区31土坑と重複。当土坑の方が新しい。	142
1	28	不整長方形	N-58°-E	0.72×0.50×0.65		無し。		142
1	29	楕円形?		-×0.50×0.07		土師器甕の破片。	覆土に焼土・灰・軽石を含む。	142
1	31	不整長方形		1.32×1.20×0.26		土師器の小破片。	覆土に角閃石安山岩を含む。	142
1	32	不定形		-×-×0.15		土師器壺(323・324・325)、土師器飯(326)、土師器埴(327・328)、土師器器台(329・330)、土師器台付甕(331・332・333)、土師器甕(334)。	覆土は全体に浅間山C軽石を含む。底部は比較的平坦であり、遺物も多量に出土していることから住居跡の掘形の可能性も考えられる。	142
1	33	不定形		-×0.72×0.15		無し。	覆土全体に浅間山C軽石を含む。	142
1	34	楕円形	N-80°-W	0.90×0.58×0.19		無し。		142
1	35	楕円形?		-×-×0.08		基石(314)。		142
2	1	円形		0.92×0.08		土師器の小破片1片。	覆土は浅間山B軽石の純層。	143

区	番号	平面形	長軸方位	規模(m)		遺物	備考	遺構図番号
				長軸×短軸×深さ				
2	2	円形		1.15×0.10		無し。	覆土は浅間山B軽石の純層。	143
2	3	不整長方形	N-80°-E	2.48×1.40×0.22		弥生土器甕(315・317)、弥生土器壺(318)、弥生土器高杯(316)	中層に焼土を含む。	143
2	4	長方形	N-11°-E	1.85×0.57×0.54		土師器・須恵器の小破片。		143
2	5	長方形	N-12°-E	1.64×0.98×0.06		土師器・須恵器の小破片。	覆土に浅間山B軽石を含む。	143
2	6	不整長方形?		-×1.05×0.16		土師器・須恵器の小破片。	覆土に浅間山B軽石を含む。	143
2	7	長方形?		-×1.30×0.05		無し。	覆土に浅間山B軽石を含む。	143
2	8	長方形	N-9°-E	1.74×0.98×0.13		土師器の小破片。	覆土に浅間山B軽石を含む。	143
2	9	不定形		0.90×0.92×0.22		土師器の小破片。	覆土に浅間山B軽石・浅間山C軽石・灰・炭化物を含む。	143
2	10	長楕円形		2.95×0.52×0.15		土師器・須恵器・磁器の小破片。	覆土に浅間山B軽石を含む。	143
2	11	楕円形		1.20×1.12×0.16		土師器・須恵器・陶器の小破片。ボタン。底面から桶の底部が出土。	覆土に浅間山A軽石を含む。桶とボタンが出土していることから、近世のトイレか?	144
2	12	長楕円形		3.60×0.51×0.08		無し。	覆土に二ツ岳軽石を含む。	144
2	13	長方形	N-82°-W	1.98×0.60×0.61		弥生土器・土師器・須恵器・磁器の小破片。	覆土上層に二ツ岳軽石を含む。	144
2	14	不定形		-×0.53×0.10		無し。	覆土に二ツ岳軽石を含む。	144
2	15	不明		-×-×0.09		無し。		144
2	16	不整楕円形		2.50×2.22×0.16		無し。		144
2	17	不整長方形	N-54°-E	2.06×0.56×0.05		無し。		144
2	18	不定形		-×0.48×0.23		無し。	覆土に浅間山C軽石を含む。底面に小ピットがある。	144
3	1	不整楕円形		0.78×0.70×0.40		無し。	覆土に多量の浅間山C軽石及びその純層を含む。	144
3	2	不整楕円形		1.20×1.16×0.30		土師器の小破片1片。	覆土上層に浅間山C軽石を、下層に灰・焼土を含む。	145
3	3	不定形		3.24×1.16×0.74		無し。	覆土に浅間山C軽石を含む。	145
3	4	不定形		2.38×1.80×0.88		無し。		145
3	5	不定形		1.40×1.00×0.11		土師器の小破片1片。	覆土上層に浅間山C軽石を含む。	145
3	6	不明		-×0.90×0.88		無し。		145

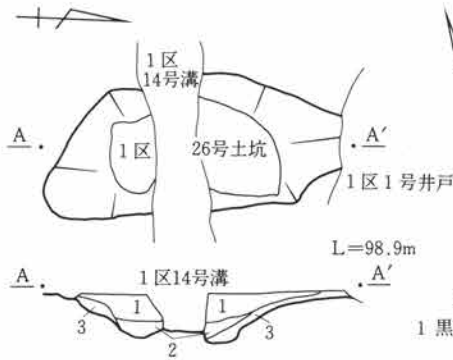


第139図 1区1・2・3・4・5号土坑



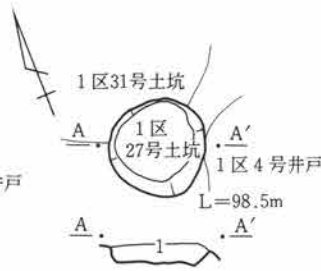
第140図 1区6・7・8・9・11・12・13・14・15・16・22号土坑





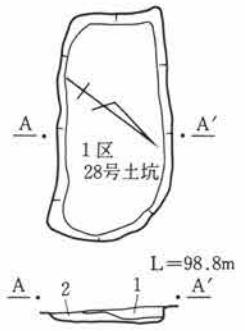
1区26号土坑

- 1 黒褐色土層：ロームブロック・ローム粒子・マンガンを含む。
- 2 黒褐色土層：ローム粒子を含む。
- 3 淡黒褐色土層：ロームブロック・マンガン・ローム粒子を含む。



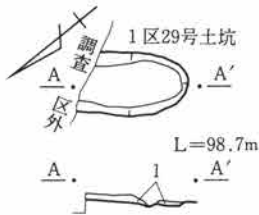
1区27号土坑

- 1 黒褐色土層：多量の浅間山B軽石を含む。



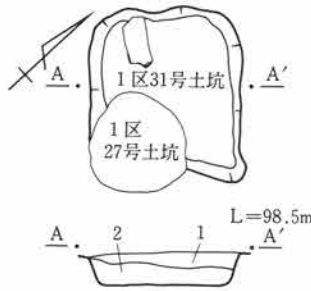
1区28号土坑

- 1 暗褐色土層：ロームブロックを含む。
- 2 ロームブロックと黒褐色土の混土層。



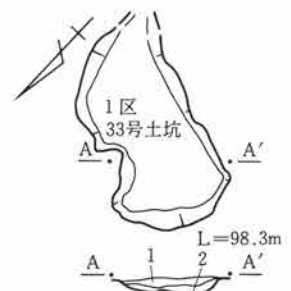
1区29号土坑

- 1 暗褐色土層：焼土ブロック・灰を含む。
- 2 黒褐色土層：軽石を含む。



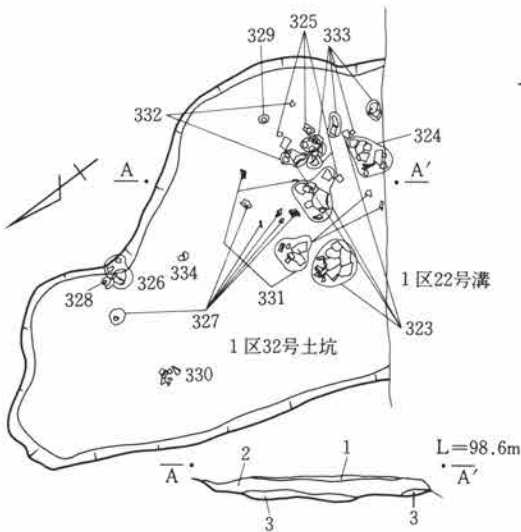
1区31号土坑

- 1 黒褐色土層：角閃石安山岩粒子・酸化鉄を含む。
- 2 黒褐色土層：ロームブロック・酸化鉄を含む。



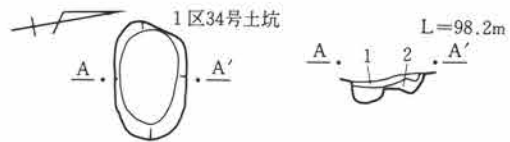
1区33号土坑

- 1 黒褐色土層：暗褐色土・浅間山C軽石・酸化鉄を含む。
- 2 川砂層：浅間山C軽石を含む。



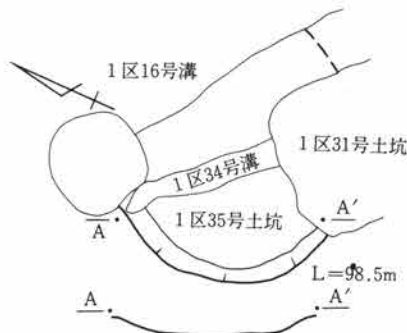
1区32号土坑

- 1 黒色土層：少量の浅間山C軽石及び酸化鉄・暗褐色土を含む。
- 2 黒色土層：多量の浅間山C軽石を含む。
- 3 黒色土層：少量の浅間山C軽石を含む。



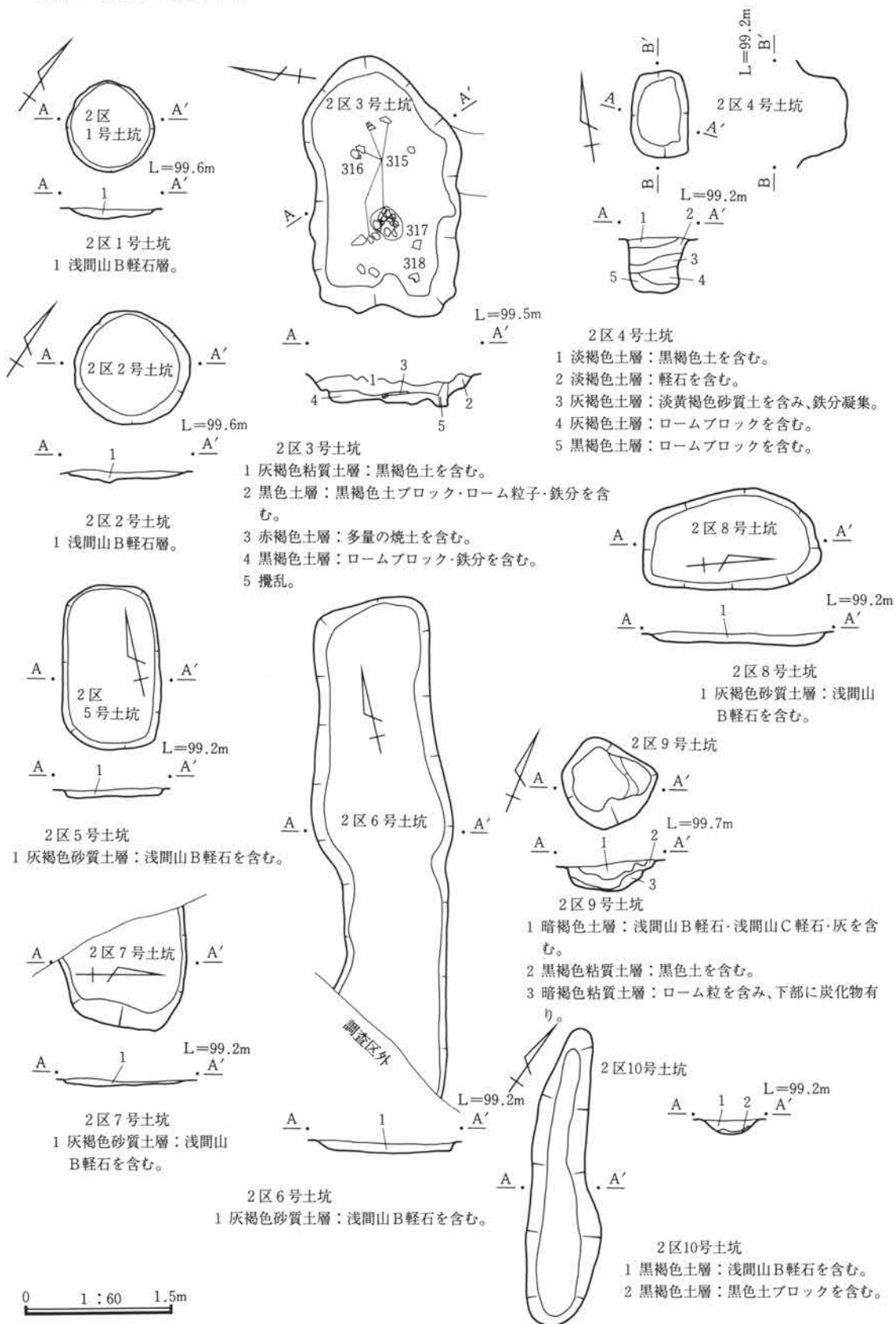
1区34号土坑

- 1 黒褐色土層：酸化鉄を含む。
- 2 暗褐色土層：酸化鉄・黒褐色土ブロックを含む。



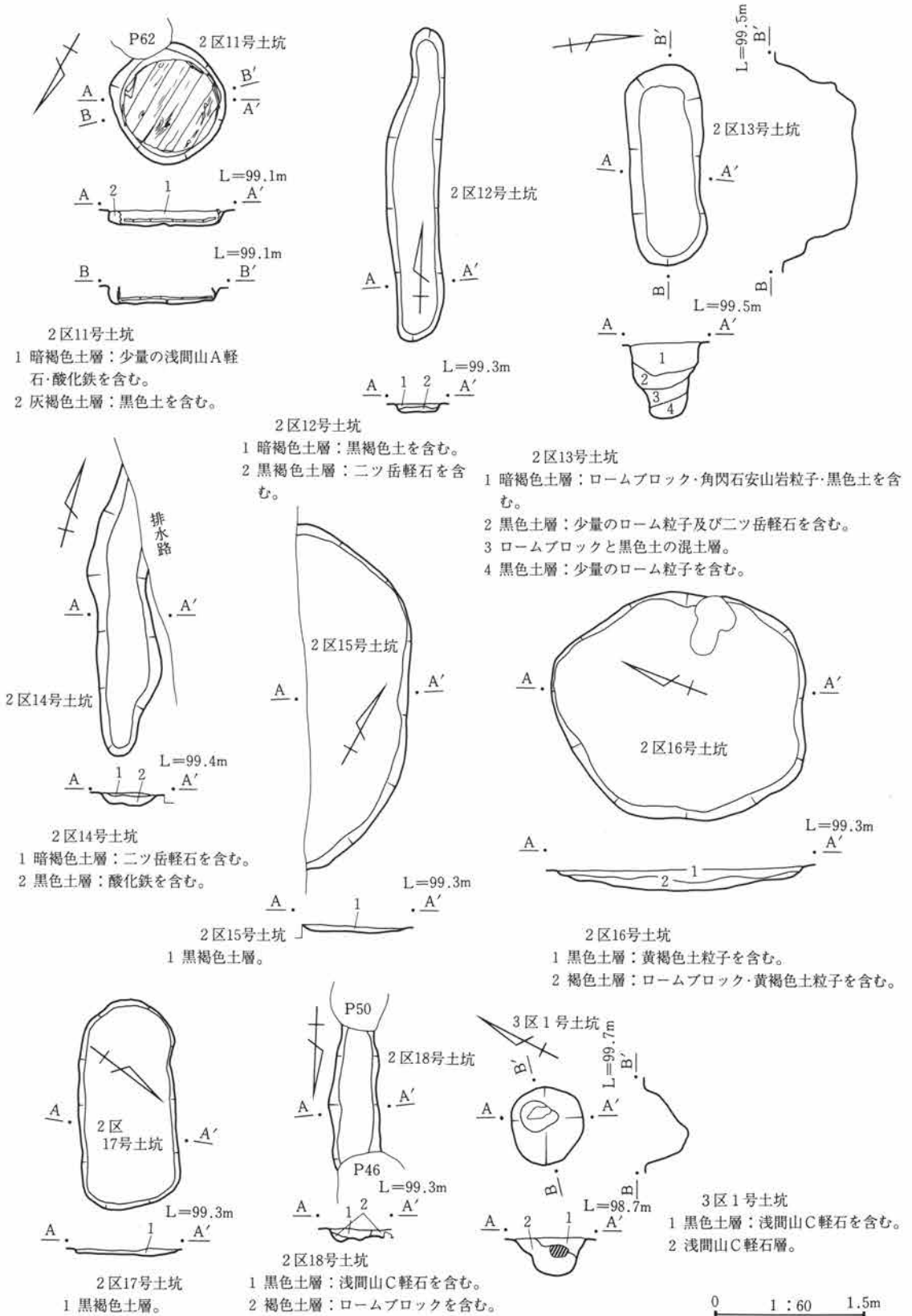
0 1:60 1.5m

第142図 1区26・27・28・29・31・32・33・34・35号土坑

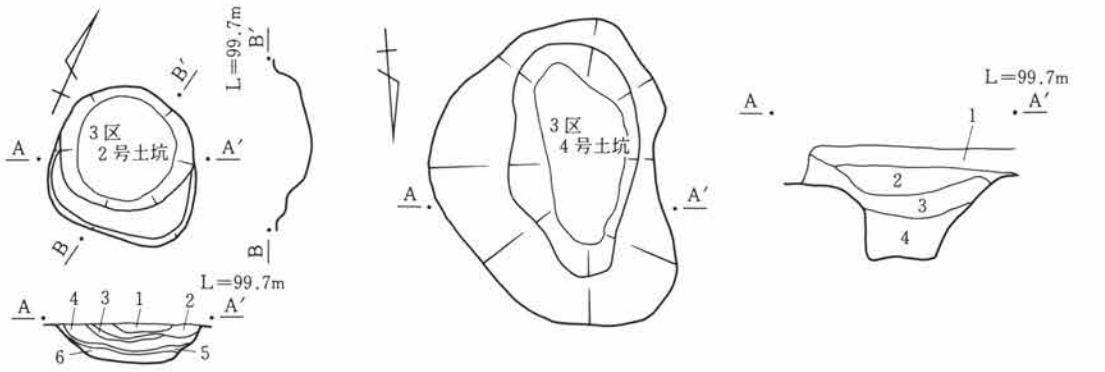


第143図 2区1・2・3・4・5・6・7・8・9・10号土坑





第144図 2区11・12・13・14・15・16・17・18号、3区1号土坑

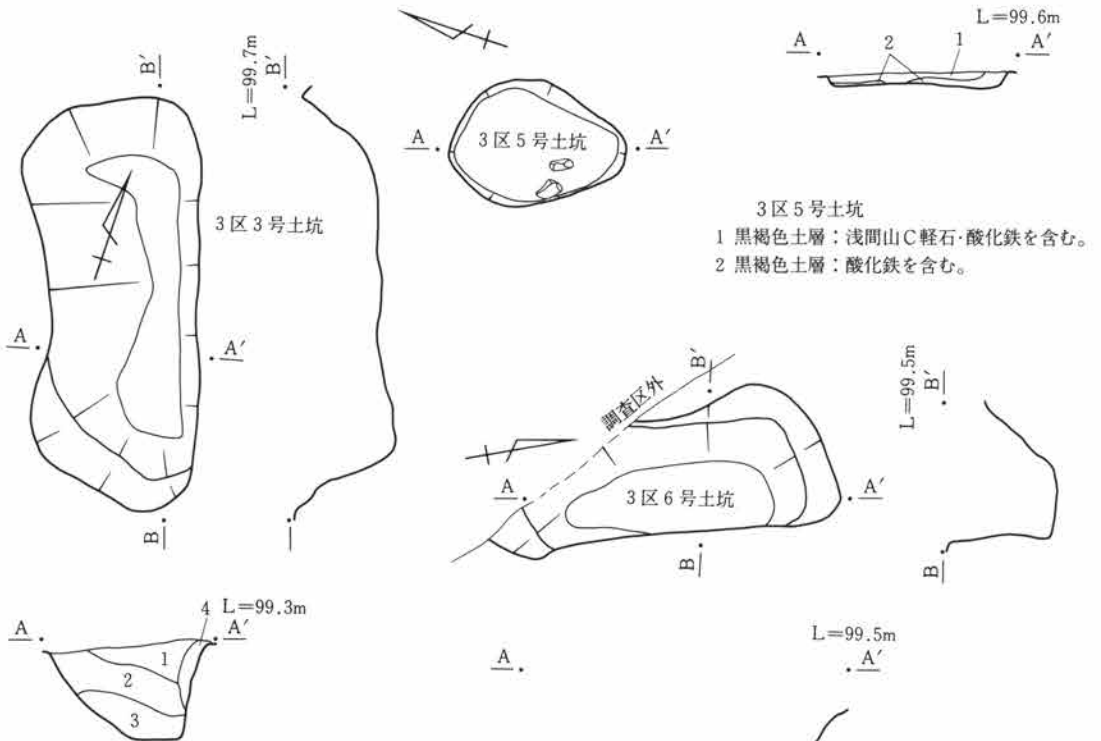


3区2号土坑

- 1 浅間山C軽石層。
- 2 黒色土層：浅間山C軽石を多く含む。
- 3 黒色土層：炭化物ブロックを含む。
- 4 黒色土層：鉄分を含む。
- 5 黒色土層：灰・焼土ブロックを含む。
- 6 黒色土層：淡褐色粘質土ブロックを少量含む。

3区4号土坑

- 1 淡黄褐色土層：褐色土ブロックを含む。
- 2 淡黄褐色土層：黒褐色土を含む。
- 3 黒色土ブロック・褐色土ブロック・ロームブロックの混土層。
- 4 褐色土層：ロームブロックを含む。

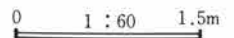


3区3号土坑

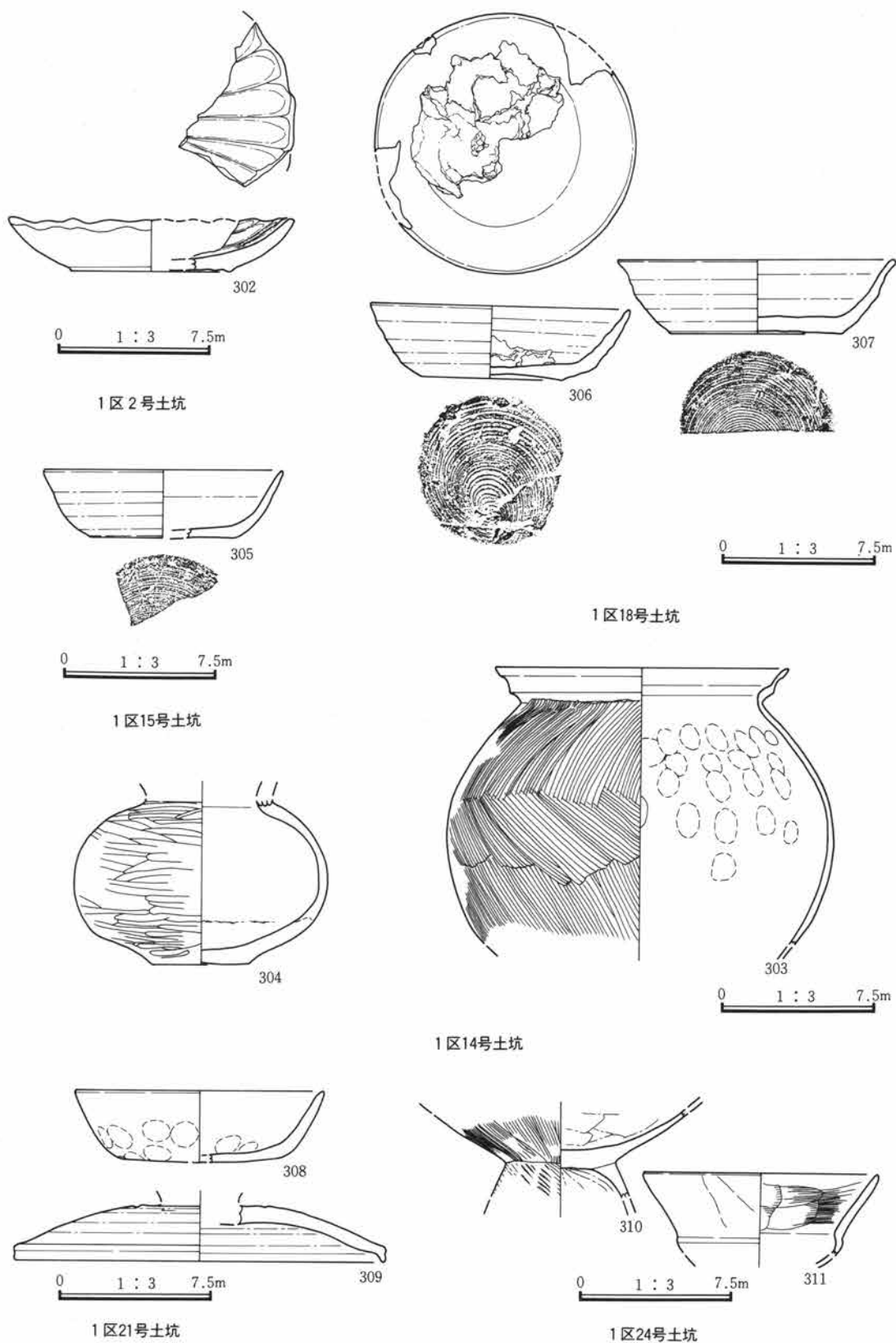
- 1 黒褐色土層：多量の浅間山C軽石及びローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土層：浅間山C軽石・酸化鉄を含む。
- 3 黒色土層：少量のローム粒子を含む。
- 4 ロームブロック・黒褐色土・ローム粒子の混土層。

3区5号土坑

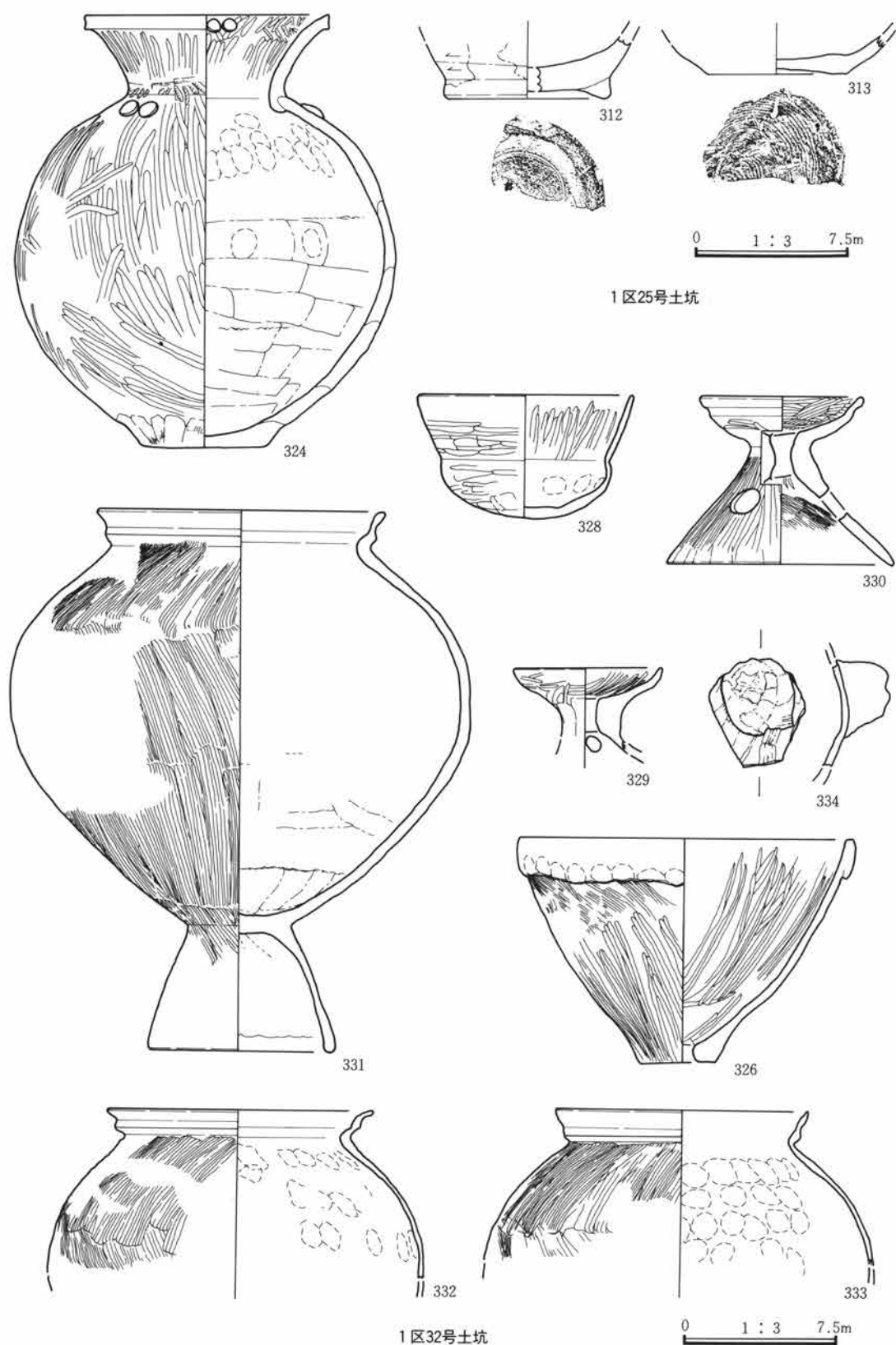
- 1 黒褐色土層：浅間山C軽石・酸化鉄を含む。
- 2 黒褐色土層：酸化鉄を含む。



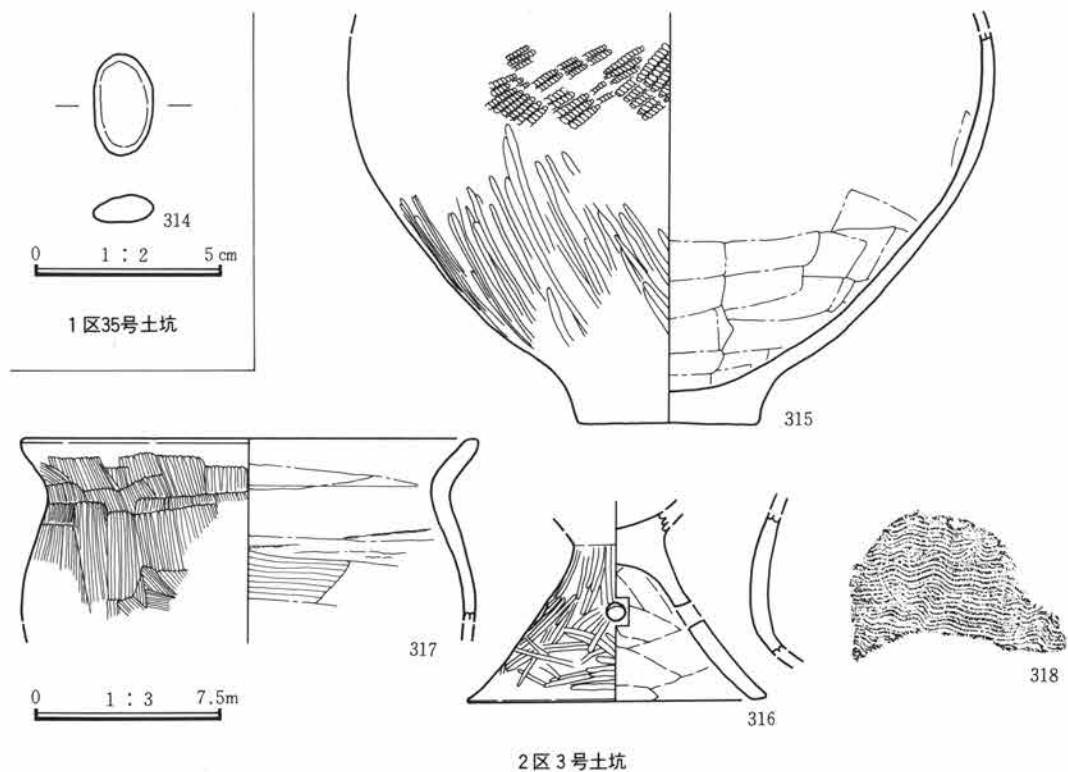
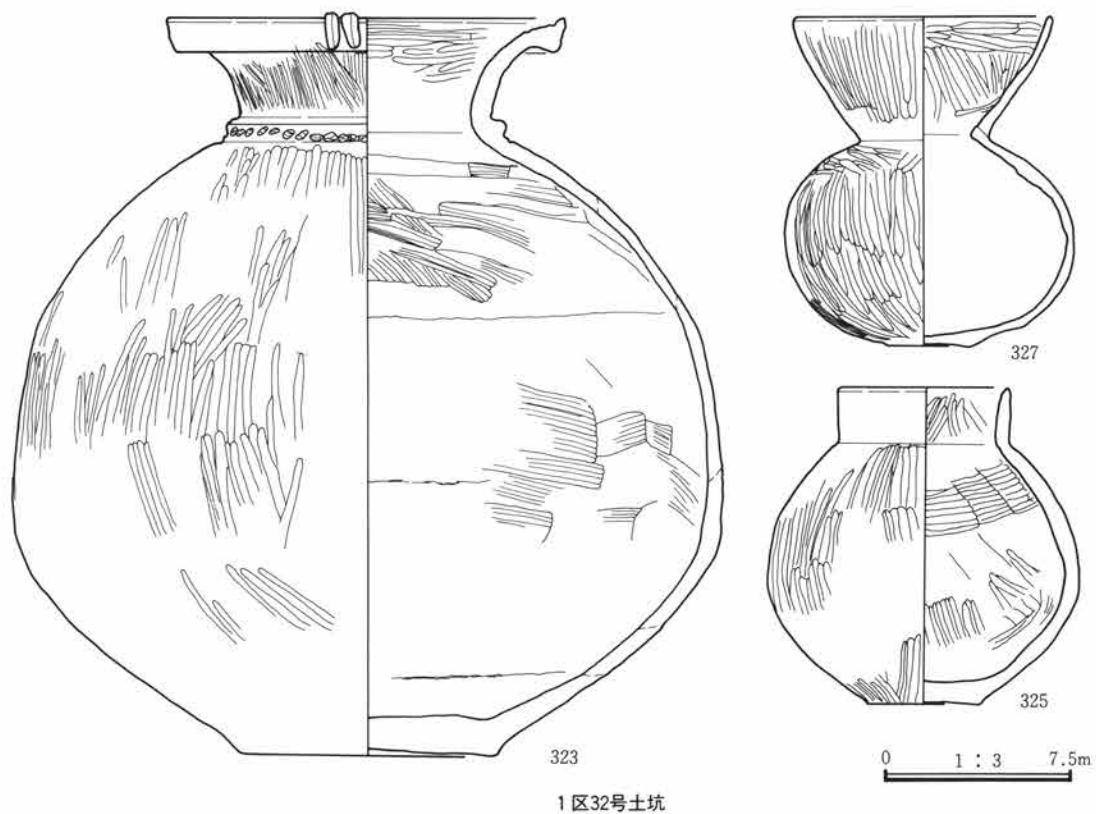
第145図 3区2・3・4・5・6号土坑



第146图 1区2·14·15·18·21·24号土坑出土遗物



第147図 1区25号土坑出土遺物、32号土坑出土遺物①



第148图 1区32号土坑出土遗物②、35号、2区3号土坑出土遗物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1区 0302	2号土坑 菊皿 陶器	器高：(25mm) 口径： 〔138mm〕 底径：〔78mm〕 口縁部～高台部1/6	やや粗い。白色。やや軟質。	内面は型押しにより菊花型とし、口縁部は篋で輪花とする。全面に長石釉を施す。底部外面に円錐ビン痕が1カ所残る。	瀬戸・美濃系。17世紀。
1区 0303	14号土坑 台付壺 土師器	器高：(133mm) 口径： 〔142mm〕 底径：— 最大径： 〔187mm〕 口縁部～胴部1/3	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。浅黄橙。	口縁部は「S」字状に外反。最大径は胴部上半。外面：口縁部は横なで、胴部縦はハケ目。内面：口縁部は横なで、胴部はなで、一部輪積痕・指頭痕が残る。	内外面にやや多量の油煙付着。二次炎を受けている。
0304	柑 土師器	器高：(80mm) 口径：— 底径：48mm 胴部～底部1/1	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。淡橙。	球形。外面：胴部はなで後磨き、底部はなで。内面：胴部～底部はなで、一部ハケ目・輪積痕・指頭痕が残る。	外面胴部は赤色顔料塗布。
1区 0305	15号土坑 杯 須恵器	器高：(33mm) 口径： 〔116mm〕 底径：〔70mm〕 口縁部～底部1/4	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1区 0306	18号土坑 杯 須恵器	器高：36mm 口径：126mm 底径：68mm ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内面に漆紙文書。
0307	杯 須恵器	器高：(35mm) 口径： 〔135mm〕 底径：71mm 口 縁部～底部1/2	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内面は全面的に油煙付着、燻し。
1区 0308	21号土坑 杯 土師器	器高：(35mm) 口径： 〔122mm〕 底径：〔78mm〕 口縁部～底部1/3	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。浅黄。	胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
0309	蓋 須恵器	器高：(27mm) 口径： 〔180mm〕 つまみ径：— 天井部～口縁部1/4	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。返りは口縁端部に付き短い。外面：天井部上半は回転篋削り、天井部下半は回転なで。内面：天井部～口縁部は回転なで。	内面の一部に油煙付着。
1区 0310	24号土坑 台付壺 土師器	器高：(42mm) 口径：— 底径：— 胴部下端～脚 部上端3/4	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。浅黄。	脚部は「ハ」字状に開く。外面：胴部下端～脚部上端はハケ目。内面：胴部下端～底部はなで、一部指頭痕が残り、脚部上端は指なで。	内外面に多量の油煙付着。二次炎を受けている。
0311	柑 土師器	器高：(39mm) 口径： 〔114mm〕 底径：— 口縁 部～胴部上端1/4	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。灰白。	外面に稜を持つ。口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに内湾。外面：口縁部はなで。胴部上端は篋削り後なで。内面：口縁部はハケなで、一部ハケ目が残り、胴部上端はなで。	内外面に一部油煙付着。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1区 0312	25号土坑 壺 灰釉陶器	器高：(30mm) 口径：一 底径：[81mm] 胴部下端 ～高台部1/4	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転斲削り、底 部は高台貼り付け後なで。内面：胴部下端 ～底部は回転なで。	内外面共に底部ま で施釉。
0313	杯 須恵器	器高：(19mm) 口径：一 底径：63mm 胴部下半～ 底部2/3	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。還元。硬質。 灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下半は回転な で、底部は回転糸切り。内面：胴部下半～底 部は回転なで。	外面胴部下半は全 面的に油煙付着、 燻し。
1区 0323	32号土坑 壺 土師器	器高：291mm 口径： [160mm] 底径：100mm 最大径：[282mm] 口縁 部～底部1/2	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。軟質。 鈍い黄橙。	口縁部は大きく外反し、口縁端部は外縁帯 を持つ。口縁端部に凸帯状の飾りあり。外面 ：口縁端部は篋磨き、口縁部はハケなで後 篋磨き、胴部は篋磨き、底部はなで。内面： 口縁部は篋磨き、胴部～底部はなで、一部ハ ケ目・輪積痕・指頭痕が残る。	
0324	壺 土師器	器高：(207mm) 口径： [118mm] 底径：59mm 最 大径：[184mm] 頸部～ 底部1/2	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。軟質。 鈍い黄橙。	球形。外面：頸部はハケ目が残り、胴部上 端にボタン状の飾りが2個1組で3カ所あり、 胴部～底部は篋磨き。内面：頸部と胴部の 接合の痕が残り、胴部～底部はなで、一部輪 積痕・指頭痕が残る。	内外面に一部油煙 付着。
0325	壺 土師器	器高：125mm 口径： [68mm] 底径：45mm 最 大径：124mm 口縁部～底 部2/3	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。軟質。 浅黄。	口縁部はほぼ直立。最大径は胴部下半。外面 ：口縁部～胴部はなで後篋磨き、底部はな で。内面：口縁部は横なで、胴部は篋なで、 胴部下端～底部はなで、指頭痕が残る。	外面胴部下端～底 部に油煙付着。二 次炎を受けてい る。
0326	甌 土師器	器高：107mm 口径： 160mm 底径：38mm 孔径 ：14mm 口縁部～底部4/5	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや軟 質。浅黄橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。 口縁部は折り返し。外面：口縁部は横なで、 胴部上端はハケ目が残り、胴部は篋磨き、底 部はなで。内面：口縁部～底部は篋磨き。底 部の穿孔は1カ所。	内外面に多量の油 煙付着。二次炎を 受けている。
0327	埴 土師器	器高：130mm 口径： 106mm 底径：32mm 最大 径：114mm 完形	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや硬 質。浅黄橙。	球形。口縁部は「く」字状に大きく外反。口 縁端部は僅かに内湾。外面：口縁部～底部 はなで後篋磨き。内面：口縁部は篋磨き、胴 部～底部はなで、一部指頭痕が残る。	内面口縁部にやや 多量の油煙付着。
0328	埴 土師器	器高：59mm 口径：105mm 底径：一 口縁部～底部 4/5	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。軟質。 鈍い黄橙。	底部～胴部は小さく、口縁部は「く」字状に 大きく外反し、僅かに内湾しつつ広がる。丸 底。外面：口縁部は横なで、胴部上半はな で、一部指頭痕が残り、胴部下半～底部は篋 削り。内面：口縁部は横なで、胴部～底部は なで、一部指頭痕が残る。	内外面の底部に油 煙付着。
0329	器台 土師器	器高：(42mm) 口径： 75mm 底径：一 口縁部～ 脚部上端3/4	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや軟質。浅 黄橙。	胴部はほぼ直線的に広がり、口縁部はやや 内湾。底部は穿孔。外面：口縁部は横なで、 胴部～脚部上端はなで、ハケ目が残り。内面 ：口縁部～底部は篋磨き、脚部上端は指な で、一部指頭痕が残る。	内外面に油煙付 着。二次炎を受け ている。

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0330	器台 土師器	器高：81mm 口径：90mm 底径：〔110mm〕 口縁部 ～脚部3/5	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。軟質。 明赤褐。	底部～胴部はやや内湾しつづつ広がり、口縁 部はやや外反。脚部は漏斗状に広がる。外面 口縁部に沈線状の帯が巡り、底部は穿孔、脚 部中央に3カ所の円形透かし。外面：口縁部 は横なで、胴部～脚部はなで後磨き。口縁 部～底部は磨き、脚部はなで、一部ハケ目 が残る。	内外面の口縁部～ 底部に一部油煙付 着。
0331	台付甕 土師器	器高：260mm 口径： 〔138mm〕 底径：〔88mm〕 最大径：〔222mm〕 口縁 部～脚部2/5	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。軟質。浅黄橙。	口縁部は「S」字状に外反し、脚部は「ハ」字 状に開く。脚部下端は折り返し。最大径は胴 部上半。外面：口縁部は横なで、胴部～脚部 上半はハケ目、脚部下半はなで。内面：口縁 部は横なで、胴部～底部はなで、一部輪積痕 ・指頭痕が残り、脚部上半は指なで、脚部下 半はなで。	内外面に多量の油 煙附着。二次炎を 受けている。
0332	台付甕 土師器	器高：(80mm) 口径： 129mm 底径：— 口縁部 ～胴部上半2/5	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。軟質。鈍い黄 橙。	口縁部は「S」字状に外反。外面：口縁部は 横なで、胴部上半はハケ目。内面：口縁部は 横なで、胴部上半はなで、一部指頭痕が残 る。	内外面やや多量の 油煙附着。二次炎 を受けている。
0333	台付甕 土師器	器高：(72mm) 口径： 〔121mm〕 底径：— 口縁 部～胴部上半1/4	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや軟 質。浅黄橙。	口縁部は「S」字状に外反。外面：口縁部は 横なで、胴部上半はハケ目。内面：口縁部は 横なで、胴部上半はなで、一部指頭痕が残 る。	内外面に一部油煙 附着。
0334	台付甕? 土師器	器高：— 口径：— 底径 ：— 底部～脚部上端破 片	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや軟質。灰 白。	外面底部に脚部接合用の突起あり。外面： 底部はハケ目。内面：なで、ハケ目が残る。	内面に油煙附着。
1区 0314	35号土坑 基石	長径：26mm 短径：15mm 厚：7mm 重：4.4g	頁岩。	黒石。表面は磨いてある。	
2区 0315	3号土坑 甕 弥生土器	器高：(153mm) 口径：— 底径：72mm 胴部中央～ 底部3/4	径2～3mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。軟質。 赤褐。	外面：胴部中央は縄文を施し、胴部下半は 磨き、底部はなで。内面：胴部中央～底部 は磨き、一部輪積痕が残る。	内外面にやや多量 の油煙附着。二次 炎を受けている。
0316	高杯 土師器	器高：(75mm) 口径：— 底径：〔118mm〕 底部～ 脚部2/5	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや硬質。浅 黄。	脚部は漏斗状に開く。脚部中央に4カ所の円 形透かし。外面：脚部は磨き。内面：底部 は磨き、脚部は磨き。	内外面に油煙付 着。二次炎を受け ている。
0317	甕 土師器	器高：(72mm) 口径： 〔182mm〕 底径：— 口縁 部～胴部上端1/10	径1～2mmの小石及び砂 粒を含む。酸化。やや硬 質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部上 半はハケ目後横なで、口縁部下半～胴部上 端はハケ目。内面：口縁部は横なで、胴部上 端は磨き。	外面に多量の油煙 附着。二次炎を受け ている。
0318	壺 弥生土器	器高：— 口径：— 底径 ：— 口縁部下半～胴部 上端破片	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや硬質。橙。	外面：口縁部下半～胴部上端は波状文を施 す。内面：口縁部下半は横なで、胴部上端は なで。	内外面に多量の油 煙附着。二次炎を 受けている。



## 水 田

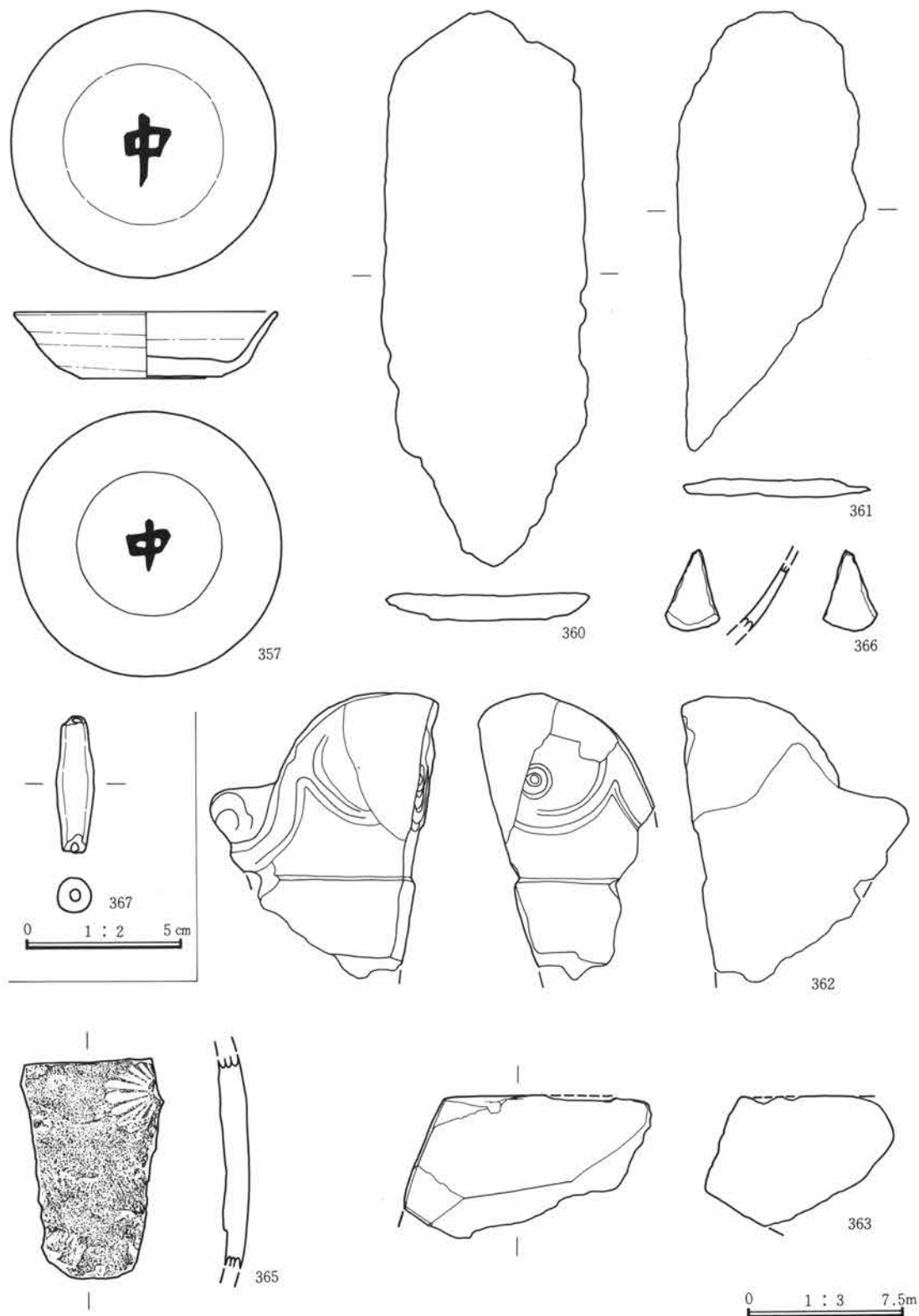
下小鳥遺跡の水田跡は、昭和48年10月から昭和49年4月にかけて実施された第1次発掘調査により、県内の水田遺構に先駆けて発見されたものである。国道17号線バイパスの北側部分の3区・4区・5区・6区にわたり検出されている。その後、昭和58年9月1日から昭和59年9月の側道調査で国道17号線バイパスの南側部分の3区からも水田が検出された。また、国道北側部分の側道及びその周辺は、高崎市の発掘調査でも水田跡が確認され、大八木水田遺跡と命名されている。

水田跡は、表土下約0.3～0.4mの地点から検出されている。表土は第1次発掘調査時点では現代の水田であったが、第2次発掘調査時点では、問屋町造成の盛土・新幹線建設の盛土が重なっていた。水田面の上には、浅間山B軽石を含む灰褐色土・暗褐色土の層があり、この下に浅間山B軽石の純粹層が広がっている。水田面は、この浅間山B軽石の純粹層の下から検出された。浅間山B軽石の純粹層は部分的に検出できない地点もあったが、ほぼ全面から確認できた。

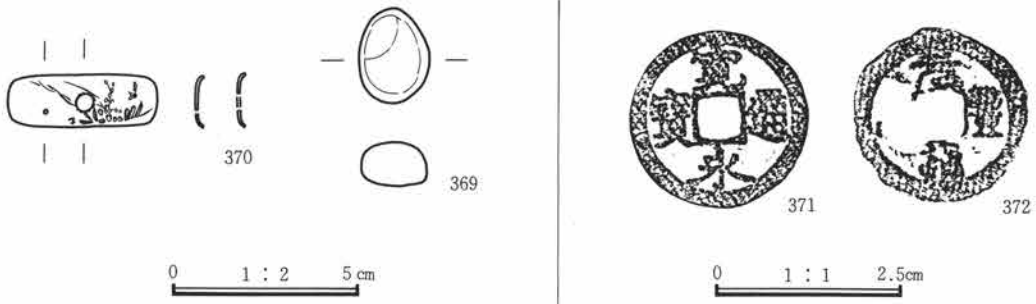
水田層の下には浅間山C軽石を含む黒褐色土が広がり、その下は地下30mまでシルト層と砂礫層の互層が続くことが新幹線建設に伴うボーリングで確認されている。これにより、水田が形成された以前から、この付近は河川の堆積による沖積地であり、水田層の前後には鉄分の沈着が観察できることから、最近まで底湿地であったことが伺える。国道南側の水田確認地域より南は、周囲より約1.0～1.5m高くなる、微高地として第1次調査で確認されていた。この部分からは水田を検出することはできず、古墳時代から平安時代の住居跡を検出することができた。

上越新幹線の発掘調査で確認できた水田跡は、国道北側で20区画以上、国道南側で14区画以上が検出されている。高崎市の発掘調査でも新幹線の調査以上の区画が検出されており、一帯には水田地帯が広がっていたものと考えられる。北端の水田面の標高は約101.0mであり、南端の水田面の標高は約99.8mであり、比高差は約1.2mある。これは、榛名山を頂点とする北西方向から南東方向への地形の傾斜と一致する。

確認できた水田跡の区画の規模は、大きいものは国道北で約25m・国道南で約15mを測り、小さなものは国道北で約4～5m・国道南3～5mであり、一定はしない。微地形に合わせて、滞水を考慮した水田区画を設定したと推測される。水田区画の方向は、微地形に沿いやや不定な部分もあるが、全体的には東西と南北の方向に一致する。また、高崎市の調査では、大畦と水路をめぐらした、東西約109m、南北約110mの大区画も検出されている。これらのことは、条里制との関係が推測され、昭和52年の日本考古学協会の研究発表会で田島桂男氏と鬼形芳夫氏が「上野国大八木条里制遺構」として発表している。国道南側の水田跡も含め、この地域の水田跡が一体の遺構であることは、事実であり、これらの水田跡は総合してとらえ、条里制の問題も含め考える必要がある。



第149図 表土出土遺物①



第150図 表土出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0357	杯 須恵器	器高：32mm 口径：125mm 底径：69mm 口縁部～底部2/3	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面の底部に墨書「中」。
0365	甕？ 焼締陶器	器高：－ 口径：－ 底径：－ 胴部破片	礫と粗砂を含む。硬質。青灰色。	外面には菊花型のスタンプを押す。自然釉は掛からない。	製作地不詳。中世。
0366	碗 磁器	器高：－ 口径：－ 底径：－	青灰色。硬質。	碗の体部下位と考えられる。釉はオリブ灰色を呈し、ガラス質。	中国製。14世紀？。
0360	板碑	長：437mm 幅：168mm 厚：20mm 重：2800.0g 完形	緑色片岩。碑面は摩滅。	小型板碑。碑面の摩滅のため、主尊・紀年銘等は一切不明。	
0361	板碑	長：(350mm) 幅：(148mm) 厚：(14mm) 重：1300.0g 下半部欠損	緑色片岩。碑面は摩滅。	小型板碑。碑面の摩滅のため、主尊・紀年銘等は一切不明。	
0362	宝篋印塔	長：(130mm) 幅：(108mm) 重：622.5g 破片	粗粒安山岩。やや摩滅。	屋蓋隅飾突起部破片。表面は丁寧な水磨き。巴(渦巻き)状文様あり。	
0363	五輪塔 火輪	長：(107mm) 厚：(67mm) 重：448.8g 破片	二ツ岳軽石。やや摩滅。	火輪部下方端部破片。表面は丁寧な磨き仕上げ、底面は平坦。	
0367	土錘	長：(42mm) 直径：12mm 孔径：2.5mm 重：5.6g	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	紡錘形。先端部は欠けている。	
0369	碁石	長径：25mm 短径：19mm 厚：12mm 重：7.9g	チャート。	表面は擦れて滑らかになっている。	
0370	飾金具 銅製品	長：40mm 幅：14mm 厚：0.7mm 孔径：4.4・0.6mm		引き出しの取っ手の飾金具か。表面に草花の模様。大1・小2の穿孔あり。	
0371	銭			「寛永通寶」。	
0372	銭			「元豊通寶」。	

縄文時代出土遺物

縄文時代の遺構は本遺跡からは、検出されなかった。したがって縄文時代の遺物は、すべて遺構外からの出土である。出土土器は、中期を主体としている。石器の所属時期は確定できないが、出土土器との関係から、ほぼ同時期の所産と思われる。

422は、太い粘土紐を円形、鋸歯状に張り付け粘土紐の角を「ハ」字状に刻みを施している。421・424は、幅広の隆帯が弧状に張り付けられ、刻みが施される。423・425は弧を描く隆帯に沿ってキャタピラ文が施文され、反対側をペン先状刺突文が充填される。385は、幅広の隆帯を刻み、その両側を沈線が施文される。色調・胎土は、422、421がにぶい橙色、砂粒と僅かの黒雲母を含む。423、424、385は橙色、砂粒と僅かの黒雲母を含む。425は明赤褐色、細かい砂粒を含む。

以上、422から385は中期前葉勝坂様式の土器と考える。

376～388は、口縁部破片である。376は、口縁に沿って太い沈線があり、以下を単節R Lの斜行縄文が施文される。375～378は、口縁に太い沈線で長楕円状の文様を描き、その中を縄文施文している。375は口縁部文様帯から沈線が垂下し、胴部文様へと続く。縄文は、単節R Lで斜位に施文し、縦走するものもある。388は、無文で器面全面を撫でている。色調・胎土は、376は浅黄色、375は浅黄橙色、380、377、378はにぶい黄橙色。381はにぶい橙、388は明赤褐色を呈する。いずれも砂粒・白色粒子を含み器面がザラつく。388は黒雲母も混じる。

384～400、411は口縁部文様帯に、隆帯を張り付け楕円状の文様をつくる。隆帯の中は単節R Lの縄文を充填する。色調・胎土は384、386、400はにぶい黄橙色で砂粒、382は橙色、383は赤褐色を呈する。白色の粒子と僅かの黒雲母等を含む。

392～408は、太い沈線による内部磨消縄文を持った懸垂文で、地文に単節R Lの縄文を施文する。磨り消し部は、へら状の工具による擦痕が認められる。392、395、399等は、縄文原体を縦位に施文する。391は、縄文原体を斜位に施文し、縄文を縦走させる。色調・胎土は、392、397、409、407、391がにぶい黄橙色。395、410、408は橙色。399、405、406は浅黄橙色。砂粒、白色の粒子等を含む。

396は、沈線が横位に施文され、その間に浅い円形の刺突が認められる。色調はにぶい橙で、胎土に砂粒を含み、若干ザラつく。412、413は、隆帯を撫でるように、横位に張り付けられる。地文は隆帯の上が単節R Lの縄文で、下は条線が施されている。414は、沈線を3条施し、地文に縄文を持つ。色調は412、414がにぶい橙、413が明赤褐色。412、413は砂粒、白色粒子、若干の雲母を含む。414は砂粒、白色粒子を含む。

401は、沈線による懸垂文間を撫でにより、磨り消している。色調は浅黄色を呈し、胎土に細かい砂粒を含む。394は、太い沈線で口縁部に楕円形の文様を描き、縦走する単節R Lの縄文を充填させている。色調はにぶい橙色。砂粒、白色粒子を含む。393は、横位の沈線下を縦位に条線が施文される。地文は単節R Lの縄文。色調はにぶい褐色。砂粒と若干の黒雲母を含む。416は、隆帯が縦位に貼付され、地文はまばらな縦位の沈線である。色調は橙色。若干の砂粒と黒雲母を含む。419は条線が縦位に施文される。色調はにぶい橙色で、胎土に砂粒と若干の黒雲母を含む。389は、沈線による直線と曲線が垂下する。地文は、単節R Lの斜行縄文。色調はにぶい黄橙色。砂粒、小石を含む。418、

417は、条線が縦位に施文される。418は摩滅がめだち、ザラつく。417には、輪積痕による粘土瘤が残る。404は、沈線が垂下するように施文される。地文には、細い状線が施文されている。418、404はにぶい黄橙色、417は暗褐色を呈する。いずれとも砂粒、小石、若干の黒雲母を含む。

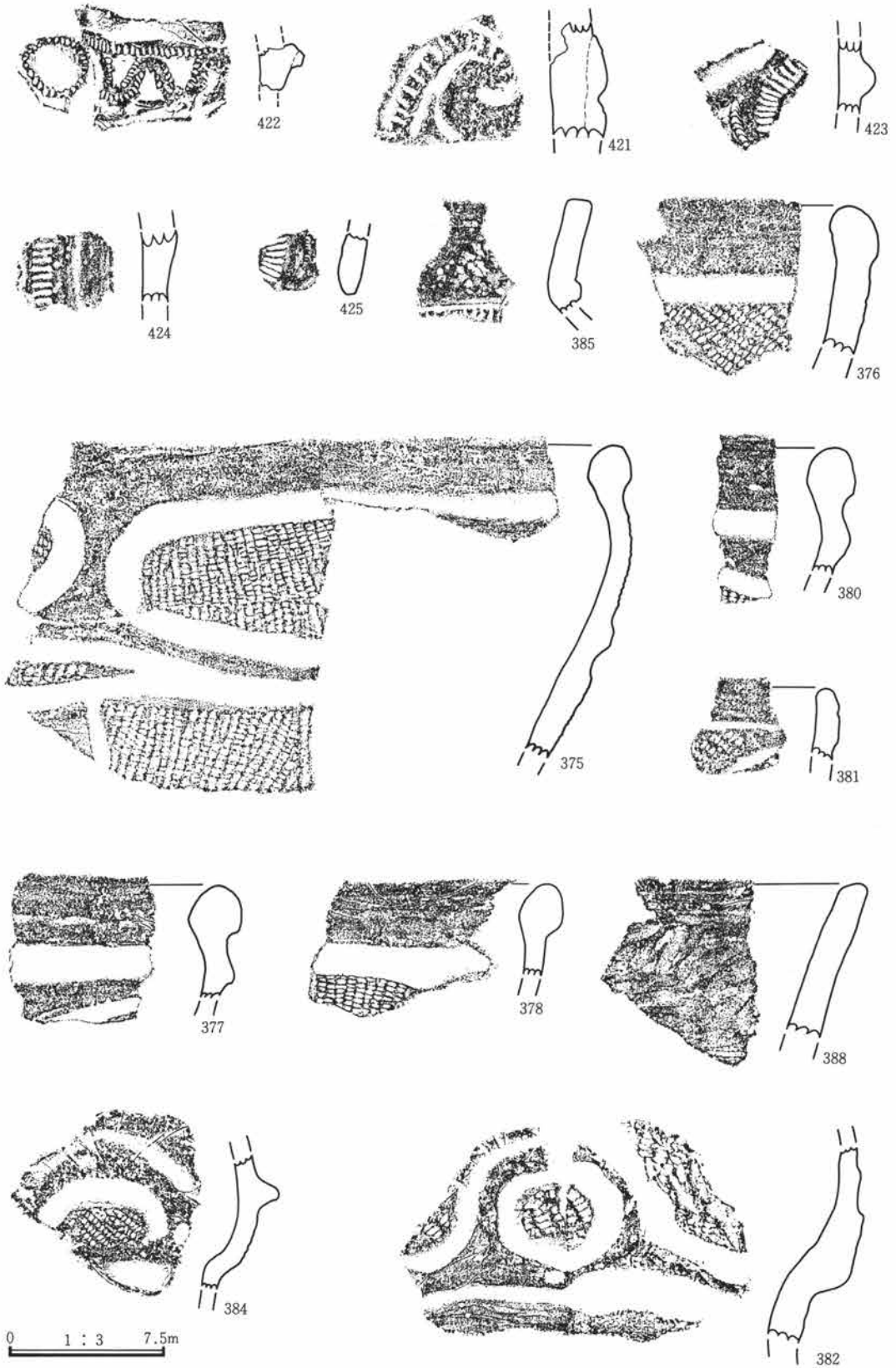
以上376から404は中期後葉加曾利E様式の土器と考えられる。

403、402は単節R Lの縄文を縦位施文。415は撚糸を施文する。色調は、403、402はにぶい黄橙色、415はにぶい橙色を呈する。いずれも細かい砂粒を含み、402は若干の黒雲母を含む。403は、摩滅が目立ち、遺存状況が悪くザラつく。403、402、415は縄文施文のみの土器である。縄文施文の状態から、加曾利E様式に伴う時期のものと思われる。

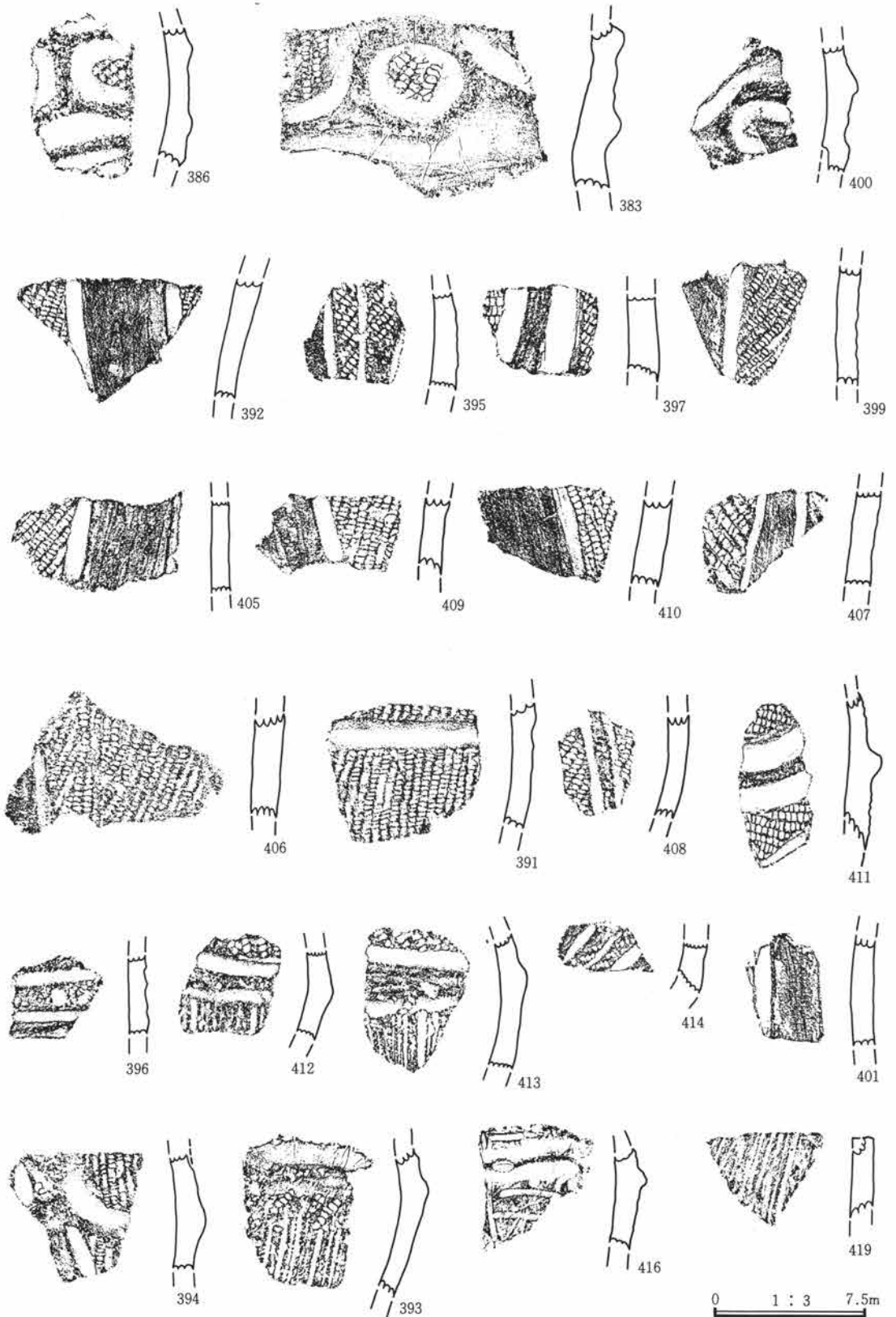
420は、無文で口縁に付く、橋状把手になる。398は、沈線が弧を描いて施文され縄文は磨り消されている。426は沈線を渦巻き状に施文する。色調は、420はにぶい赤褐色、398はにぶい黄橙色、426はにぶい橙色をする。420は多くの砂粒、小石、若干の黒雲母を含む。398、426は若干の砂粒を含み、薄手で緻密である。415は中期に、420、398は後期の所産と考えられる。

428～429は底部破片である。時期は特定できないが、他の土器同様に中期のものと思われる。432は、胴部下端の底部近くに、沈線による鋸歯状の文様が施文される。他のものは無文である。底径はそれぞれ、428は9.6cm、432は6.9cm、430は8.7cm、429は7.8cmを測る。色調・胎土は、428が橙色で、砂粒と若干の黒雲母を含む。内面は暗褐色で煤が付着する。432は、明赤褐色、細かい砂粒を含む。431はにぶい褐色、砂粒と若干の黒雲母を含む。430はにぶい黄橙色、細かい砂粒を含む。429は明赤褐色、細かい砂粒と若干の黒雲母を含む。外面に煤が付着する。

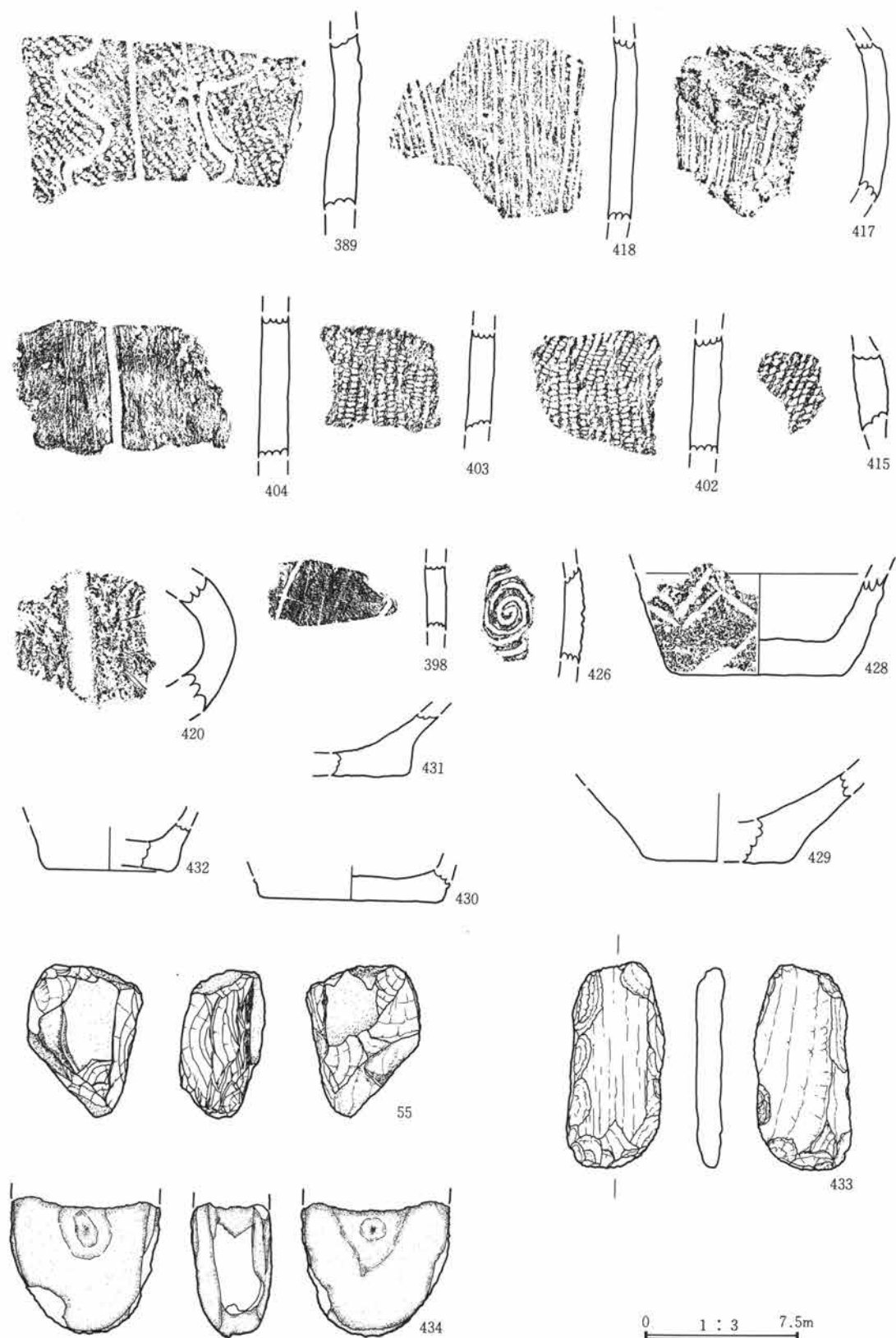
429は、チャート製の石核と思われる。縦位方向に剝離した後側縁部を横方向に剝離を加えている。55は、緑色片岩製の打製石斧で側縁部は横方向から、刃部は縦方向から剝離している。自然面を多く残す。全体に摩滅が激しい。433は、粗粒安山岩製の凹石である。表裏両面に凹を持ち、側面部は敲打痕がある。また、表裏両面には磨り痕も認められる。約半分程が欠損している。



第151図 縄文時代遺物①



第152図 縄文時代遺物②



第153図 縄文時代遺物③



## 第Ⅴ章 調査の成果と問題点



## 第1節 下小鳥遺跡出土の漆紙文書について

高島英之

## 1 釈文

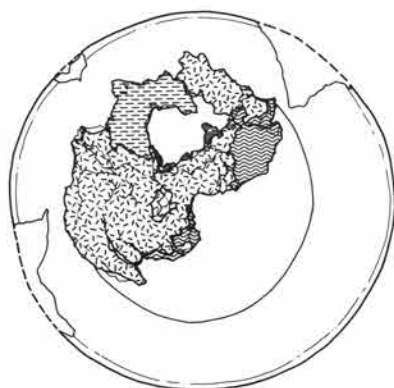
A面

× □ □ 畝 満 呂 □ ×

× □ □ □ ×

B面

× 田 幾 □ ×



第154図 漆紙文書の折れの状態

## 2 形状

漆紙文書は、平安時代初期・9世紀前半と考えられる須恵器杯の底部に、底面から2～12mmほどの厚さで付着している。茶褐色をなし、表面は大きく波打っており、一見すると風化した皮革製品のような観を呈する。X線透過の結果によれば、複数枚数の紙が重なっているとは積極的には言い難く、むしろ一枚の紙が複雑に折れ重なり、その一部が破損していると考えられる。

漆は表面・裏面とも比較的厚く付着している。とくに裏面はほとんど漆の皮膜に覆われていて、紙の面は露出しておらず、文字は全く見えない。また、表面にも漆が全面的に付着しているが、土中における永年の風化によるためか、紙の表面は部分的に剝落しかかっており、本来そこに記載されていたはずの文字も滅失してしまったものが少なくないと思われる。文字は肉眼では全く確認しえず、赤外線テレビカメラによって判読した。

なお、漆紙文書が付着していた土器そのものには、漆の付着が顕著でないことから、この土器自体が、漆の容器もしくは漆塗り作業におけるパレットであるとは考え難い。本漆紙文書は、別の容器に入っていた漆液の“ふた紙”であったものが、不要となった後、たまたまこの須恵器に入れられ、それごと廃棄されたものと考えたほうがよいであろう。

## 3 内容および出土の意義

現状で判読しえた文字は、三行分、わずかに五文字にすぎない。罫線や紙の継目の類も全く確認できない。現状では紙の面は四面みられるが（実測図参照）、先述した通り、本来は一枚のものと考えられる。墨痕が確認できるのは二面であり、これを仮にA面・B面とする。A面とB面の文字の本来の位置関係は、現状からでは復元できない。

A面の「畝満呂」は人名である。「畝満呂」の上には、当然ウジ名もしくはカバネの記載があったはずだが、一文字分の墨痕は残るものの欠損部分があって、判読は不可能である。「畝満呂」の下にも一文字分の墨痕が残るが、以下は欠損している。その行のすぐ左隣にも全面的に墨痕が残っているが、紙の表面の剝落が甚だしく、全く判読できない。ただ、墨痕が比較的濃厚に残っているその行の

中心部分と前行との行間は、およそ0.8cmほどであったと推測できる。

B面で判読できたのは「・田幾・」の二文字である。「幾」の下にも一文字分墨痕が残るが、これも判読不能である。

以上のように、本漆紙文書は、小さな断片である上、判読可能な文字も少なく、文書の書式や具体的内容・性格等を確定することは不可能である。しかしながら、書体から言えば、A面・B面ともにそこに記載された文字は、極めて端正な楷書体であり、正倉院文書に比してもいささかの遜色もない。本漆紙文書も、習書・落書の類ではなく、文字を日常、自由に操ることのできる階層の人によって記された公的な性格の色濃い文書・帳簿類であると考えてよいだろう。

記されている文字の大きさがほぼ0.6～0.8cm四方と、やや小ぶりであること<sup>註2</sup>、行間がおよそ0.8cm程度と比較的詰まった状態であることや、「畝満呂」という人名の記載があることからみるならば、正倉院文書や各地出土の漆紙文書の類例を勘案して、本文書は授受関係にある「文書」というよりは、「帳簿」・「記録」の類であると考えるのが妥当であろう。

本漆紙文書の内容から、直接的に出土した遺跡の性格づけを行うことは不可能である。言えることは、本遺跡において漆塗り作業が行なわれていたことの傍証であるというにすぎない。しかしながら、本遺跡において漆塗り作業に際して用いる反古紙として、このような公的性格の強い文書を入手したということは、今後、本遺跡の性格や周辺地域との関係を考えていく上で、考慮されて然るべきであろう。

また、漆紙文書は、1978年に宮城県多賀城跡ではじめて確認されて以来、現在までに東北各地の城柵遺跡をはじめとして、全国でおよそ四十遺跡から出土が報じられている。現在までのところ、中央の宮都遺跡を除いては、東日本各地からの出土例が主であるのだが、群馬県内では新田郡藪塚本町の六地藏遺跡、同新田町中江田遺跡、勢多郡柏川村宇通廃寺などから漆紙が出土しているものの、文字の記載は確認できていなかった。そのような意味では、本例は県内初の“漆紙文書”といえることができるであろう。

なお、本漆紙文書の釈読に関しては、国立歴史民俗博物館平川南教授に貴重なるご助言を賜り、また、X線透過写真の撮影ならびに分析については、同博物館永嶋正春助教授のお手を煩わせた。末尾ながら、記して深甚なる謝意を表する。

註

- 1 永嶋正春氏のご教示による。永嶋氏のご指摘によれば、本漆紙文書の厚手の個所の内部は空洞であること、また紙の稜線部に褶曲に沿って漆の溜まりが認められるということである。
- 2 正倉院文書中の帳簿・記録類には、この種の文字の大きさのものが多く見受けられる。
- 3 佐藤宗諱・橋本義則「漆紙文書集成」(『木簡研究』9 1987年11月)。なお、本集成以降も全国各地からの漆紙文書の出土事例は陸続として報じられつつある。

参考文献

- 1 平川南「漆紙文書の研究」1989年11月

## 第2節 下小鳥遺跡出土墨書・刻書土器について

高 島 英 之

当遺跡から墨書・刻書土器が18点出土している。うち、刻書土器は1点(207)のみであり、残りはすべて墨書土器である。ほとんどが一文字のみであり、個々の墨書の意味を知ることは困難であるが、2区1号井戸跡から出土した「三井」(143)は出土遺構との関連で注目できよう。また、「万呂」(143)は人名ないしはその一部と考えられる。

墨書・刻書土器の出土状況や墨書・刻書の施された部位・位置などについては、さしたる特徴を見いだすことはできず、ごく一般的なものと言ってよからう。

遺物番号	器 種	記 載 部 位	積 文	種 別
39	須恵器杯	底部外面	「市」	墨書
124	須恵器杯	底部外面	「□」	墨書
129	土師器杯	底部内面	「㊦」	墨書
130	土師器杯	底部内面	「万呂」	墨書
131	土師器杯	底部内面	「□」	墨書
135	須恵器杯	底部外面	「伊」	墨書
137	土師器杯	胴部外面、正位	「□」	墨書
138	土師器杯	底部内面	「㊦」	墨書
139	須恵器杯	底部内面	「□」	墨書
		底部外面	「□」	墨書
140	須恵器杯	底部外面	「□」	墨書
143	須恵器杯	胴部外面、正位	「三井」	墨書
		胴部内面、正位	「三井」	墨書
153	須恵器杯	底部外面	「十」	墨書
207	土師器杯	底部内面	「×」	刻書
280	須恵器杯	底部外面	「□」	墨書
285	須恵器杯	底部外面	「浄」	墨書
288	須恵器碗	底部外面	「佐」	墨書
343	須恵器杯	底部外面	「仁」	墨書
357	須恵器杯	底部内面	「中」	墨書
		底部外面	「中」	墨書

## 第3節 下小鳥遺跡出土木材の樹種

高橋利彦

### 1 試料

資料は、弥生時代末～古墳時代前期のものとされる1区16号溝跡から出土した15点と、平安時代のものとされる1区1号井戸跡から出土した1点・同5号井戸跡出土の2点、平安時代?とされる2区3号井戸跡出土の3点、中世～近世のものとされる1区4号井戸跡出土の4点・2区7号井戸跡出土の10点・同9号井戸跡出土の1点の合計36点である。いずれも木製品・加工材で、曲物・杭などがあるが用途不明のものも多い。

### 2 方法

群馬県埋蔵文化財調査事業団によって作成された試料の木口・柾目・板目3面の徒手切片プレパラートを、筆者が生物顕微鏡で観察・同定した。同時に顕微鏡写真図版(図版76～79)も作成した。なお、プレパラートは同事業団に保管されている。

### 3 結果

当年枝であったため同定できなかった1点(440)を除く35試料は、以下の12種類(Taxa)に同定された。試料の主な解剖学的特徴や現生種の一般的な性質は次のようなものである。なお、各Taxaの科名・学名・和名およびその配列は「日本の野生植物 木本Ⅰ・Ⅱ」(1989)にしたがった。また、一般的性質などについては「木の事典 第1巻～第7巻」(1979～1982)も参考にした。

マツ属複維管束亜種の一つ (Pinus subgen. Diploxyylon sp.) マツ科 (475)

早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は広く、年輪界は明瞭。樹脂細胞はなく、樹脂道が認められる。放射組織は借道管、柔細胞とエピセリウム細胞よりなり、借道管内壁には鋸歯状の突出が認められる。分野壁孔は窓状、単列、1～15細胞高のものと水平樹脂道をもつ紡錘形のものがあ

る。複維管束亜属(いわゆる二葉松類)には、クロマツ (Pinus thunbergii) ・アカマツ (P. densiflora) と琉球列島特産のリュウキュウマツ (P. luchuensis) の3種がある。アカマツは北海道南部から九州に、クロマツは本州から琉球に分布するが、暖地の海沿いに多く成育し、また古くから砂防林として植栽されてきた。材は重硬で強度が大きく、保存性は中程度であるが耐水性に優れる。建築・土木・建具・器具・家具材など広い用途が知られている。

モミ属の一つ (Abies sp.) マツ科 (470)

早材部から晩材部への移行は緩やかで、年輪界は明瞭。樹脂細胞・樹脂道はない。放射仮道管はなく、放射柔細胞の末端壁にはじゅず状の肥厚が認められる。分野壁孔はスギ型(Taxodioid)で1～4個。放射組織は単列、1～25細胞高。

モミ属には、ウラジロモミ (*Abies homolepis*) ・トドマツ (*A. sachalinensis*) ・モミ (*A. firma*) ・シラビソ (*A. veitchii*) ・オオシラビソ (*A. mariesii*) の5種があり、トドマツを除く4種はいずれも日本特産である。モミは本州 (秋田・岩手県以南) ・四国・九州の低地～山地に、ウラジロモミは本州中部 (福島県以南) ・紀伊半島・四国の山地～亜高山帯に、オオシラビソは本州 (中部地方以北) の亜高山帯に、シラビソは本州中部 (福島県以南) ・奈良県・四国に、トドマツは北海道に分布する常緑高木である。モミを除いては山地～高山・寒冷地に成育する。材の解剖学的特徴のみでは区別できないが、試料はモミである可能性が高い。モミの材はやや軽軟で、強度は小さく、割裂性は大きい。加工は容易で、保存性は低い。棺や卒塔婆など葬祭具に用いられるほか、建具・器具・家具・建築材など各種の用途が知られている。

#### スギ (*Cryptomeria japonica*) スギ科 (450・476)

早材部から晩材部への移行はやや急で、年輪界は明瞭。樹脂細胞はほぼ晩材部に限って認められ、樹脂道はない。放射仮道管はなく、放射柔細胞は滑らか、分野壁孔はスギ型で2～4個。放射組織は単列、1～15細胞高。

スギは本州・四国・九州に自生する常緑高木で、また各地で植栽・植林される。国内では現在植林面積第一位の重要樹種であり、長寿の木としても知られる。材は軽軟で割裂性は大きく、加工は容易、保存性は中程度である。建築・土木・樽桶類・舟材など各種の用途がある。

#### ヒノキ属の一種 (*Chamaecyparis* sp.) ヒノキ科 (447・448・449・451・452・455・458・474)

早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭く、年輪界は明瞭。樹脂細胞は晩材部に限って認められ、樹脂道はない。放射仮道管はなく、放射柔細胞の壁は滑らか、分野壁孔はヒノキ型 (*Cupressoid*) で1～4個。放射組織は単列、1～15細胞高。

ヒノキ属にはヒノキ (*Chamaecyparis obtusa*) とサワラ (*C. pisifera*) の2種がある。ヒノキは本州 (福島県以南) ・四国・九州に分布し、また各地で植栽される常緑高木で、国内では現在スギに次ぐ植林面積をもつ重要樹種である。材はやや軽軟で加工は容易、割裂性は大きい、強度・保存性は高い。建築・器具材など各種の用途が知られている。サワラは本州 (岩手県以南) ・九州に自生し、また植栽される高木で多くの園芸品種がある。材は軽軟で割裂性は大きく、加工も容易、強度的にはヒノキに劣るが耐水性が高いため、樽や桶にするほか各種の用途がある。

#### クマシデ属の一種 (*Carpinus* sp.) カバノキ科 (477)

散孔材で、管孔は放射方向に2～4 (時に10) 個が複合する。横断面は楕円形。単穿孔をもち、壁孔は対列状～交互状に配列する。放射組織は異性Ⅲ～Ⅱ型、1～3細胞幅、1～40細胞高のもの集合組織よりなる。柔組織は短接線状およびターミナル状。年輪界は明瞭。

クマシデ属は、サワシバ (*Carpinus cordata*) ・クマシデ (*C. japonica*)、イワシデ (*C. turzaninonii*)、イヌシデ (*C. tschonoskii*) ・アカシデ (*C. laxiflora*)、の5種が自生する。このうちサワシバ・クマシデは階段穿孔を持つため除外される。イワシデは本州 (中部地方) ・四国・九州の石灰岩地に成育

し、アカシデは北海道南部・本州・四国・九州に、イヌシデは本州（岩手・新潟県以南）・四国・九州に成育する温帯性落葉高木～低木である。このうちアカシデは山野に普通に見られ、二次林の構成種でもある。材はやや重硬で、割裂性が小さく、曲木や木地、薪炭材などに用いられる。

コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris* sp.) ブナ科 (460・468・472)

環孔材で孔圏部は1～3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減しながら放射状に配列する。大道管は横断面では円形、小道管は横断面では角張った円形、ともに単独。単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では柵状となる。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合組織よりなる。軟組織は周囲状および短接線状。柔細胞はしばしば結晶を含む。年輪界は明瞭。

クヌギ節は、コナラ亜属（落葉ナラ類）の中で、果実（いわゆるドングリ）が2年目に塾するグループで、クヌギ (*Quercus acutissima*) とアベマキ (*Q. variabilis*) の2種がある。クヌギは本州（岩手・山形県以南）・四国・九州・琉球に、アベマキは本州（山形・静岡県以南）・四国・九州（北部）に分布するが、中国地方に多い。材の解剖学的特徴のみで両者を区別することはできないが、試料はクヌギである可能性が高い。クヌギは樹高15mになる高木で、材は重硬である。古くから薪炭材として利用され、人里近くに萌芽林として造林されることも多く、薪炭材としては国産材第一の重要材である。このほかに器具・杭材・楯材などの用途が知られる。

コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus* sp.) ブナ科 (444・453・454)

環孔材で孔圏部は1～2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減しながら火炎状に配列する。大道管は横断面では円形～楕円形、小道管は横断面では多角形、ともに単独。単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、放射状組織との間では柵状～網目状となる。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合組織よりなる。柔組織は周囲状および短接線状。柔細胞はしばしば結晶を含む。年輪界は明瞭。

コナラ節は、コナラ亜属の中で果実が1年目に塾するグループで、カシワ (*Quercus dentata*) ・ミズナラ (*Q. crispula*) ・コナラ (*Q. serrata*) ・ナラガシワ (*Q. aliena*) といくつかの変・品種を含む。ミズナラ・カシワ・コナラは北海道・本州・四国・九州に、ナラガシワは本州（岩手・秋田県以南）・四国・九州に分布する。このうち関東地方平野部で普通に見られるのはコナラである。コナラは樹高20mになる高木で、古くから薪炭材として利用され、植栽されることも多かった。材は重硬で、加工は困難。器具・機械・楯材などの用途が知られ、薪炭材としてはクヌギに次ぐ優良材である。

コナラ属アカガシ亜属の一種 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanops* sp.) ブナ科 (459・461・462・464・465・466・467・469・473)

放射孔材で、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列。放射組織との間では柵状となる。放射組織は同性、単列、1～15細胞高のものと複合組織よりなる。柔組織は短接線状および散在状。柔細胞はしばしば結晶を含む。年輪界は不明瞭。



アカガシ亜属（カシ類）には、イチイガシ（*Quercus gilva*）、アカガシ（*Q. acuta*）、アラカシ（*Q. glauca*）など8種類があるが、果実の構造からコナラ亜属に分類される常緑低木～小高木のウバメガシ（*Q. phillyraeoides*）も、材構造上はカシ類と類似する。カシ類は、暖温帯常緑広葉樹林（いわゆる照葉樹林）の主要な構成種であり、主として西南日本に分布する。このうち最も高緯度地域にまで分布するのがアカガシで、宮城・新潟県が北限である。材は重硬・強靱で、器具・機械・建築・薪炭材などに用いられる。

クリ（*Castanea serrata*） ブナ科（439・441）

環孔材で孔圏部は1～4列またはそれ以上、孔圏外でやや急激に管径を減じたのち漸減しながら火災状に配列する。大道管は単独、横断面では円形～楕円形地。小道管は単独および2～3個が斜（放射）方向に複合、横断面では角張った楕円形～多角形。道管は単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列。放射状組織との間では柵状～網目状となる。放射組織は同性、単（一部2）列、1～15細胞高。柔組織は周囲状および短接線状。年輪界は明瞭。

クリは北海道南西部・本州・四国・九州の山野に自生し、また植栽される落葉高木である。材はやや重硬で、強度は大きく、加工はやや困難であるが耐朽性が高い。土木・建築・器具・家具・薪炭材、楢木や海苔粗朶などの用途が知られている。

ケヤキ（*Zelkova serrata*） ニレ科（446）

環孔材で孔圏部は1～2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。大道管は横断面では円形～楕円形、単独。小道管は横断面では多角形で複合管孔をなす。道管は単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列。小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ型。1～10細胞、1～30細胞高であるが時に60細胞高を越える。しばしば結晶を含む。柔組織は周囲状。年輪界は明瞭。

ケヤキは本州・四国・九州の谷沿いの肥沃地などに自生し、また屋敷林や並木として植栽される落葉高木で、時に樹高50mにも達する。材はやや重硬で、強度は大きい、加工は困難でなく、耐朽性が高く、木理が美しい。建築・造作・器具・家具・機械・彫刻・薪炭材など各種の用途が知られ、国産広葉樹材の中で最良のものの一つに上げられる。

ヤマグワ（*Morus australis*） クワ科（442・443・471）

環孔材で孔圏部は3～6列、晩材部へ向かって管径を漸減させ、のちに塊状に複合する。大道管は横断面では楕円形、単独または2～3個が複合。小道管は横断面では多角形で複合管孔となる。道管は単穿孔をもち、壁孔は密に交互状に配列。小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅱ～Ⅲ型、1～6細胞幅、1～50細胞高。柔組織は周囲状～翼状および散在状。年輪界は明瞭。

ヤマグワは北海道・本州・四国・九州・琉球の山野に自生し、また植栽される落葉高木で、多くの園芸品種があり養蚕に利用されている。クワ属はヤマグワの他に4種が自生するが、西南日本に分布するケグワ（*M. cathayana*）を除くと、その分布域はごく限られている。ヤマグワの材はやや重硬で

強靱、加工はやや困難で、保存性は高い。装飾材や器具・家具材として用いられる。

トネリコ属の一種 (*Fraxinus* sp.) モクセイ科 (456)

環孔材で孔圏部は2~3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減する。道管壁は厚く、横断面では円形~楕円形、単独または2個が複合、複合部はさらに厚くなる。道管は単穿孔をもち、壁孔は小型で密に交互状に配列する。放射組織は同性、1~3細胞幅、1~20細胞高。柔組織は周囲状およびターミナル状。年輪界は明瞭。

トネリコ属には、シオジ (*Fraxinus platypoda*)、トネリコ (*F. japonica*)、ケアオダモ (*F. langinosa*)、など9種が自生する。このうちヤマトアオダモ (*F. longicuspis*) は本州・四国・九州に、マルバアオダモ (*F. sieboldiana*)・ケアオダモは北海道・本州・四国・九州に、ヤチダモ (*F. mandshurica* var. *japonica*) は北海道・本州に、トネリコは本州 (中部地方以北) に、シオジは本州 (関東地方以西)・四国・九州に分布する。いずれも落葉高木である。材の性質は種によって異なるが、一般には中庸~やや重硬で、靱性があり、加工は容易で、建築・器具・家具・旋作・薪炭材などの用途が知られる。

以上の同定結果を検出遺構・用途とともに一覧表で示す。

#### 4 考察

同定対象とされた36点は、不明広葉樹1点を除き前記の12 Taxa に同定されたが、アカガシ亜属 (9点) とヒノキ属 (8点) が多く、クヌギ節・コナラ節・ヤマゲワ (各3点) などがこれに次いでいる。

ヒノキ属は平安時代? のものとされる2区3号井戸跡と中世~近世のものとされる2区7号井戸跡・9号井戸跡から検出され、用途は曲物およびその底板 (5点) と薄板 (3点) である。高崎市日高遺跡の平安時代 (浅間山B軽石層下水田跡検出) のものとされる曲物底板でも13点中10点がヒノキ属とされている (鈴木・能城 1982)。ヒノキ製の曲物は現在でも製造・使用されているが、利器の発達していなかった古代にあつては割裂性が大きく、強度や耐朽性にも優れたヒノキ (またはサワラ) がより選択された結果と思う。スギ (450) も同様の理由により選択されたものであろう。

一方、アカガシ亜属はすべて弥生時代末~古墳時代前期のものとされる1区16号溝から検出されており、その用途は建築部材・杭・板材などとされている。高崎市新保遺跡出土試料中ではアカガシ亜属は「加工木に多くて自然木にはさほどではない」とされている (鈴木・能城 1988)。そうであれば、<sup>註1</sup>当時「この地域に豊富にあつたとは考えられないカシ類」 (鈴木・能城 1988) を選択的に用いていることになる。こうした事例は鋤・鍬などでは知られており、おそらくカシ材の強度をその選択理由としたためと思うが、各試料の用途がいま一つ明らかでないため、断定はできない。また周辺に、<sup>註2</sup>少なくともカシ類よりは多く成育していたであろうクヌギ節の方が少ないが、その理由はわからない。<sup>註3</sup>あるいは同定対象とした試料が少なかつたためであろうか。<sup>註4</sup>

図版76 1 マツ属複雑管束亜種の一種 (475)

2 モミ属の一種 (470)

3 スギ (450)

- 図版77 4 ヒノキ属の一種 (452)  
 5 クマシテ属の一種 (477)  
 6 コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種 (460)
- 図版78 7 コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種 (453)  
 8 コナラ属アカガシ亜属の一種 (473)  
 9 クリ (441)
- 図版79 10 ケヤキ (446)  
 11 ヤマグワ (471)  
 12 トネリコ属の一種 (456)

a:木口 ×40    b:柾目 ×100    c:板目 ×100

## 註

- 本文中では10点とされるが、表によればこの中にヒノキ属?・ヒノキ科各1点が含まれている。また、残り3点はモミ属である。
- 報告の「追記」によれば、この「自然木」には「割り材・一部加工材・割裂材」を半数以上含んでいる。それらは当遺跡試料の板材や不明木製品に相当するようであるが、その種構成などは明らかにされていないためここでは原著にしたがっておく。
- 新保遺跡試料の検出された大溝は、少しづつその流路を変えている。そこから検出された試料は包含される遺物から8時期に区分されているが、最終的には弥生時代中期から古墳時代前期に一括され比較・検討されている。したがって、当遺跡試料よりやや古い時期の試料をも含んでいるようである。
- 新保遺跡試料では、総試料数に占める割合がクヌギ節で33.9% (自然木) と43.6% (加工木) であるのに対して、アカガシ亜属では1.0% (自然木) と15.1% (加工木) となっている。加工木中に占めるアカガシ亜属の比率は自然木のそれに比べてはるかに大きくなっているものの試料数はクヌギ節の約1/3にすぎず、両者の関係は当遺跡試料とは正反対のものとなっている。

## 引用文献

- 平井信二『木の事典 第1巻～第7巻』かなえ書房 1979～1982
- 佐竹義輔・原寛・亘理俊次・富城忠夫(編)『日本の野生植物 木本I・II』平凡社 321,305pp. 1989
- 鈴木三男・能城修一「日高遺跡出土木材の樹種」『日高遺跡 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第5集』財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 372～379 1982
- 鈴木三男・能城修一「新保遺跡出土自然木の樹種とそれによる古植生の復元」『新保遺跡II 弥生・古墳時代集落編 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第18集』財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 435～453 1988

遺物番号	出土遺構	用途	種名
439	1区1号井戸跡	建築部材	クリ
440	1区4号井戸跡	陽物	広葉樹(散孔材:当年枝)
441	1区4号井戸跡	不明	クリ
442	1区4号井戸跡	棒状木製品	ヤマグワ
443	1区4号井戸跡	不明	ヤマグワ(1年枝)
444	1区5号井戸跡	杭	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
446	1区5号井戸跡	皿	ケヤキ
447	2区3号井戸跡	曲物	ヒノキ属の一種
448	2区3号井戸跡	曲物底板	ヒノキ属の一種
449	2区3号井戸跡	曲物底板	ヒノキ属の一種
450	2区7号井戸跡	曲物底板	スギ
451	2区7号井戸跡	薄板	ヒノキ属の一種
452	2区7号井戸跡	薄板	ヒノキ属の一種
453	2区7号井戸跡	棒状木製品	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
454	2区7号井戸跡	不明	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
455	2区7号井戸跡	曲物底板	ヒノキ属の一種
456	2区7号井戸跡	角材	トネリコ属の一種
474	2区7号井戸跡	薄板	ヒノキ属の一種
475	2区7号井戸跡	角杭?	マツ属複雑管束亜属の一種

4 7 6	2区7号井戸跡	くさび状	スギ
4 5 8	2区9号井戸跡	曲物底板	ヒノキ属の一種
4 5 9	1区16号溝跡	建築部材	コナラ属アカガシ亜属の一種
4 6 0	1区16号溝跡	板材	コナラ属コナラ亜属クスギ節の一種
4 6 1	1区16号溝跡	丸杭	コナラ属アカガシ亜属の一種
4 6 2	1区16号溝跡	杭?	コナラ属アカガシ亜属の一種
4 6 4	1区16号溝跡	不明	コナラ属アカガシ亜属の一種
4 6 5	1区16号溝跡	建築部材	コナラ属アカガシ亜属の一種
4 6 6	1区16号溝跡	板材	コナラ属アカガシ亜属の一種
4 6 7	1区16号溝跡	不明	コナラ属アカガシ亜属の一種
4 6 8	1区16号溝跡	角材	コナラ属コナラ亜属クスギ節の一種
4 6 9	1区16号溝跡	板材	コナラ属アカガシ亜属の一種
4 7 0	1区16号溝跡	角材	モミ属の一種
4 7 1	1区16号溝跡	板材	ヤマグワ
4 7 2	1区16号溝跡	不明	コナラ属コナラ亜属クスギ節の一種
4 7 3	1区16号溝跡	建築部材	コナラ属アカガシ亜属の一種
4 7 4	1区16号溝跡	丸杭	クマシデ属の一種

## 第4節 下小鳥遺跡の特徴と問題点

井川 達雄

下小鳥遺跡は、発掘調査の原因である上越新幹線の距離程で、大宮起点79km917mから80km738mの間の821mに及ぶ。遺跡の範囲が広く、遺跡の性格を一言で述べるのは難しいが、当遺跡を中央で横切る国道17号線バイパス付近から北は生産跡としての水田遺構が中心、同国道付近から南の微高地には集落跡が広がっている。

水田跡は、水田面の直上の大部分を浅間山の火山爆発による軽石であるB軽石（以下浅間山B軽石と略記）が覆っており、浅間山の火山爆発直前まで営まれていた水田と考えることができる。浅間山軽石の降下年代については天仁元年（1108）説と弘安4年（1281）説があり、天仁元年（1108）説の方が有力になりつつあるが、最終的な年代の確定には至っていない。この時期における竪穴住居等の集落遺構の発見例は少なく（恐らく、住居の形態が変化して行く時期に当たると考えられる）、集落遺構の発見例が少ないために遺物の出土量も少ない。しかし、最近では遺物の編年も行われ始め、平安時代末～鎌倉時代の年代も捕らえられはじめた。

浅間山B軽石に覆われた当遺跡の水田跡と同時期の水田跡が周辺の遺跡からも発見されている。これらの遺跡は、高崎市小八木町の小八木遺跡、同市正観寺町の正観寺遺跡群、同市浜川町の芦田貝戸遺跡、同市大八木町の大八木水田遺跡などである。下小鳥遺跡付近は地下水位の高い、低湿地であるが、平安時代後半から水田が営まれていたと推定される。また、大八木水田遺跡は当遺跡の水田跡と連続する遺跡であり、生産跡としての水田遺構を考える場合には、同一の水田跡として考えなければならない。高崎市教育委員会の報告書の『大八木水田遺跡』では、当遺跡と大八木水田遺跡の遺構を同一ととらえ、更に、条里制の問題にも言及している。

遺跡の南半分、国道17号バイパスと平行している市道付近以南（1区～3区南端）は、周囲より1～1.5m程高い微高地になっており、この微高地からは25軒の竪穴住居跡が検出できた。古墳時代前期の住居跡3軒、奈良・平安時代の住居跡15軒、不明（大部分はその形態等から、奈良・平安時代の住居跡と推定される。）7軒である。その他、溝66本・井戸15基・土坑51基などが発見されている。これらの遺構で特に注目されるのは、漆紙文書が出土した1区18号土坑と多量の遺物を出土した1区16号溝跡である。また、同溝跡や井戸跡からは木製品が出土している。

県下では、粕川村の宇通廃寺・藪塚本町の六地藏遺跡などから漆紙が出土していたが、文字は書かれておらず、文書にはなっていなかった。漆紙文書の解釈については、第V章第1節に詳しく書かれているので、ここでは漆紙の出土した遺構と漆紙の入っていた須恵器杯について述べておく。

遺構は土坑としたが、底面は細かい凹凸があるが比較的平坦であり、覆土中には炭化物粒子も含まれており、その規模・形態も周囲の住居跡と類似点が認められる。竈は検出されていないが（東側部分にあった可能性がある）、住居跡の掘形が残ったものとも考えることも可能である。また、漆を使用した工房のような遺構と考えることも可能である。しかし、ここでは遺構の性格を断定することはできない。

漆紙文書の入っていた須恵器杯（306）であるが、技法は轆轤を用いて作られており、底部は回転

糸切り後は無調整である。また、器壁は厚く、胴部はやや内湾し、口縁部は広がる形態である。当遺構から出土している遺物は、漆紙文書の入っていた須恵器以外は、須恵器1点(307)しか出土しておらず、須恵器の杯だけで年代を確定するには困難が伴う。奈良・平安時代の土師器・須恵器は井上唯雄氏が総合的な編年を行って<sup>註1</sup>以来、中沢悟氏・坂口一氏・三浦京子氏・飯田陽一氏・神谷佳明氏・綿貫邦男氏らが<sup>註2・3・4・5・6</sup>編年している。これらの編年と比較すると、井上氏の編年のⅢ類、坂口・三浦氏のⅦ段階、神谷・三浦氏のⅦ段階、中沢氏・飯田氏の愛宕山4号住居跡の須恵器に類似性が認められる。これらの土器の実年代は、井上氏の編年のⅢ類の愛宕山4号住居跡の土器に共伴した「万年通寶」をいかに解釈するにかかかっており、井上氏は8世紀末～9世紀中葉、中沢氏・飯田氏は「万年通寶」の铸造年に近い時期を想定しており、坂口一氏は9世紀第1四半世紀を当てている。万年通寶の初铸造年は天平宝字4年(760年)であり、9世紀中葉との年代差は100年近くあることになる。しかし、近年は遺物の年代の細分化が進められており、年代幅は短くなってきている。当遺跡からは実年代を与える資料は出土しておらず、これらの編年の年代観を参考にすることになるが、綿貫氏は愛宕山の遺物を再検討し、共伴する銅製銚帯・石製銚帯に注目し、銚帯が石製から銅製に変えられる年代の延暦15年(796年)から遠くない年代を想定している。愛宕山4号住居跡の須恵器が9世紀の第1四半期にその年代が想定されるとすれば、愛宕山4号住居跡の須恵器に類似する当遺跡の須恵器は、9世紀の第1四半期の年代があたえられよう。

1区18号溝跡からは多量の遺物が出土している。同溝から出土した遺物で古いものは、縄文時代中期の土器であるが、周囲から縄文時代中期の遺構は発見されていない。同溝跡から出土した遺物で、遺構と関係するものは、弥生時代末～古墳時代前期の遺物である。土師器の甕・壺・台付甕・高杯・埴などのほかに、瑪瑙製の勾玉、滑石製の勾玉・管玉などが出土している。同溝跡はその形態から、旧河川と推定され、生活用水・農業用水などとして利用されたのではないかと考えられる。玉類の出土は、水を供給してくれる神様に祈った祭祀の可能性も考えられる。同溝跡はその後も利用され、平安時代の遺物も多量に出土している。

この他、1区18号溝跡や井戸跡からは木製品が出土している。また、井戸跡からは墨書土器なども出土している。特に、1区5号井戸跡から出土している墨書土器には漆紙文書の人名「満呂」と同音の「万呂」も出土している。

## 註

- 1 井上唯雄「群馬県下の歴史時代の土器」『群馬県史研究 8』1978
- 2 中沢悟「出土土器の編年と分類」『清里・陣場遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1981
- 3 坂口一・三浦京子「奈良・平安時代の土器の編年」『群馬県史研究 24』1986
- 4 神谷佳明・三浦京子「出土土器について」『下東西遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1987
- 5 中沢悟・飯田陽一「奈良時代の須恵器について」『研究紀要 5』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988
- 6 綿貫邦男「成果と問題点 2 松井田町愛宕山遺跡出土遺物」『鳥羽遺跡 I・J・K区』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988

# 写 真 图 版







調査風景（背景の山は榛名山）



調査風景

図版 2



2区本線グリッド全景



3～7区本線トレンチ全景



1区東側道全景（南より・背景の山は榛名山）



1区西側道全景（北より）



2区東側道全景（北より）



2区西側道全景（北より）



1区1・2・5・7号住居跡、1号井戸跡、6・14号溝跡全景



1区1号住居跡遺物出土状態全景



1区2号住居跡全景



1区2・7号住居跡掘形全景



1区3号住居跡遺物出土状態全景



1区5号住居跡掘形全景



1区6号住居跡全景



1区7号住居跡遺物出土状態全景





1区8号住居跡遺物出土状態全景



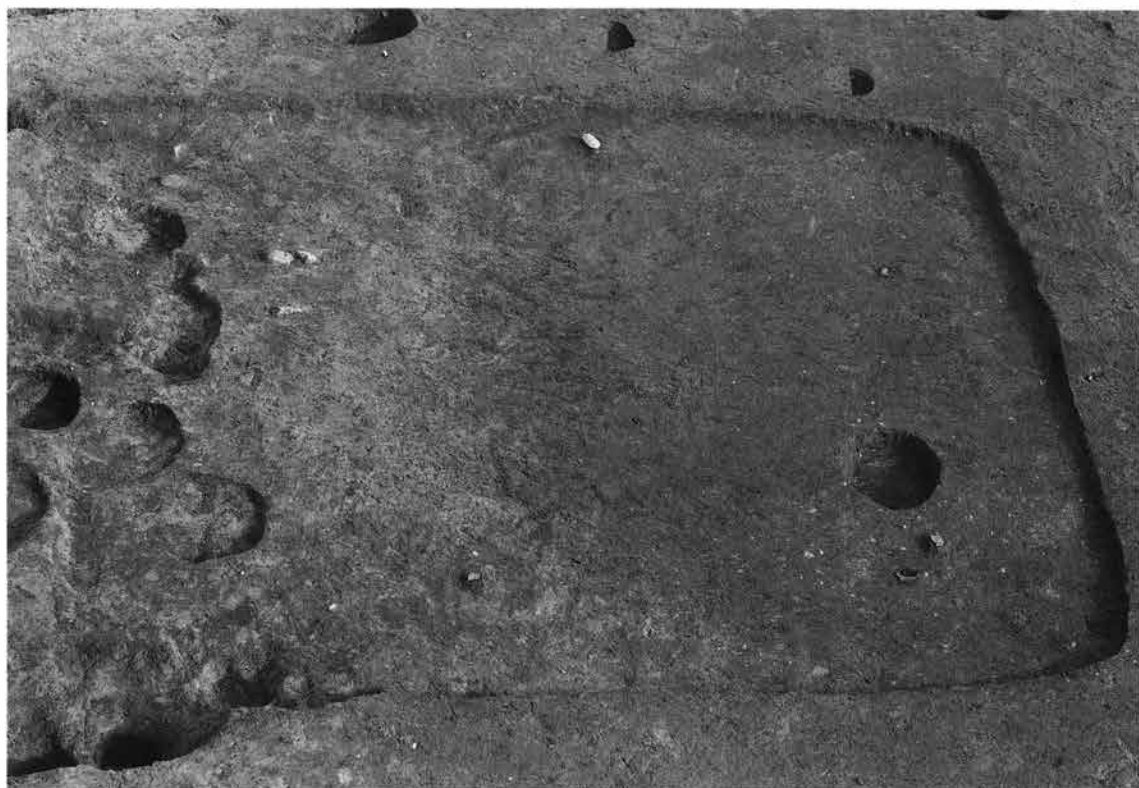
1区9号住居跡全景



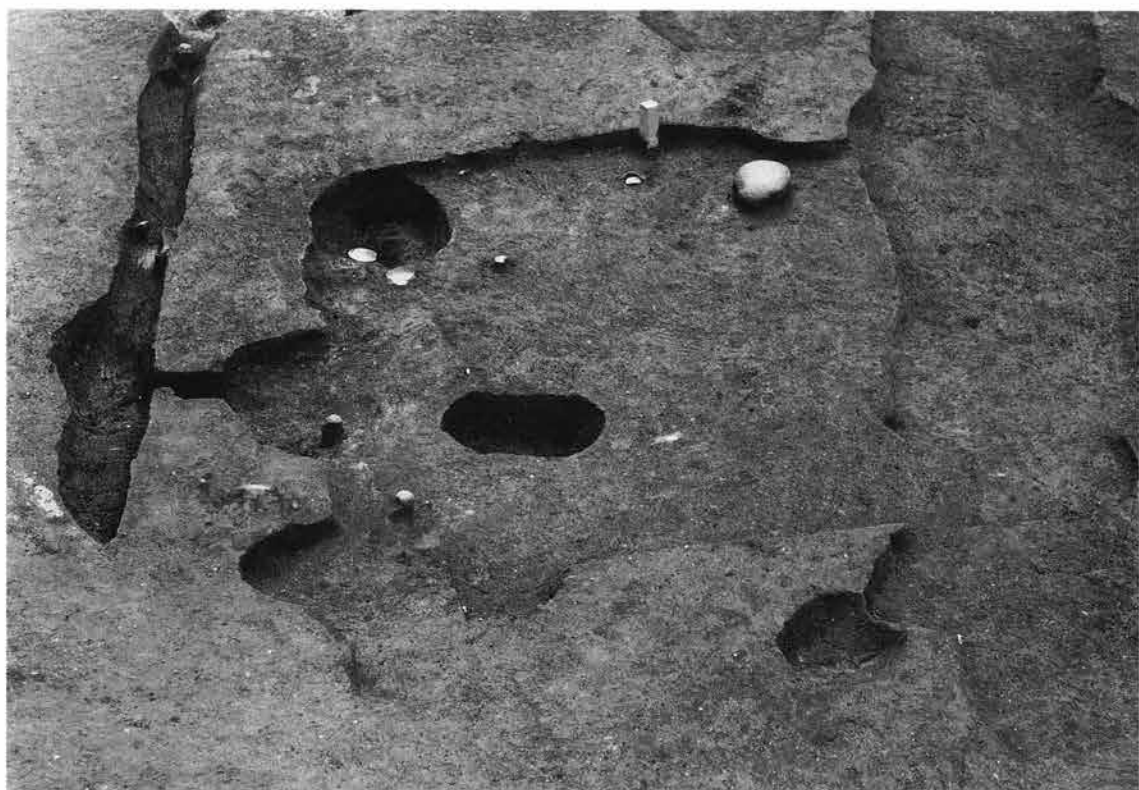
1区10号住居跡遺物出土状態全景



1区10・11号住居跡掘形遺物出土状態全景



1区13号住居跡遺物出土状態全景



2区3号住居跡遺物出土状態全景



2区4号住居跡全景



2区5・9号住居跡遺物出土状態全景



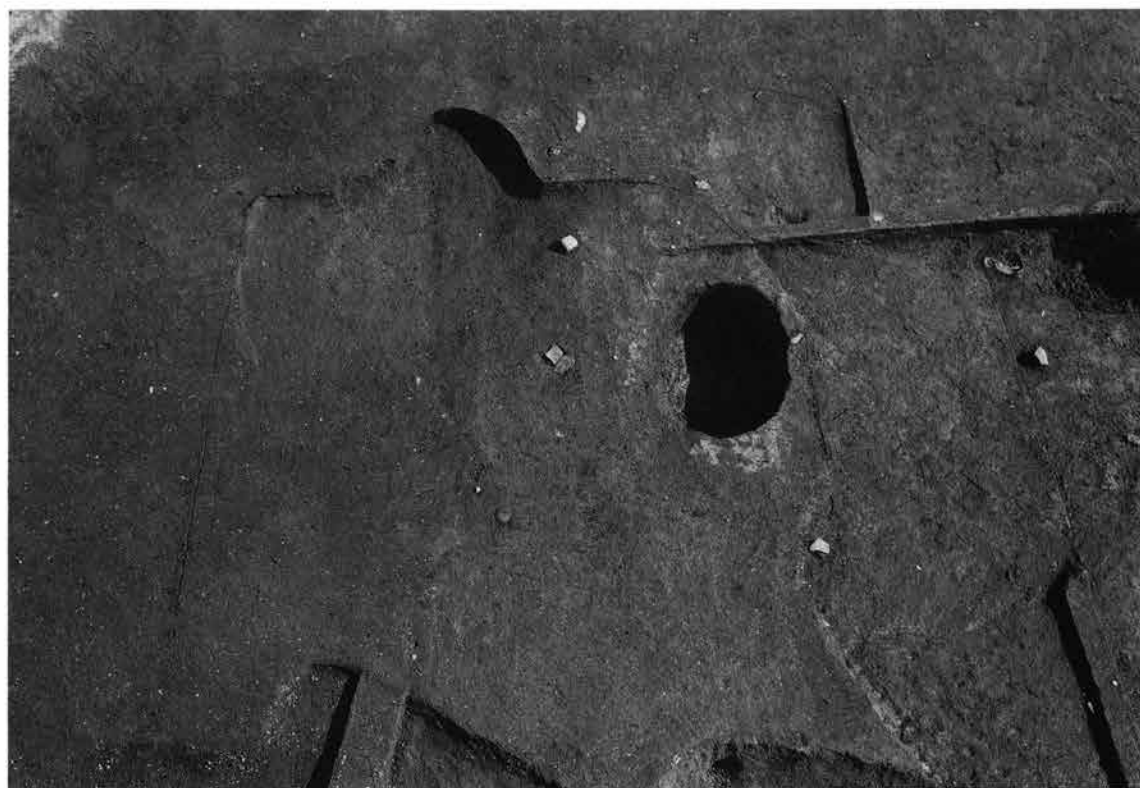
2区5·9号住居跡全景



2区5号住居跡竈遺物出土状態



2区6号住居跡全景



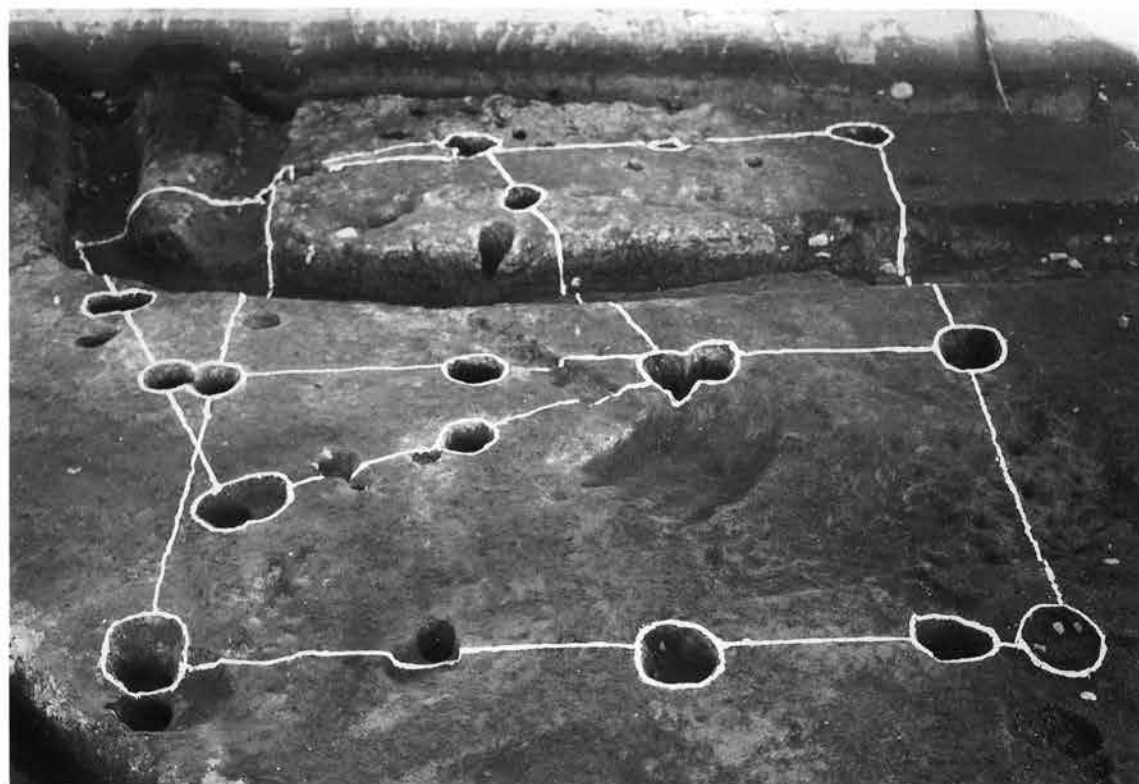
2区7号住居跡全景



2区10号住居跡遺物出土状態全景



3区1号住居跡遺物出土状態全景



1区1·2号掘立柱迹全景



2区1号掘立柱迹全景





1区1号溝跡全景（本線部分・北より）



1区1号溝跡内ピット群（本線部分）



1区16号溝跡全景  
(西側道部分・南東  
より)



1区16号溝跡全景  
(東側道部分・北西  
より)



1区17・18号溝跡全  
景(西側道部分・北  
より)

1区14号溝跡全景  
(西側道部分)



1区22号溝跡全景  
(東側道部分)



1区20・21号溝跡全景  
(東側道部分)



2区1・2・3・4・5・6・7・8号溝跡全景（本線部分）



2区13・14・15・16・17・18号溝跡全景（西側道部分）



3区1号溝跡全景（西側道部分）



3区2号溝跡全景（東側道部分）



4区1号溝跡全景（本線部分）



1区1号井戸跡全景



1区2号井戸跡遺物  
出土状態全景



1区3号井戸跡全景



1区4号井戸跡全景



1区5号井戸跡木枠  
出土状態全景



1区5号井戸跡全景



2区1号井戸跡全景



2区2号井戸跡全景



2区3号井戸跡全景





2区4号井戸跡全景



2区5号井戸跡全景



2区6号井戸跡全景



2区7号井戸跡全景



2区8号井戸跡全景



2区9号井戸跡曲物  
出土状態



2区9号井戸跡全景



2区10号井戸跡全景



1区14号土坑全景



1区25号土坑遺物出土状態全景



1区18号土坑遗物出土状态全景



2区4号土坑全景



2区9号土坑全景



3区東側道水田面全景（南より）



3区東側道水田面全景（北より）



3区西側道水田面全景（南より）



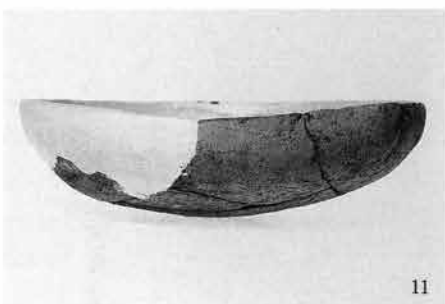
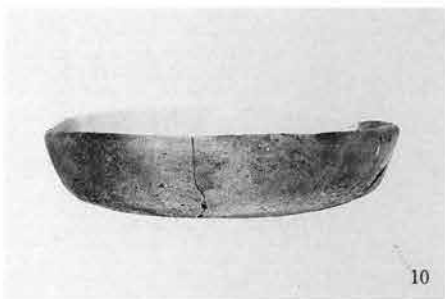
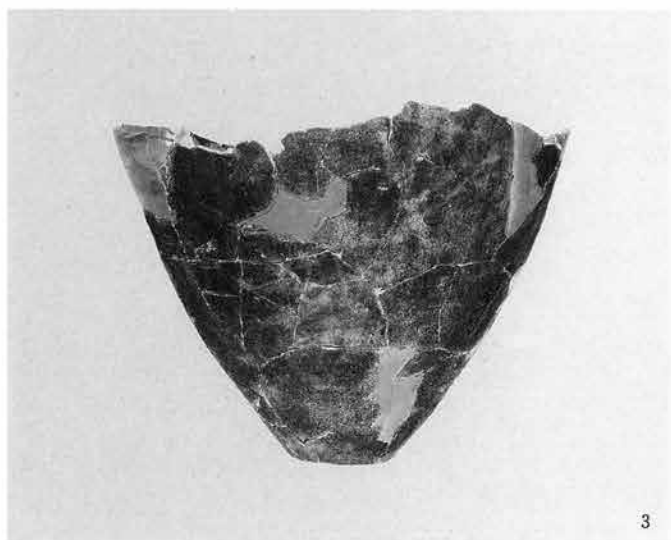
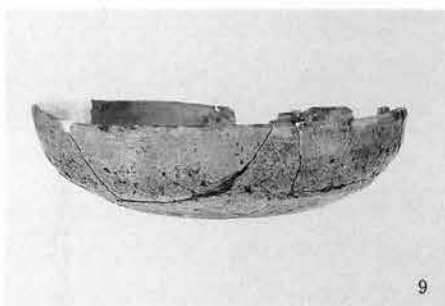
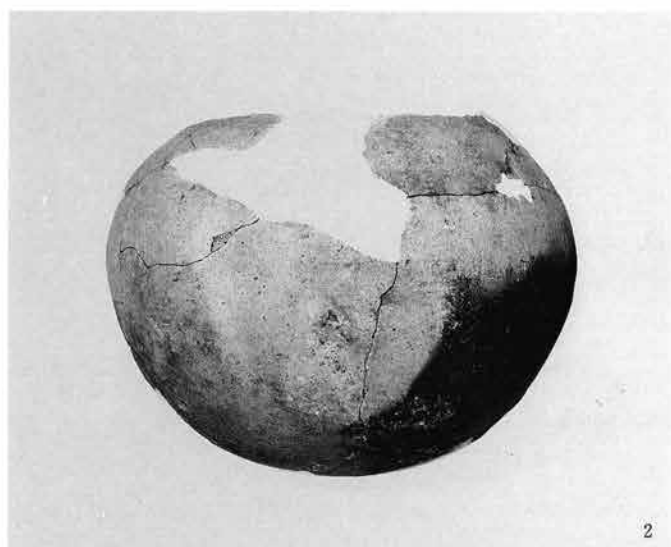
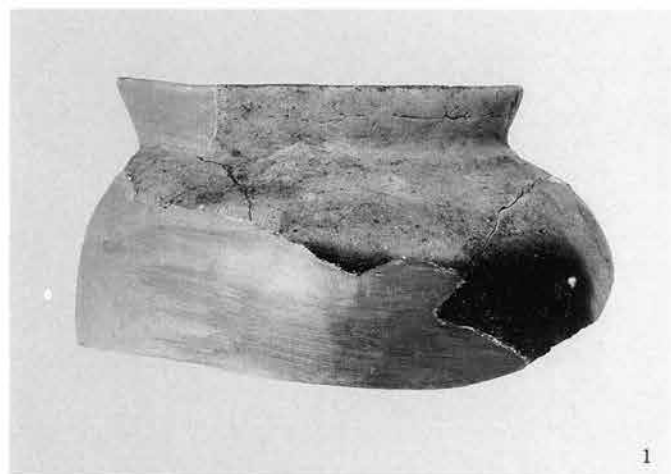
5区水田面と畦畔（南より）



5区A・B-21・22グリッド水田畦畔と足跡（北より）

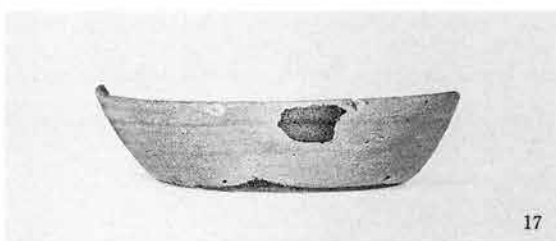
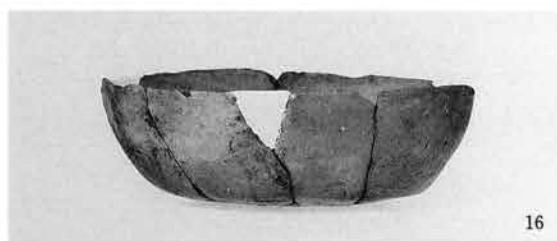
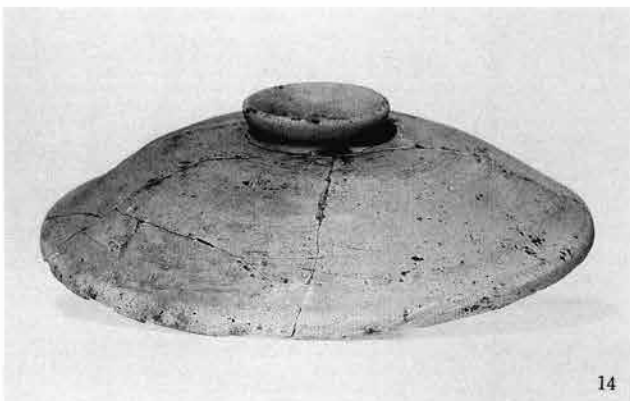
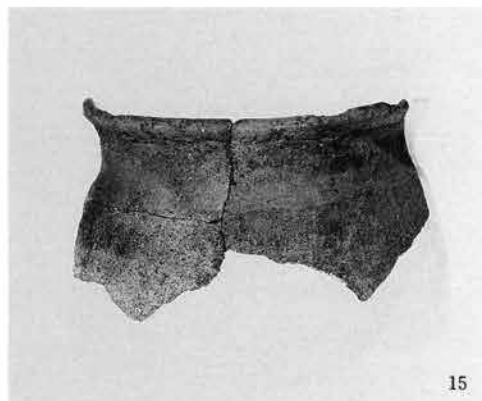
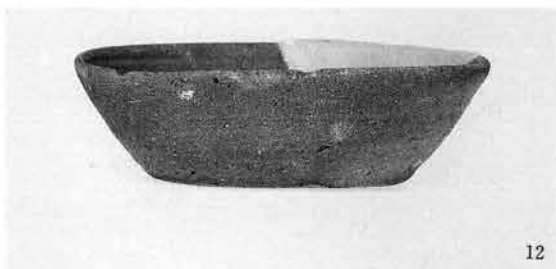
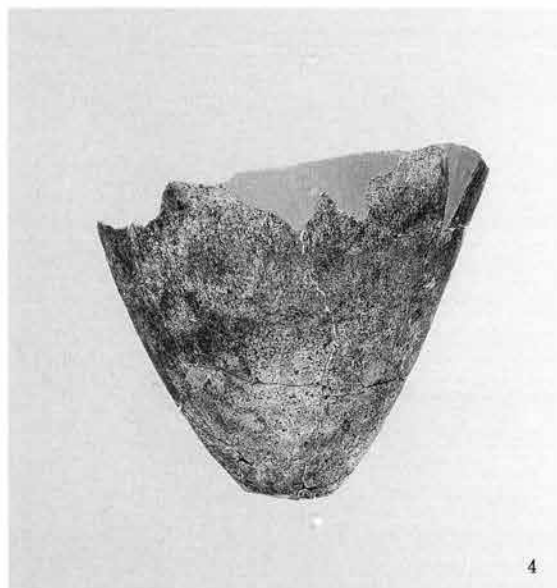


5区A・B-6・7グリッド水田畦畔と足跡（東より）

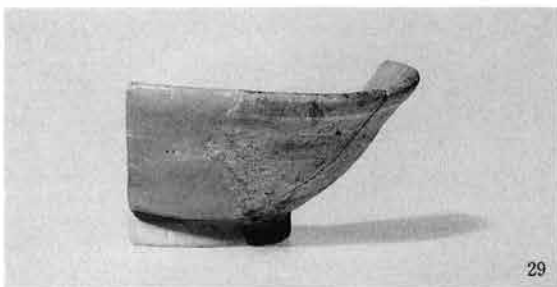
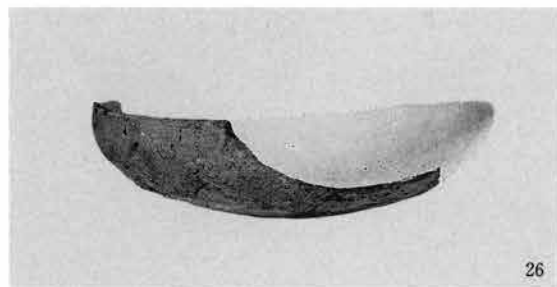
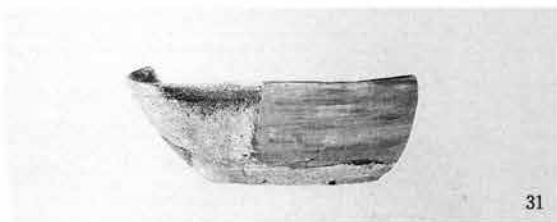
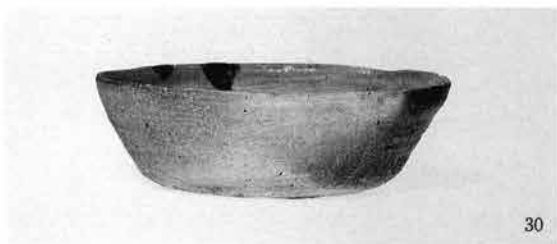
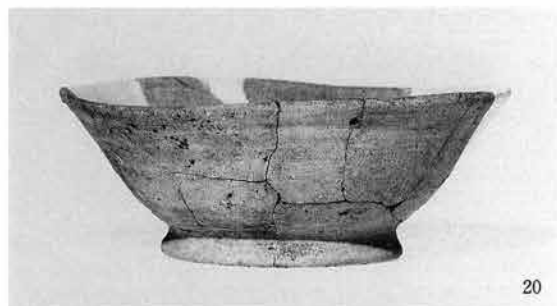


1区1号住居跡出土遺物

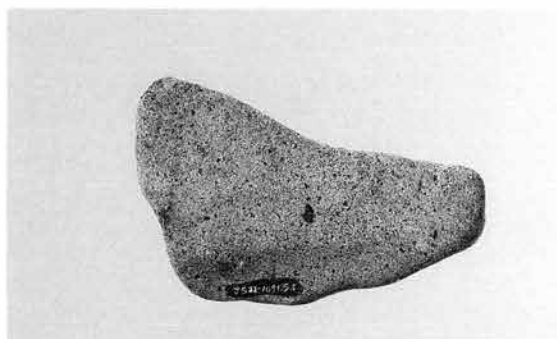




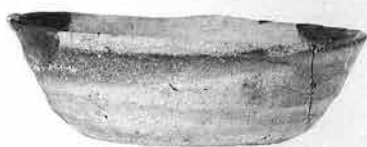
1区1・2号住居跡出土遺物



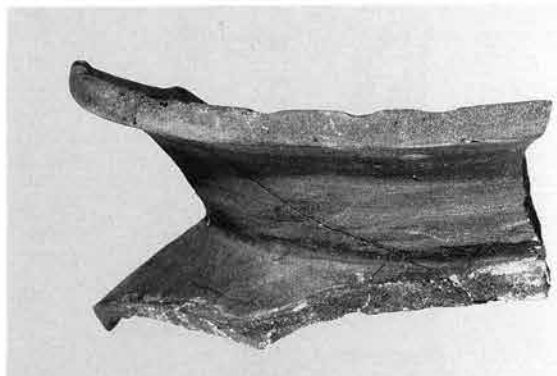
1区2・3・5・7号住居跡出土遺物



35



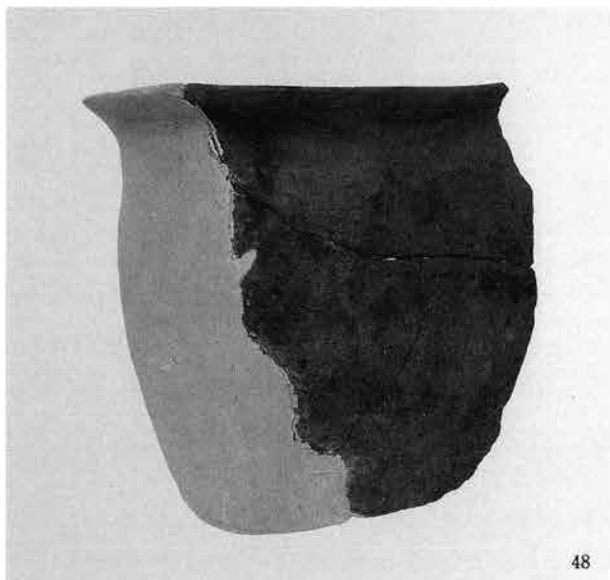
38



46



39



48



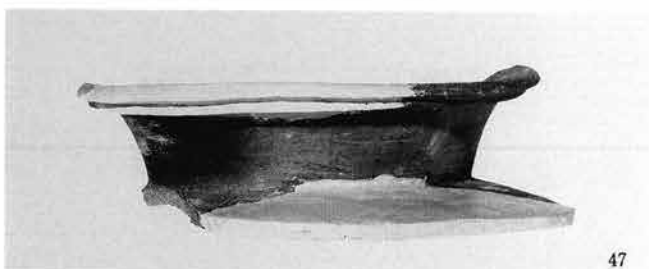
36



37



49

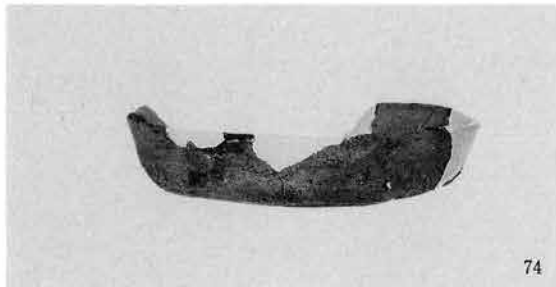
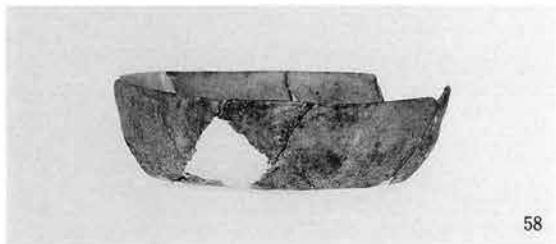
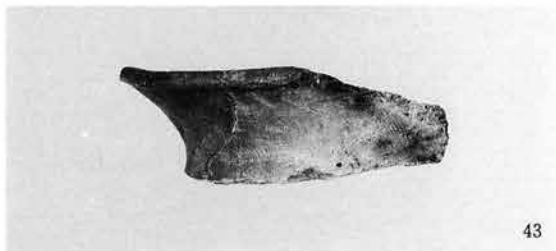
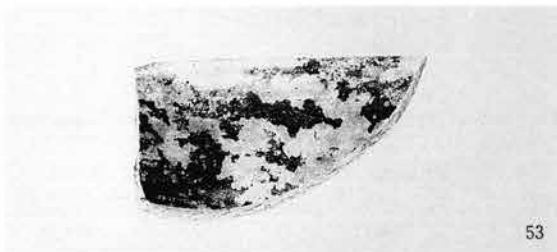
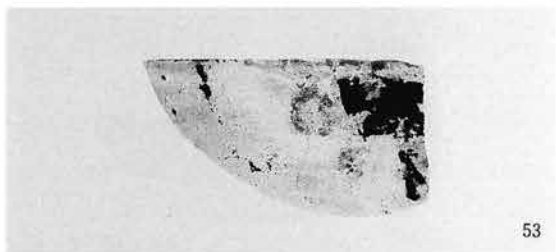
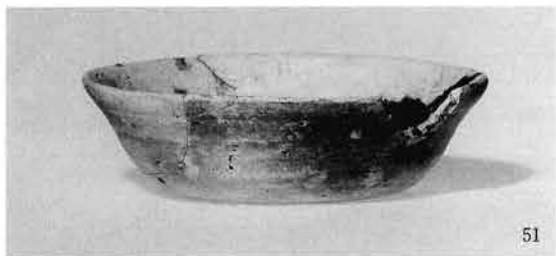


47

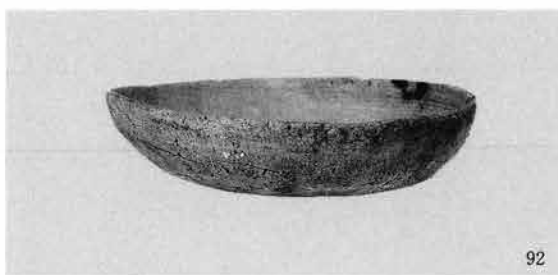
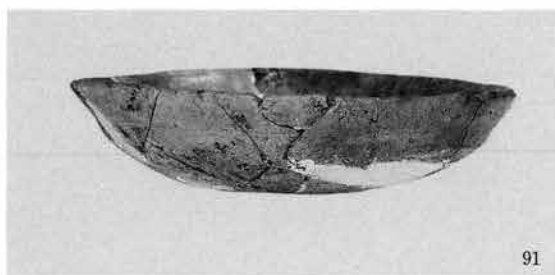
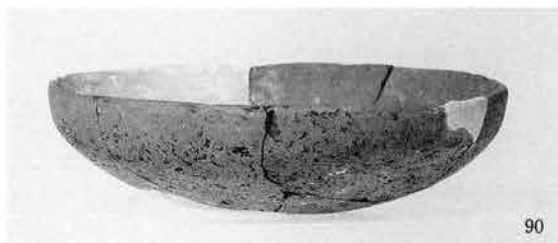
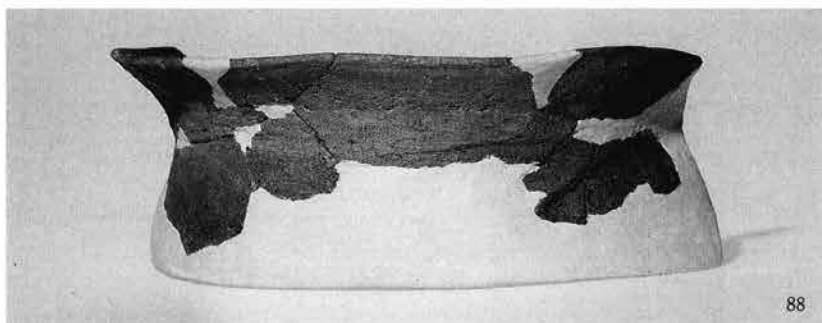


50

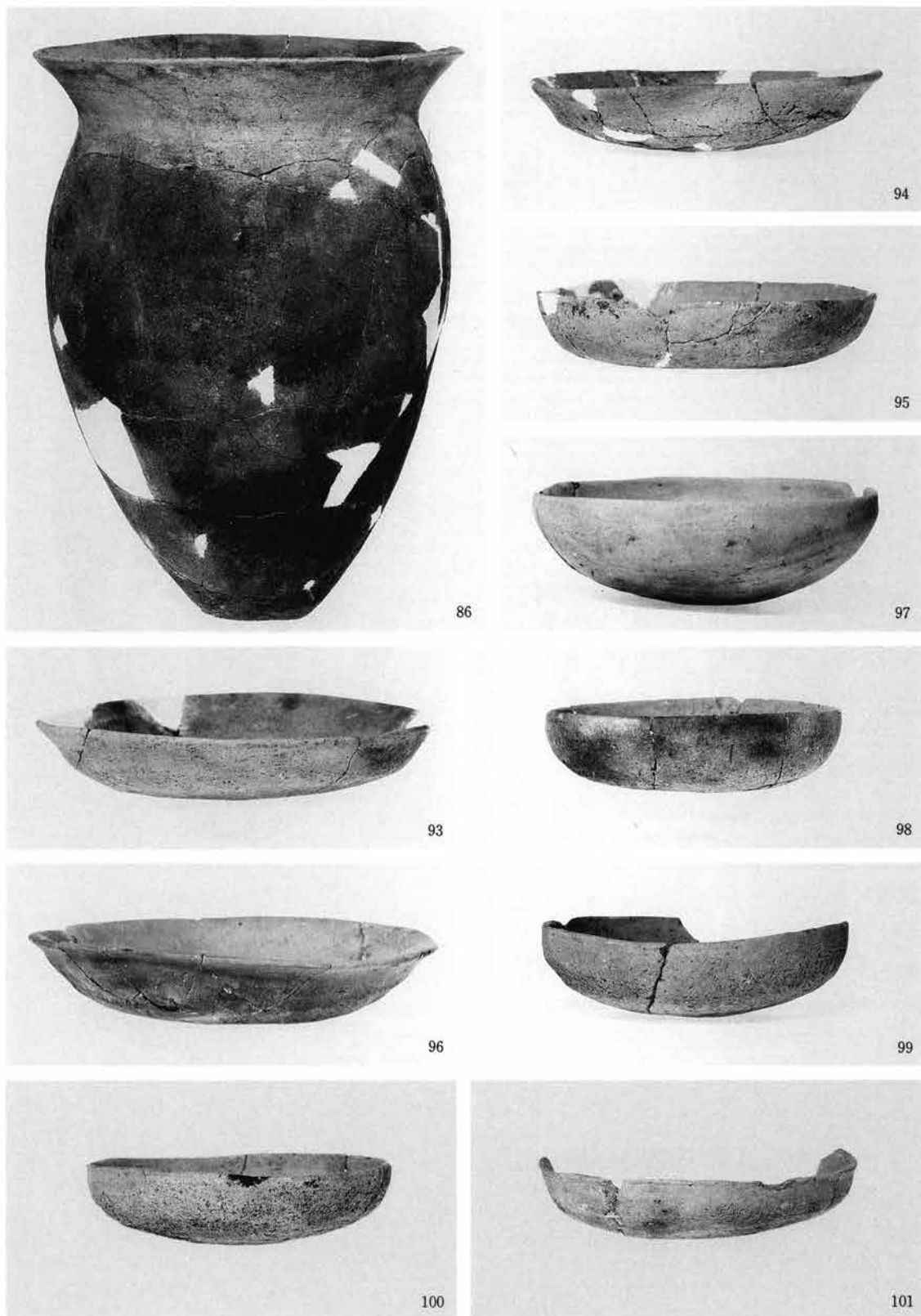
1区8・9・10号住居跡出土遺物



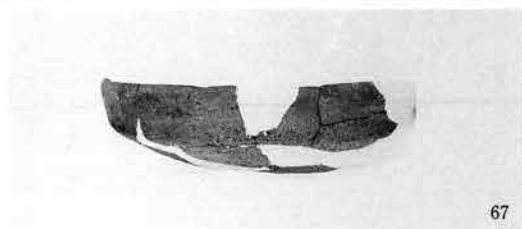
1区10・11号、2区1・3号住居跡出土遺物

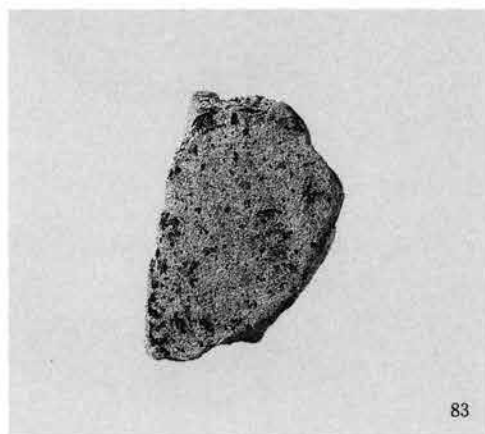
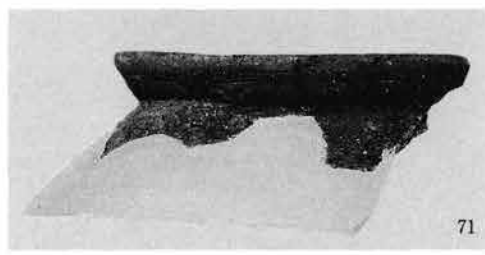
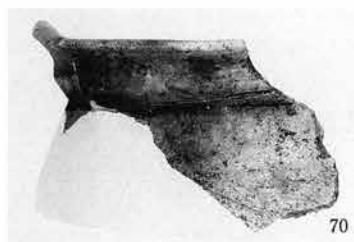


2区3・5号住居跡出土遺物

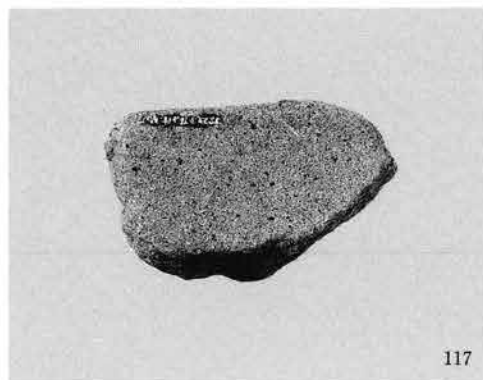
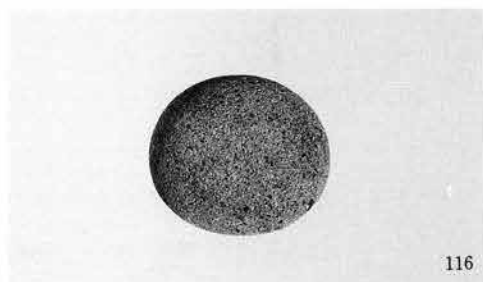
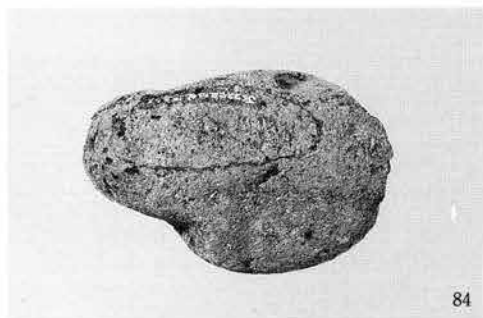


2区5号住居跡出土遺物

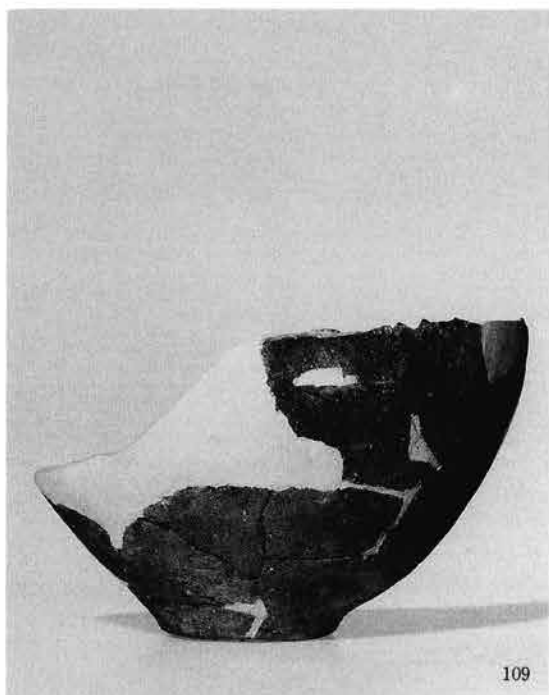








2区10号、3区1号住居跡出土遺物



3区1号住居跡出土遺物



111



217



113



218



219



220



221



223



224

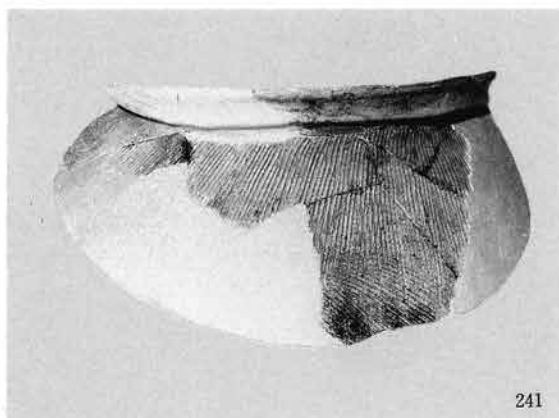
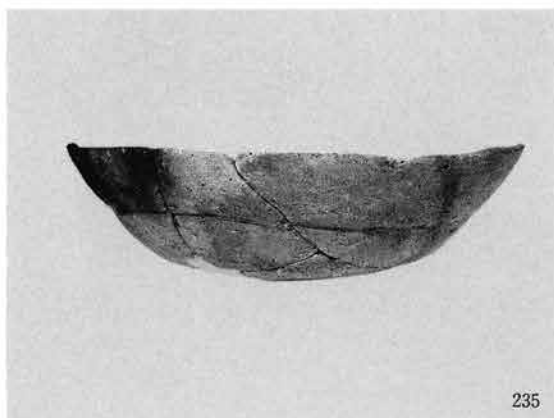
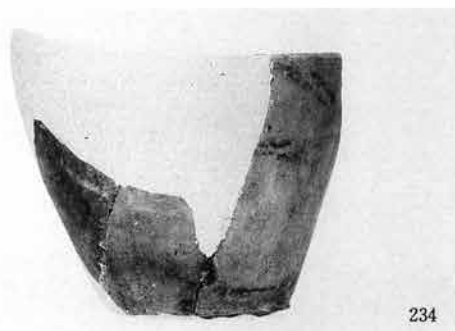
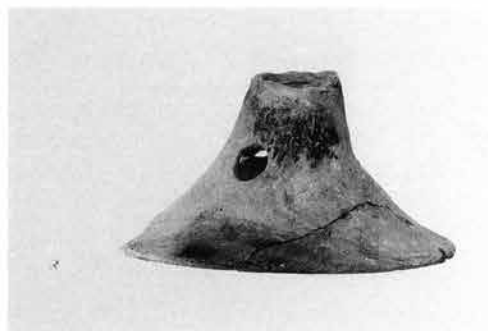


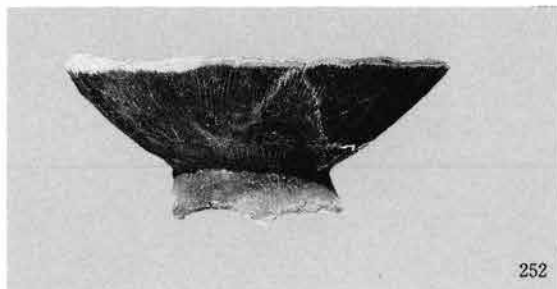
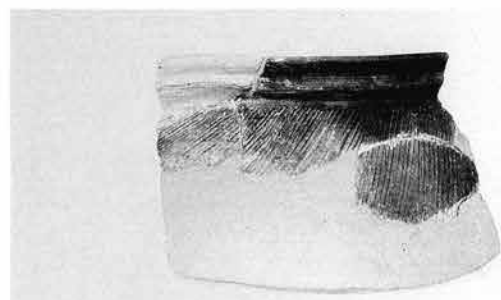
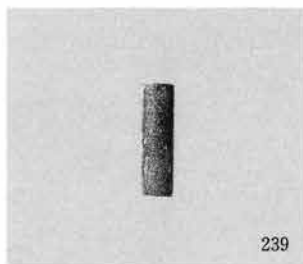
227



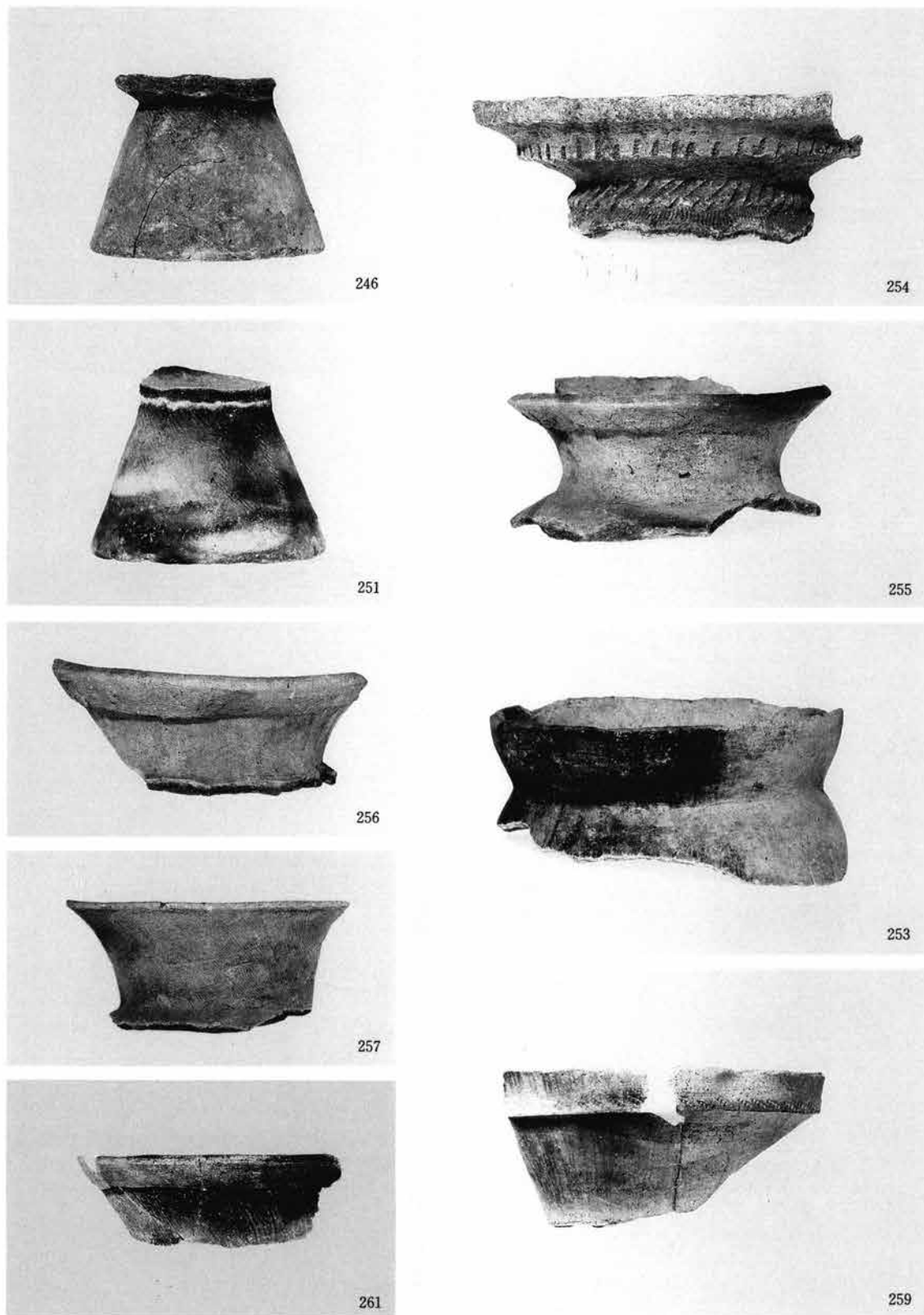
228

3区1号住居跡出土遺物、1区16号溝跡出土遺物①

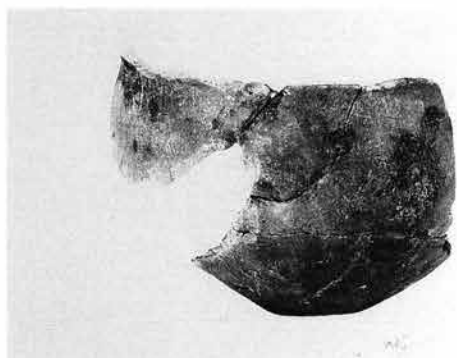




1区16号沟跡出土遺物③



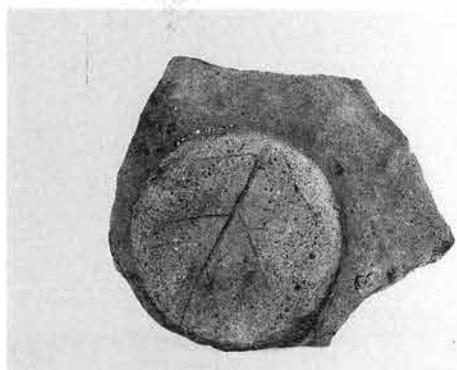
1区16号沟迹出土遗物④



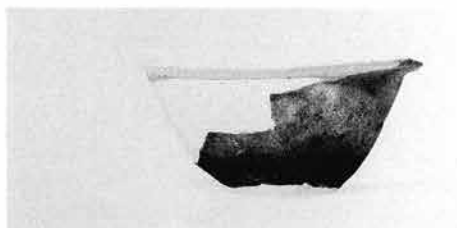
260



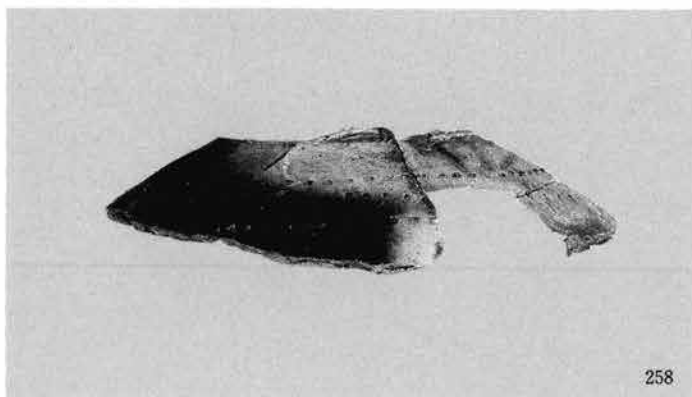
262



262



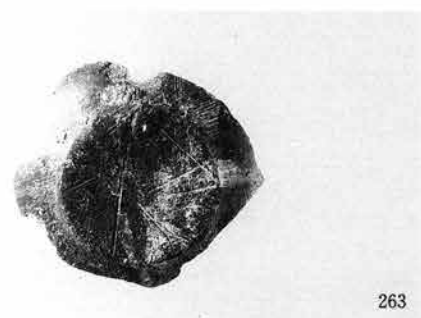
266



258



263



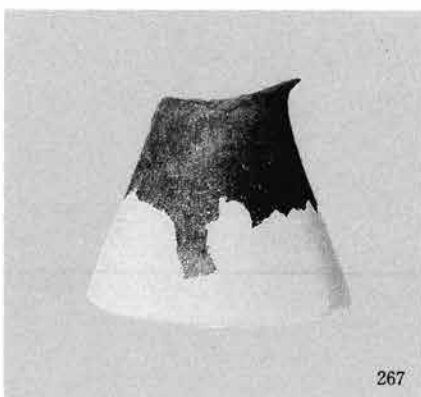
263



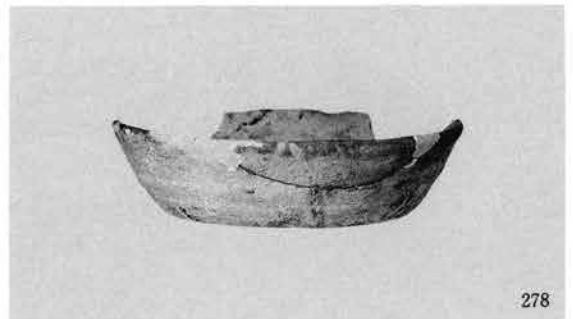
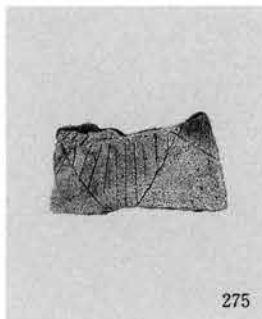
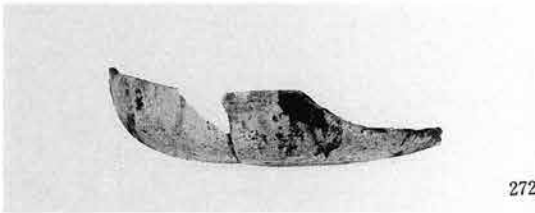
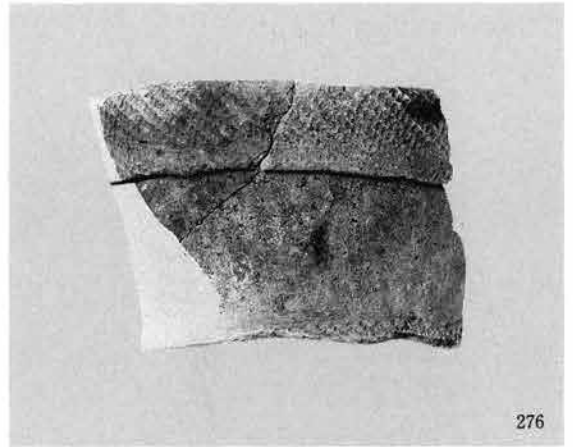
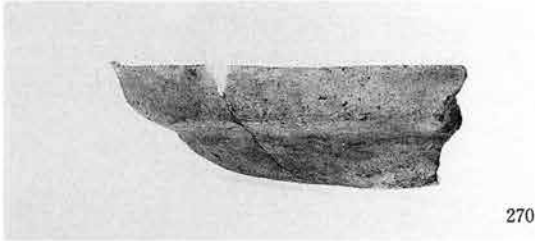
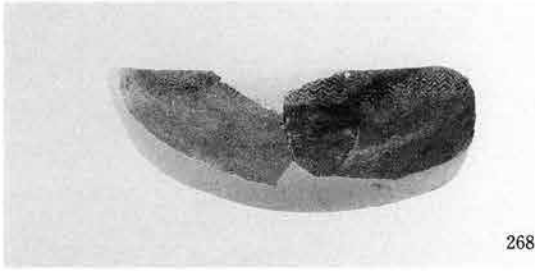
264



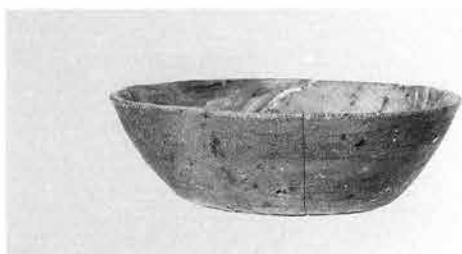
265



267



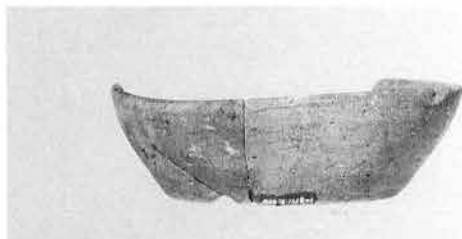




279



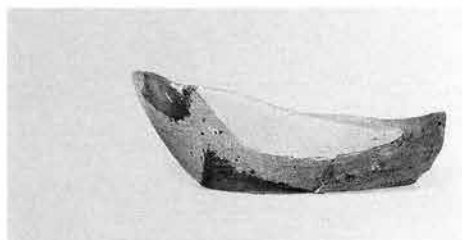
280



281



282



283



284



285



286



285



290



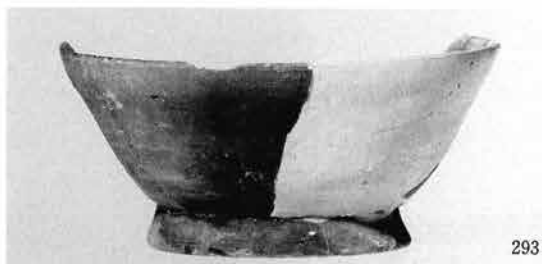
291



289



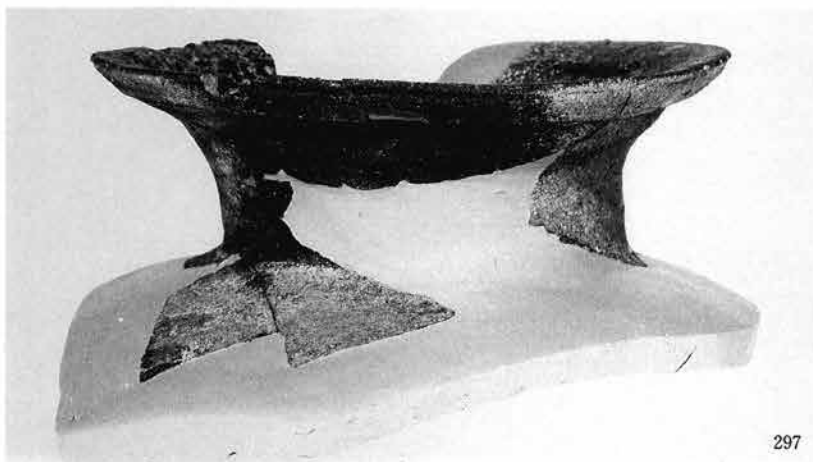
292



293



296



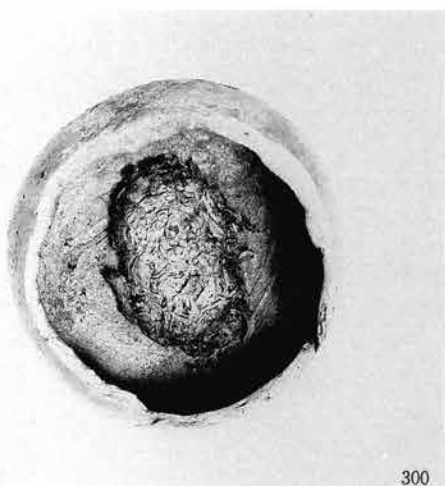
297



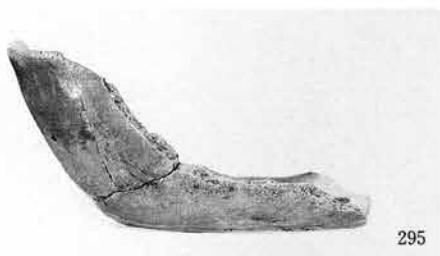
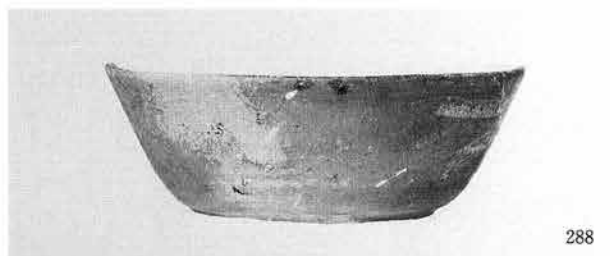
298



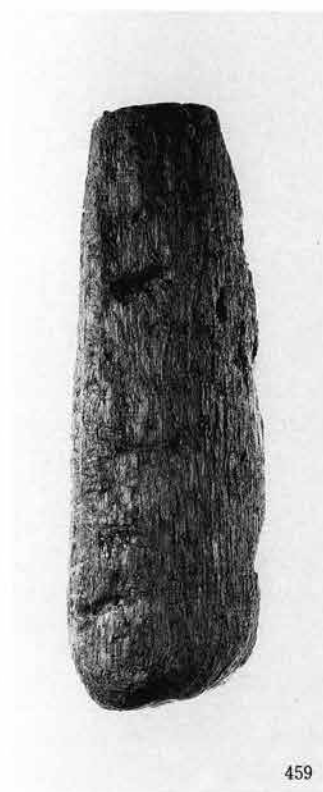
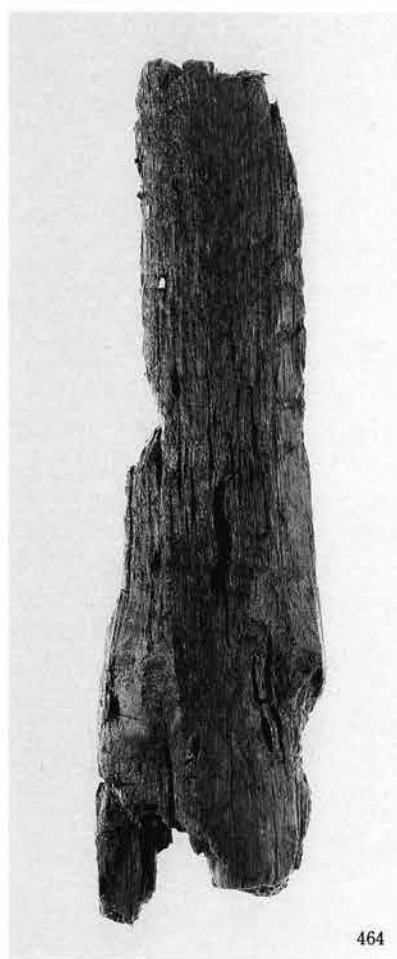
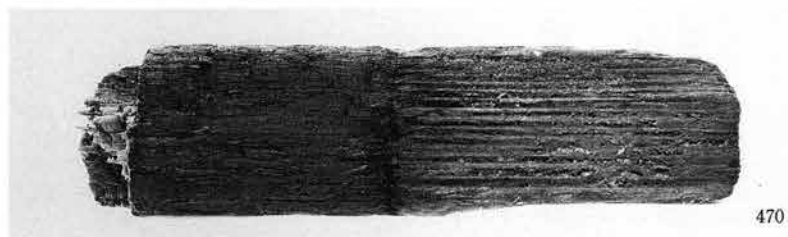
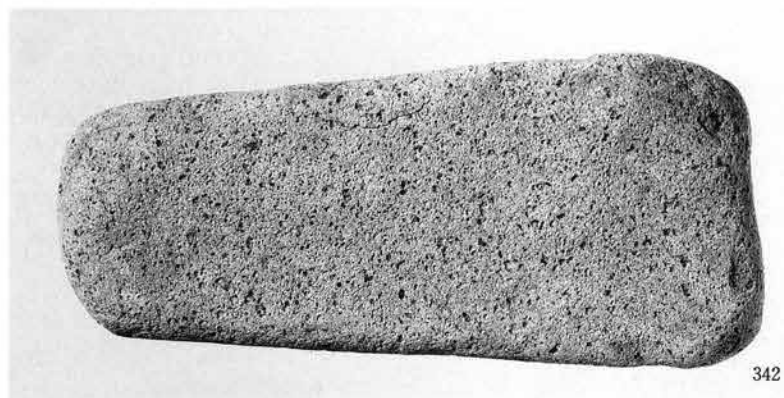
300

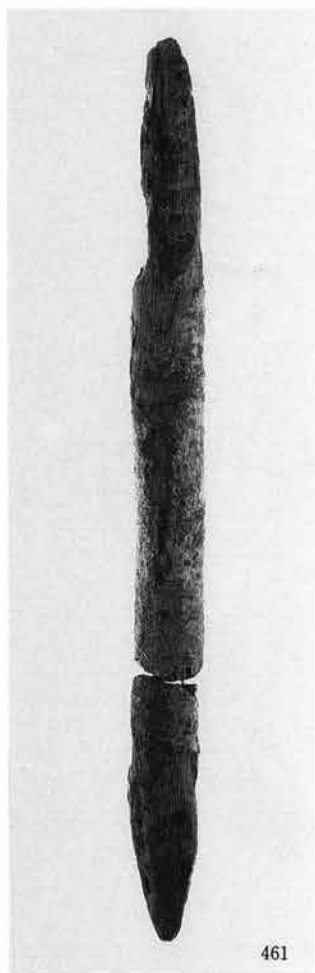


300



1区16号沟跡出土遺物⑨





461



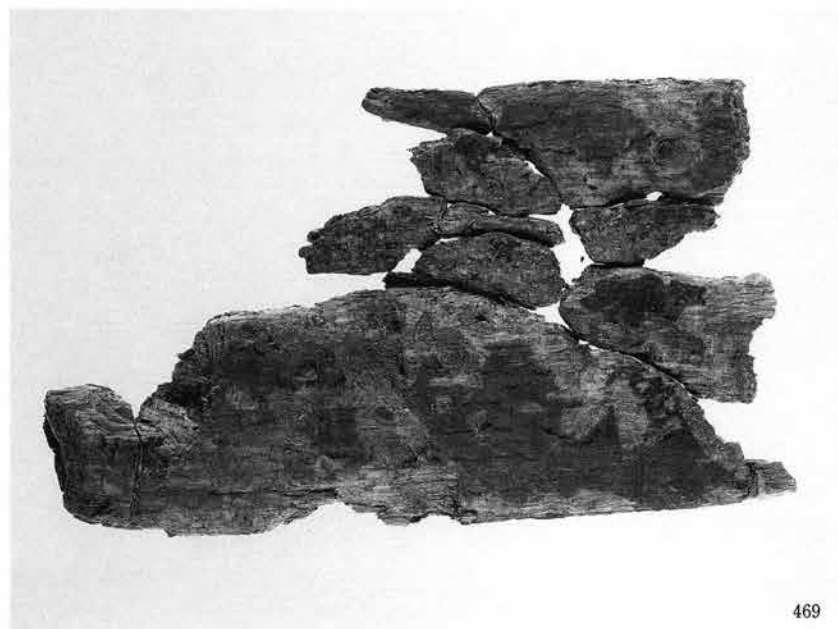
462



465



183



469



174

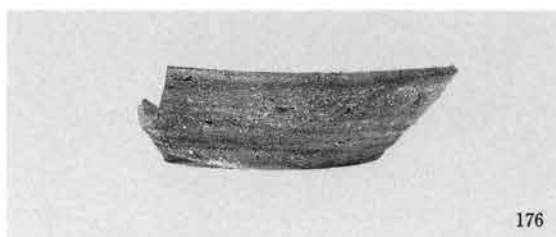
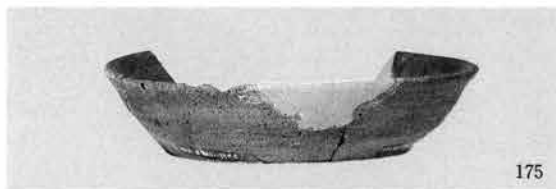
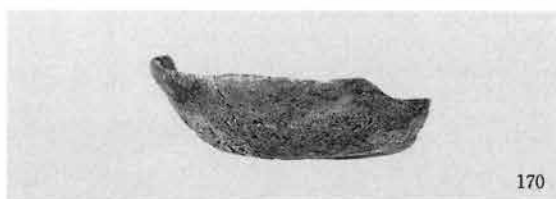
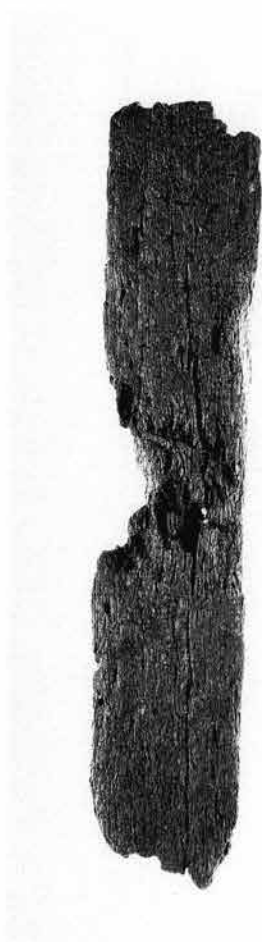
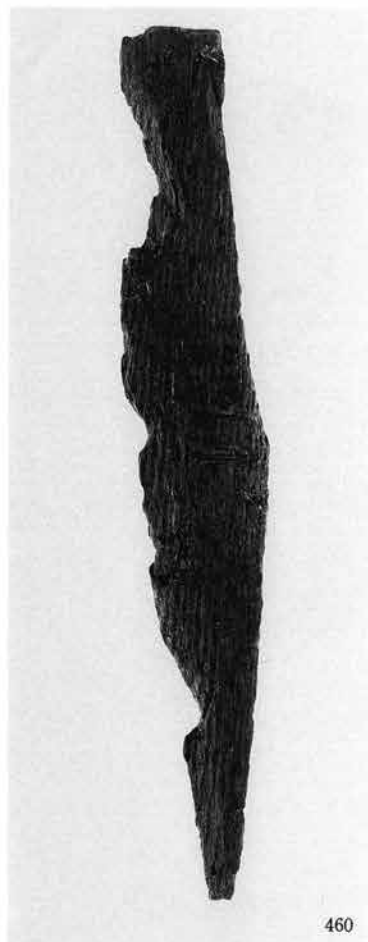


182

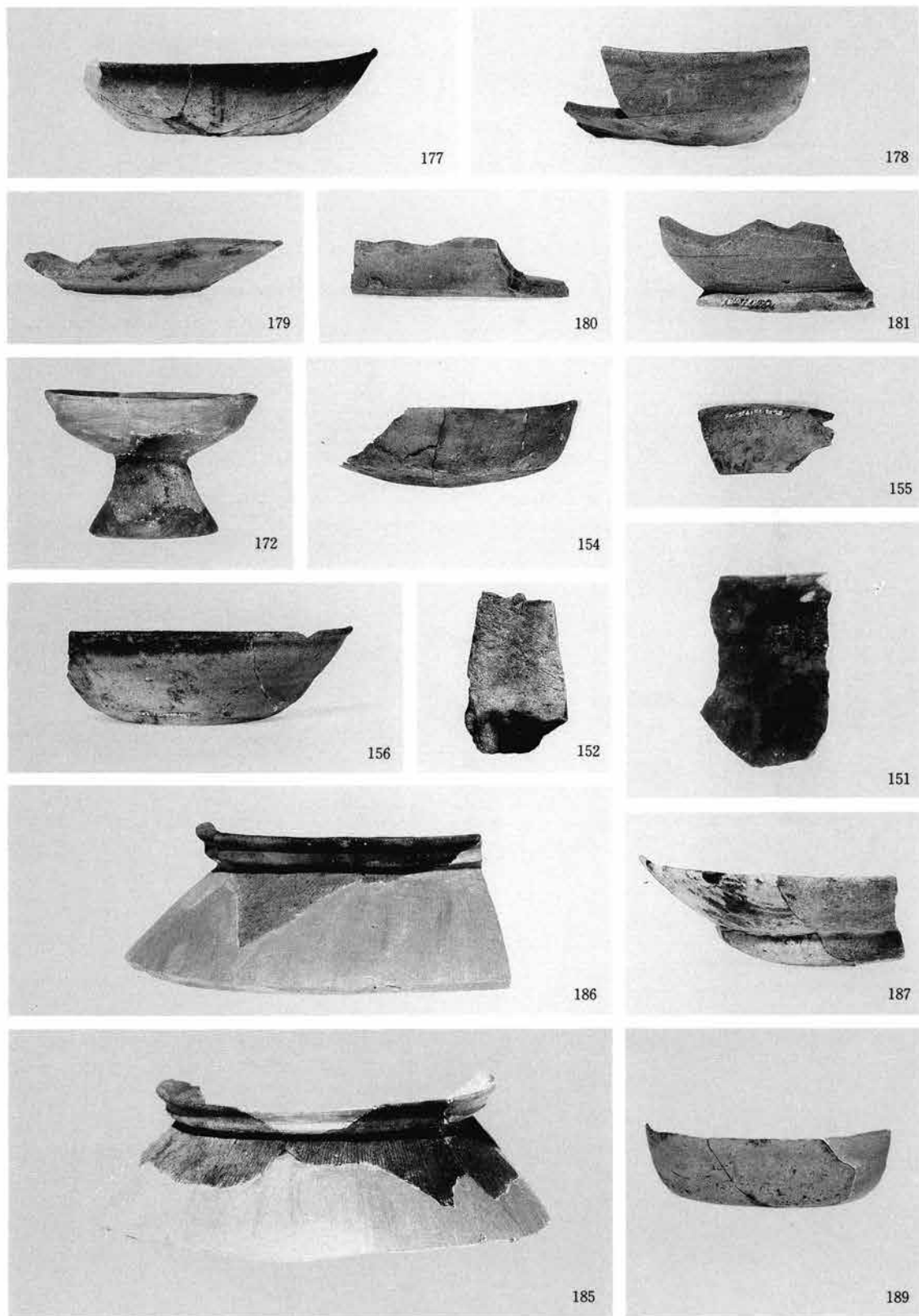


184

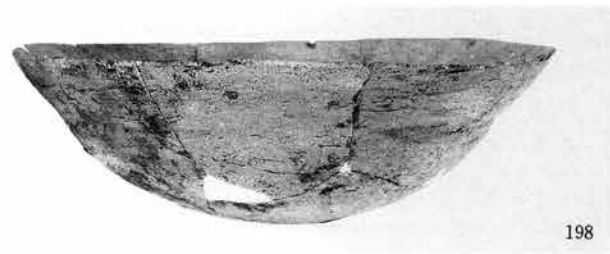
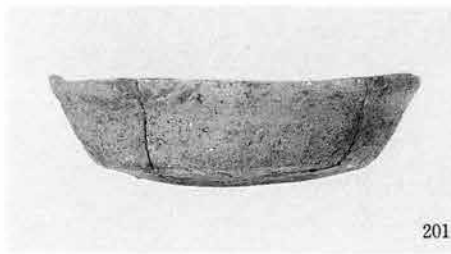
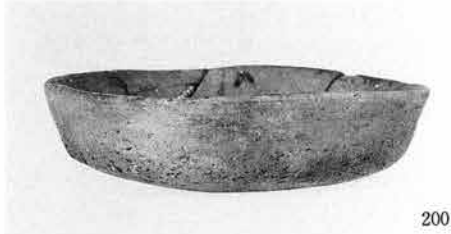
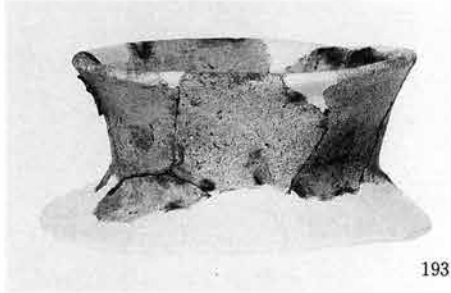
1区16号溝跡出土遺物①、1区18号溝跡出土遺物①



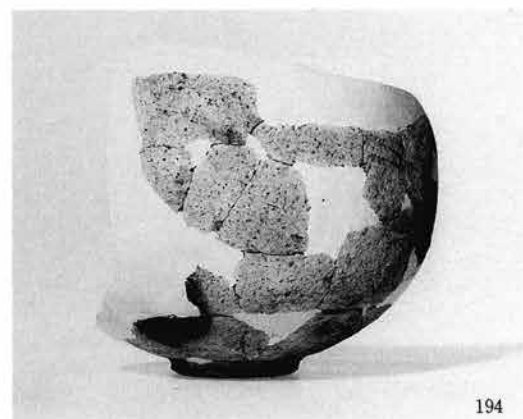
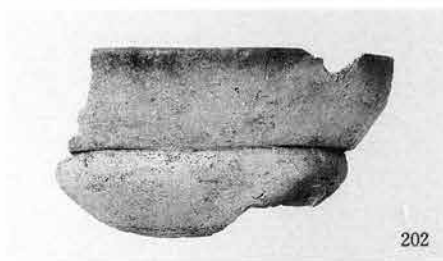
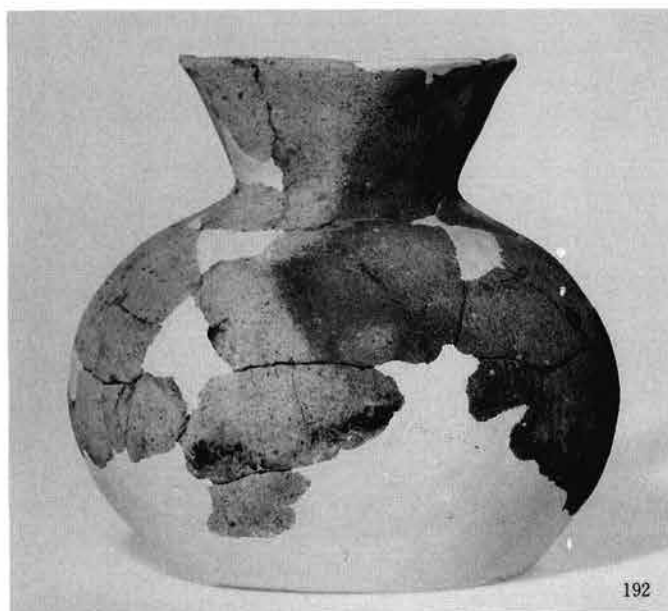
1区16号沟迹出土遗物①、1区18号沟迹出土遗物②



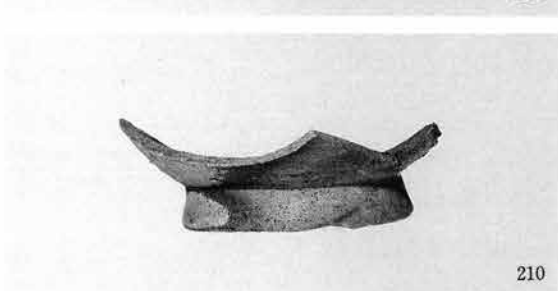
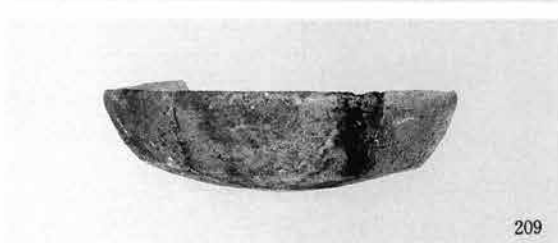
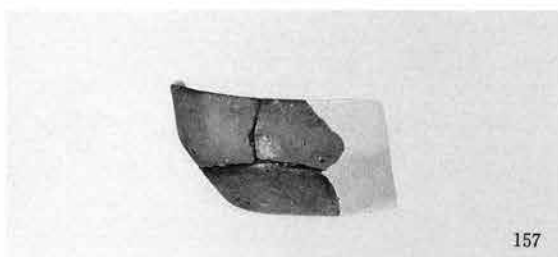
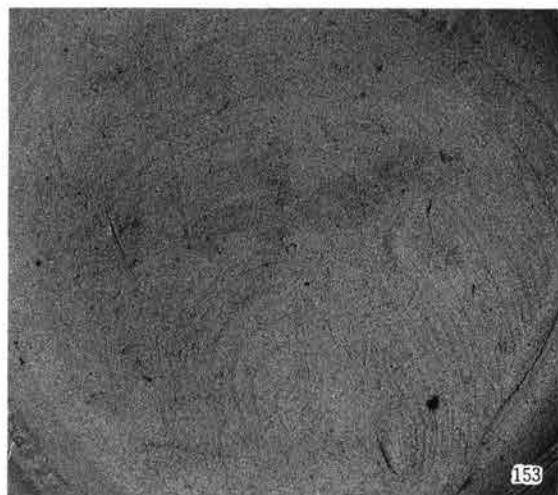
1区18号沟跡出土遺物③、1区19・21・22号沟跡出土遺物

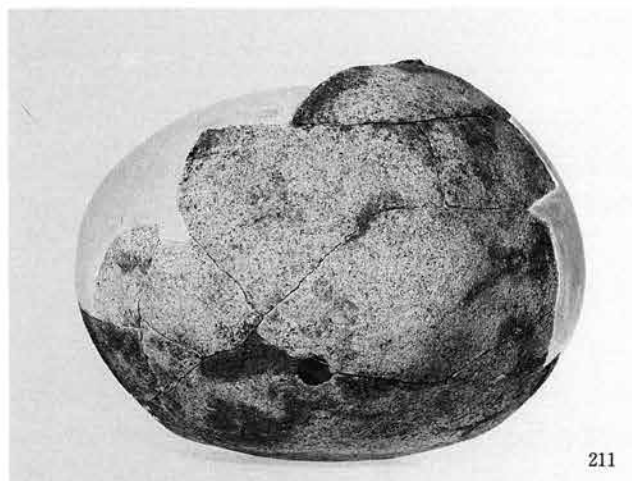




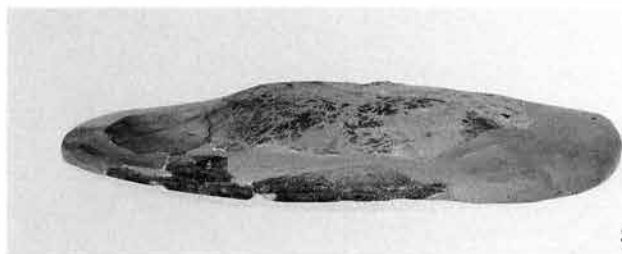


1区29号溝跡出土遺物

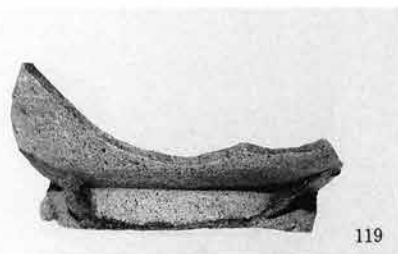




1区38号、2区2·15·20·22·23·31号沟跡出土遺物



344



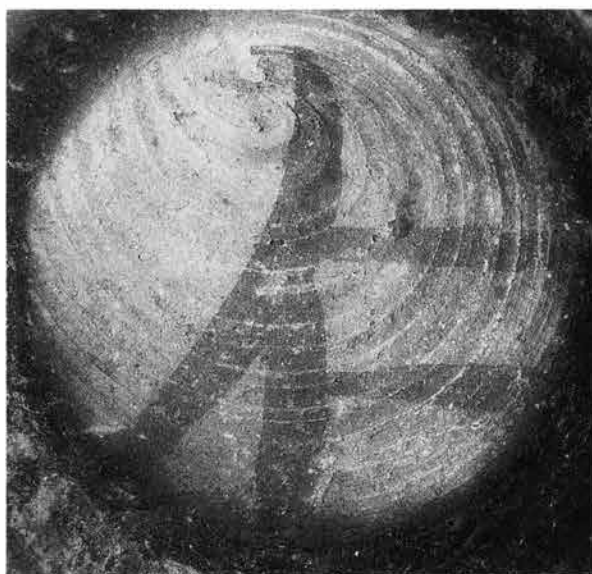
119



343



120



122



123



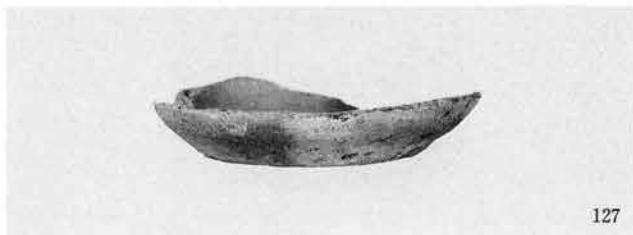
124



125

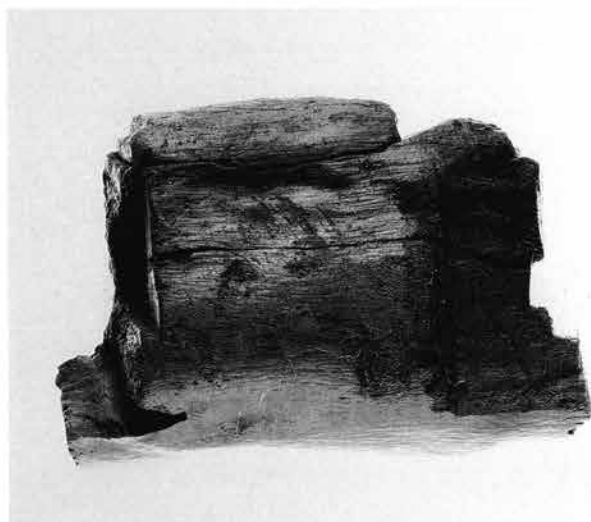


126



127

3区2号溝跡、1区1・2号井戸跡出土遺物



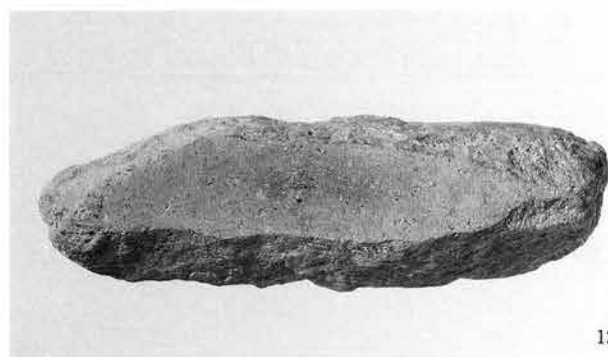
439



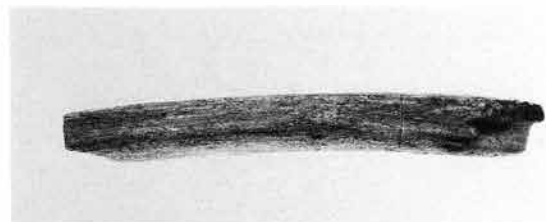
440



440



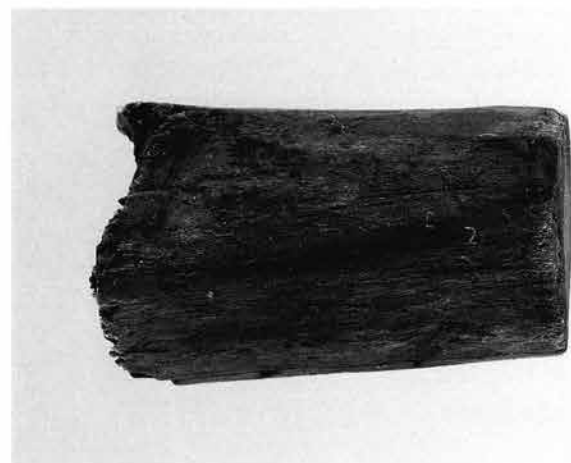
128



443



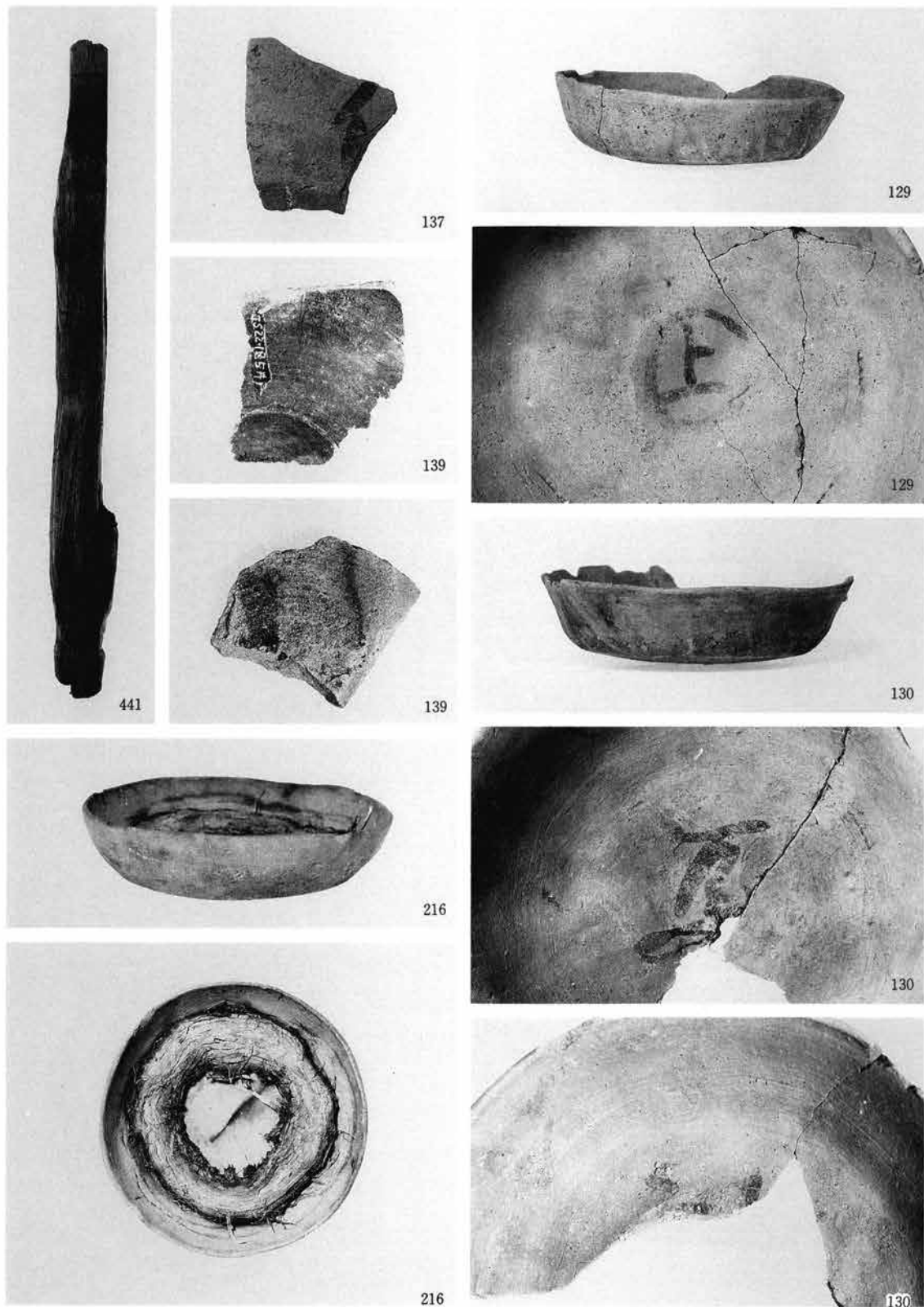
131



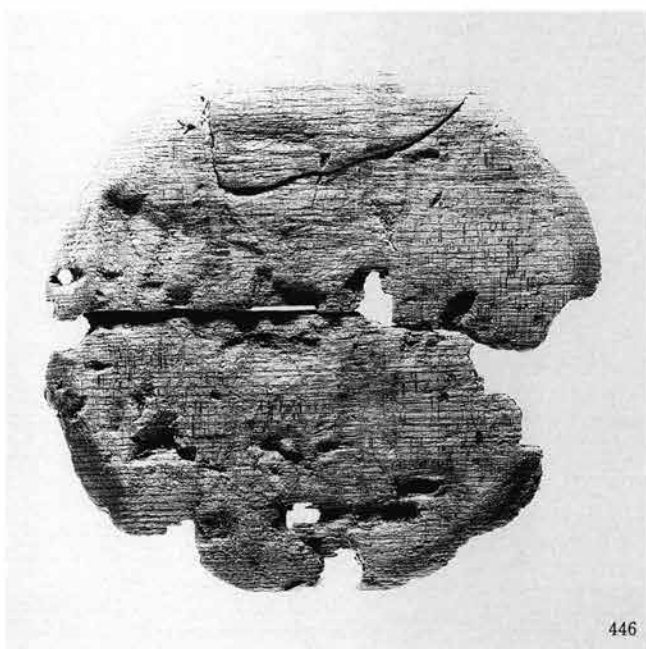
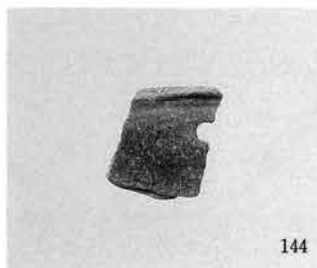
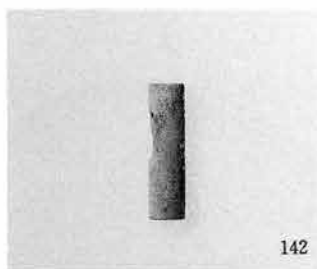
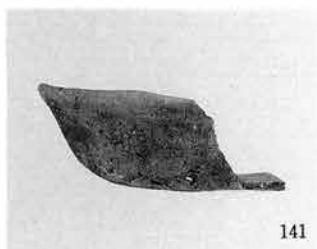
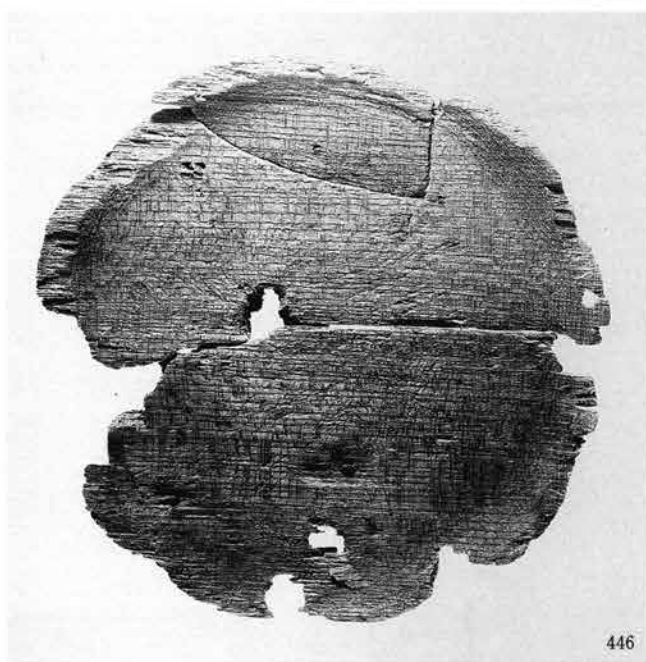
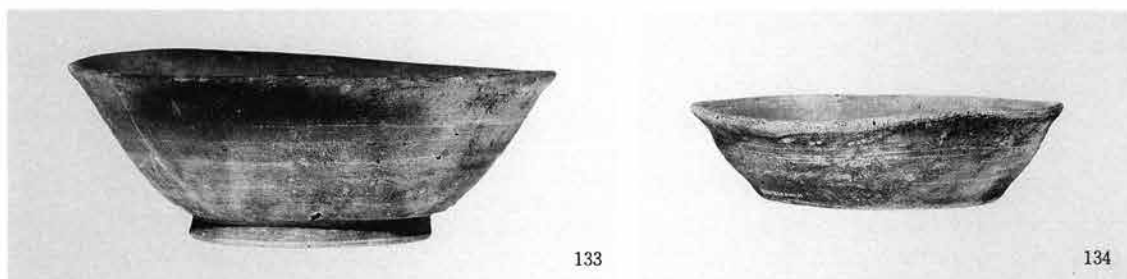
442



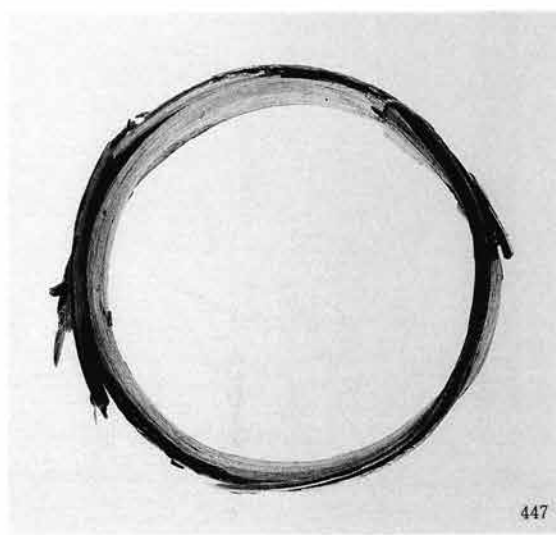
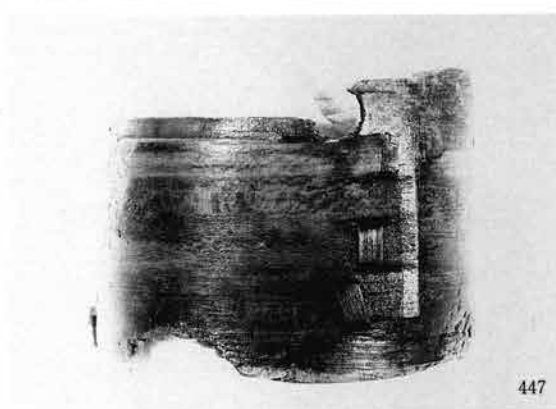
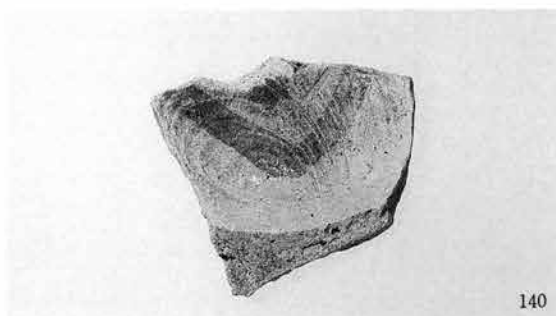
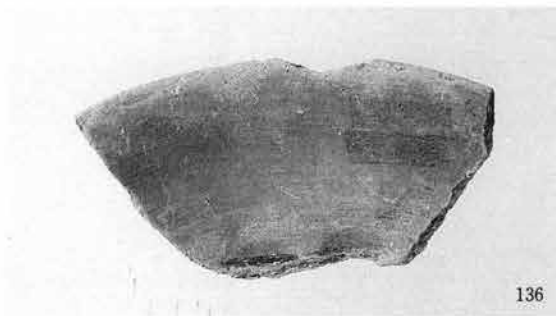
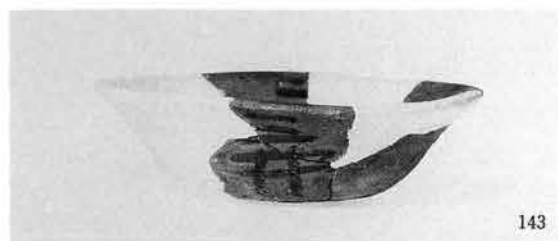
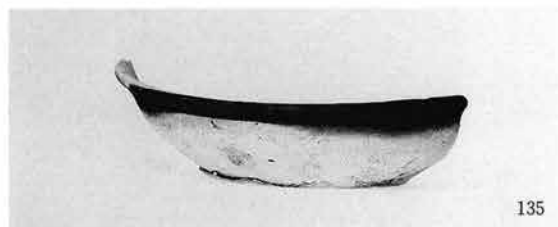
132



1区4・5号井戸跡出土遺物

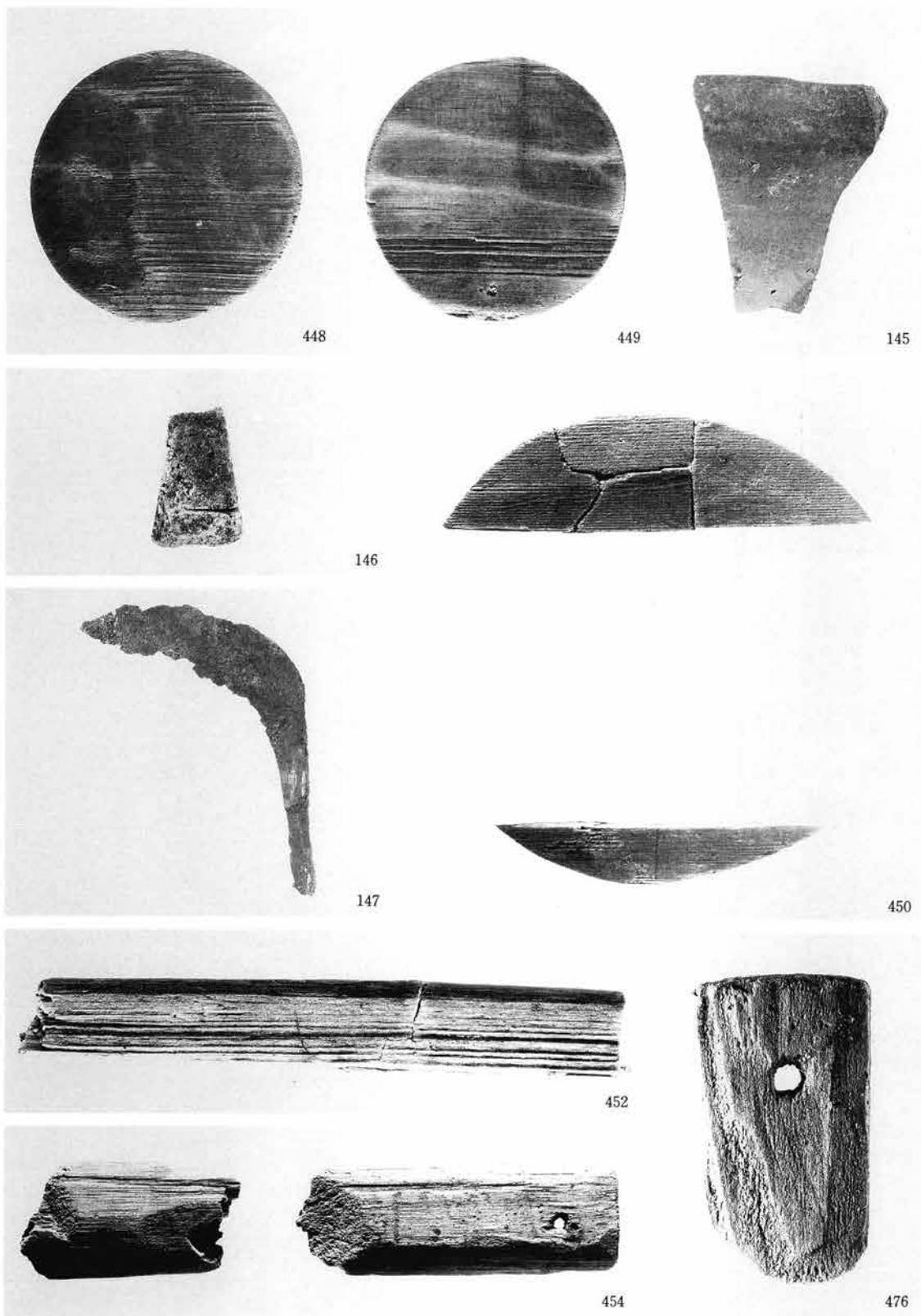


1区5号、2区3号井戸跡出土遺物

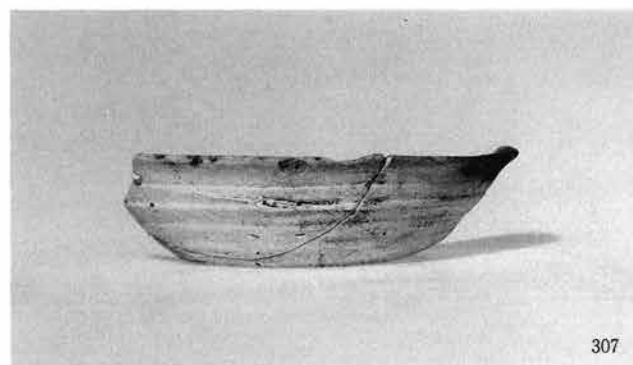
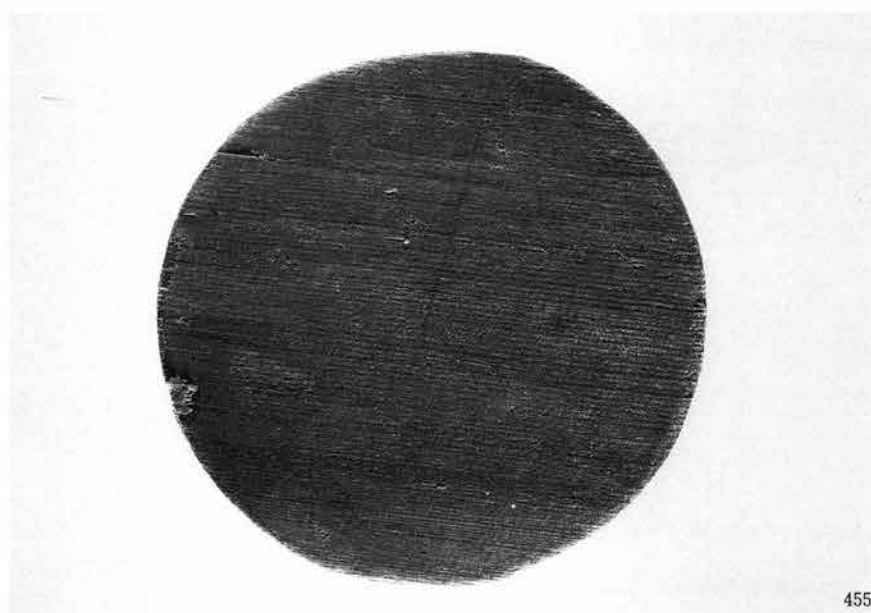
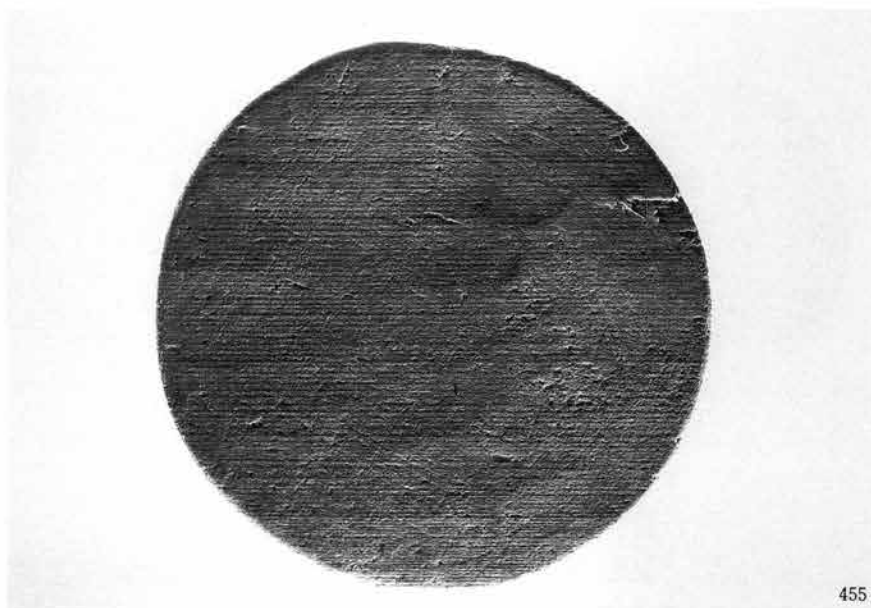
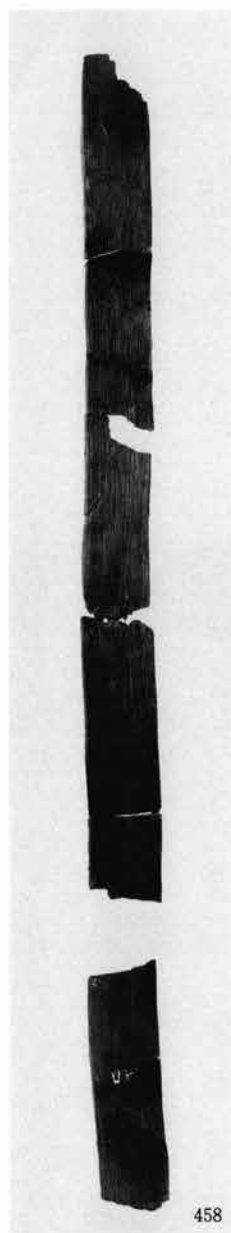


1区5号、2区1・3号井戸跡出土遺物

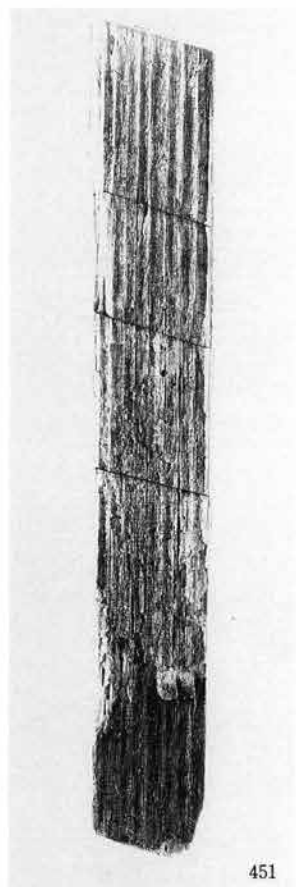




2区3・7号井戸跡出土遺物



2区7・9号井戸跡、1区18・21・25号土坑出土遺物



451



453



456



474



302



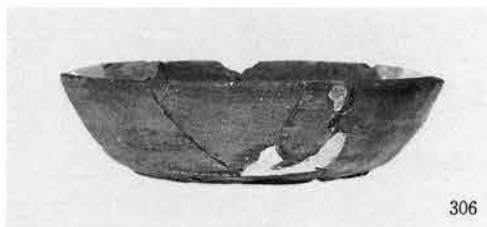
302



305



306



306



475

2区7号井戸跡、1区2・15・18号土坑出土遺物



303



304



326



323



324



325



327



328



329



334



330



331



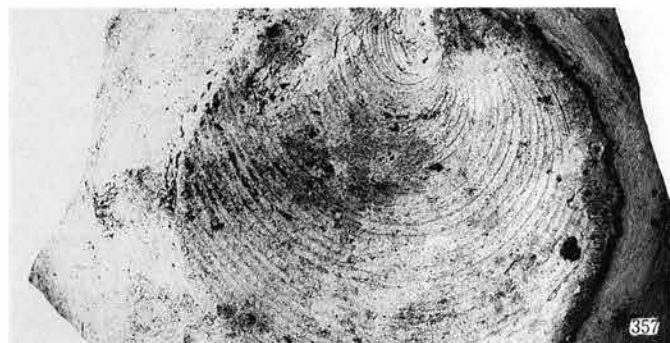
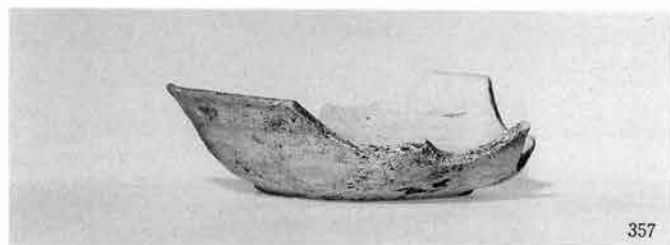
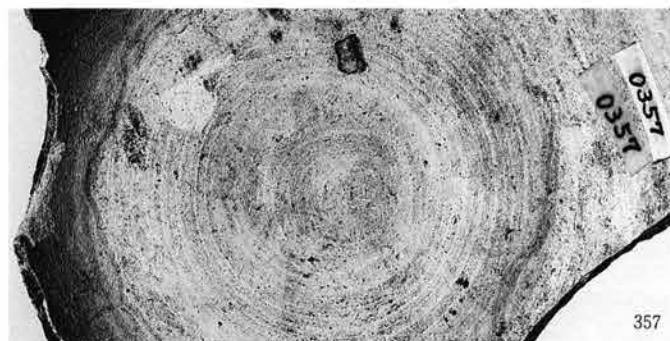
332



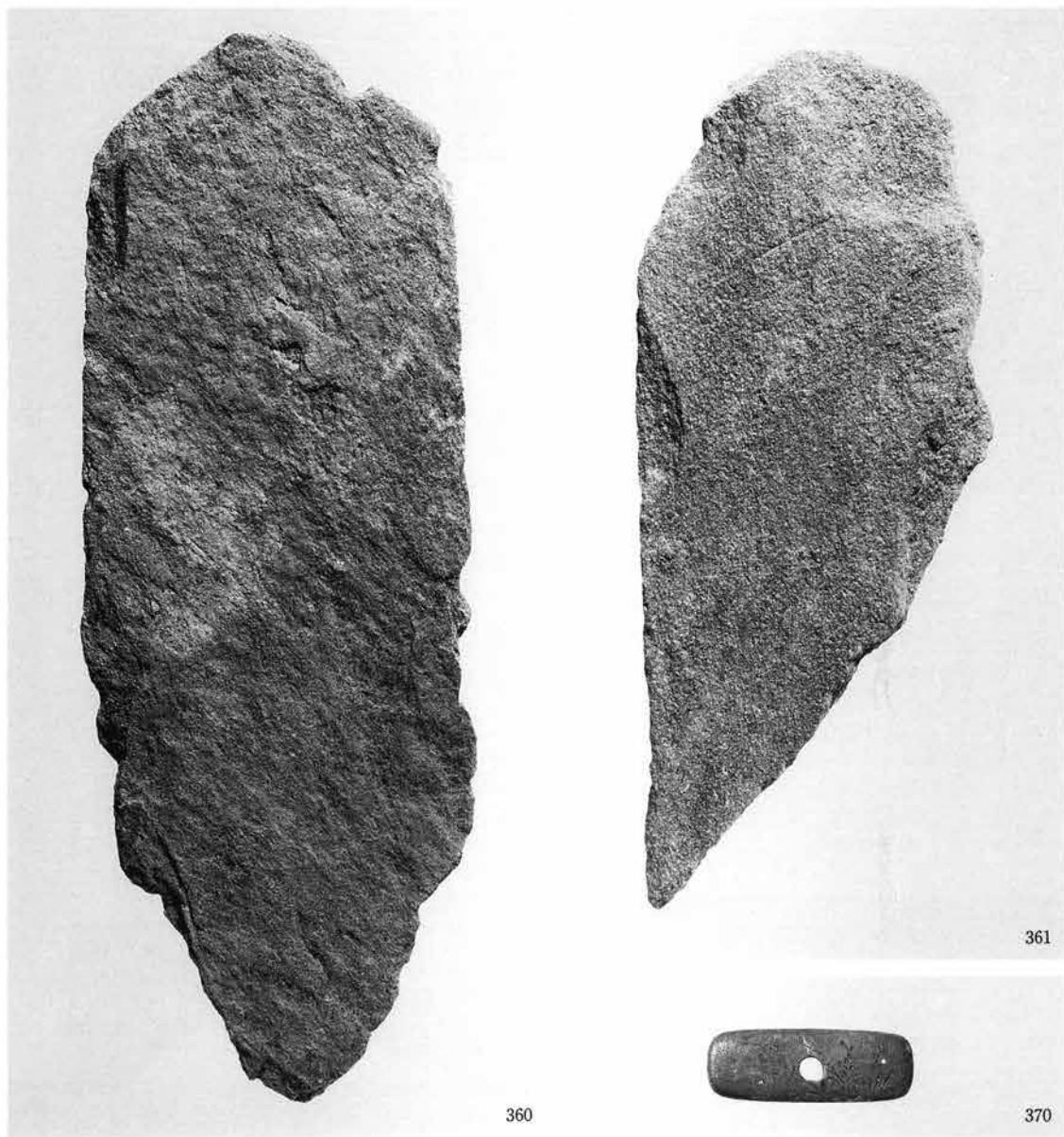
314



315



1区32号、2区3号土坑出土遺物、表土出土遺物

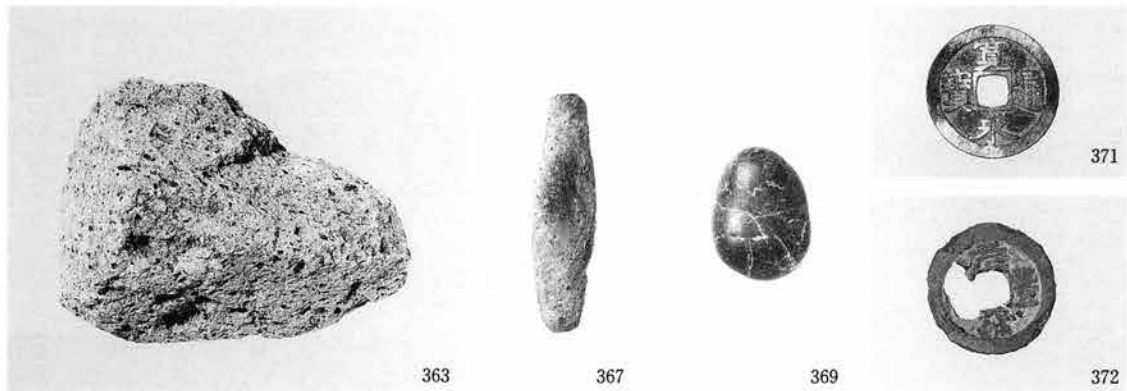


361

360



370



363

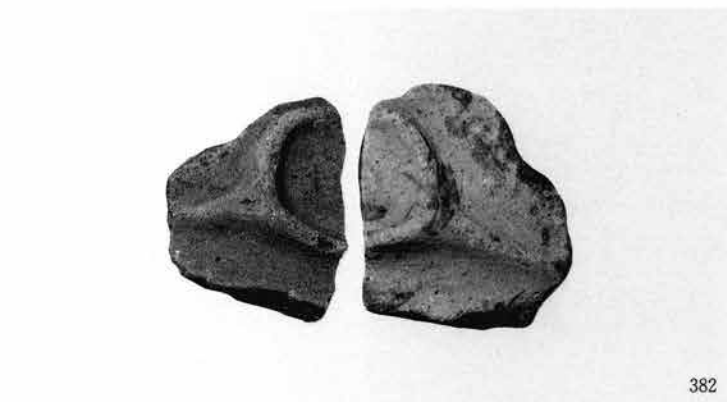
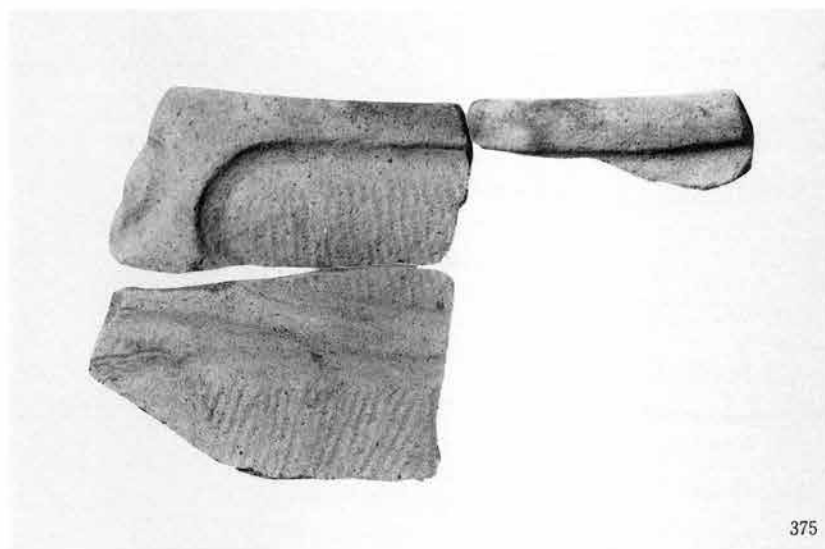
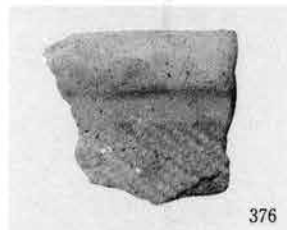
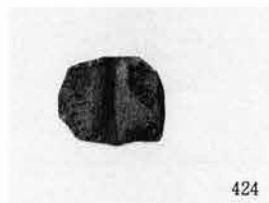
367

369

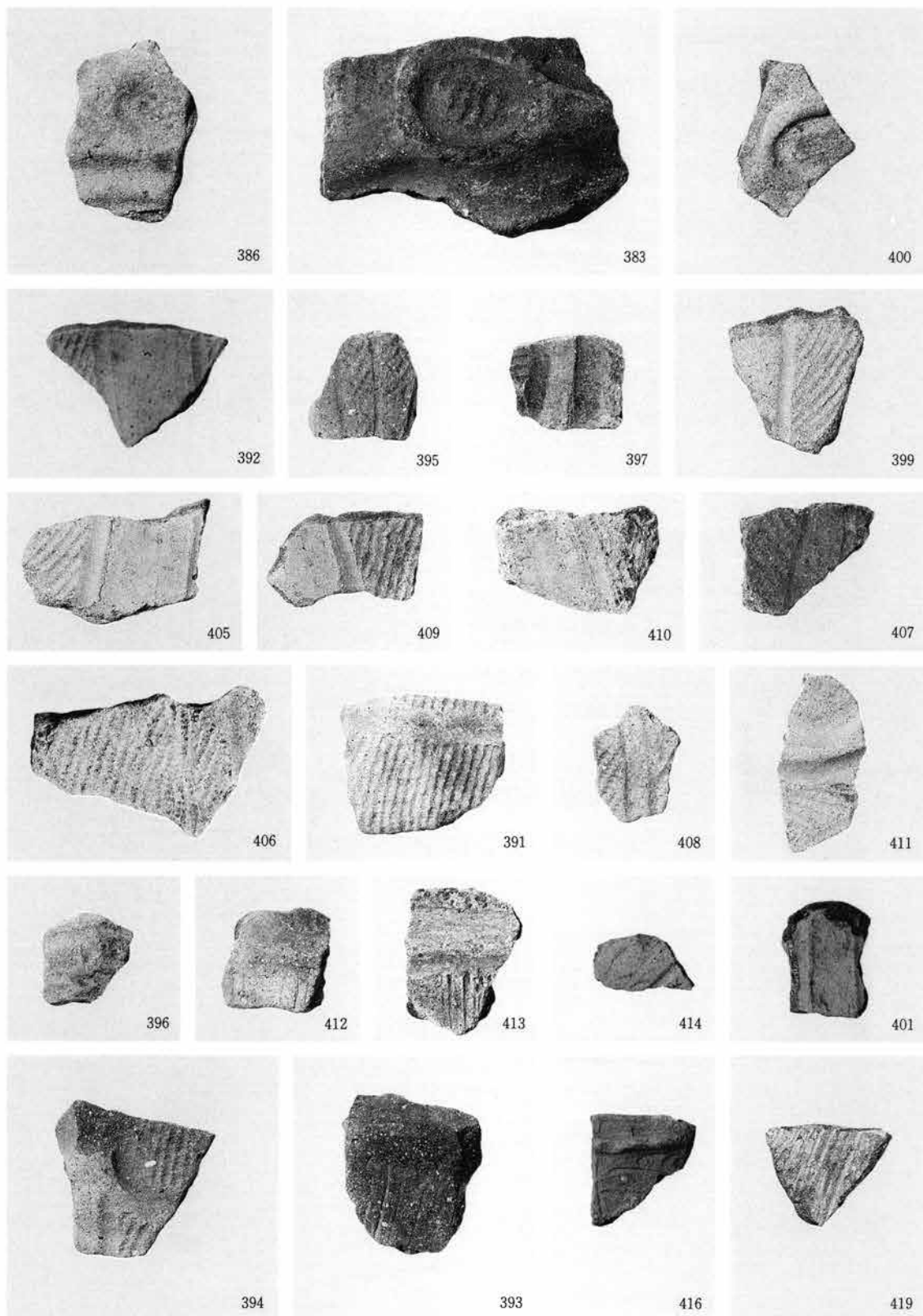
371

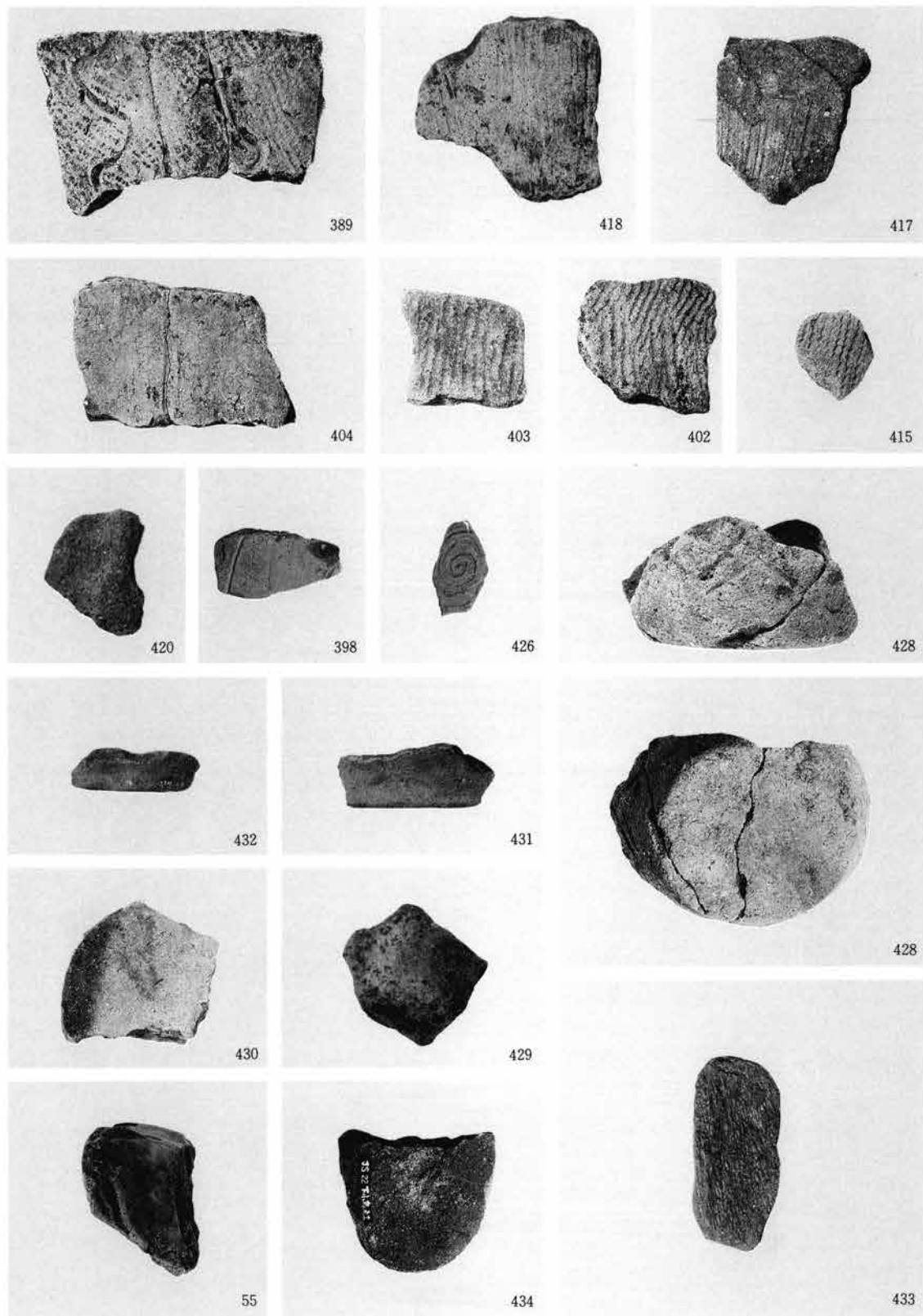
372

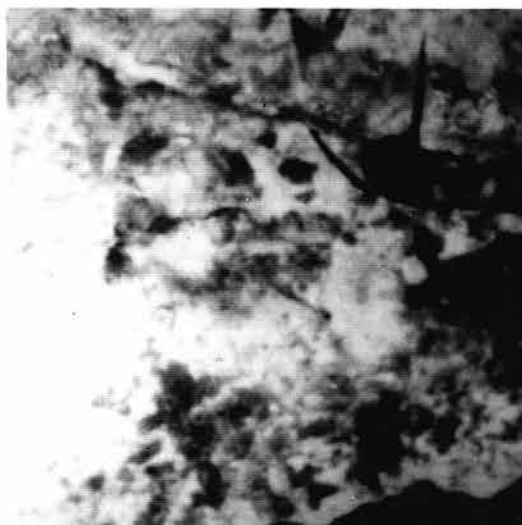
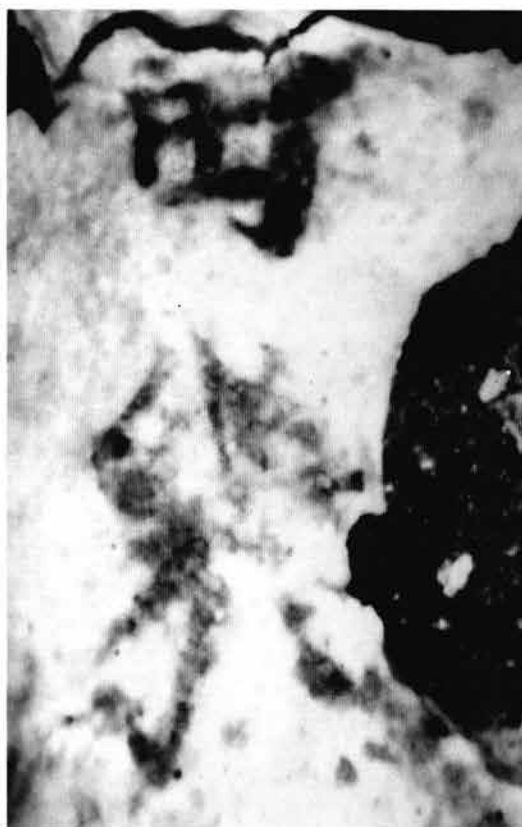
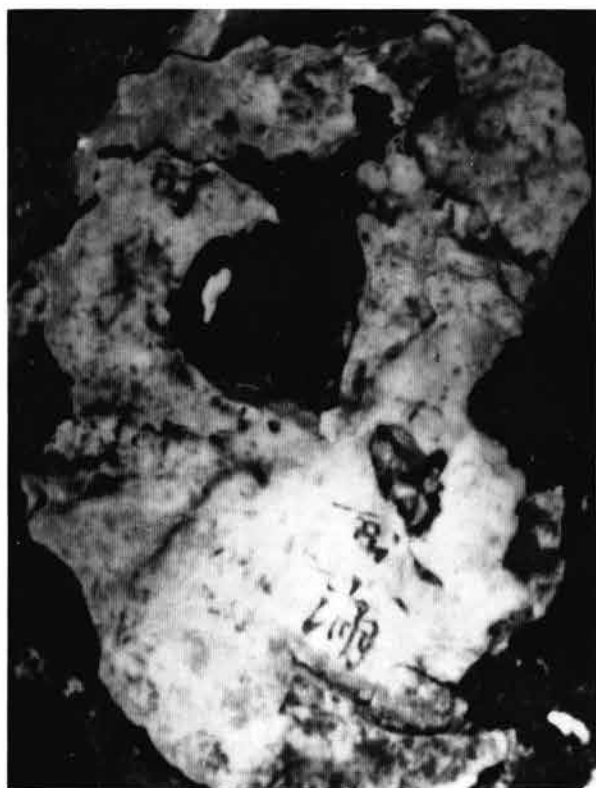
表土出土遺物



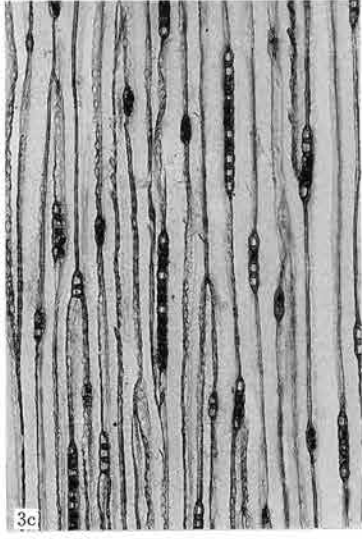
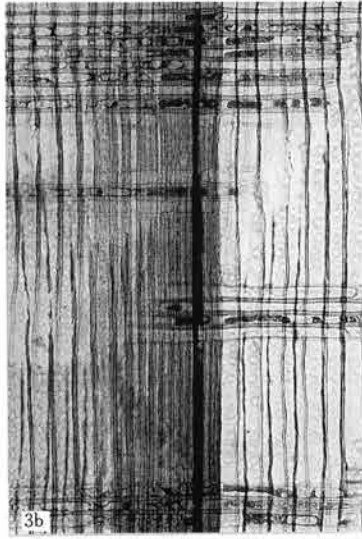
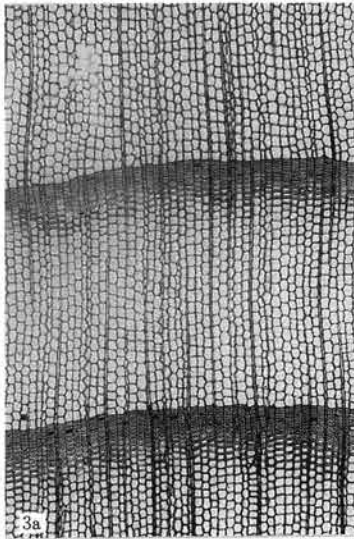
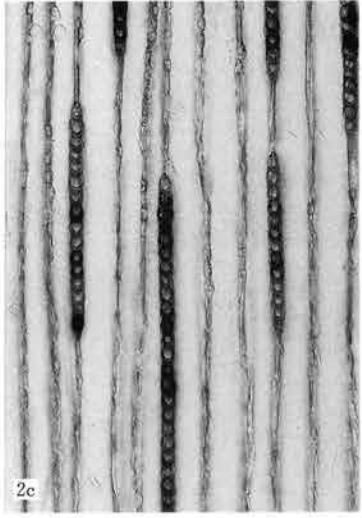
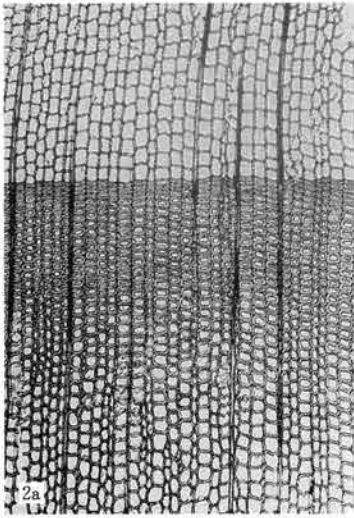
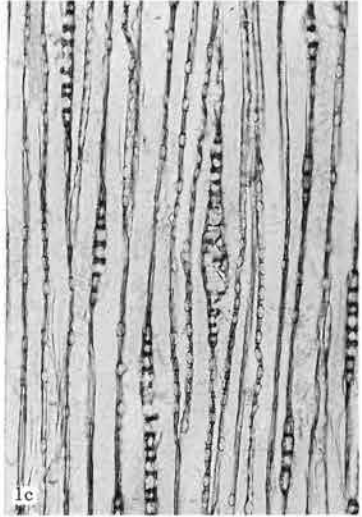
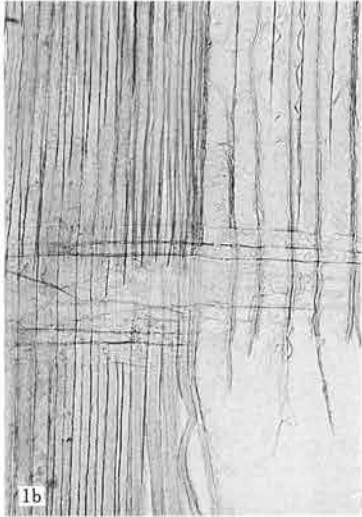
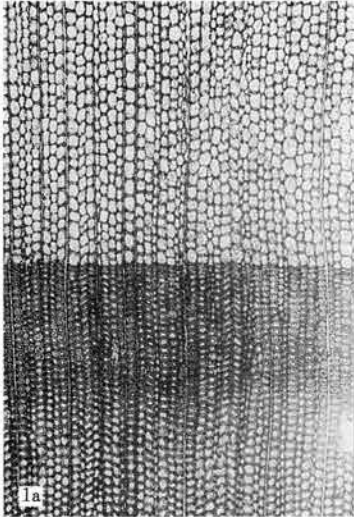




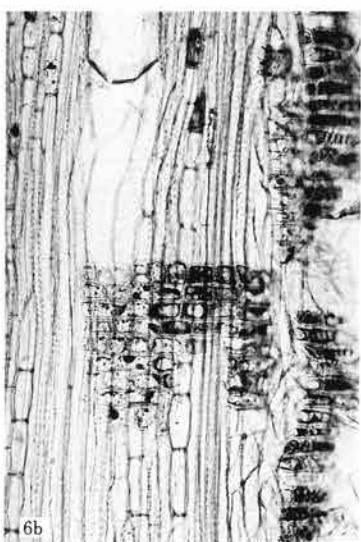
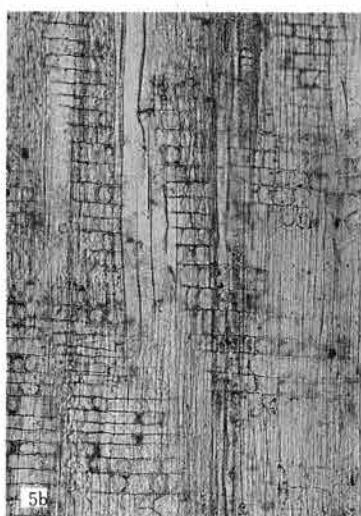
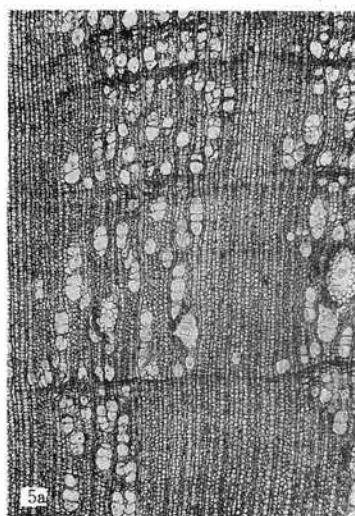
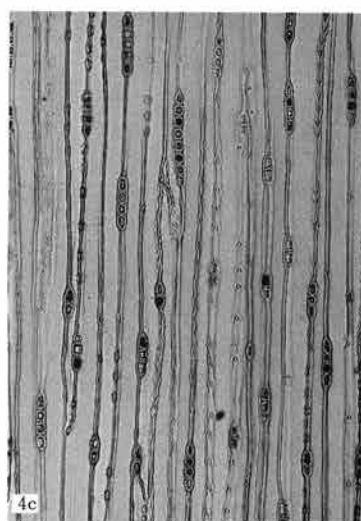
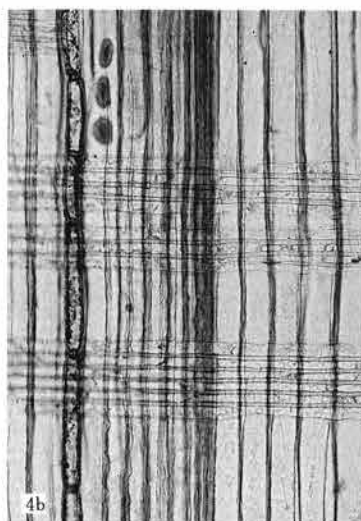
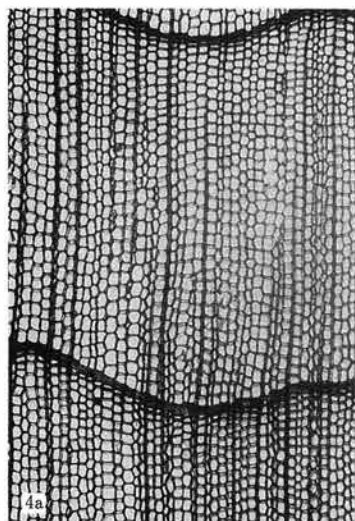




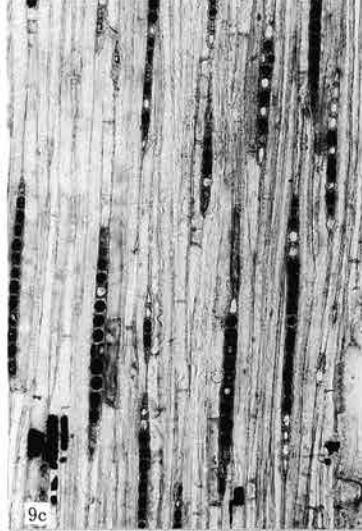
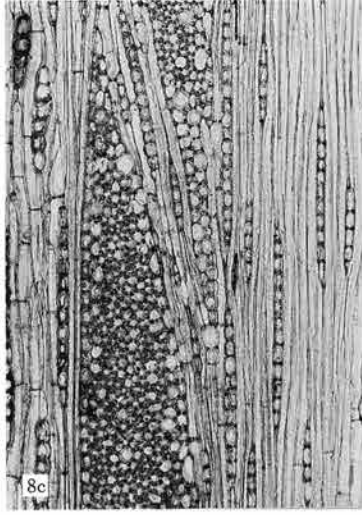
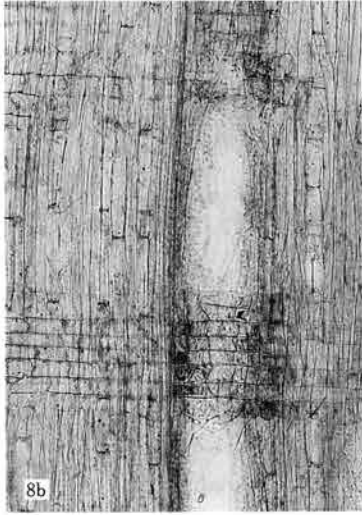
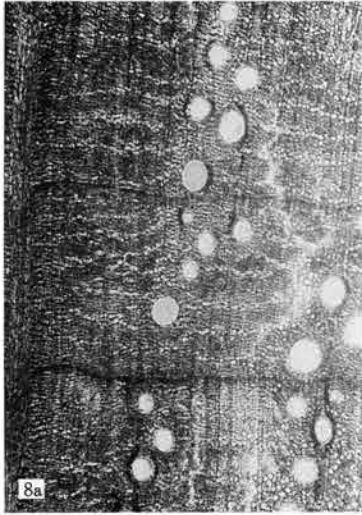
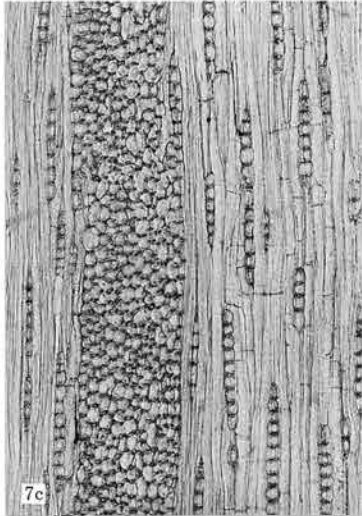
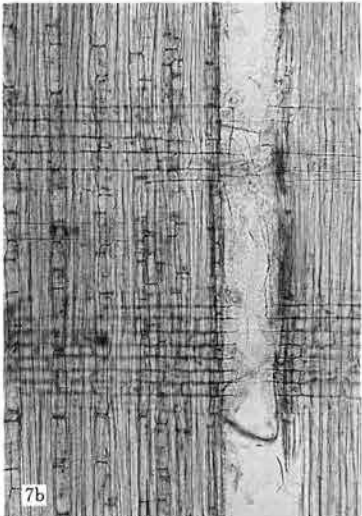
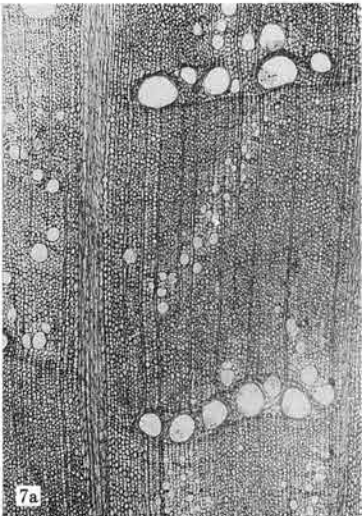
漆紙文書赤外線毛ニタ-写真



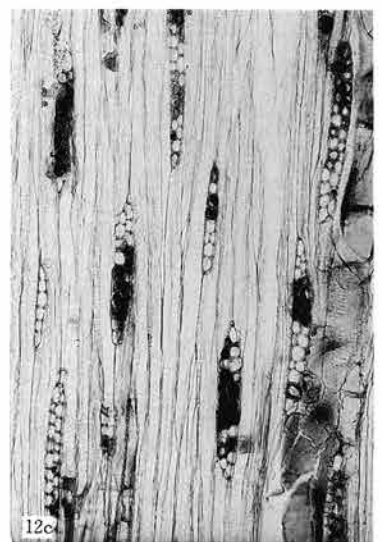
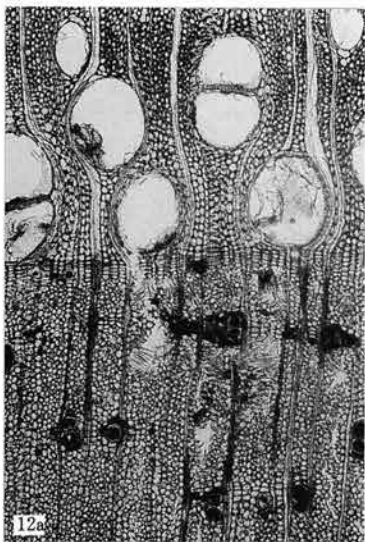
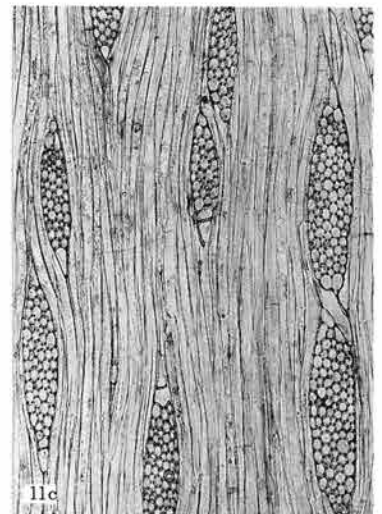
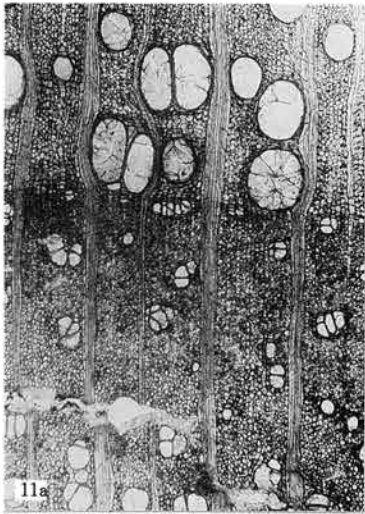
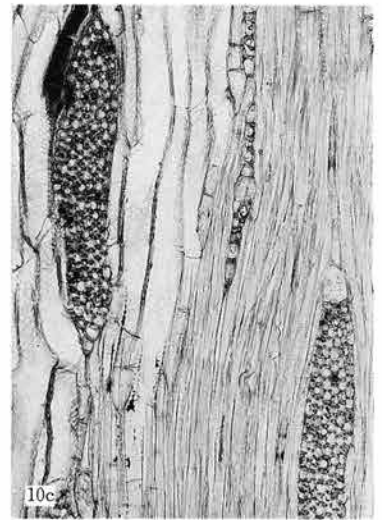
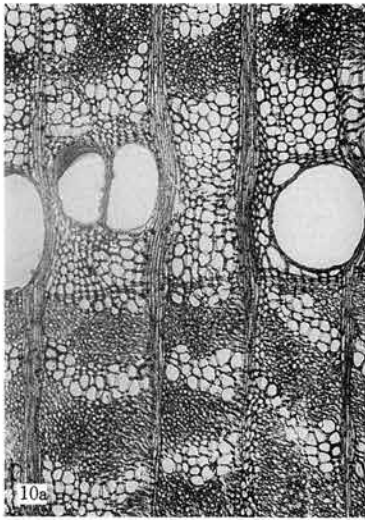
木製品顕微鏡写真①



木製品顕微鏡写真②



木製品顕微鏡写真③



木製品顕微鏡写真④





財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
発掘調査報告第119集

# 下小鳥遺跡

—上越新幹線関係埋蔵  
文化財発掘調査報告書第16集—

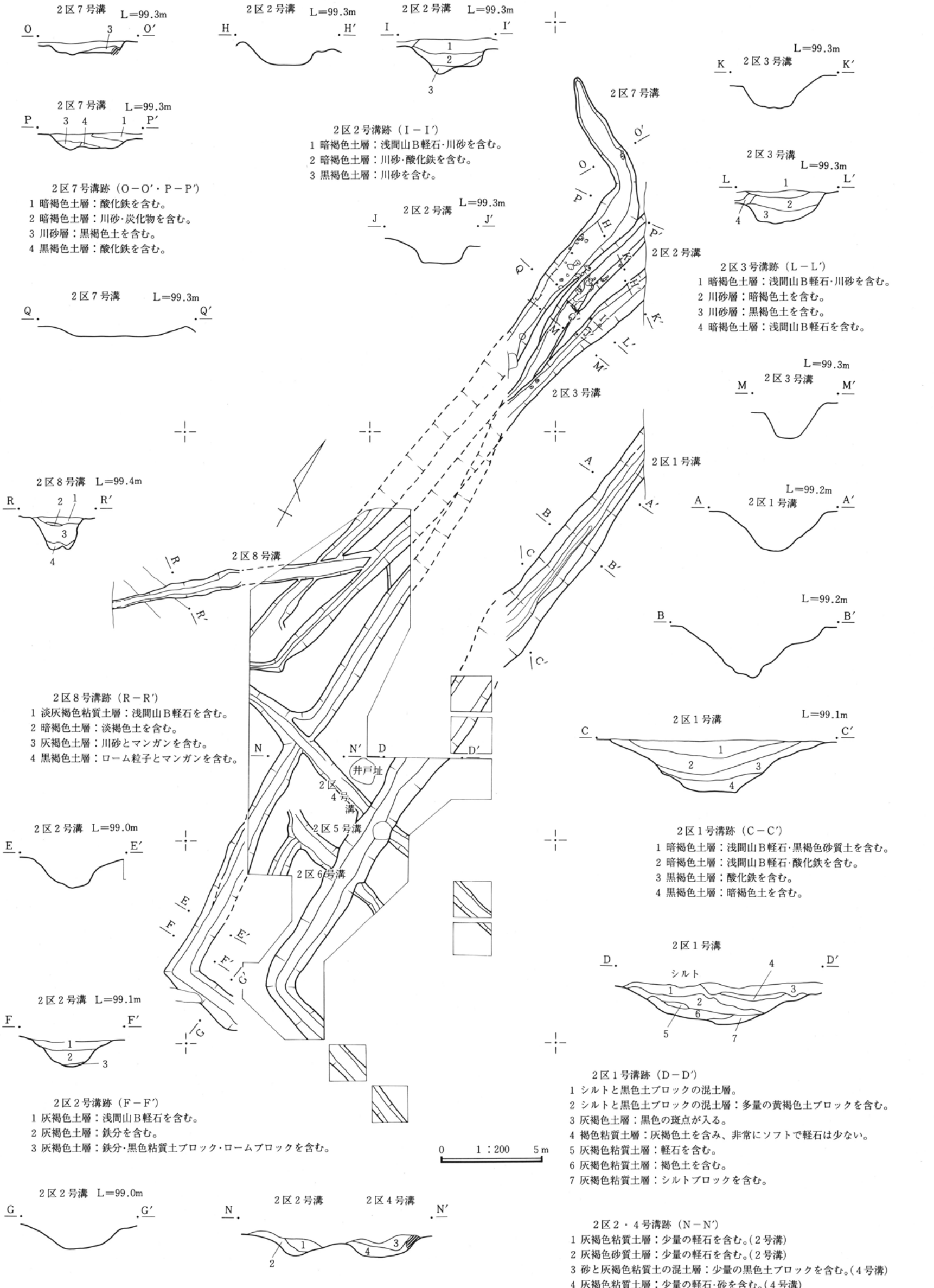
印刷 平成3年3月15日  
発行 平成3年3月20日

編集 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団  
勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2  
電話 (0279) 52-2511 (代表)  
発行 群馬県考古資料普及会  
勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2  
電話 (0279) 52-2511 (代表)  
印刷 株式会社 前橋印刷所

群埋文報告第119集, 上越新幹線関係第16集 『下小鳥遺跡』 正誤表

19910329

頁	誤	正
例言 8	飯島静雄氏	飯島静男氏
6 頁上から 8 行目	東端は烏川であり、西端は広瀬川であるが、	西端は烏川であり、東端は広瀬川であるが、



2区7号溝 L=99.3m

2区2号溝 L=99.3m

2区2号溝 L=99.3m

L=99.3m

2区3号溝 K-K'

2区3号溝 L=99.3m

L=99.3m

2区7号溝 L=99.3m

2区2号溝跡 (I-I')

- 1 暗褐色土層：浅間山B軽石・川砂を含む。
- 2 暗褐色土層：川砂・酸化鉄を含む。
- 3 黒褐色土層：川砂を含む。

2区2号溝 L=99.3m

2区3号溝跡 (L-L')

- 1 暗褐色土層：浅間山B軽石・川砂を含む。
- 2 川砂層：暗褐色土を含む。
- 3 川砂層：黒褐色土を含む。
- 4 暗褐色土層：浅間山B軽石を含む。

2区7号溝跡 (O-O'・P-P')

- 1 暗褐色土層：酸化鉄を含む。
- 2 暗褐色土層：川砂・炭化物を含む。
- 3 川砂層：黒褐色土を含む。
- 4 黒褐色土層：酸化鉄を含む。

2区7号溝 L=99.3m

L=99.3m

2区3号溝 M-M'

2区8号溝 L=99.4m

2区8号溝跡 (R-R')

- 1 淡灰褐色粘質土層：浅間山B軽石を含む。
- 2 暗褐色土層：淡褐色土を含む。
- 3 灰褐色土層：川砂とマンガンを含む。
- 4 黒褐色土層：ローム粒子とマンガンを含む。

L=99.2m

2区1号溝 A-A'

L=99.2m

B-B'

L=99.1m

2区1号溝 C-C'

2区1号溝跡 (C-C')

- 1 暗褐色土層：浅間山B軽石・黒褐色砂質土を含む。
- 2 暗褐色土層：浅間山B軽石・酸化鉄を含む。
- 3 黒褐色土層：酸化鉄を含む。
- 4 黒褐色土層：暗褐色土を含む。

2区1号溝

D-D'

2区1号溝跡 (D-D')

- 1 シルトと黒色土ブロックの混土層。
- 2 シルトと黒色土ブロックの混土層：多量の黄褐色土ブロックを含む。
- 3 灰褐色土層：黒色の斑点が入る。
- 4 褐色粘質土層：灰褐色土を含み、非常にソフトで軽石は少ない。
- 5 灰褐色粘質土層：軽石を含む。
- 6 灰褐色粘質土層：褐色土を含む。
- 7 灰褐色粘質土層：シルトブロックを含む。

2区2号溝 L=99.0m

2区2号溝跡 (F-F')

- 1 灰褐色土層：浅間山B軽石を含む。
- 2 灰褐色土層：鉄分を含む。
- 3 灰褐色土層：鉄分・黒色粘質土ブロック・ロームブロックを含む。

2区2号溝 L=99.1m

0 1 : 200 5m

2区2号溝 L=99.0m

2区2号溝 2区4号溝

2区2・4号溝跡 (N-N')

- 1 灰褐色粘質土層：少量の軽石を含む。(2号溝)
- 2 灰褐色砂質土層：少量の軽石を含む。(2号溝)
- 3 砂と灰褐色粘質土の混土層：少量の黒色土ブロックを含む。(4号溝)
- 4 灰褐色粘質土層：少量の軽石・砂を含む。(4号溝)

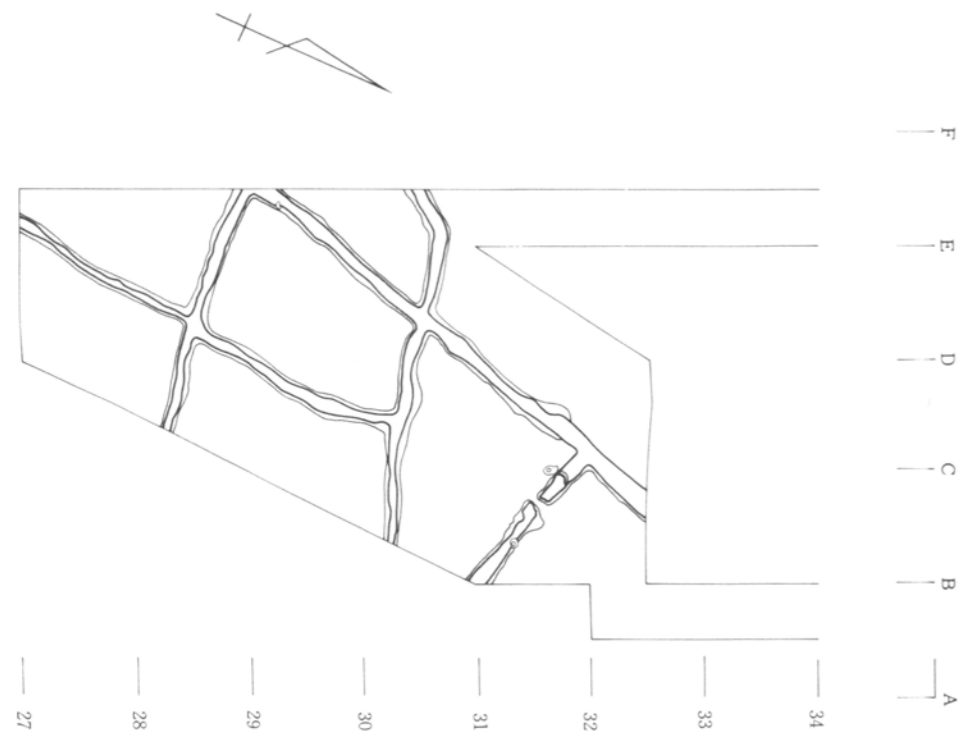
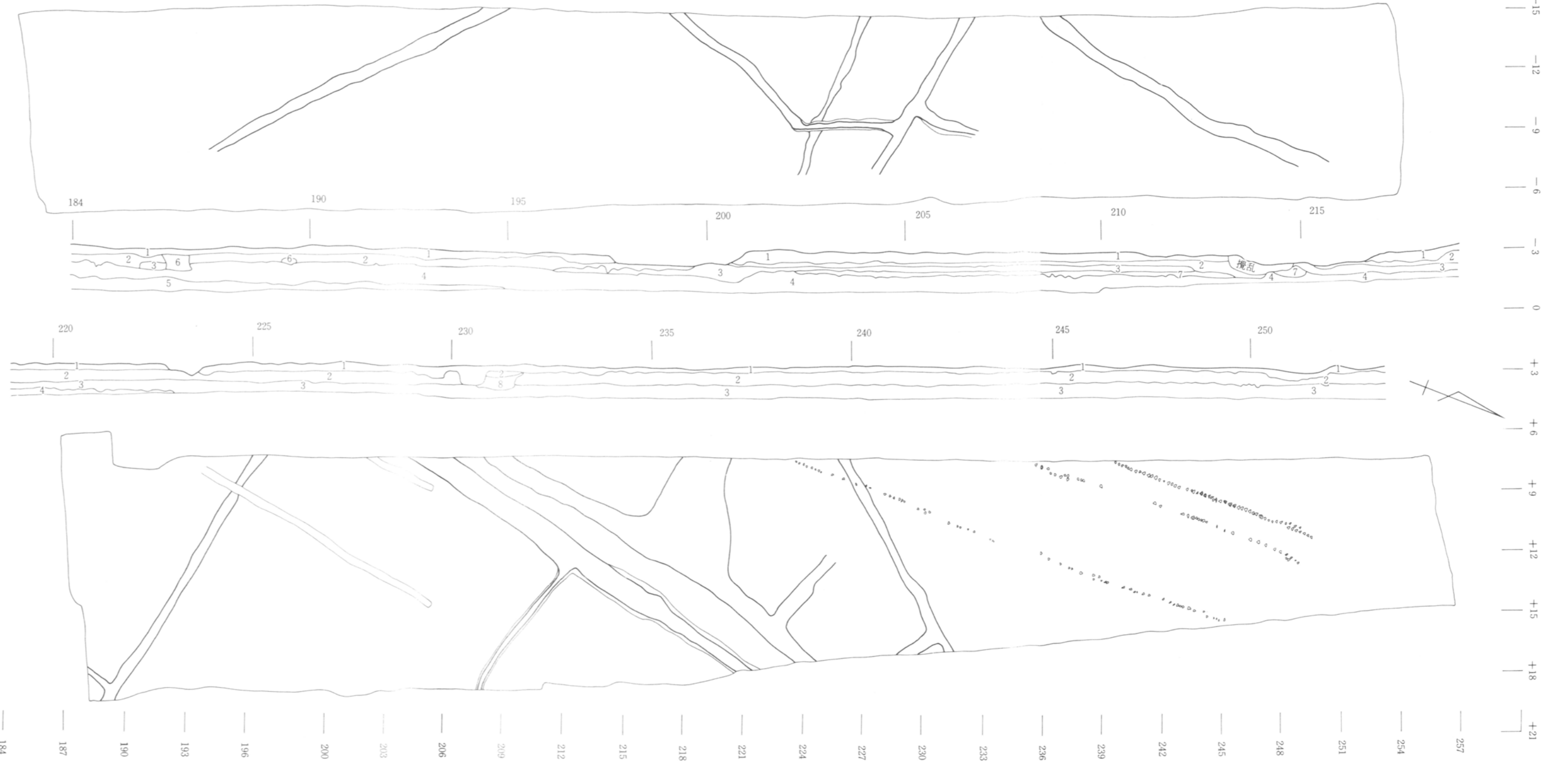
# 下小鳥遺跡 2区1・2・3・4・5・6・7号溝跡

0 1 : 60 1.5m

# 下小鳥遺跡水田跡全体図

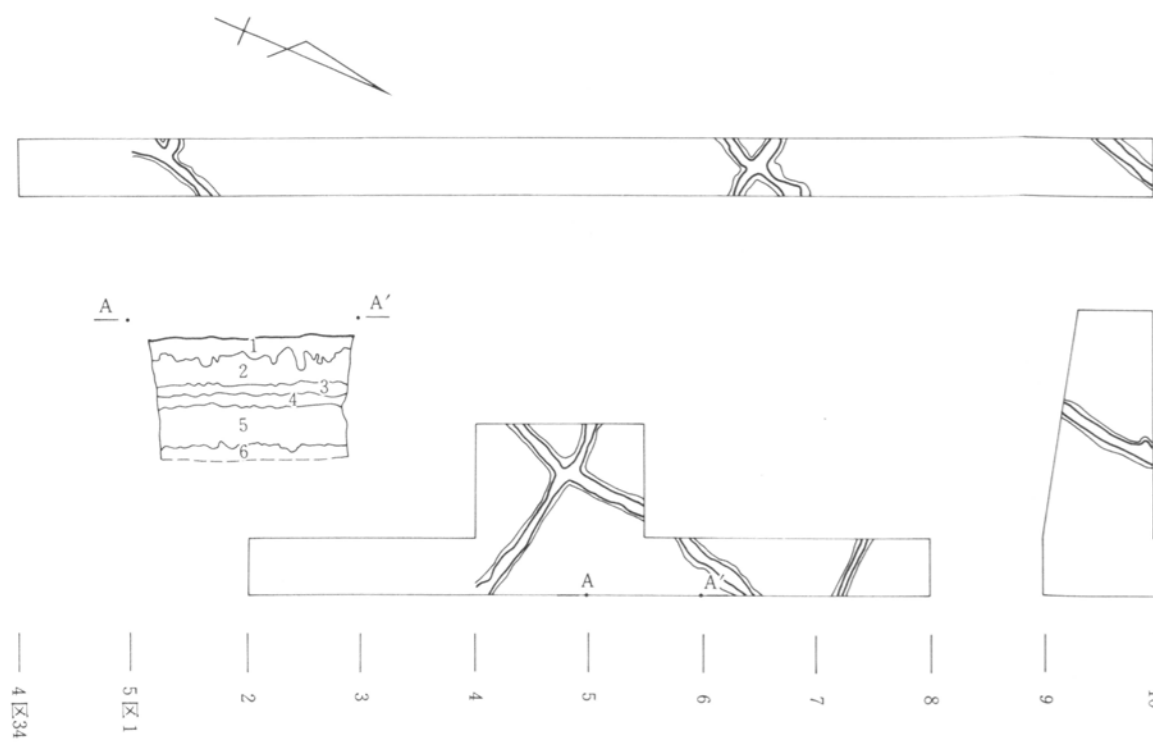
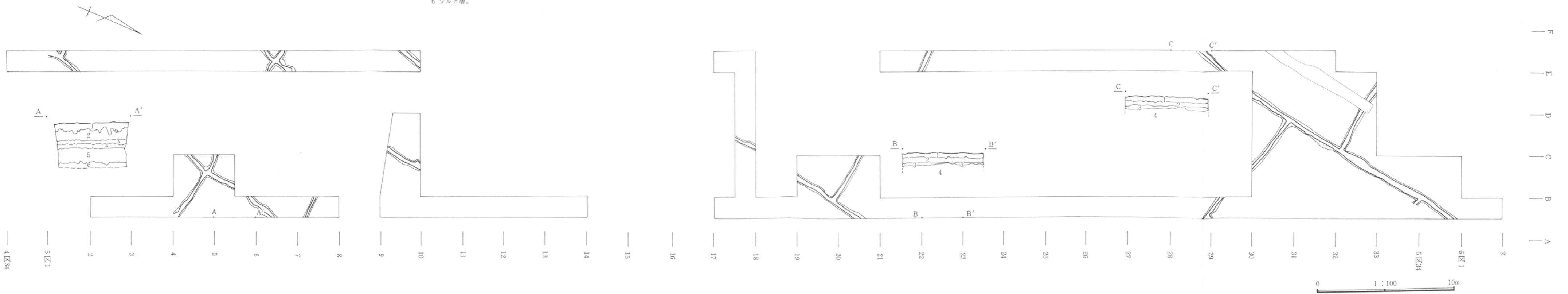
## 3区(国道南)水田

- 1 黒褐色土層：緻密。浅間山A軽石を含む。
- 2 暗褐色土層：緻密。やや多量の浅間山B軽石を含み、下部に酸化鉄沈着の斑紋がみられる。
- 3 黒褐色土層(水田層)：粘性は強い。少量の浅間山B軽石を含み、酸化鉄沈着の斑紋がみられる。
- 4 黒褐色土層：緻密。少量の浅間山B軽石を含み、酸化鉄沈着の斑紋がみられる。
- 5 灰黄褐色土層：粘性はやや強い。
- 6 浅間山B軽石層。
- 7 榛名山火山灰層(F A)。
- 8 浅間山A軽石層。



## 3区(国道北)水田(A-A'・B-B'・C-C')

- 1 暗褐色土層：耕作土。
- 2 灰褐色土層：浅間山B軽石・榛名山二ツ岳噴出物小円礫F Pを含み、鉄分沈着の斑紋が見られる。
- 3 浅間山B軽石層。
- 4 暗褐色土層(水田層)：粘性は強く上部は黒褐色。
- 5 黒褐色土層：浅間山C軽石を含み、酸化鉄沈着の斑紋が見られる。
- 6 シルト層。



4区34

5区1

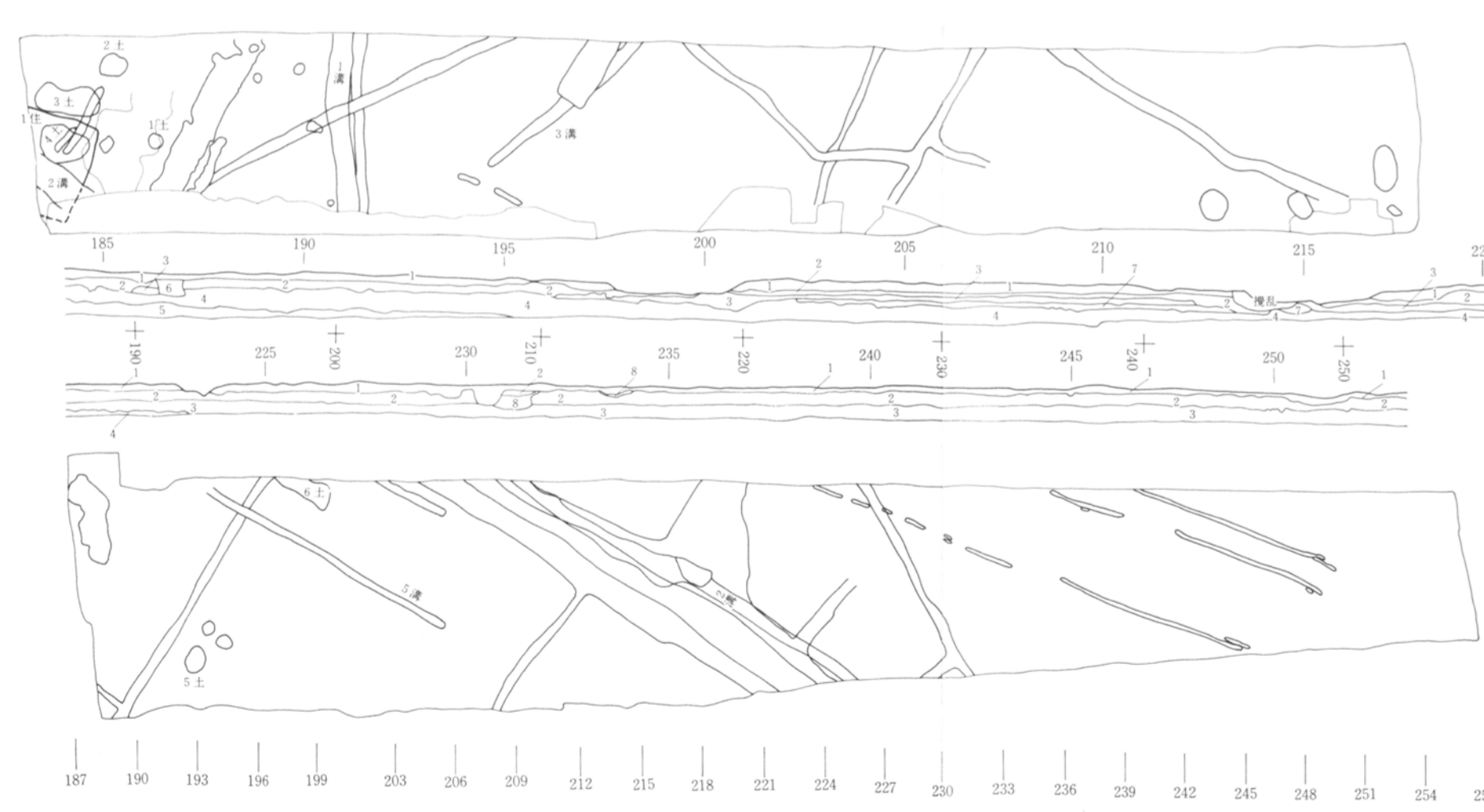
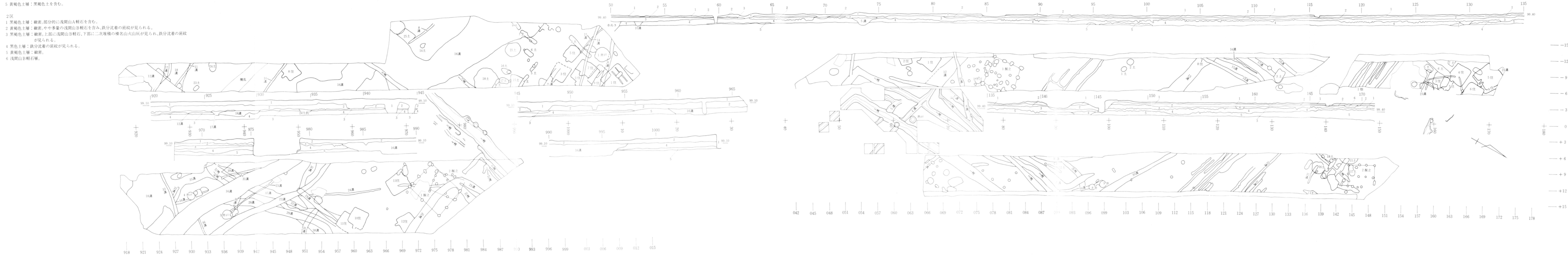
0 1:100 10m

# 下小鳥遺跡全体図

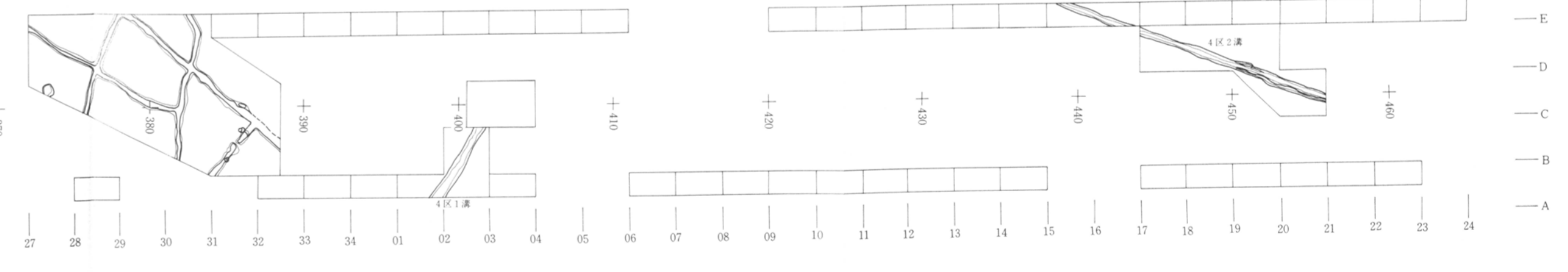
下小鳥全体図

- 1区  
 1 現代の盛土及び雑草。  
 2 灰褐色土層：上部に浅間山日軽石を含む。  
 3 灰褐色土層：角閃石安山岩小礫を含む。  
 4 黒色土層：粘性が強く、鉄分沈着の斑紋が見られる。  
 5 黄褐色土層：黒褐色土を含む。

- 2区  
 1 黒褐色土層：緻密、部分的に浅間山日軽石を含む。  
 2 黄褐色土層：緻密、やや多量の浅間山日軽石を含む、鉄分沈着の斑紋が見られる。  
 3 黒褐色土層：緻密、上部に浅間山日軽石、下部に二次堆積の標名山火山灰が見られ、鉄分沈着の斑紋が見られる。  
 4 黒色土層：鉄分沈着の斑紋が見られる。  
 5 黄褐色土層：緻密。  
 6 浅間山日軽石層。



- 3区(国道南)  
 1 黒褐色土層：緻密、浅間山日軽石を含む。  
 2 暗褐色土層：緻密、やや多量の浅間山日軽石を含む、下部に酸化鉄沈着の斑紋がみられる。  
 3 黒褐色土層(水田層)：粘性は強い、少量の浅間山日軽石を含む、酸化鉄沈着の斑紋がみられる。  
 4 黒褐色土層：緻密、少量の浅間山日軽石を含む、酸化鉄沈着の斑紋がみられる。  
 5 灰黄褐色土層：粘性はやや強い。  
 6 浅間山日軽石層。  
 7 標名山火山灰層(F.A.)  
 8 浅間山日軽石層。



- 4区～6区(A-A'-F-F')  
 1 灰褐色土層：現代の水田耕作土、浅間山日軽石を含む。  
 2 赤褐色土層：浅間山日軽石を含む、鉄分を含む。  
 3 浅間山日軽石層。  
 4 灰褐色土層：粘性が強く、上部に暗褐色土を含み、鉄分沈着の斑紋が見られる。  
 5 浅間山日軽石層。  
 6 黒褐色土層：黄褐色土を含む。

